

科目名	心理学概論				
科目責任者	内山 敏				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP1 教養基礎 (EC) DP1 教養基礎				
科目の位置付	(SW) 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。 (EC) 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」と豊かな教養に基づき、教育・保育の専門職者として、あらゆる人々が持つ尊厳と権利を尊重して行動する。				
科目概要	本科目では、心理学の成り立ちおよび代表的な理論について、基礎的かつ全般的な理解を深めることを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する。 ①心理学の歴史的背景から成立過程 ②人の心の基本的な仕組み及び働き（心理学の諸分野）(i) 系統発生的基盤 (ii) 個体発生的基盤 (iii) 認知的基盤 (iv) 言語的基盤 (v) 社会的基盤 (vi) 制度的基盤 (vii) 文化的基盤 (viii) 適応的基盤 (ix) 個人的基盤 (x) 心理学の展開				
到達目標	1. 人の心理の基本的なしくみ及び働きについて理解する 2. 心理学が対象としている分野や活動の全般を網羅する				
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：心理学の歴史と成り立ち 第2回：心の生物学的基盤 第3回：感覚・知覚 第4回：学習 第5回：記憶 第6回：言語 第7回：思考 第8回：動機づけ 第9回：感情 第10回：心の発達 第11回：知能 第12回：パーソナリティ 第13回：社会と個人 第14回：心の健康と不適応 第15回：まとめ</p>				
アクティブラーニング	知識付与型の授業に加えて PBL（課題解決型学習）などを用いて授業を行う。				
授業内の ICT 活用	PC 等デジタルデバイスを活用し、検索や入出力作業を行う。WebClass を利用する。				
評価方法	100 点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。				
課題に対するフィードバック	前回までのリアクションペーパーの感想や質問へのコメントなどをパワーポイントで映しながら口頭で行う。				
指定図書	遠見書房 公認心理師の基礎と実践② 心理学概論				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	授業内容を振り返り、新たに気づき理解を深めたこと、質問をリアクションペーパーに書く。講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回 40 分程度行うこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	内山敏（国際教育学部こども教育学科）：2710 研究室 時間帯については授業時に提示。
実務経験に関する記述	本科目は「公認心理師」、「臨床心理士」として病院臨床・学校臨床・障害福祉の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	基礎演習 I (SW)
科目責任者	泉谷 朋子
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 教養基礎
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	社会福祉の専門職を目指す大学生として、目標、将来像をイメージしながら、内発的・主体的に学修に取り組むことができるように初年次学生を支援する。 大学で学ぶための基礎的な諸能力として、広い知識を獲得するための読書力、考えたことを整理し文章化する能力、自分の考えを発表する能力等を高めることを目的に、少人数の演習方式で学修を進める。
到達目標	1. 人間をとりまく様々な生活現象や社会現象を、複眼的に、かつ共感しながら理解する視点を形成し、社会福祉、教育・保育への関心を深め、学ぶ動機を強める。 2. 大学生としてのマナー・モラルを意識した行動をとることができる力を身につける。 3. 様々な文章を読んで、趣旨を理解し、論旨を分析し、自分の考えをまとめる力をつける。 4. 与えられた課題に対して、様々な立場を尊重しながら、意見交換する力をつける。 5. 図書館等や各種の情報源を活用する手法を学ぶ。 6. レジюме、レポートの書き方を修得する。
授業計画	<担当教員名>泉谷朋子、篠崎良勝、鈴木文子  <授業内容・テーマ等>  第1回：オリエンテーション・DP ルーブリック作成 第2回：レクリエーション（同級生との交流） 第3回：学生生活について（先輩からのアドバイス） 第4回：アドバイザークラスでの学び① 第5回：アドバイザークラスでの学び② 第6回：図書館の使い方、大学生と読書 第7回：コンピューターを活用する 第8回：社会構成員としてのマナー・モラル、キャンパスルール 第9回：レポート作成、他の学生とレポート共有 第10回：ディスカッション課題① 第11回：ディスカッション課題② 第12回：学習行動調査・定期試験・レポートに対する心構え 第13回：プレゼンテーション課題 第14回：グループワーク課題 第15回：基礎演習での学びを振り返って  <受講者へのメッセージ> 演習は、毎回の授業への出席とそこでの発言等の授業参加が、通常の科目の試験と同じ重さを持っています。従って、毎回の授業出席と授業参加が前提となります。 基礎演習を通して、大学での学びの基礎を身につけましょう。
アクティブラーニング	○ディスカッション、○グループワーク 少人数グループにおいて意見交換、意見発表を行う。 毎時間後、WebClass に学びを記録する。
授業内の ICT 活用	レポート、成果物の提出、学びの記録等は WebClass を利用する。
評価方法	発表・発言等の平常点 50%・レポート 50% レポートはルーブリックを用いて評価する。 ルーブリックは授業中に提示するとともに、WebClass に掲載する。
課題に対するフィードバック	提出物・発表等に対するフィードバックは、授業中及び WebClass を通して行う。

指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
質問する、問い返す	名古屋 隆彦	岩波書店	940	9784005008544	冊子版	
参考図書	授業中随時提示する					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	毎回、WebClass に学びを記録する。 レポート・成果物については初回授業で説明する。					
オープンエデュケーションの活用	聖隷クリストファー大学 HP 図書館、ICT センター、キャンパスライフ等 大学 ICT 推進協議会 『情報倫理デジタルビデオ小品集』					
オフィスアワー	泉谷朋子 社会福祉学部 2708 篠崎良勝 社会福祉学部 2611 鈴木文子 社会福祉学部					
実務経験に関する記述	なし					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	基礎演習Ⅱ (SW)
科目責任者	篠崎 良勝
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 教養基礎
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	<p>社会福祉の専門職を目指す大学生として、目標、将来像をイメージしながら、内発的・主体的に学修に取り組むことができるように初年次学生を支援する。</p> <p>大学で学ぶための基礎的な諸能力として、広い知識を獲得するための読書力、考えたことを整理し文章化する能力、自分の考えを発表する能力等を高めることを目的に、少人数の演習方式で学修を進める。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間をとりまく様々な生活現象や社会現象を、複眼的に、かつ共感しながら理解する視点を形成し、社会福祉への関心を深め、学ぶ動機を強める。</li> <li>2. 様々な文献や文章を読んで、趣旨を理解し、論旨を分析し、自分の考えをまとめる力をつける。</li> <li>3. 各自が関心のあるテーマを選択し、文献等で調べるなどして理解を深め、グループで討論しながら、レポート、小論文、論文の書き方を修得する。</li> <li>4. 様々な立場を尊重しながら、発表し、意見交換する力をつける。</li> <li>5. キャリアデザインに関するイメージを修得し、社会福祉専門職を目指す大学生として内発的・主体的に学修に取り組むためのモチベーションを高める。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;篠崎良勝、泉谷朋子、鈴木文子</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>基礎演習Ⅱ</p> <p>第 1 回：オリエンテーション</p> <p>第 2 回：アドバイザークラスでの学び①</p> <p>第 3 回：アドバイザークラスでの学び②</p> <p>第 4 回：福祉の日記念講演</p> <p>第 5 回：グループワーク課題①</p> <p>第 6 回：グループワーク課題②</p> <p>第 7 回：研究倫理</p> <p>第 8 回：卒業研究報告会</p> <p>第 9 回：卒業研究報告会</p> <p>第 10 回：ディスカッション課題</p> <p>第 11 回：グループ課題①</p> <p>第 12 回：グループ課題②</p> <p>第 13 回：アドバイザークラスでの学び③</p> <p>第 14 回：アドバイザークラスでの学び④</p> <p>第 15 回：基礎演習での学びを振り返って</p> <p>&lt;受講者へのメッセージ&gt;演習は、毎回の授業への出席とそこでの発言等の授業参加が、通常の科目の試験と同じ重さを持っています。従って、毎回の授業出席と授業参加が、成績以前の基本的前提となります。</p> <p>基礎演習を通して、大学での学びの基礎を身につけましょう。</p>
アクティブラーニング	<p>○ディスカッション、○グループワーク、○プレゼンテーション</p> <p>あるテーマについて、文献等で調べるなどして理解を深め、さらには発表し、これについて意見交換やグループ討論を行う。</p> <p>WebClass に学びを記録する。</p>
授業内の ICT 活用	WebClass のアンケート機能を活用する。

評価方法	発表・発言等の平常点 50%・レポート 50% レポートはルーブリックを用いて評価する。 ルーブリックは授業中に提示するとともに、WebClass に掲載する。					
課題に対する フィードバック	提出物・発表等に対するフィードバックは、授業中及びWebClass を通して行う。					
指定図書	授業内で適宜資料を提示する					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書	授業内で適宜資料を提示する					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	毎回、WebClass に学びを記録する。 小レポート課題（3回）					
オープンエ デュケーシ ョンの活用	聖隷クリストファー大学 HP 図書館、ICT センター、キャンパスライフ等 大学 ICT 推進協議会『情報倫理デジタルビデオ小品集』					
オフィスア ワー	泉谷朋子 社会福祉学部 2708 篠崎良勝 社会福祉学部 2611 鈴木文子					
実務経験に 関する記述	社会福祉、介護、心理の実務経験等を有する講師が教授する科目です。					
メディア授 業の実施 について	なし					

科目名	キャリアデザイン (社会福祉学部)				
科目責任者	井川 淳史				
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 56 セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP4 教養基礎 (SC) DP4 教養基礎				
科目の位置付	(SW) 自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。 (SC) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。				
科目概要	本講義では、社会で「働く」ことの意義を大学で「学ぶ」こととの関連で理解した上で、就職活動に必要な知識、技術並びに心構えを学びながら、社会人として求められる基礎力を身に着ける。そして、学生一人ひとりが「人」として、「社会福祉専門職者」としての人生設計をいかに創造していくのかについて考える。				
到達目標	1. キャリアデザインの重要性を理解することができる。 2. 社会人として必要とされるコミュニケーション力や文章力・表現力などを身につける。 3. 自己の社会的役割を理解してキャリア形成のビジョンを描くことができる。				
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt; &lt;授業テーマ、内容&gt;</p> <p>第1回：井川、福重、仲、渡邊 社会で「働く」とは、働くこととストレスについて 社会人として求められる力、社会人基礎力とは何か</p> <p>第2回：井川、福重、仲、渡邊 社会人としての基礎力を身につける① (外部講師) あいさつ、みだしなみ、礼儀作法などのマナーを身につける</p> <p>第3回：井川、福重、仲、渡邊 社会人としての基礎力を身につける② (外部講師) アサーションとは何か、問題解決のステップ</p> <p>第4回：井川、福重、仲、渡邊 採用側が学生に望むこと (ゲストスピーカー2名)</p> <p>第5回：井川、福重、仲、渡邊 模擬面接を体験する (キャリア職員)</p> <p>第6回：井川、福重、仲、渡邊 4年生による就職活動報告会 社会福祉の現場に就職が決まっている先輩から、就職活動の実際を学ぶ</p> <p>第7回：井川、福重、仲、渡邊 社会人としての基礎力を身につける③ (キャリア職員) エントリーシートの書き方を学んだ上で、各自で作成を試みる</p> <p>第8回：井川、福重、仲、渡邊 自己分析と自分のキャリアデザインを描く 自己分析の方法を学び、自分のキャリアデザインを考える</p>				
アクティブラーニング	グループワークや共同作業を織り込んだプログラムを展開する。				
授業内の ICT 活用	WebClass を利用する				
評価方法	授業態度 20%、提出物等 80%				
課題に対するフィードバック	積極的に提出課題やリアクション等へコメントする。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

参考図書	・加藤容子他（2014）『わたしのキャリア・デザイン 社会・組織・個人』ナカニシヤ出版 ・笹川孝一（2014）『キャリアデザイン学のすすめ 仕事、コンピテンシー、生涯学習社会』 法政大学出版局				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	事前学修：事前課題に必ず取り組んだ上で授業に参加すること。 事後学修：リアクションペーパーや事後課題に丁寧に取り組むことで、授業の理解度を自己評価すること。 目安時間 40 分。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	井川 淳史（2603 研究室） メール：atsushi-ik@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示する。				
実務経験に関する記述	本科目は、社会福祉、介護、教育、保育の実務経験を有する講師が教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	英語Ⅲ (社会福祉学部・国際教育学部)				
科目責任者	Donald Patterson				
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP7 教養基礎 (EC) DP7 教養基礎				
科目の位置付	(SW) 社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。 (EC) 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職者として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。				
科目概要	国内外の保健・医療・福祉分野で幅広く活躍するためには、専門知識に加えて英語などの語学力が求められる。本科目では、ヘルスケア分野に特化した英語を学び、専門分野の基礎的な英語運用能力を身につける。代表的な疾病・障害に関する文献を読み、語彙力・読解力を高める。患者とのコミュニケーション、多職種間のやりとり、およびプレゼンテーションの仕方を学び、実践的なオーラル・コミュニケーション力を身につける。				
到達目標	1. ヘルスケアの専門用語、ケアに関する語彙を英語で 150 語以上覚える。 2. 辞書を使って、専門分野の基礎的な英語文献を正確に読むことができる。 3. バイタルの測定、気分や症状、心配事などを聞くことができる。与薬時の説明、安全確認ができる。 4. 簡単なケアの指示、および疾病・症例の説明を英語で行うことができる。				
授業計画	<授業内容・テーマ等>  第1回：Introduction to the Course 履修説明、Body Parts 身体の部位 第2回：Meeting Patients 患者登録と生活習慣アンケートをする 第3回：Taking a Medical History 病歴および健康状態を把握する 第4回：Assessing Patients' Symptoms 患者の病状や症状をアセスメントする 第5回：Taking Vital Signs バイタルサインを確認する 第6回：発表会 第7回：まとめ、中間テスト 第8回：Assessing Pain 疾病・負傷による痛みをアセスメントする 第9回：Advising about Medication 処方された投薬についてアドバイスをする 第10回：Improving Patients' Mobility 体の機能回復を介助する 第11回：Maintaining a Good Diet 栄養と食餌についてアドバイスする 第12回：Coping with Emergencies 緊急時に対処する 第13回：グループ発表会 第14回：グループ発表会 第15回：最終テスト、まとめ				
アクティブラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、その他「ロールプレイング」				
授業内の ICT 活用	ICT 機能を利用して授業内での理解度確認を行うアクティブラーニング型授業を実施します。 ICT 機能を利用して授業内でリスニングの練習を実施します。 グループ発表のプレゼンテーションのためにプロジェクターを利用して行います。				
評価方法	クラスでの平常点 (事前学習、授業態度) 10%、レポート 10%、小テスト 20%、中間テスト 20%、発表 20%、最終テスト 20%				
課題に対するフィードバック	小テスト・中間テストの解説、レポート・プレゼンテーションのコメント、ピア評価 (プレゼンテーション)				
指定図書	『Caring for People』M. Mayazumi, T. Miyatsu, P. Hinder (作者) (Cengage センゲージ)				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	事前学修では、新出単語を辞書で調べ（発音記号を含む）、自分なりに理解し和訳する。会話のリズムに慣れるため、CDを活用したリスニング、音読練習を行う。事後学修では、定着を目的とした音読練習（パラレルリーディング、シャドーイング等）を行い、暗唱練習を行う。語彙・表現の定着を図る。学修時間の目安：事前学修 30 分～1 時間、事後学修 30 分～1 時間程度。					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	パターソン・ドナルド (Donald Patterson) (5704 研究室) メール : patterson@seirei.ac.jp 時間については初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	なし					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	社会福祉入門
科目責任者	小畑 美穂
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 12 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	本科目は、「地域ケア連携の基礎」と連動した科目であり、ソーシャルワークの基盤である「ソーシャルワーカーの意義と役割」「他職種の専門性と役割」を学ぶ。当事者、外部講師、他学部教員の講義を通して、前半は、社会福祉の対象者の生活に関わる専門職の実践について、後半は、ソーシャルワーカーが連携する他職種の実践についての理解を目標とする。
到達目標	1. 社会福祉現場の実際にふれることで、社会福祉の学びへの意識が高まる。 2. 社会福祉専門職がおこなう社会福祉活動を知る。 3. 連携する他職種の支援の実際を理解し、専門職連携の意味を知る。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; 小畑美穂</p> <p>【春セメスター】</p> <p>第1回：小畑美穂 オリエンテーション：社会福祉とは何か①</p> <p>第2回：ゲストスピーカー ソーシャルワーカーの役割と実際①（障害者支援領域）</p> <p>第3回：ゲストスピーカー ソーシャルワーカーの役割と実際②（コミュニティソーシャルワーク）</p> <p>第4回：ゲストスピーカー ソーシャルワーカーの役割と実際③（精神障害者支援領域）</p> <p>第5回：ゲストスピーカー ソーシャルワーカーの役割と実際④（高齢者支援領域）</p> <p>第6回：ゲストスピーカー ソーシャルワーカーの役割と実際⑤（医療ソーシャルワーク）</p> <p>第7回：社会福祉学科教員 落合克能 自らの実践から振り返る「ソーシャルワークとケアワーク実践」</p> <p>第8回：小畑美穂 春セメスター講義の振り返り（社会福祉とは何か②）</p> <p>【秋セメスター】</p> <p>第9回：看護学部教員 看護師の役割と実際①（病棟ケア）</p> <p>第10回：看護学部教員 看護師の役割と実際②（在宅ケア）</p> <p>第11回：看護学部教員 養護教諭の役割と実際</p> <p>第12回：リハビリテーション学部教員 作業療法士の役割と実際</p> <p>第13回：ゲストスピーカー 臨床心理士／公認心理師の役割と実際</p> <p>第14回：社会福祉学科教員 川向雅弘 自らの実践から振り返る「専門職連携」</p> <p>第15回：小畑美穂 春・秋セメスターを通じた全体の振り返り</p>
アクティブラーニング	ゲストスピーカーの話を通して学ぶ、グループ学修、ディスカッションを実施する。
授業内の ICT 活用	PC、スマートフォン等デバイスを活用し、検索・入力・作業およびグループワークを行う。WebClass を利用する。
評価方法	授業への取り組み：40%、期末レポート：60%（春30%・秋30%） レポートについては、ルーブリックを用いて評価する。

課題に対するフィードバック	各 Semester 最終回に講義に対するフィードバックを行う。					
指定図書	なし。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	随時紹介する。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	毎回の事前学習として、次回テーマ領域についての新聞記事等を確認して臨むこと。毎回の学びを WebClass に提出すること。また、各回の講義内容に関する文献・新聞記事等について事後学習を行うこと。(目安時間 40 分) Semester 終了後にレポートを提出する。					
オープンエデュケーションの活用	ゲストスピーカーの講義内容による。					
オフィスアワー	小畑 美穂 (2707 研究室) メール: miho-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示する。					
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉専門職」「臨床心理士／公認心理師」「看護師」「養護教諭」等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。					
メディア授業の実施について	なし。					

科目名	社会福祉学概論 I					
科目責任者	佐藤 順子					
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎					
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。					
科目概要	<p>個人が自立した生活を営むということを理解するため、個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、人間の生活と社会の関係性を体系的にとらえる学習、わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、仕組みについて理解する学習等、基礎的知識を修得する学習とする。</p> <p>福祉専門職（社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士）に求められる基本的な知識・理論の体系的理解の端緒として、社会福祉をめぐる思想・哲学、社会福祉の歴史的展開過程、現代の社会問題と構造、などの概要について、できるだけ学生自身の生活や関心に結びつけて学ぶ。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点が身に付き、生活と社会の関係性を捉えることができる</li> <li>2. 社会福祉の原理をめぐる思想・哲学の概要が理解できる</li> <li>3. 現代社会に生起する社会問題とその構造的背景が理解できる</li> <li>3. 日本と欧米における社会福祉の歴史的展開の概要が理解できる</li> <li>4. 社会保障の基本的な考え方、仕組みについて理解できる</li> <li>5. 社会福祉の対象とニーズ、制度の概要が理解できる</li> </ol>					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：ガイダンス、グループワーク「社会福祉とは？」</p> <p>第2回：社会福祉を理解するための基本的枠組み、社会と生活のしくみ</p> <p>第3回：現代社会における社会問題～最近のニュースから～①</p> <p>第4回：現代社会における社会問題～最近のニュースから～②</p> <p>第5回：社会福祉をとりまく状況と社会問題の構造的背景</p> <p>第6回：社会福祉の基盤となる考え方 社会福祉援助者に共通する思想・哲学</p> <p>第7回：社会福祉の歴史的展開 欧米の歴史</p> <p>第8回：社会福祉の歴史的展開 日本の歴史①古代～近代</p> <p>第9回：社会福祉の歴史的展開 日本の歴史②戦後～現代</p> <p>第10回：社会保障制度の概要と社会福祉の法と諸制度</p> <p>第11回：社会福祉の対象とニーズ、制度 ① 経済的困窮</p> <p>第12回： // ② 高齢者</p> <p>第13回： // ③ 障害者</p> <p>第14回： // ④ 児童、子育て家庭</p> <p>第15回：諸外国における社会福祉 まとめ</p>					
アクティブラーニング	ディスカッション、グループワークを取り入れて行う					
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンを利用して調べ学習を行う</li> <li>・WebClass を活用して双方向型授業を行う</li> <li>・事前・事後学修課題についてはWebClass に提出する</li> </ul>					
評価方法	授業態度 10%、課題への取り組み・ミニテスト 40%、定期試験 50%					
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する ミニテストについては解説を行う					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 4 社会福祉の原理と政策	日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集	中央法規出版	2900	9784805882344	冊子版	

参考図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
有斐閣アルマ Interest ウェルビーイング・タウン 社会福祉入門 改訂版	岩田正美	有斐閣	1980	9784641124974	冊子版	
事前・事後学修	<p>事前学修 3回目の授業に向けて「福祉に関する気になるニュース」をまとめる 各回教科書該当箇所を読み、わからないことば等を調べた上で授業に臨む</p> <p>事後学修 毎回学びをまとめ、webclass に提出する 8～15 回については翌週冒頭でミニテストを実施する</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	佐藤 順子 (2606 研究室) メール: junko-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は社会福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	ソーシャルワーク総論 I				
科目責任者	福田 俊子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎				
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。				
科目概要	社会福祉士・精神保健福祉士の資格をもった専門職者によって展開されるソーシャルワーク実践現場を具体的にイメージしながら、ソーシャルワークの概念や基盤に関する価値や知識の重要性について理解することを目的とする。なお、本科目は、第2セメスター開講の「ソーシャルワーク総論Ⅱ」及び「ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅳ(第2～6セメスター)」へとつながる、ソーシャルワーク関連科目の導入科目として位置づけられ、社会福祉士及び精神保健福祉士指定科目となっている。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について説明できる。</li> <li>2. ソーシャルワークの価値規範と倫理の重要性を自分の言葉で説明できる。</li> <li>3. 社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけを説明できる。</li> <li>4. リアクションペーパーに自分の率直な感情や考えを言語化できる。</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：講義の概要説明  第2回：「人を助けるということ」について映画から考える  第3回：「社会福祉」「対人援助」とは  第4回：「社会福祉援助」とは  第5回：社会福祉援助の視点～「生活」を捉える枠組み～  第6回：ソーシャルワークの形成過程①～ソーシャルワークの源流と基礎確立期～  第7回：ソーシャルワークの形成過程②～ソーシャルワークの発展期～  第8回：ソーシャルワークの形成過程③～ソーシャルワークの展開期と統合化～  第9回：ソーシャルワークの倫理①～ソーシャルワーク実践から考える～  ゲストスピーカー 未定  第10回：ソーシャルワークの倫理②～倫理綱領とジレンマ～  第11回：ソーシャルワークの倫理③～ジレンマ～  第12回：社会福祉士・精神保健福祉士の法的位置づけ  第13回：ソーシャルワークの理念①～ノーマライゼーション等～  第14回：ソーシャルワークの理念②～クオリティ・オブ・ライフ、エンパワメント等～  第15回：ソーシャルワークの概念・原理、まとめ</p>				
アクティブラーニング	リアクションペーパーに書かれた内容などをもとにグループディスカッションを、適宜取り入れる。				
授業内の ICT 活用	WebClass を使用する				
評価方法	課題レポート 40%、試験 50%、授業への取り組み 10%として評価する。				
課題に対するフィードバック	授業内でリアクションペーパーや課題レポートに対してフィードバックする。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職 (共通・社会専門)	日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集	中央法規出版	2900	9784805882412	冊子版
テキストボックス [つかむ] 社会福祉をつかむ 第3版	稲沢公一	有斐閣	2640	9784641177277	冊子版

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	<p>&lt;事前・事後学習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各回の授業に臨むにあたって、該当する単元の教科書を熟読し、授業後には再度該当箇所を復習しておくこと。(事前事後学習目安 40 分)</li> </ul> <p>&lt;事後学習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 5 回、第 10 回、第 15 回の授業終了後に、自分のこれまでに書いてきたリアペの振り返るをすること。(事後学習目安 20 分)</li> </ul>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	福田 俊子 (2606 研究室) メール: toshiko-f@seirei. ac. jp 時間については、初回授業時に提示する。					
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。					
メディア授業の実施について	なし					



科目名	ソーシャルワーク演習 I				
科目責任者	泉谷 朋子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 2 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP3 専門基礎				
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。				
科目概要	本科目では、ソーシャルワーク総論 I・II、及びソーシャルワーク論 I で修得してきた基礎的知識と技術を、個別指導並びに集団指導を通して身につけることを目的とし、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、①自己理解と他者理解を深め、②基礎的なコミュニケーション技術の修得を図る。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・援助の道具としての「自己」に関心を向け、自身のコミュニケーションの癖などを自覚できるようになる。</li> <li>・非言語コミュニケーションと言語コミュニケーションの内容と技法を学び、人間関係の形成とコミュニケーションの基礎に関する知識、技術の修得する。</li> </ul>				
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;泉谷朋子、福田俊子、落合克能 &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 オリエンテーション、自己紹介、他己紹介  第2回 自己覚知① エゴグラム・ジョハリの窓等による自己理解と他者理解  第3回 自己覚知② 車いす体験、振り返りを通しての自己理解と他者理解  第4回 自己覚知③ 話せない体験、聞き取れない体験を通しての自己理解と他者理解  第5回 自己覚知④ 見えない、聞こえない体験を通しての自己理解と他者理解  第6回 基本的なコミュニケーション技術① 非言語的技術（表情、態度、身振り、位置取り等）  第7回 基本的なコミュニケーション技術② 非言語的技術を使ったロールプレイ  第8回 基本的なコミュニケーション技術③ 言語的技術（質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約等）  第9回 基本的なコミュニケーション技術④ 言語的技術を使ったロールプレイ  第10回 基本的な面接技術① 面接の構造化、場の設定（面接室、生活場面、自宅等）  第11回 基本的な面接技術② ツールの活用（電話、e-mail 等）、ロールプレイ、ソーシャルワークの記録  第12回 基本的な面接技術③ コミュニケーション技術・面接技術のまとめ  第13回 ソーシャルワークの展開過程①、ケースの発見・インテーク、高齢者事例によるロールプレイ  第14回 ソーシャルワークの展開過程②、アセスメントからアフターケア  第15回 ソーシャルワーク演習 I のまとめ</p>				
アクティブラーニング	毎回、グループディスカッションやロールプレイ、プレゼンテーション等を用いた演習を行う。第 12 回の授業では、パソコンやスマートフォン等の録画機能を用いた模擬面接（ロールプレイ）場面の逐語化、叙述化を行う。				
授業内の ICT 活用	WebClass を活用する。パソコンやスマートフォン等の録画機能を用いる。グループ発表のプレゼンテーション資料作成に Google Drive を活用する。				
評価方法	<p>授業への取り組み姿勢（参加姿勢、課題提出、リアクション等）40%、中間レポート 20%、定期試験（レポート＋逐語録）40%として評価します。</p> <p>授業はグループ学習を中心とした形態であるため、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価します。</p> <p>授業への取り組み姿勢およびレポートの評価基準は、ルーブリックを示します。</p>				
課題に対するフィードバック	<p>①演習グループに教員が随時関与しフィードバックを行う。</p> <p>②リアクションペーパー・事後学習課題は全体の場でフィードバックを行う。</p> <p>③個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応する。</p>				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考図書	諏訪茂樹『援助者のためのコミュニケーションと人間関係 第2版』建帛社				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
現場で使える便利帖 対人援助の現場で使える 傾聴する・受けとめる技術 便利帖	大谷 佳子	翔泳社	1800	9784798177526	冊子版
対人援助のスキル図鑑	大谷 佳子	中央法規出版	2400	9784805884492	冊子版
事前・事後学修	<p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第12回授業時に提示された課題は次回授業で使用するので要提出。事前学修で作成すること。</li> </ul> <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第6～9回授業後には、ビデオ教材から学んだことを記入シートに整理しておくこと。</li> <li>・第6・11回授業終了後に提出するリアクションペーパーは、第1回～6回、第7回～11回授業のまとめなので、各回の授業で学んだことを整理しておくこと。(160分=4回分を要する)</li> <li>・第13回授業終了後に逐語録を作成し提出すること。(160分=4回分を要する)</li> </ul>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	科目責任者の研究室 (2708) 日時については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目はケアワーク・ソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	総合演習 I (SW)
科目責任者	特任を除く専任教員
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門基礎
科目の位置付	(SW) 自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探索・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	これまでのさまざまな学びを踏まえ、学生一人ひとりが専門的な学修を進めていく。読む、調べる、考える、書く、まとめる、発表する、討議する等の力を深め、応用力を養うことを目的とする。各自のテーマは、関心のある領域の担当教員の指導を受けながら学生が設定し、演習での学びを通して専門的理解を深め、その成果物を作成し発表を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自主的に調べ、文献資料等を活用し、まとめ、発表、討議をすることができる。</li> <li>2. 自らのテーマを見つけだすことができる。</li> <li>3. 自らのテーマ・課題に基づき、目的に向けて方法を考え、実行する、まとめる、発表する、討議することができる。</li> <li>4. 大学生活最後の学びをまとめ、卒業研究発表会で人に伝わるように発表することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>本科目は、基本的に授業の進め方、内容、方法等の詳細については、担当指導教員がメンバーとの相談の上で決める。(総合演習ガイダンス参照)</p> <p>6 セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合演習の意義を理解と目的</li> <li>・与えられた課題を調べ、文献資料等を活用しまとめる</li> <li>・調べたこと、考えたこと等を発表し、討議する</li> </ul> <p>7 セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己のテーマを探す</li> <li>・自己のテーマを見つけ出す</li> <li>・自己のテーマに基づき文献を読むみ、自己の考えをまとめる</li> <li>・自己のテーマに基づきフィールド調査や教材等の作成を行う。</li> </ul> <p>直接、人間を対象とする調査・研究を行う際は倫理的配慮を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究倫理について学ぶ</li> <li>・テーマをまとめ、発表する</li> </ul> <p>8 セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の形式にまとめる</li> <li>・卒業研究発表会の準備</li> <li>・卒業研究発表会にて発表する</li> </ul> <p>*詳細は担当指導教員の Web シラバス参照</p>
アクティブラーニング	少人数のゼミで行う。○グループディスカッション ○プレゼンテーション
授業内の ICT 活用	*担当指導教員の Web シラバス参照

評価方法	<p>&lt;社会福祉学科&gt;  I：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50%  II：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50%  III：授業等への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、発表会への参加度）40%、最終提出物60%</p> <p>・最終提出物はルーブリック（WebClass に掲載）を用いて評価する。</p>
課題に対するフィードバック	授業内でそのつどフィードバックする。
指定図書	*担当指導教員の Web シラバス参照
参考図書	*担当指導教員の Web シラバス参照
事前・事後学修	事前学習：前回の課題を調べ、発表できるようにする 事後学習：今回の授業をふまえ自己のテーマの課題について考える 原則として、40 分程度の事前・事後学習はそれぞれで実施すること
オープンエデュケーションの活用	*担当指導教員の Web シラバス参照
オフィスアワー	*担当指導教員の Web シラバス参照
実務経験に関する記述	*担当指導教員の Web シラバス参照
メディア授業の実施について	なし

科目名	総合演習Ⅱ (SW)
科目責任者	特任を除く専任教員
単位数他	2単位 (30時間) 必修 78セメスター
DP番号と科目領域	DP4 専門基礎
科目の位置付	(SW)自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探索・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	これまでのさまざまな学びを踏まえ、学生一人ひとりが専門的な学修を進めていく。読む、調べる、考える、書く、まとめる、発表する、討議する等の力を深め、応用力を養うことを目的とする。各自のテーマは、関心のある領域の担当教員の指導を受けながら学生が設定し、演習での学びを通して専門的理解を深め、その成果物を作成し発表を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自主的に調べ、文献資料等を活用し、まとめ、発表、討議をすることができる。</li> <li>2. 自らのテーマを見つけだすことができる。</li> <li>3. 自らのテーマ・課題に基づき、目的に向けて方法を考え、実行する、まとめる、発表する、討議することができる。</li> <li>4. 大学生活最後の学びをまとめ、卒業研究発表会で人に伝わるように発表することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>本科目は、基本的に授業の進め方、内容、方法等の詳細については、担当指導教員がメンバーとの相談の上で決める。(総合演習ガイダンス参照)</p> <p>6セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合演習の意義を理解と目的</li> <li>・与えられた課題を調べ、文献資料等を活用しまとめる</li> <li>・調べたこと、考えたこと等を発表し、討議する</li> </ul> <p>7セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己のテーマを探す</li> <li>・自己のテーマを見つけ出す</li> <li>・自己のテーマに基づき文献を読むみ、自己の考えをまとめる</li> <li>・自己のテーマに基づきフィールド調査や教材等の作成を行う。</li> </ul> <p>直接、人間を対象とする調査・研究を行う際は倫理的配慮を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究倫理について学ぶ</li> <li>・テーマをまとめ、発表する</li> </ul> <p>8セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の形式にまとめる</li> <li>・卒業研究発表会の準備</li> <li>・卒業研究発表会にて発表する</li> </ul> <p>*詳細は担当指導教員のWeb シラバス参照</p>
アクティブラーニング	少人数のゼミで行う。○グループディスカッション ○プレゼンテーション
授業内のICT活用	*担当指導教員のWeb シラバス参照

評価方法	<p>&lt;社会福祉学科&gt;  I：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50%  II：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50%  III：授業等への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、発表会への参加度）40%、最終提出物60%</p> <p>・最終提出物はルーブリック（WebClass に掲載）を用いて評価する。</p>
課題に対するフィードバック	授業内でそのつどフィードバックする。
指定図書	*担当指導教員の Web シラバス参照
参考図書	*担当指導教員の Web シラバス参照
事前・事後学修	事前学習：前回の課題を調べ、発表できるようにする 事後学習：今回の授業をふまえ自己のテーマの課題について考える 原則として、40 分程度の事前・事後学習はそれぞれで実施すること
オープンエデュケーションの活用	*担当指導教員の Web シラバス参照
オフィスアワー	*担当指導教員の Web シラバス参照
実務経験に関する記述	*担当指導教員の Web シラバス参照
メディア授業の実施について	なし

科目名	総合演習Ⅲ (SW)
科目責任者	特任を除く専任教員
単位数他	2単位 (30時間) 必修 8セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門基礎
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	これまでのさまざまな学びを踏まえ、学生一人ひとりが専門的な学修を進めていく。読む、調べる、考える、書く、まとめる、発表する、討議する等の力を深め、応用力を養うことを目的とする。各自のテーマは、関心のある領域の担当教員の指導を受けながら学生が設定し、演習での学びを通して専門的理解を深め、その成果物を作成し発表を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自主的に調べ、文献資料等を活用し、まとめ、発表、討議をすることができる。</li> <li>2. 自らのテーマを見つけだすことができる。</li> <li>3. 自らのテーマ・課題に基づき、目的に向けて方法を考え、実行する、まとめる、発表する、討議することができる。</li> <li>4. 大学生活最後の学びをまとめ、卒業研究発表会で人に伝わるように発表することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>本科目は、基本的に授業の進め方、内容、方法等の詳細については、担当指導教員がメンバーとの相談の上で決める。(総合演習ガイダンス参照)</p> <p>6セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合演習の意義を理解と目的</li> <li>・与えられた課題を調べ、文献資料等を活用しまとめる</li> <li>・調べたこと、考えたこと等を発表し、討議する</li> </ul> <p>7セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己のテーマを探す</li> <li>・自己のテーマを見つけ出す</li> <li>・自己のテーマに基づき文献を読む、自己の考えをまとめる</li> <li>・自己のテーマに基づきフィールド調査や教材等の作成を行う。</li> </ul> <p>直接、人間を対象とする調査・研究を行う際は倫理的配慮を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究倫理について学ぶ</li> <li>・テーマをまとめ、発表する</li> </ul> <p>8セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の形式にまとめる</li> <li>・卒業研究発表会の準備</li> <li>・卒業研究発表会にて発表する</li> </ul> <p>*詳細は担当指導教員のWeb シラバス参照</p>
アクティブラーニング	少人数のゼミで行う。○グループディスカッション ○プレゼンテーション
授業内のICT活用	*担当指導教員のWeb シラバス参照

評価方法	<社会福祉学科> I：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50% II：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50% III：授業等への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、発表会への参加度）40%、最終提出物60%  ・最終提出物はルーブリック（WebClass に掲載）を用いて評価する。
課題に対するフィードバック	授業内でそのつどフィードバックする。
指定図書	*担当指導教員の Web シラバス参照
参考図書	*担当指導教員の Web シラバス参照
事前・事後学修	事前学習：前回の課題を調べ、発表できるようにする 事後学習：今回の授業をふまえ自己のテーマの課題について考える 原則として、40 分程度の事前・事後学習はそれぞれで実施すること
オープンエデュケーションの活用	*担当指導教員の Web シラバス参照
オフィスアワー	*担当指導教員の Web シラバス参照
実務経験に関する記述	*担当指導教員の Web シラバス参照
メディア授業の実施について	なし



科目名	社会福祉学概論Ⅱ				
科目責任者	佐藤 順子				
単位数他	2単位 (30時間) 選択 6セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (SC) DP2 専門				
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (SC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	社会福祉学概論Ⅰで学修した内容を踏まえ、社会福祉の思想・哲学・理論を理解した上で、福祉政策について、基本的な視点、ニーズと福祉政策の過程、動向と課題、関連施策、国際比較について、さらに福祉サービス供給と利用過程、社会福祉の理論について学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の原理、理論を説明できる</li> <li>2. 福祉政策の基本的な視点として概念や理念を説明できる</li> <li>3. 人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結び付けて説明できる</li> <li>4. 福祉政策の動向と課題について、さらにそれらを踏まえた上で、関連施策や包括的支援について説明できる</li> <li>5. 福祉サービスの供給と利用過程について説明できる</li> <li>6. 福祉政策の国際比較の視点を理解した上で、欧米との比較によって日本の福祉政策の特性について説明できる</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：ガイダンス、今までの学びの振り返り  第2回：社会福祉の思想・哲学  第3回：社会福祉の理論、社会福祉の論点  第4回：福祉政策の基本的な視点  第5回：福祉政策におけるニーズと資源  第6回：福祉政策の構成要素と過程  第7回：中間テスト 解説  福祉政策の動向と課題  第8回：福祉サービスの供給と利用過程  第9回：福祉政策と関連施策 ① 保健医療政策  第10回： // ② 教育政策  第11回： // ③ 住宅政策  第12回： // ④ 労働政策、災害政策  第13回：権利擁護と成年後見 ～意義と実践～  第14回：福祉政策の国際比較  第15回：諸外国における福祉政策の動向</p>				
アクティブラーニング	ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する				
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・webClass を活用して双方向型授業を行います</li> <li>・事前・事後学修課題についてはwebclass に提出します</li> </ul>				
評価方法	授業態度 10%、中間テスト 20%、課題 10%、定期試験 60%				
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する 中間テスト実施後解説を行う				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 4 社会福祉の原理と政策	日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集	中央法規出版	2900	9784805882344	冊子版

参考図書	岩田正美『社会福祉のトポス』有斐閣				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>事前学修：毎回の授業で学ぶ項目について、教科書の該当箇所をあらかじめ読んでキーワードをまとめるなどして授業に臨む（各 30 分）</p> <p>事後学習：毎回学びをまとめ、webclass に提出する webclass 内の復習課題に取り組む</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	佐藤 順子（2606 研究室） メール：junko-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は社会福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	ソーシャルワーク総論Ⅱ
科目責任者	福田 俊子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 2 Semester
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	「ソーシャルワーク総論Ⅰ」で修得した知識を土台とし、社会福祉士としての「ジェネラリストの視点」の基づいた「マイクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワーク実践」を具体的な事例をもとにしてその対象やその展開に関する基本的な知識の修得を目指す。
到達目標	1. 社会福祉士の職域と求められる役割について説明できる。 2. ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について説明できる。 3. マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について説明できる。 4. 総合的かつ包括的な支援と他職種連綿依の意義と内容について説明できる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：授業の概要説明 第2回：マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク①～司法福祉の事例から学ぶ①～ 第3回：マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク②～司法福祉の事例から学ぶ②～ 第4回：マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク③～民族差別の事例から学ぶ①～ 第5回：マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク④～民族差別の事例から学ぶ②～ 第6回：ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲①～日本の動向をゲストスピーカーから学ぶ①～ 第7回：ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲②～日本の動向をゲストスピーカーから学ぶ②～ 第8回：ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲③～日本の動向のまとめ～ 第9回：ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲④～諸外国の動向～ 第10回：総合的かつ包括的な支援と多職種連携①～ジェネラリストとしての視点～ 第11回：総合的かつ包括的な支援と多職種連携②～ジェネラリストとして支援の実際①～ 第12回：総合的かつ包括的な支援と多職種連携③～ジェネラリストとして支援の実際②～ 第13回：総合的かつ包括的な支援と多職種連携④～チームワークとチームアプローチ①～ 第14回：総合的かつ包括的な支援と多職種連携⑤～チームワークとチームアプローチ②～ 第15回：まとめ</p> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「覚えること」よりも「考えること」を大切にすること。</li> <li>・リアクションペーパーは、毎回授業の冒頭で、匿名にて使用する。</li> </ul>
アクティブラーニング	リアクションペーパーに書かれた内容をもとにグループディスカッションを適宜実施する。
授業内の ICT 活用	WebClass を利用する。
評価方法	課題レポート 30%、試験 50%、授業への取り組み 20%として評価する。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーに書かれた内容などをもとにグループディスカッションを、適宜取り入れる。

指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）	日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集	中央法規出版	2900	9784805882412	冊子版	
参考図書	木原活信（2014）『社会福祉と人権』ミネルヴァ書房					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	<p>&lt;事前・事後学習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各回の授業に臨むにあたって、該当する単元の教科書を熟読し、授業後には再度該当箇所を復習しておくこと。（事前事後学習目安 40 分）</li> </ul> <p>&lt;事後学習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 5 回、第 10 回、第 15 回の授業終了後に、自分のこれまでに書いてきたリアペの振り返るをすること。（事後学習目安 20 分）</li> <li>・課題レポートの作成（160 分）</li> </ul>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	福田 俊子（2606 研究室） メール：toshiko-f@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示する。					
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	ソーシャルワーク論 I				
科目責任者	福田 俊子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。				
科目概要	本科目は、ソーシャルワーク実践の基盤となる「ソーシャルワークの視座」及び「援助関係形成」の理解を深めることに主眼をおき、①ソーシャルワークの対象把握と援助モデルを理解すること、②ソーシャルワークの過程を理解すること、③ソーシャルワークの過程と援助関係の形成の関連について理解することを目的とする。				
到達目標	1. 4つの援助モデルを具体的な事例を想像しながら説明できる。 2. 生活問題を人と環境の交互採用の視点で事例を説明できる。 3. ソーシャルワークの過程の枠組みを説明できる。				
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt;福田俊子 &lt;授業内容・テーマ等&gt; 第1回：講義の概要説明 第2回：ソーシャルワークの面接①～意義と目的～ 第3回：ソーシャルワークの面接②～方法と実際～ 第4回：ソーシャルワークの過程①、個別援助の展開過程（ケースの発見～アフターケア）と援助関係 第5回：ソーシャルワークの過程②、インテークと援助関係の形成 第6回：ソーシャルワークの過程③、アセスメント・プランニングと援助関係の活用、支援の実施～終結と援助関係の終結 第7回：ソーシャルワークの過程④、援助関係形成の原則（バ이스テックの7原則） 第8回：ソーシャルワークの過程⑤、援助関係形成の原則（バ이스テックの7原則） 第9回：ソーシャルワークの過程⑥、援助関係形成の原則（バイスティックの7原則） 第10回：人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク①、個人モデル 第11回：人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク②、環境モデル 第13回：人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク③、物語モデル 第14回：人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク④、文化モデル 第12回：ソーシャルワークの記録 第15回：まとめ</p> <p>&lt;その他&gt; ・「覚えること」よりも「考えること」を大切にすること。 ・リアクションペーパーは、毎回授業の冒頭で、匿名にて使用する。</p>				
アクティブラーニング	リアクションペーパーに書かれた内容などをもとにグループディスカッションを、適宜取り入れる。				
授業内の ICT 活用	WebClass を利用する。				
評価方法	課題レポート 20%、定期試験 60%、授業への取り組み 20%として評価する。				
課題に対するフィードバック	ほぼ毎回、積極的にリアクションペーパーへコメントする。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
テキストボックス [つかむ] 社会福祉をつかむ 第3版	稲沢公一	有斐閣	2640	9784641177277	冊子版
最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法 [共通科目]	日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集	中央法規出版	2900	9784805882429	冊子版

参考図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
【新訳改訂版】ケースワークの原則 援助関係を形成する技法	F. P. バイステック ／著 尾崎新／訳 福田俊子／訳 原田和幸 ／訳	誠信書房	2000	9784414604047	冊子版	
事前・事後学修	<事前学習> ・該当する単元の教科書を熟読しておくこと。(事前学習目安 20 分) <事後学習> ・リアクションペーパーへの記入を通して、知識の確認をすること。(事後学習目安 20 分) ・課題レポートの作成 (160 分)					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	福田 俊子 (2606 研究室) メール: toshiko-f@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	ソーシャルワーク論Ⅱ
科目責任者	福田 俊子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	本科目では、ソーシャルワーク論Ⅰで学んだ「ソーシャルワークの展開過程」を基盤とし、ミクロ・メゾレベルのソーシャルワークの理論および実践の実際を学修することに主眼をおき、①ソーシャルワークの援助関係について理解を深め、②援助関係の形成過程とソーシャルワークの過程の実際を連動させて理解すること、③ソーシャルワークのモデルやアプローチを具体的な事例として理解することを目的とした授業構成となっている。
到達目標	1. 事例を通して、バイステックの7原則の重要性について理解する。 2. 援助関係形成過程とソーシャルワークの過程に関連を理解する。 3. ソーシャルワークの各過程でソーシャルワーカーに求められる知識・技術を理解する。 4. ソーシャルワーク歴史の流れを理解しながら、モデルやアプローチの概要を実践レベルで理解しようとする。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員&gt;福田俊子</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：ソーシャルワークの（展開）過程と援助関係（意義、概念、自己覚知）</p> <p>第3回：ソーシャルワークにおける援助関係の形成①（バイステックの7原則とソーシャルサポート①）</p> <p>第4回：ソーシャルワークにおける援助関係の形成②（バイステックの7原則とソーシャルサポート②）</p> <p>第5回：ソーシャルワークにおける援助関係の形成③とソーシャルワークの過程（インターク）</p> <p>第6回：ソーシャルワークにおける援助関係の形成④とソーシャルワークの過程（アセスメント）</p> <p>第7回：ソーシャルワークにおける援助関係の形成⑤とソーシャルワークの過程（アセスメントツール）</p> <p>第8回：ソーシャルワークにおける援助関係の形成・活用とソーシャルワークの過程（プランニング・介入）</p> <p>第9回：ソーシャルワークにおける援助関係の形成・活用とソーシャルワークの過程（モニタリング）</p> <p>第10回：ソーシャルワークにおける援助関係の終結とソーシャルワークの過程（終結・事後評価、アフターケア）、ソーシャルワークの記録</p> <p>第11回：事例にみるソーシャルワークの実践モデルとアプローチ①（1890年代末～1920年代）</p> <p>第12回：事例にみるソーシャルワークの実践モデルとアプローチ①（1920年代末～1940年代）</p> <p>第13回：事例にみるソーシャルワークの実践モデルとアプローチ②（1950年代以降①）</p> <p>第14回：事例にみるソーシャルワークの実践モデルとアプローチ③（1950年代以降②）</p> <p>第15回：小テスト、事例検討、まとめ</p> <p>&lt;その他&gt;</p> <p>・国家試験で、ソーシャルワークの歴史は必ず出題される。単なる暗記ではなく、歴史を自分の専門家としての成長と重ね合わせながら聞いてほしい。また、リアクションペーパーは、毎回授業の冒頭で匿名にて使用し、内容によりディスカッションのテーマとしても活用する。</p>
アクティブラーニング	リアクションペーパーに書かれた内容などをもとにグループディスカッションを、適宜取り入れる。
授業内の ICT 活用	WebClass を利用する。

評価方法	<p>小テスト20%、課題レポート20%、試験50%、授業への取り組み10%として評価する。</p> <p>&lt;小テスト・定期試験&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に出題範囲を告知する（過去の社会福祉士国家試験問題を含む）。</li> <li>・記述・穴埋め・○×式を混合して出題する。</li> </ul> <p>&lt;課題レポート&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ：映画『あしがらさん』に登場する人物をアセスメントし、支援計画をたてる。</li> <li>・様式：A4版用紙、原則としてパソコン書き（図は手書きでも可）、字数2000字数以上</li> <li>・提出：WebClass（ループリックを用いた評価はしない）</li> </ul> <p>&lt;授業への取り組み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習態度は毎回のリアクションペーパー等で確認する。</li> <li>・リアクションペーパーの不正提出は大幅な減点とする。</li> </ul>					
課題に対するフィードバック	授業内で適宜フィードバックする。					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法 [共通科目]	日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集	中央法規出版	2900	9784805882429	冊子版	
参考図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
三訂 社会福祉士の倫理	公益社団法人日本社会福祉士会	中央法規出版	2000	9784805884904	冊子版	
事前・事後学修	<p>&lt;事前学習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第5～11回の授業に臨むにあたって、該当する単元の教科書を熟読し、授業後には再度該当箇所を復習しておくこと。（事前事後学習目安40分）</li> </ul> <p>&lt;事後学習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第12～14回の授業後は、知識の確認をすること。（事後学習目安20分）</li> <li>・レポート『あしがらさん』の支援計画を作成すること。（160分＝4回分を要する）</li> </ul>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	福田 俊子 (2606 研究室) メール: toshiko-f@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。					
メディア授業の実施について	なし					



科目名	ソーシャルワーク論Ⅲ
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2単位 (30時間) 選択 4セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	本科目は、ソーシャルワーク総論Ⅰ・Ⅱ、及びソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱで修得した内容を基盤として、①メゾ・マクロレベルのソーシャルワークとしてのグループワーク、②コミュニティワークの理論と実際、③ケアマネジメントの概念とその展開、④スーパービジョン及びコンサルテーションの目的、方法と実際を理解することを目的とした授業構成となっている。
到達目標	1. 社会福祉実践現場で展開されるグループワークの実際をイメージしながら、原則や展開過程を理解することができる。 2. 社会福祉実践現場で展開されるコミュニティワークの実際をイメージしながら、展開過程を理解することができる。 3. 実習場を想定しながら、スーパービジョンの機能、方法などを理解することができる。
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;川向雅弘・福田俊子・佐藤順子 &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：福田 集団を活用した支援①グループワークとは</p> <p>第2回：福田 集団を活用した支援②グループワークの原則と援助関係</p> <p>第3回：福田 集団を活用した支援③グループワークの展開過程</p> <p>第4回：福田 集団を活用した支援④セルフヘルプ・グループ</p> <p>第5回：福田 集団を活用した支援⑤グループワークの歴史</p> <p>第6回：佐藤 コミュニティワーク①コミュニティワークの意義と目的</p> <p>第7回：佐藤 コミュニティワーク②地域アセスメント、地域課題の発見・認識</p> <p>第8回：佐藤 コミュニティワーク③社会資源の開発</p> <p>第9回：佐藤 コミュニティワーク④コミュニティワークのプロセス 実施計画、地域組織化、計画の評価等</p> <p>第10回：佐藤 コミュニティワーク⑤コミュニティワークの歴史</p> <p>第11回：川向 ケアマネジメント①ケアマネジメントの原則、歴史、適用と対象</p> <p>第12回：川向 ケアマネジメント②ケアマネジメントのプロセス、モデル</p> <p>第13回：川向 ケアマネジメント③ケアマネジメントの実際</p> <p>第14回：川向 スーパービジョンとコンサルテーション①スーパービジョンの意義、目的、方法</p> <p>第15回：川向 スーパービジョンとコンサルテーション②コンサルテーションの意義、目的、方法</p>
アクティブラーニング	グループ学修やPBLなどを用いながら授業を進める。
授業内のICT活用	WebClassを利用する。

評価方法	①授業参加態度：25点（欠席－2点×5回、リアペ未提出－1点×15回） ②定期試験・課題レポート：75点 ・定期試験：25点×佐藤・川向、5点×福田 ・課題レポート：20点×福田					
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーに書かれた内容やWebClassで作成した資料をもとに、グループディスカッションを、適宜取り入れる。					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法 [共通科目]	日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集	中央法規出版	2900	9784805882429	冊子版	
参考図書	授業の中で紹介します。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	<事前学習> ・該当する単元の教科書を熟読しておくこと（40分）。 <事後学習> ・授業内容は定期試験に必ず出題されるためキーワードを確認し覚えること（40分）。					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	川向 雅弘 (2705 研究室) メール:masahiro-k@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」「社会福祉士」として社会福祉現場の実務経験を有する教員が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	ソーシャルワーク論Ⅳ
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2単位 (30時間) 選択 6セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	本科目は、ソーシャルワーク総論Ⅰ・Ⅱ、及びソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅲで修得した内容を基盤として、①ケアマネジメント、②コーディネーション・ネットワークング・アウトリーチ、③スーパービジョンについて理解し、実践で活用できる力を身につけることを目的としている。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケアマネジメント等の学習を通して、エンパワメントを意識した人と環境との調整支援の重要性を理解する。また、人間という存在および様々な社会資源と関わる意欲をもつことができる。</li> <li>2. 外部講師による専門職としての自己変容の物語を聴くことを通じて、自分の実習体験などを振り返りながら、専門職としての自己の生成について理解することができる。</li> <li>3. 分析的志向にもとづいた行動目標が設定できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;川向雅弘・福田俊子 &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：川向 講義概要</p> <p>第2回：川向 ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発①（社会資源とは何か）</p> <p>第3回：川向 ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発②（社会資源の活用・調整・開発）</p> <p>第4回：川向 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際①（家族支援）</p> <p>第5回：川向 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際②（はざまの支援）</p> <p>第6回：川向 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際③（CSW とは）</p> <p>第7回：川向 ネットワークワークの形成、ソーシャルワークに関連する方法①（ネットワークングとコーディネーション）</p> <p>第8回：川向 ネットワークワークの形成、ソーシャルワークに関連する方法②（事例検討）</p> <p>第9回：川向 事例分析の意義・目的・方法とカンファレンス</p> <p>第10回：川向 中間まとめ（ソーシャルワークとソーシャルアクション）</p> <p>第11回：ゲストスピーカー・福田 スーパービジョンを受けるということ</p> <p>第12回：ゲストスピーカー・福田 スーパービジョンを受けるということ</p> <p>第13回：ゲストスピーカー・福田 スーパービジョンを受けるということ</p> <p>第14回：ゲストスピーカー・福田 スーパービジョンを受けるということ</p> <p>第15回：福田 まとめ</p>
アクティブラーニング	グループ学修などを用いながら授業を進める。
授業内の ICT 活用	WebClass を利用する。

評価方法	①授業への参加 25 点 (欠席 -2 点×5 回、リアペ未提出等 -1 点×15 回) ②課題レポート 40 点 (20 点×2 回) ・川向担当分：事例検討を通じて考えたことなどをテーマとしたレポートを課す。 ・福田担当分：スーパービジョンをテーマとしたレポートを課す。 ③定期試験 35 点 (事前に出題範囲を告知する。 ・2 択問題、記述問題を混合して出題する					
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーに書かれた内容や WebClass で作成した資料をもとに、グループディスカッションを、適宜取り入れる。					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
最新社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法 (社会専門)	日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集	中央法規出版	2900	9784805882498	冊子版	
テキストボックス [つかむ] 社会福祉をつかむ 第3版	稲沢公一	有斐閣	2640	9784641177277	冊子版	
シリーズ・社会福祉の視座 2 ソーシャルワークへの招待	北川 清一	ミネルヴァ書房	2500	9784623079513	冊子版	
参考図書	授業の中で紹介する					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	<事前学習> ・第 1～10 回には、指定図書の指示した頁を熟読すること。 ・第 11～14 回には、ゲストスピーカーに対する質問を考えてくること。 <事後学習> ・レポート「事例検討を通して考えたこと」(仮題)を作成すること。(160 分=4 回分を要する) ・レポート「一人前の対人援助職となるために必要とされる『育つちから』とは」(仮題)を作成すること。(160 分=4 回分を要する)					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	川向 雅弘 (2705 研究室) メール: masahiro-k@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク」「ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	社会保障論 I
科目責任者	国京 則幸
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	(社会保障論 I・IIを通じて) 対人援助・社会支援を実践する者として求められる社会保障各種制度の基本的なしくみや制度相互間のかかわりなどを理解し、問題のとらえ方・考え方を深める。そしてその理解の上に、社会実態的な問題とのかかわりで取り組まねばならない課題等について検討する。
到達目標	1. 社会保障制度、特にサービス提供型の制度のしくみ（構造／適用／給付）およびその問題・課題について理解する。 2. 日本の社会に現実にある社会実態的な問題を把握し理解する。 3. 社会保障の論理を修得する。－検討の「方法」（方法論）
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：履修案内（講義概要と履修計画等について）</p> <p>第2回：社会保障とは何か①：社会保障のモンダイ 【教科書 第1章】 ⇒社会保障にまつわる出来事</p> <p>第3回：社会保障とは何か②：社会保障の歴史と体系 【教科書 第1章】 ⇒社会保障の展開過程・歴史</p> <p>第4回：社会保障とは何か③：社会保障の方法 【教科書 第6章】 ⇒社会保障制度の基本的な方法</p> <p>第5回：医療保障①：医療保障とは？ 【教科書 第2章】 ⇒医療保障とは／保険とは</p> <p>第6回：医療保障②：日本の医療保障（健保） 【教科書 第2章】 ⇒健保制度のしくみ</p> <p>第7回：医療保障③：日本の医療保障（健保／国保） 【教科書 第2章】 ⇒健保制度のしくみ（給付）／国保制度のしくみ</p> <p>第8回：医療保障④：日本の医療保障（国保、医療制度、医療保険と医療制度のつながり） 【教科書 第2章】 ⇒医療制度のしくみ／医療保険制度と医療制度とのつながり</p> <p>第9回：医療保障⑤：医療保障の課題 【教科書 第2章】 ⇒医療保障をめぐる問題／世界の医療保障</p> <p>第10回：社会福祉①：社会福祉とは？ 【教科書 第7章】 ⇒社会福祉とは</p> <p>第11回：社会福祉②：児童福祉・家族福祉 【教科書 第8章】 ⇒児童虐待を巡る制度のしくみ／保育所を巡る制度のしくみ</p> <p>第12回：社会福祉③：障害者福祉 【教科書 第9章】 ⇒障害者総合支援制度のしくみ</p> <p>第13回：社会福祉④：高齢者福祉 【教科書 第10章】 ⇒介護を巡る問題・課題</p> <p>第14回：社会福祉⑤：介護保険 【教科書 第3章】 ⇒介護保険制度のしくみ</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>※受講学生の理解等によって、回と講義内容が前後する場合があります。</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的な学びを实践するため、講義中、発言を求めます。</li> <li>講義各回後に WebClass を介して出される小テストを受験し、授業の予復習を行います。</li> </ul>
授業内の ICT 活用	WebClass の活用
評価方法	定期試験（筆記試験）70%+②小テスト30%（授業中の発言等の考慮含む）

課題に対するフィードバック	小テスト受験後、期限が到来すると、解答の解説を参照することができるようになっていきます。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
新・初めての社会保障論〔第3版〕	古橋 エツ子	法律文化社	2300	9784589041739	冊子版
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかじめ該当する箇所（【 】内）は読んでおくこと。講義中、発言を求めます。</li> <li>・講義後、原則として毎回実施される小テストで講義の復習（+予習）を。（目安時間 40分）</li> </ul>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	社会保障論Ⅱ
科目責任者	国京 則幸
単位数他	2単位 (30時間) 選択 6セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	(社会保障論Ⅰ・Ⅱを通じて) 対人援助・社会支援を実践する者として求められる社会保障各種制度の基本的なしくみや制度相互間のかかわりなどを理解し、問題のとらえ方・考え方を深める。そしてその理解の上に、社会実態的な問題とのかかわりで取り組まねばならない課題等について検討する。
到達目標	1. 社会保障制度、特に金銭給付型の制度のしくみ (構造/適用/給付) およびその問題・課題について理解する。 2. 日本の社会に現実にある社会実態的な問題を把握し理解する。 3. 社会保障の論理を修得する。ー検討の「方法」(方法論)
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：社会保障論Ⅰの振り返り (医療保障 その1) 【教科書 第2章】 ⇒保険のしくみ/健康保険制度のしくみ</p> <p>第2回：社会保障論Ⅰの振り返り (医療保障 その2) ⇒国民健康保険制度のしくみ/医療保険制度と医療制度のつながり</p> <p>第3回：社会保障論Ⅰの振り返り (社会福祉 その1) 【教科書 第3章、第7～10章】 ⇒社会福祉基礎構造改革</p> <p>第4回：社会保障論Ⅰの振り返り (社会福祉 その2) ⇒介護保険制度のしくみ</p> <p>第5回：年金保険①：年金とは？+基礎年金 【教科書 第4章】 ⇒年金の基本的考え方/基礎年金制度のしくみ</p> <p>第6回：年金保険②：基礎年金、厚生年金 【教科書 第4章】 ⇒基礎年金制度の給付 (老齢・障害・遺族) /厚生年金制度のしくみ</p> <p>第7回：年金保険③、社会手当：厚生年金、年金の課題 【教科書 第4章、第11章】 ⇒厚生年金制度の給付 (老齢・障害・遺族) /課題の検討/児童手当/ 児童扶養手当</p> <p>第8回：生活保護①：生活保護とは？ 【教科書 第12章】 ⇒貧困とは、生活保護とは</p> <p>第9回：生活保護②：生活保護のしくみ 【教科書 第12章】 ⇒生活保護制度のしくみ</p> <p>第10回：生活保護③：生活保護の課題 【教科書 第12章】 ⇒生活保護の課題</p> <p>第11回：労働保険①：労働者災害補償保険 (労災) とは？ 【教科書 第5章】 ⇒労災とは</p> <p>第12回：労働保険②：労災のしくみ 【教科書 第5章】 ⇒労災制度のしくみ</p> <p>第13回：労働保険③：雇用保険とは？ 【教科書 第5章】 ⇒雇用保険とは</p> <p>第14回：労働保険④：雇用保険のしくみ 【教科書 第5章】 ⇒雇用保険制度のしくみ</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>※受講学生の理解等によって、回と講義内容が前後する場合があります。</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的な学びを実践するため、講義中、発言を求めます。</li> <li>講義各回後にWebClassを介して出される小テストを受験し、授業の予復習を行います。</li> </ul>
授業内のICT活用	WebClassの活用
評価方法	定期試験 (筆記試験) 70%+②小テスト 30% (授業中の発言等の考慮含む)

課題に対するフィードバック	小テスト受験後、期限が到来すると、解答の解説を参照することができるようになっている。				
指定図書	古橋エツ子編『新・初めての社会保障論』（法律文化社、最新版）				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
新・初めての社会保障論〔第3版〕	古橋 エツ子	法律文化社	2300	9784589041739	冊子版
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかじめ該当する箇所（【 】内）は読んでおくこと。講義中、発言を求めます。</li> <li>・講義後、原則として毎回実施される小テストで講義の復習（＋予習）を。（目安時間 40分）</li> </ul>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	高齢者福祉論
科目責任者	野田 由佳里
単位数他	2単位 (30時間) 選択 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者のその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。</li> <li>・高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する。</li> <li>・高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。</li> <li>・高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。</li> <li>・高齢者の精神的・身体的特徴や障害や高齢期に社会とかかわりの変化を知り、高齢者の生活実態を理解する。生活を多面的な視点からとらえ支援するしくみや方法を学び介護福祉に関する理解を深める。</li> <li>・高齢者を取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について学ぶとともに相談援助活動において必要となる介護高齢者福祉・介護保険制度やその他の社会福祉サービスについて理解する。</li> </ul>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>①保健医療福祉の専門職に求められる専門分野の基本的知識を理解できる。</li> <li>②高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者のその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解し、発生問題や経過、解決について説明できる。</li> <li>③高齢者を取り巻く問題や生活課題について説明できる。</li> <li>④高齢社会対策についての基礎知識を得る。</li> <li>⑤介護保険制度を理解できる。</li> <li>⑥高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解し、相談援助活動を想定して支援計画を作成できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：高齢者と少子高齢社会①：高齢者の定義と特性  第2回：高齢者と少子高齢社会②：少子高齢社会の到来  第3回：高齢者の生活実態  第4回：高齢者を取り巻く社会環境  第5回：高齢者観の変遷  第6回：高齢者福祉の歴史：高齢者福祉の発展過程  第7回：高齢者福祉の理念  第8回：介護保険制度①：介護保険制度の目的、保険者と被保険者  第9回：介護保険制度②：保険財政と要介護認定の仕組み・介護保険事業計画  第10回：介護保険制度③：地域支援事業  第11回：介護保険制度④：介護保険サービスの体系／居宅・施設サービスの種類  第12回：介護保険制度⑤：介護保険サービスの体系／地域密着型サービス 等  第13回：高齢者に対する関連諸制度／老人福祉法  第14回：高齢者に対する関連諸制度／高齢者虐待防止法・バリアフリー法  第15回：高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割  高齢者と家族等に対する支援の実際</p>
アクティブラーニング	<p>事前課題に取り組み、当該内容を理解して授業に臨んでください。発言係の担当になった際は授業を牽引するのは学生自らだという自負を持って積極的な議論ができるよう私見をまとめてください。事前課題には必ずディスカッションテーマを設定してありますので、授業前には内容をご確認ください。ディスカッションテーマを用いてグループ討議も行います。</p>

授業内の ICT 活用	ICT 活用を積極的に行っています。特に学修支援ツール WebClass を多用しています。 ①出席管理 ②小テスト管理 ③事前課題管理 ④事後課題管理 ⑤授業の理解度チェック ⑥レポート管理 ⑦学生の連絡、授業や質問へのフィードバック 授業内での理解度確認を行い、双方向型授業を目指します。					
評価方法	小テスト 5 回 (25%)、課題・提出物等 (15%)、定期試験 (60%)					
課題に対するフィードバック	事後課題の解説は授業内で行います。またリアクションペーパーに関しては、授業内や WebClass などを活用し、丁寧なフィードバックを心掛けます。					
指定図書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟「最新社会福祉士養成講座 高齢者福祉」 中央法規出版					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	【事前学習】 次回の授業の重要語句と該当頁を事前に提示しますので準備して下さい 【事後学修】 配布された課題プリントに取り組み、毎回の小テスト対策事後学習して下さい (事前：事後学修 目安時間 40 分)					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	野田 由佳里 (2706 研究室) メール: yukari-n@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	障害者福祉論				
科目責任者	川向 雅弘				
単位数他	2単位 (30時間) 選択 3セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。				
科目概要	「障害とは何か」を理解し、障がいのある人の生活と適切な支援について理解する。障がいのある人にかかわる福祉施策やサービス・利用できる社会資源、さらに、障害者福祉の基盤にあるノーマライゼーションや自立生活を考える上での思想・価値、人権についての理解を深める。また、「障害」という概念形成の歴史、暮らしの歴史、障害のある人を取りまく社会環境と制度施策を検証し、障害者福祉の全体像を解説する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「障害」とは何か、「障害児・者」の概念と定義が説明できる。</li> <li>2. 障がいのある人の生活と社会環境の課題について説明できる。</li> <li>3. 障害者福祉制度の変遷やその特徴を説明できる。</li> <li>4. 障害者にかかわる法制度について説明できる。</li> <li>5. 障がいのある人と家族への支援の方法、関係機関と専門職の役割について説明できる。</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：障害概念の基礎的理解①（「障害者福祉学」と「障害学」／「障害者」とは誰のことか）</p> <p>第2回：障害の今日的理解と課題・問題点（「ICF」信奉の落とし穴）</p> <p>第3回：「障害者」の暮らしの歴史</p> <p>第4回：障害者福祉の理念①（障害者福祉の理念—ノーマライゼーション）</p> <p>第5回：障害者福祉の理念②（障害者福祉の理念—自立と自己決定）</p> <p>第6回：障害者福祉の課題①（地域移行と地域定着の課題）</p> <p>第7回：障害者福祉の課題②（親なき後の支援の課題）</p> <p>第8回：障害者に対する法制度①（障害者基本法の成立過程）</p> <p>第9回：障害者に対する法制度②（障害者基本法と障害者差別解消法）</p> <p>第10回：障害者に対する法制度③（身体・知的・精神・発達障害等の法制度）</p> <p>第11回：障害者に対する法制度④（虐待防止法・雇用促進法等）</p> <p>第12回：障害者に対する法制度⑤（障害者総合支援法の理念・目的）</p> <p>第13回：障害者に対する法制度⑥（障害者総合支援法のサービス体系・財源・自己負担）</p> <p>第14回：障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割</p> <p>第15回：障害者と家族に対する支援の実際</p>				
アクティブラーニング	グループワークを実施します。				
授業内の ICT 活用	インターネット情報等を用いた学習を取り入れます。				
評価方法	授業態度：20%、レポート：40%、定期試験：40%				
課題に対するフィードバック	毎回のリアクションペーパーでフィードバックを行います。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 8 障害者福祉	日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集	中央法規出版	2500	9784805882382	冊子版
シリーズ・社会福祉の視座 1 社会福祉への招待	北川 清一	ミネルヴァ書房	2500	9784623079506	冊子版
参考図書	授業の中で紹介する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	<p>「ハンセン病問題」に関連した書籍を読み、レポートを授業最終回に提出します。初回授業時に詳細を説明します。</p> <p>【事前】 毎回簡単な事前課題を提示致します。また、指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨むこと。</p> <p>【事後】 授業の中で指摘したキーワードを調べ、WebClass に提出すること。(目安時間 40分)</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	川向 雅弘 (2705 研究室) メール:masahiro-k@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉士」として社会福祉現場の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	児童・家庭福祉論				
科目責任者	泉谷 朋子				
単位数他	2単位 (30時間) 選択 3セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門				
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。				
科目概要	子どもは一人の人間として尊重されるべき存在であるが、成長・発達段階にある子どもの声は、一緒に生活する家族や大人の声にかき消されてしまうことがある。この科目では、子どもが権利の主体であることを理解し、子どもと家族を取り巻く社会環境や子ども観・子育て観、児童福祉施策・制度・サービスについて学び、子どもの権利に主眼をおいた子どもと家族への支援のあり方を理解することを目的としている。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの権利、変容する家族形態について理解できる</li> <li>2. 子どもと家族の生活実態とこれを取りまく取り巻く社会環境について理解できる</li> <li>3. 児童・家庭に係る法制度について説明できる</li> <li>4. 児童・家庭福祉に係る関係機関及び専門職の役割について説明できる</li> <li>5. 児童・家庭に対する支援の実際について理解できる</li> </ol>				
授業計画	<授業内容・テーマ>  第1回 オリエンテーション、児童・家庭福祉の理念 第2回 子どもの最善の利益、子どもの権利保障 第3回 児童・家庭福祉の変遷 第4回 子どもと家族の生活とこれを取り巻く社会環境 第5回 児童・家庭福祉を支える法制度、実施体制 第6回 児童・家庭福祉に係る関係機関及び専門職 第7回 児童・家庭福祉の支援の実際① 母子保健 第8回 児童・家庭福祉の支援の実際② 子ども・子育て支援、保育サービス 第9回 児童・家庭福祉の支援の実際③ 障害児支援 第10回 児童・家庭福祉の支援の実際④ 学齢期の子どもへの支援 (外部講師) 第11回 児童・家庭福祉の支援の実際⑤ 子どもの貧困 第12回 児童・家庭福祉の支援の実際⑥ ひとり親家庭への支援 第13回 児童・家庭福祉の支援の実際⑦ 児童虐待とドメスティック・バイオレンス 第14回 児童・家庭福祉の支援の実際⑧ 社会的養護 第15回 今後の児童・家庭福祉				
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PBL (課題解決型学習)、ディスカッション、グループワークなどを用いて授業を行う</li> <li>・講義中、発言を求めることがある</li> </ul>				
授業内の ICT 活用	出欠管理、授業資料配布、レポート・リアクションペーパー等の提出はWebClassで行う。授業中、インターネットで検索する等PCを用いるため、PCは必携。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リアクションペーパー30%、レポート10%、期末テスト60%</li> <li>リアクションペーパーについては、事後学修の欄を参照すること。</li> <li>・レポート評価にルーブリックを用いる。</li> </ul>				
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リアクションペーパーについては、授業内でフィードバックを行う</li> </ul>				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 /備考
新・MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 児童・家庭福祉	岩崎 晋也	ミネルヴァ書房	2600	9784623092703	冊子版

参考図書	授業中に随時提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>【事前学修】各回の授業内容に基づき、教科書の該当箇所を事前に読んでおく（40分）</p> <p>【事後学修】授業資料・教科書等を用いて授業内容を振り返ること。毎回授業で学んだことをまとめ、リアクションペーパーとともにWebClassに提出する（40分）</p> <p>・第10回外部講師の授業に関してレポート課題を課す。</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	科目責任者の研究室（2708） 日時については初回授業時に提示する メール：tomoko-iz@seirei.ac.jp				
実務経験に関する記述	本科目は「児童家庭福祉」の実務経験を有する講師が、実務の観点を踏まえて講義を行う科目です				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	地域福祉論 I				
科目責任者	佐藤 順子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (SC) DP2 専門				
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (SC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技術を体系的に修得している。				
科目概要	近年の地域社会の変化と地域生活課題を概観したうえで、地域福祉の対象、主体、歴史、動向、概念と理論等を含む基本的な考え方を理解する。また地域福祉を含む福祉行政と財政の基本的な仕組みを理解する。				
到達目標	1. 地域福祉の基本的な考え方として地域福祉の概念と理論の概要が説明できる 2. 地域生活課題の概要が説明できる 3. 地域福祉の歴史、動向について説明できる 4. 地域福祉の主体である地方自治体、民間組織について説明できる 5. 地域福祉を推進するための福祉行政システムについて説明できる				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：ガイダンス 授業の概要・目標、進め方 第2回：地域社会と生活、地域生活課題 第3回：地域福祉の推進主体① 地域福祉の推進主体とは 地方自治体、社会福祉協議会、社会福祉法人 第4回：地域福祉の推進主体② 民生委員・児童委員、町内会・自治会 第5回：地域福祉の推進主体③ NPO 法人、当事者組織、その他 第6回：地域福祉の歴史① 地域福祉の源流 第7回：地域福祉の歴史② 戦後社会福祉の発展と地域福祉 第8回：地域福祉の歴史③ 近年の地域福祉政策の動向と課題 第9回：中間テスト 解説 第10回：地域福祉が目指すもの：日常生活圏域における地域福祉活動の実践例 ゲストスピーカー 三方原地区社会福祉協議会 役員 第11回：地域福祉の概念と理論 第12回：地域福祉の推進課題 コミュニティソーシャルワーク、地域再生、住民の主体形成等 第13回：福祉行政システム① 国、都道府県、市町村の役割、国と地方の関係 第14回：福祉行政システム② 福祉行政の組織及び専門職の役割 第15回：福祉行政システム③ 福祉における財源、まとめ</p>				
アクティブラーニング	ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する				
授業内の ICT 活用	・WebClass を活用して双方向型授業を行う ・事前・事後学修課題についてはWebClass に提出する				
評価方法	授業態度 10%、中間テスト 20 点、課題 20 点、定期試験 50%				
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する。中間テスト実施後は解説を行う。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 6 地域福祉と包括的支援体制	日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集	中央法規出版	2900	9784805882368	冊子版

参考図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
テキストボックス [つかむ] 地域 福祉援助をつかむ	岩間伸之	有斐閣	2100	9784641177147	冊子版	
事前・事後学修	事前学修：事前課題に取り組む 事後学習：事後課題（国家試験過去問含む）に取り組む 毎回学びを振り返り、わかったことをまとめる（毎回40分程度）					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	佐藤 順子（2606研究室） メール：junko-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は地域福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です					
メディア授業の実施について	なし					



科目名	地域福祉論Ⅱ				
科目責任者	佐藤 順子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。				
科目概要	地域共生社会構築という政策課題について理解を深め、その実現に向けた包括的支援体制構築のあり方とそのための施策について理解するとともに、地域を基盤としたソーシャルワークの展開のあり方、災害時における支援体制のあり方を理解する。併せて包括的支援体制構築において不可欠な福祉計画の意義、種類、策定と運用について理解する				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域共生社会の概要と諸施策について説明できる</li> <li>2. 共生社会実現に向けた包括的支援体制について説明できる</li> <li>3. 包括的支援体制の具体的な展開方法について説明できる</li> <li>4. 地域を基盤としたソーシャルワークの展開方法について説明できる</li> <li>5. 災害時における総合的かつ包括的な支援体制について説明できる</li> <li>6. 福祉計画の意義、種類、策定と運用のあり方について説明できる</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：ガイダンス 地域における生活課題</p> <p>第2回：地域生活課題の現状とニーズ</p> <p>第3回：地域共生社会とは 地域共生社会構築が求められる背景、地域共生社会実現の課題、各種施策</p> <p>第4回：包括的支援体制とは① 地域包括ケアシステムと生活困窮者自立支援制度 その他包括的な相談支援体制</p> <p>第5回：包括的な支援体制とは② 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制の課題</p> <p>第6回：包括的支援体制の具体的な展開方法① 多機関協働を促進する仕組み・多職種連携</p> <p>第7回：包括的支援体制の具体的な展開方法② 福祉以外の分野との機関協働</p> <p>第8回：包括的支援体制構築と地域福祉ガバナンス</p> <p>第9回：中間テスト 解説 地域を基盤としたソーシャルワークの展開① 地域を基盤としたソーシャルワークとは</p> <p>第10回：地域を基盤としたソーシャルワークの展開② 住民の主体形成に向けたアプローチ</p> <p>第11回：災害時における総合的かつ包括的な支援体制</p> <p>第12回：福祉計画① 福祉計画の意義・目的と展開</p> <p>第13回：福祉計画② 市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画</p> <p>第14回：福祉計画③ 福祉計画の策定過程と方法</p> <p>第15回：福祉計画④ 福祉計画の実施と評価 まとめ</p>				
アクティブラーニング	ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する				
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WebClass を活用して双方向型授業を行う</li> <li>・事前・事後学修課題についてはWebClass に提出する</li> </ul>				
評価方法	授業態度 10%、中間テスト 20 点、課題等 20 点、定期試験 50%				
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する 中間テスト実施後は解説を行う。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 6 地域福祉と包括的支援体制	日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集	中央法規出版	2900	9784805882368	冊子版

参考図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
テキストボックス [つかむ] 地域 福祉援助をつかむ	岩間伸之	有斐閣	2100	9784641177147	冊子版	
事前・事後学修	事前学修：事前課題に取り組む 事後学習：事後課題（国家試験過去問含む）に取り組む 毎回学びを振り返り、わかったことをまとめる（毎回40分程度）					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	佐藤 順子（2606研究室） メール：junko-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は地域福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	公的扶助論				
科目責任者	小畑 美穂				
単位数他	2単位 (30時間) 選択 3セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。				
科目概要	公的扶助は、国が国民に対して最低限度の生活を保障する制度である。その中核をなしている生活保護制度は、日本国憲法第 25 条の生存権として、国の義務を具現化しており、あらゆる社会保障制度の基礎となしている。公的扶助の歴史的変遷、人の生活とは何か、貧困とは何かを探究することで、公的扶助の社会的意義を考える。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における貧困の実態、社会的背景および要因、状況について理解できる</li> <li>2. 社会環境と生活を関連づけて考えることができる</li> <li>3. 貧困とソーシャルワーク支援の関係性について理解できる</li> <li>4. 生活保護および低所得者に関する法制度を体系的に理解できる</li> <li>5. 公的扶助の社会的意義を歴史的、社会的に理解できる</li> <li>6. 講義で得られた知識を、実習等で活用できる</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：オリエンテーション  第 2 回：公的扶助の概念  第 3 回：貧困の概念  第 4 回：貧困状態にある人を取り巻く社会環境  第 5 回：貧困の歴史① 貧困状態にある人に対する福祉の理念、貧困観の変遷  第 6 回：貧困の歴史② 貧困観の発展過程  第 7 回：生活保護制度① 動画視聴とディスカッション  第 8 回：生活保護制度② 生活保護の概要〔目的、基本原理・基本原則、保護の種類〕  第 9 回：生活保護制度③ 生活保護の推移、動向  第 10 回：生活保護制度④ ゲストスピーカーによる講義とディスカッション  第 11 回：低所得者に対する法制度① 生活困窮者自立支援制度の理念と概要  第 12 回：低所得者に対する法制度② ゲストスピーカーによる講義とディスカッション  第 13 回：低所得者に対する法制度③ 低所得者対策、ホームレス対策  第 14 回：生活困窮者・被保護者等就労支援、生活福祉資金、生活保護の実施機関等  第 15 回：まとめ</p>				
アクティブラーニング	PBL (課題解決型学習)、グループワーク、ディスカッションを実施する。				
授業内の ICT 活用	PC、タブレット、スマートフォン等デバイスを活用し、検索・入力・作業およびグループワークを行う。WebClass を利用する。				
評価方法	授業への取り組み 30%、中間レポート 20%、定期試験 50% (※中間レポートの課題に関しては、第 8 回授業にて説明する)				
課題に対するフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 予習課題は、次回時の授業を通してコメントする。</li> <li>2) リアクションペーパーでの質問や要点については、授業においてコメントする。</li> <li>3) 中間レポートについては、授業においてコメントする。</li> </ol>				
指定図書	『貧困に対する支援』(最新社会福祉士養成講座) 中央法規 (一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編)				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
最新社会福祉士養成講座 4 貧困に対する支援	日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集	中央法規出版	2500	9784805882474	冊子版

参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルース・リスター『貧困とはなにか』明石書店</li> <li>・岩田正美『社会的排除 参加の欠如・不確かな帰属』有斐閣</li> <li>・岩永理恵編著『生活保護と貧困対策』有斐閣</li> <li>・埋橋孝文編著『福祉+α 生活保護』ミネルヴァ書房</li> <li>・宮本みち子, 佐藤洋作, 宮本太郎編著『アンダークラス化する若者たち 生活保障をどう立て直すか』明石書店</li> <li>・一般社団法人社会的包摂サポートセンター編著『事例でみる生活困窮者』中央法規</li> <li>・生活保護手帳 中央法規</li> <li>・生活保護手帳 別冊問答集 中央法規</li> </ul>				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>【事前学習】毎回の授業で学ぶ項目について、テキストの該当箇所をあらかじめ読んでキーワードをまとめるなどして授業に望む。加えて、あらかじめ提示する課題について調べる（目安時間 40 分）</p> <p>【事後学習】毎回学びをリアクションペーパーにまとめ、WebClass に提出する。加えて、配布資料をもとに授業の振り返りを行う（目安時間 30 分）</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	小畑 美穂 (2707 研究室) メール: miho-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示する。				
実務経験に関する記述	本科目は社会福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	社会福祉経営論
科目責任者	落合 克能
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	本科目は、①ソーシャルワークにおいて必要となる、福祉サービスを提供する組織や団体の概要と役割、歴史（沿革）、経営の視点と方法を理解するとともに福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論、労働者の権利等について理解すること、②福祉サービス提供組織のサービスマネジメントに不可欠な福祉人材のマネジメントに関して理解すること、③様々なニーズを持った利用者への適切な支援、地域共生社会の実現のために社会福祉経営が大きな影響力をもっていることを理解することを目的とした科目である。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ソーシャルワークにおいて必要となる、福祉サービスを提供する組織や団体の概要と役割、歴史（沿革）、経営の視点と方法（経営実践）に関する基礎知識を修得する。</li> <li>・ 福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論、労働者の権利等に関する知識を修得する。</li> <li>・ 福祉サービス提供組織における人材マネジメントの視点と具体的方法に関する知識を修得する</li> </ul>
授業計画	<p>【担当教員】 武居 敏、落合克能</p> <p>&lt;回数・日程 (6 限) &gt; &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回 (落合)：福祉サービス提供組織の経営に関して学ぶことの意義等 (オリエンテーション、福祉サービスを提供する組織等)</p> <p>第 2 回 (武居)：福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割 1 (福祉サービスの歴史と地域共生型社会創設に向けた社会福祉経営あり方)</p> <p>第 3 回 (落合)：福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割 2 (各種法人、団体と社会福祉法人について)</p> <p>第 4 回 (ゲストスピーカー)：福祉サービス提供組織の運営に係る基礎理論と実践① (組織におけるグループダイナミズムとリーダーシップの実際)</p> <p>第 5 回 (ゲストスピーカー)：福祉サービス提供組織の運営に係る基礎理論と実践② (社会福祉法人による福祉サービス事業展開過程の実際・組織間連携)</p> <p>第 6 回 (落合)：福祉サービス提供組織の運営に係る基礎理論のまとめ (組織運営、集団力学、動機づけ、リーダーシップ等に関する基礎理論)</p> <p>第 7 回 (ゲストスピーカー)：福祉サービス提供組織の経営体制について (経営資源確保とそれを活かす組織、仕組み、事業戦略、事業計画等)</p> <p>第 8 回 (落合)：福祉サービス提供組織の経営と実際① (マネジメントの基礎) (サービスマネジメントとリスクマネジメント、苦情解決、評価)</p> <p>第 9 回 (ゲストスピーカー)：福祉サービス提供組織の経営と実際② (会計管理と財務管理) (財務管理の目的と基本的視点、財務諸表の実際的活用方法)</p> <p>第 10 回 (ゲストスピーカー)：福祉サービス提供組織の経営と実際③ (情報管理、PR) (プライバシー保護、個人情報保護、パブリックリレーションズ等)</p> <p>第 11 回 (ゲストスピーカー)：福祉サービス提供組織の経営と実際④ (ICT 化、DX 化) (経営資源の効率的、効果的なマネジメントにつながるDX化)</p> <p>第 12 回 (ゲストスピーカー)：福祉サービス提供組織の経営と実際⑤ (人事・労務管理) (福祉人材マネジメント・育成の仕組み、労働者の権利、労働環境の整備)</p> <p>第 13 回 (落合)：福祉サービス提供組織の経営と実際⑥ (経営資源とマネジメントに関する理論と実際に関するまとめ)</p> <p>第 14 回 (武居)：聖隷の歴史と社会福祉経営のあり方</p> <p>第 15 回 (落合)：福祉サービス提供組織の経営管理に関するまとめ</p>
アクティブラーニング	WebClass を活用した履修者からのリアクションや質問へのフィードバックなどを行い、履修者との対話を重視した授業進行を心がけます。課題提出などは、WebClass を活用します。ビデオ視聴を行った後にディスカッションタイムを設けることがあります。
授業内の ICT 活用	WebClass を活用した、出欠管理や資料配布、リアクション入力、リアクションのまとめ公開を行います。

評価方法	<p>授業への取り組み状況（リアクションの内容を含む）30%、第2回授業前までの課題レポート10%、第9回授業前までの課題レポート10%、期末試験50%として評価します。</p> <p>【第2回授業前提出課題（レポート）】 「社会福祉法人の制度改革」に関する概要と社会福祉法人による地域における公益的活動の実際に関するまとめと考察」（800字程度）。</p> <p>【第9回授業前提出課題（レポート）】 「福祉サービス提供組織の運営に係る基礎理論に関するまとめと考察」（800字程度）</p> <p>【期末試験】 テスト形式で実施します。出題範囲は、授業内、WEBCLASS等で事前に告知します。</p> <p>【授業への取り組み】 毎回のリアクションペーパー等で授業への取り組み状況（学修態度）を評価します。</p>					
課題に対するフィードバック	<p>毎回WebClassに入力してもらいリアクションを各外部講師にお送りし、授業の冒頭でフィードバックします。また、第2回授業前、第9回授業前までに提出して頂く課題レポートに関しては授業内でフィードバックし、期末試験に関しては、実施後WebClassでフィードバックします。</p>					
指定図書	<p>社会福祉学習双書 2024 2 福祉サービスの組織と経営 社会福祉法人全国社会福祉協議会</p>					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	<p>・『見て覚える国試ナビ 2025』中央法規 2024 発刊予定 ・『最新社会福祉士養成講座1 福祉サービスの組織と経営』中央法規 2021 年</p>					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	<p>【事前学修】 事前に指定図書の当該授業部分を一読して来て下さい</p> <p>【事後学修】 授業中に指示した事後学修課題やリアクションを期日までにWEBCLASSに入力して頂きます。また、また、第2回、第9回授業前までに提出して頂く事後学修を促す課題レポートに取り組んでいただきます。 (目安時間 40分)</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	<p>落合 克能 (2613 研究室) メール: katsutaka-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。</p>					
実務経験に関する記述	<p>本科目は、特別養護老人ホームにおける様々な職種（生活相談員、介護職員、介護支援専門員、施設長補佐、事務長等）の実践経験および現在、複数の非営利法人の役員・評議員等を務めている科目責任者（社会福祉士）が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	医療福祉論
科目責任者	小畑 美穂
単位数他	2単位 (30時間) 選択 4セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	なぜ、保健医療の現場において社会福祉が必要なのか、社会的かつ歴史的に理解する。疾病の背景に何があるのか、そして疾病は私たちの生活にどのような影響をもたらすのかを考える。さらに保健医療政策および法制度の意義を学ぶと同時に政策がもたらす新たな社会的課題にも目を向ける。その上で、医療福祉および医療ソーシャルワークは、何を対象に、何を目的に、何を実現しようとする事なのか、社会的意義を探究することを通して、人のいのちとくらしに向き合う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾病の背景に目を向け、健康の社会的決定要因 (SHD) について理解できる</li> <li>2. ACP および協働意思決定支援について考えることができる</li> <li>3. 医療ソーシャルワークの歴史、業務および役割について理解できる</li> <li>4. 医療保険制度と診療報酬制度の概要について理解できる</li> <li>5. 医療法および病院機能、国民医療費の概況について理解できる</li> <li>6. 医療機関における専門職の役割とチーム医療／多職種連携について理解できる</li> <li>7. 機能分化および地域包括ケアシステム、在宅医療について理解できる</li> <li>8. 保健医療の福祉的課題、患者を取り巻く社会関係性について考えることができる</li> <li>9. いのちとくらしについて考えることができる</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：健康の社会的決定要因 (SDH)：疾病と貧困の悪循環</p> <p>第3回：患者と家族の関係性、支援</p> <p>第4回：医療倫理、動画視聴</p> <p>第5回：医療費の保障および診療報酬制度、国民医療費の概況</p> <p>第6回：医療費の保障①：高額療養費、医療費助成、労災、公費負担医療</p> <p>第7回：医療費の保障②：高額療養費の合算、公費負担医療、無料低額診療</p> <p>第8回：人を理解するという事 (アセスメント) /グループワーク「みんなでストーリーをつくろう！」</p> <p>第9回：保健医療の福祉的課題、医療ソーシャルワークの歴史、医療ソーシャルワークの業務指針・保健所との関係</p> <p>第10回：ゲストスピーカー [周産期・母子医療] による講義、ディスカッション</p> <p>第11回：ACP を考える、もしバナゲーム、協働意思決定支援</p> <p>第12回：疾病構造・人口転換・疫学転換、医療法および病院機能、在宅医療、地域包括ケア</p> <p>第13回：多職種連携、チームモデル</p> <p>第14回：ゲストスピーカー [在宅医療] による講義、ディスカッション</p> <p>第15回：まとめ</p>
アクティブラーニング	PBL (課題解決型学習)、グループワーク、ディスカッションを実施する。
授業内の ICT 活用	PC、タブレット、スマートフォン等デバイスを活用し、検索・入力・作業およびグループワークを行う。WebClass を利用する。
評価方法	授業への取り組み 30%、中間レポート 20%、定期試験 50% (※中間レポートは、第8回の授業を元に提示する)
課題に対するフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 予習課題は、次回時の授業を通してコメントする</li> <li>2) リアクションペーパーでの質問や要点については、授業においてコメントする</li> <li>3) 中間レポートについては、授業においてコメントする</li> </ol>

指定図書	『保健医療と福祉』（最新社会福祉士養成講座）中央法規（日本ソーシャルワーク教育学校連盟編）				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
最新社会福祉士養成講座 5 保健医療と福祉	日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集	中央法規出版	2500	9784805882481	冊子版
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 武田裕子『格差時代の医療と社会的処方 病院の入り口に立てない人々を支える SDH の視点』日本看護協会出版会</li> <li>・ 近藤克則『健康格差社会 何が心と健康を蝕むのか』医学書院</li> <li>・ 高山恵理子『退院における医療ソーシャルワーカーの実践―「退院援助」から「地域ネットワーク構築」へ―』相川書房</li> <li>・ 林 祐介『効果的な退院・転院支援』旬報社</li> <li>・ 岩渕豊『日本の医療政策 成り立ちと仕組みを学ぶ』中央法規</li> <li>・ 島崎謙治『日本の医療 制度と政策』東京大学出版会</li> <li>・ 成本迅編著『認知症の人の医療選択と意思決定支援 本人の希望をかなえる「医療同意」を考える』クリエイツかもがわ</li> <li>・ 奥田いさよ編著『ターミナルケア―保健・医療・福祉の連携による援助』川島書店</li> <li>・ 『医療福祉総合ガイドブック 2021 年度版』NPO 法人日本医療ソーシャルワーク研究会編, 医学書院</li> <li>・ 飯田修平編著『病院早わかり読本 第6版』医学書院</li> <li>・ 「ケアマネジャー」編集部、福島敏之『現場で役立つ 社会保障制度活用ガイド 2023 年版』中央法規</li> <li>・ 新・MINERVA 社会福祉士養成テキストブック『保健医療と福祉』ミネルヴァ書房</li> <li>・ 日本医療ソーシャルワーク学会編『地域包括ケア時代の医療ソーシャルワーク実践テキスト 改定版』日総研</li> </ul>				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	<p>【事前学習】毎回の授業で学ぶ項目について、テキストの該当箇所をあらかじめ読んでキーワードをまとめるなどして授業に望む。加えて、あらかじめ提示する課題について調べる（目安時間 40 分）</p> <p>【事後学習】毎回学びをまとめ、WebClass に提出する。加えて、配布資料をもとに授業の振り返りを行う（目安時間 30 分）</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	小畑 美穂 (2707 研究室) メール:miho-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示する。				
実務経験に関する記述	本科目は「医療ソーシャルワーカー」等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	司法福祉論
科目責任者	山本 幸則
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	刑事司法における近年の動向と刑事司法手続及び少年事件の手続の流れを知り、刑事司法手続等における社会福祉士・精神保健福祉士の役割、関係機関等の役割について理解する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 刑事司法における近年の動向を説明できる</li> <li>2. 刑事司法手続について説明できる</li> <li>3. 知的障害者、高齢者の犯罪の現状を理解する</li> <li>4. 精神障害者の犯罪の現状を理解し、医療観察制度について説明できる</li> <li>5. 更生保護制度について説明できる</li> <li>6. 少年事件の手続について説明できる</li> <li>7. 犯罪被害者支援について説明できる</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt;</span></p> <p>第 1 回：刑事司法における近年の動向と社会福祉士及び精神保健福祉士の役割 犯罪の動向（検挙件数、再犯、再入率）、刑事司法手続における福祉職への期待 飯田 智子</p> <p>第 2 回：刑事司法手続を理解する① 刑法の基本原則、犯罪の成立要件、刑罰の目的 山本 幸則</p> <p>第 3 回：刑事司法手続を理解する② 捜査の端緒、捜査、起訴、公判（刑事裁判） 山本 幸則</p> <p>第 4 回：刑事司法手続を理解する③ 刑罰の執行段階 山本 幸則</p> <p>第 5 回：刑事司法手続を理解する④ 更生保護の沿革と仕組み・更生保護の担い手とその役割 飯田 智子</p> <p>第 6 回：刑事司法手続を理解する⑤ 更生保護における生活環境調整① 飯田 智子</p> <p>第 7 回：刑事司法手続を理解する⑥ 更生保護における生活環境調整② 飯田 智子</p> <p>第 8 回：罪を犯した人々① 知的障害者と犯罪・高齢者と犯罪 山本 幸則</p> <p>第 9 回：罪を犯した人々② 精神障害者の犯罪 山本 幸則</p> <p>第 10 回：罪を犯した人々③ 医療観察制度 飯田 智子</p> <p>第 11 回：少年事件（非行少年）の手続を理解する① 少年法の基本理念、非行少年の概念、児童福祉法との関係 山本 幸則</p> <p>第 12 回：少年事件（非行少年）の手続を理解する② 審判手続、保護処分 山本 幸則</p> <p>第 13 回：少年事件（非行少年）の手続を理解する③ 各種事件と少年法の変遷 山本 幸則</p> <p>第 14 回：刑事司法を取り巻く社会環境 再犯防止のための新しい取り組みなど 山本 幸則</p> <p>第 15 回：犯罪被害者支援の仕組み 犯罪被害者の地位の変遷、刑事司法手続における犯罪被害者の関与 山本 幸則</p>
アクティブラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし

評価方法	筆記試験 100%による				
課題に対するフィードバック	筆記試験の回答例を提示する				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	『獄窓記』山本譲司著 新潮文庫				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
新潮文庫 累犯障害者	山本 譲司	新潮社	590	9784101338729	冊子版
事前・事後学修	予習としてはテキストの該当箇所におおまかに目を通すこと、復習として授業で扱った箇所を精読していただきたい。(目安時間 40分)				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は司法書士（成年後見分野）の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	社会福祉調査論
科目責任者	落合 克能
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	<p>本科目は、履修者が社会福祉分野における社会調査の意義と目的及び方法（倫理含む）の基礎、統計法の概要について理解するとともに、量的および質的なデータの整理と分析の具体的方法について修得することを目的としている。</p> <p>社会調査とは国や地方自治体、企業や学校、社会福祉などの各種法人、または個人が、ある社会的な問題意識に基づいて情報（データ）を収集し、収集したデータを演繹的又は帰納的に描写、解釈、分析し、調査対象について理解を深め、課題を整理したり、対応策を立案したりする一連の営みである。本科目では社会福祉分野における社会調査（社会福祉調査）の意義と目的、統計法の概要、個人情報保護と倫理、量的・質的な調査の方法、データの整理と分析の具体的方法、ソーシャルワークにおける評価について講義を行う。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉調査の意義と目的を理解するとともに、社会福祉調査における倫理と個人情報保護を含む一連の流れ、方法、留意点等に関する基礎的知識を修得する。</li> <li>・社会福祉調査のデザイン、量的調査の方法、質的調査の方法（データの収集方法、分析方法等）に関する基礎的知識、技術を修得する。</li> <li>・ソーシャルワークにおける評価方法に関する理論と実践的手法に関する知識を修得する。</li> </ul>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：社会福祉調査の概要 1（社会福祉調査とは：社会福祉調査の意義と目的）  第 2 回：社会福祉調査の概要 2（社会福祉調査の歴史、調査対象と調査方法の概要、個人情報保護と倫理、統計法の概要、IT の活用）  第 3 回：社会福祉調査のデザイン 1（問いの設定、調査に関する考え方・論理：演繹法と帰納法、因果関係、妥当性と信頼性）  第 4 回：社会福祉調査のデザイン 2（調査の種類、調査のプロセス）  第 5 回：調査対象者の選定（量的調査における対象者の選定、質的調査における対象者の選定）  第 6 回：測定（尺度、質問紙作成の方法）  第 7 回：データ収集の方法（質問紙によるデータ収集、質的調査におけるデータ収集、倫理）  第 8 回：量的データの整理と分析 1（調査データの特徴、集計・分析の方向性、度数分布、基本統計量）  第 9 回：量的データの整理と分析 2（2 変数間の関連：クロス集計、散布図、相関）  第 10 回：量的データの整理と分析 3（3 つ以上の変数間の関連、推測統計）  第 11 回：質的データの整理と分析 1（質的調査の特徴、質的調査方法論の主なアプローチ）  第 12 回：質的データの整理と分析 2（質的データの整理）  第 13 回：質的データの整理と分析 3（帰納的アプローチと演繹的アプローチ、MGTA）  第 14 回：ニーズ調査、プログラム評価  第 15 回：実践評価、社会福祉調査の展望</p>
アクティブラーニング	<p>関連ビデオ視聴を行った上でディスカッションタイムを設けます（1-2 回）。また、量的調査結果の処理（分析）過程、質的・帰納的な分析過程に関しては、履修者個人のパソコンを活用して実践的な学修を行って頂きます。また、授業内ではチャレンジ問題等を用いて学修の成果を確認しながら授業を進めます。</p>
授業内の ICT 活用	<p>WebClass を活用した、出欠管理や資料配布、リアクション入力、リアクションのまとめの公開を行います。</p>

評価方法	<p>授業への取り組み状況（リアクション、小テスト等の内容を含む）50%、期末試験50%として評価します。</p> <p>【期末試験】 記述、穴埋め（選択肢なし）、穴埋め（選択肢あり）等により出題します。出題範囲は、授業内、WebClass等で事前に告知します。</p> <p>【授業への取り組み】 毎回のリアクションペーパー等で授業への取り組み状況（学修態度）を評価します。</p>					
課題に対するフィードバック	<p>毎回 WebClass に入力してもらいリアクションに対しては、WebClass 上にまとめを公開するとともに、必要に応じて次回の授業の冒頭でフィードバックします。また、第10回授業時知識修得確認テストに関しては授業内でフィードバックし、第15回授業時知識修得確認テストに関しては、実施後 WebClass でフィードバックします。</p>					
指定図書						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
新・MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 社会福祉調査の基礎	岩崎 晋也	ミネルヴァ書房	2600	9784623093779	冊子版	
参考図書	<p>『社会調査の基礎社会調査士 A・B・C・D 科目対応』弘文堂 2012 『ソーシャルワーク・リサーチの方法』相川書房 2004 『最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 5 社会福祉調査の基礎』中央法規 2021</p>					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	<p>【事前学修】授業前に指定図書の予定授業範囲を読み、分からない箇所の下線を引いてきて下さい。また、授業前に配信される量的データに関して自分なりの分析を試みて下さい。</p> <p>【事後学修】授業中に指示した事後学修課題やリアクションを期日までに WEBCLASS に入力して頂きます。また、第10回授業時知識修得確認テスト、第15回授業時知識修得確認テストのための復習（テスト勉強）を十分に頂く必要があります。</p> <p>（目安時間 40分）</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	落合 克能（2613 研究室） メール：katsutaka-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	<p>本科目は、特別養護老人ホームにおける様々な職種（生活相談員、介護職員、介護支援専門員、施設長補佐、事務長）の実務経験、また、第三者評価の受審経験、調査員としての調査経験等の実務経験を有する講師（社会福祉士）が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	人体の構造と機能及び疾病
科目責任者	水野 尚美
単位数他	2単位 (30時間) 選択 2セメスター
DP番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	社会福祉・心理の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に理解するために初年次の学問として、まず基本的な人の身体の構造(解剖)と働き(生理)や精神に関する知識を学ぶ。そして誕生、成長・発達や老化などの日常生活に関連させながら学習を進める。 さらに日常の中でみることの多い疾患や障害について理解し、リハビリテーション、国際生活機能分類(ICF)、健康のとらえ方等の学習を踏まえ、現代社会で発生している諸問題などに関連づけて考えていく力を身につける。
到達目標	1. 身体構造と心身の機能について、人の成長・発達と老化をふまえた理解ができる。 2. 様々な疾患や障害の概要について、日常生活と関連づけた理解ができる。 3. リハビリテーションの概要について理解できる。 4. 国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要と健康のとらえ方について理解できる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; <span style="float: right;">&lt;担当教員名&gt;</span></p> <p>第1回：水野尚美 授業のガイダンス 健康及び疾病のとらえ方、ライフステージ別の健康課題</p> <p>第2回：齋藤直志 老化、高齢者に多い疾患、人口の高齢化と家族、日本の人口統計</p> <p>第3回：齋藤直志 心臓の構造と循環器系、心疾患、高血圧、血液の成分、血液疾患と膠原病</p> <p>第4回：齋藤直志 神経の構造と機能、脳血管疾患、神経疾患と難病</p> <p>第5回：齋藤直志 呼吸器の構造と換気、呼吸器疾患、感染症、感染症対策</p> <p>第6回：齋藤直志 消化と吸収、水分と脱水、消化器疾患、</p> <p>第7回：齋藤直志 腎臓の構造と泌尿器系、腎臓疾患、泌尿器系疾患</p> <p>第8回：齋藤直志 内分泌器官、糖尿病と内分泌疾患、</p> <p>第9回：齋藤直志 支持運動器官、骨・関節疾患、平衡機能障害、肢体不自由</p> <p>第10回：齋藤直志 感覚器、皮膚、身体機能の調節、目・耳の疾患、視覚障害、聴覚障害</p> <p>第11回：齋藤直志 精神の成長・発達、知的障害、発達障害、精神障害</p> <p>第12回：齋藤直志 認知症、高次脳機能障害</p> <p>第13回：齋藤直志 内部障害、免疫機能、難病、悪性新生物、終末期医療と緩和ケア</p> <p>第14回：水野尚美 リハビリテーション、国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方、産業保健、歯科保健</p> <p>第15回：水野尚美 他職種チーム医療 まとめ</p>

アクティブラーニング	主体的な学びを実践するため、個別作業後にグループワークなどディスカッションを行います。					
授業内の ICT 活用	ICT 機器を利用して授業の発表や意見交換を行う双方向型授業を実施することがあります。具体的な方法は授業でお知らせします。 事前・事後学修課題についてはWebclass を活用します。					
評価方法	試験 100%					
課題に対するフィードバック	毎回のリアクションペーパーにより、学びのポイント、気づきにマークし、次回授業時に疑問に答えフィードバックします。					
指定図書	『新・社会福祉士養成講座 人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	必要時、適宜紹介します。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	事前学修：毎回シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読してください。(40分) 事後学修：毎回の授業内容をテキストと照合し、ノートにまとめてください。(40分)					
オープンエデュケーションの活用	解剖学的構造と生理学： <a href="https://www.visiblebody.com/ja/anatomy-and-physiology-">https://www.visiblebody.com/ja/anatomy-and-physiology-</a>					
オフィスアワー	水野尚美 (社会福祉学部) 2707 研究室 naomi-mi@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示します。直接研究室に来ていただいても良いですが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただくと、確実に時間をとって対応できます。メールでの相談は随時受け付けています。					
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	精神保健福祉の原理 I				
科目責任者	佐々木 正和				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。				
科目概要	精神保健ソーシャルワーカー総論の講義では、ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士の役割を理解していく。ソーシャルワーク理論を歴史的に概観していくことで、ソーシャルワークの定義と、構成要素である知識・価値・技術を理解していく。また、実際のソーシャルワーク事例をふまえながら実践でのソーシャルワークの理解を深めていく。				
到達目標	①ソーシャルワーク理論の基礎的な理解を深める ②精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談の概要について理解する ③精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について、事例検討しながら理解していく				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士①精神保健福祉士の役割と意義</p> <p>第2回：ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士②現代社会と精神保健福祉士（ソーシャルワーカーの実践）</p> <p>第3回：ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士③現代社会と精神保健福祉士（チームアプローチ、他職種連携）</p> <p>第4回：ソーシャルワーカーの定義と構成要素①ソーシャルワーカーの定義と構成要素①ソーシャルワーカーの価値・理念と原則</p> <p>第5回：ソーシャルワーカーの定義と構成要素②ソーシャルワーク関係における価値、理念と原則</p> <p>第6回：精神保健福祉領域におけるソーシャルワーカーの歴史①諸外国の歴史</p> <p>第7回：精神保健福祉領域におけるソーシャルワーカーの歴史②日本の歴史</p> <p>第8回：ソーシャルワーク理論と展開過程①実践モデル、ジェネラリスト・ソーシャルワーカーの意義</p> <p>第9回：ソーシャルワーク理論と展開過程②地域を基盤として生活支援としてのソーシャルワーク</p> <p>第10回：ソーシャルワーク理論と展開過程③協働作業としてのソーシャルワークの展開過程〈インターク・契約・アセスメント・支援計画・支援の実施〉ロールプレイ実施</p> <p>第11回：ソーシャルワーク理論と展開過程④精神科当事者の活動 ゲストスピーカー</p> <p>第12回：ソーシャルワーク理論と展開過程⑤ 社会福祉調査・研究</p> <p>第13回：精神保健福祉領域における他職種連携とソーシャルワーク①チームアプローチと他職種連携（IPW）</p> <p>第14回：精神保健福祉領域における他職種連携とソーシャルワーク②精神保健福祉領域における精神保健福祉士の生活支援</p> <p>第15回：精神保健福祉領域における他職種連携とソーシャルワーク③メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割</p>				
アクティブラーニング	反転授業、グループワーク、ロールプレイを用いた講義を行います。課題提出などは、WebClass を活用し双方向の情報提供を行います。				
授業内の ICT 活用	WebClass にてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。				
評価方法	リアクションペーパー30%、定期試験 70%				
課題に対するフィードバック	WebClass によるリアクションペーパーの提出してもらい、リアクションであげられた感想、質問項目を定期的にフィードバックしている。また、プロジェクターを用いて、クイズ等で理解度の確認を双方向の講義を実施している。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
精神保健福祉の原理	福祉臨床シリーズ編集委員会	弘文堂	2900	9784335611278	冊子版

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	<p>事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に教科書の単元を読み込んでおくこと（1～15回）</li> <li>・講義前に前回資料の復習をしておくこと（2～14回）</li> </ul> <p>事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後にWebClass内のリアクションペーパーに回答すること（1～15回）</li> </ul> <p>（事前・事後学修 目安時間40分）</p>					
オープンエデュケーションの活用	自主学習として、提示したオンライン教材の受講を勧めます（講義で提示）					
オフィスアワー	佐々木 正和 (2605 研究室) メール:masakazu-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					



科目名	精神保健福祉の原理Ⅱ				
科目責任者	佐々木 正和				
単位数他	2単位 (30時間) 選択 4セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。				
科目概要	精神保健ソーシャルワーカー総論の講義では、ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士の役割を理解していく。ソーシャルワーク理論を歴史的に概観していくことで、ソーシャルワークの定義と、構成要素である知識・価値・技術を理解していく。また、実際のソーシャルワーク事例をふまえながら実践でのソーシャルワークの理解を深めていく。				
到達目標	①ソーシャルワーク理論の基礎的な理解を深める ②精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談の概要について理解する ③精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について、事例検討しながら理解していく				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：精神障害者の生活特性①  第2回：精神障害者の生活特性①  第3回：精神保健福祉の原理と理念 実践の価値・原理①  第4回：精神保健福祉の原理と理念 実践の価値・原理②  第5回：精神保健福祉の原理と理念 実践の価値・原理③  第6回：精神保健福祉士の役割と機能①  第7回：精神保健福祉士の役割と機能②  第8回：精神保健福祉士の職業倫理①  第9回：精神保健福祉士の職業倫理②  第10回：精神保健福祉士の業務指針①  第11回：精神保健福祉士の業務指針②  第12回：精神保健福祉士の事例①  第13回：精神保健福祉士の事例②  第14回：精神保健福祉士の多職種連携  第15回：まとめ</p>				
アクティブラーニング	反転授業、グループワーク、ロールプレイを用いた講義を行います。課題提出などは、WebClassを活用し双方向の情報提供を行います。				
授業内の ICT 活用	WebClassにてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。				
評価方法	リアクションペーパー30%、定期試験 70%				
課題に対するフィードバック	WebClassによるリアクションペーパーの提出してもらい、リアクションであげられた感想、質問項目を定期的にフィードバックしている。また、プロジェクターを用いて、クイズ等で理解度の確認を双方向の講義を実施している。				
指定図書	下記の教科書は1年次のものです。2年次も使用します。1年次に購入している方は購入する必要はありません。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
精神保健福祉の原理	福祉臨床シリーズ編集委員会	弘文堂	2900	9784335611278	冊子版
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	<p>事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に教科書の単元を読み込んでおくこと（1～15回）</li> <li>・講義前に前回資料の復習をしておくこと（2～14回）</li> </ul> <p>事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後にWebClass内のリアクションペーパーに回答すること（1～15回）</li> </ul> <p>（事前・事後学修 目安時間 40分）</p>
オープンエデュケーションの活用	<p>自主学習として、提示したオンライン教材の受講を勧めます（講義で提示）</p>
オフィスアワー	<p>佐々木 正和 (2605 研究室) メール:masakazu-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。</p>
実務経験に関する記述	<p>本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>
メディア授業の実施について	<p>なし</p>

科目名	精神保健福祉制度論					
科目責任者	小山 隆太					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 78 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP2 専門					
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。					
科目概要	<p>①精神障害者に関する法制度の体系について理解する。</p> <p>②精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。</p> <p>③生活支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。</p> <p>④生活保護制度や生活困窮者自立支援制度等の経済的支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。</p> <p>⑤障害者に関する法制度を適切に活用でき、法制度の限界と課題について考えることができる。</p>					
到達目標	<p>①精神障害者に関する施策・医療に関する制度について理解できた</p> <p>②精神障害者の生活支援に関する制度について理解できた</p>					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>(春セメスター)</p> <p>第1回 精神障害者に関する法律の体系</p> <p>第2回 精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割</p> <p>第3回 精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割</p> <p>第4回 医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割</p> <p>第5回 精神障害者の医療に関する課題</p> <p>第6回 精神障害者の医療に関する課題</p> <p>第7回 相談支援制度と精神保健福祉士の役割</p> <p>第8回 居住支援制度と精神保健福祉士の役割</p> <p>第9回 就労支援制度と精神保健福祉士の役割</p> <p>第10回 精神障害者の生活支援制度に関する課題</p> <p>(秋セメスター)</p> <p>第11回 生活保護制度と精神保健福祉士の役割</p> <p>第12回 生活困窮者自立支援制度と精神保健福祉士の役割</p> <p>第13回 低所得者対策と精神保健福祉士の役割</p> <p>第14回 低所得者対策と精神保健福祉士の役割</p> <p>第15回 精神障害者の経済的支援制度に関する課題</p>					
アクティブラーニング	・本授業は、反転授業、グループワーク、プレゼンテーション、を取り入れて実施します。					
授業内の ICT 活用	<p>・ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。</p> <p>・グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。</p>					
評価方法	100 点満点とし、授業への取り組み 50% (事前・事後学習含)、レポート 50%として評価します。					
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。個別に質問がある場合は、WebClass やオフィスアワーで対応します。					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
最新精神保健福祉士養成講座 4 精神保健福祉制度論	日本ソーシャルワーク 教育学校連盟 編集	中央法規出版	2700	9784805882559	冊子版	

参考図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
地域で暮らそう！精神障害者の地域移行支援・地域定着支援・自立生活援助導入ガイド	岩上 洋一；全国地域で暮らそうネットワーク	金剛出版	2200	9784772416535	冊子版	
事前・事後学修	①授業前に WebClass 内の事前課題に回答すること（各 20 分 2～15 回） ②授業後に WebClass 内の事後課題に回答すること（各 20 分 2～15 回）					
オープンエデュケーションの活用	<p>・自主学习として、以下の URL 「報告書等」から関連する諸制度にかかわる精神保健福祉士の活動等について確認していくことを勧めます。</p> <p>公益社団法人 日本精神保健福祉士協会 「報告書等（jamhsw.or.jp）：  <a href="https://www.jamhsw.or.jp/ugoki/hokokusyo.htm">https://www.jamhsw.or.jp/ugoki/hokokusyo.htm</a>]</p>					
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。					
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について						

科目名	ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅰ
科目責任者	佐々木 正和
単位数他	2単位（30時間） 選択 5セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	①精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要及び過程について ②精神保健福祉分野における家族支援の実際について
到達目標	①精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。 ②精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。 ③精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要 ソーシャルワークの構成要素 原理、理念、視点、知識、技術</p> <p>第2回：精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要 ソーシャルワークの展開過程・ケースの発見・インテーク・アセスメント・プランニング</p> <p>第3回：精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要 ソーシャルワークの展開過程・支援の実施・モニタリング・支援の終結と事後評価・アフターケア・マイクロ・メゾ・マクロレベルにおける展開</p> <p>第4回：精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要 精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点</p> <p>第5回：精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法 アウトリーチ・必要な支援にアクセスできない当事者及び家族へのアプローチ</p> <p>第6回：精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法 インテーク・主訴の把握・スクリーニング・契約”</p> <p>第7回：精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法 アセスメント・情報から情報分析・解釈へ・人と環境の相互作用から捉えた問題の特性・本人に関する理解</p> <p>第8回：精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法 面接技術とその応用</p> <p>第9回：精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法 グループワークの概念、意義、方法</p> <p>第10回：精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法 アウトリーチの事例</p> <p>第11回：精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法 支援の展開 人、環境へのアプローチ</p> <p>第12回：精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開技法 支援の展開 ケアマネジメント</p> <p>第13回：コミュニティワーク コミュニティワークの意義</p> <p>第14回：コミュニティワーク 地域における精神保健福祉の向上</p> <p>第15回：まとめ</p>
アクティブラーニング	反転授業、グループワーク、ロールプレイを用いた講義を行います。課題提出などは、webclass を活用し双方向の情報提供を行います。
授業内の ICT 活用	WebClass によるリアクションペーパーの提出してもらい、リアクションであげられた感想、質問項目を定期的にフィードバックしている。また、プロジェクターを用いて、クイズ等で理解度の確認を双方向の講義を実施している。
評価方法	リアクションペーパー30%、定期試験 70%

課題に対する フィードバック	webClassにてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
最新精神保健福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法 [精神専門]	日本ソーシャルワーク 教育学校連盟 編集	中央法規出版	3000	9784805882573	冊子版
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に教科書の単元を読み込んでおくこと (1～15回)</li> <li>・講義前に前回資料の復習をしておくこと (2～14回)</li> </ul> <p>事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後に WebClass 内のリアクションペーパーに回答すること (1～15回)</li> </ul> <p>(事前・事後学修 目安時間 40分)</p>				
オープンエデュケーションの活用	自主学習として、提示したオンライン教材の受講を勧めます (講義で提示)				
オフィスアワー	佐々木 正和 (2605 研究室) メール:masakazu-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ				
科目責任者	大場 義貴				
単位数他	2単位（30時間） 選択 6セメスター				
DP 番号と科目領域	DP4 専門				
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。				
科目概要	①多職種連携・多機関連携（チームアプローチ）について理解する ②ソーシャルアクションへの展開について理解する ③精神保健福祉分野における家族支援の実際について理解する ④ソーシャルアドミニストレーションの展開方法について理解する ⑤関連分野における精神保健福祉士の実践展開について理解する				
到達目標	①多職種連携・多機関連携（チームアプローチ）について理解できた ②ソーシャルアクションへの展開について理解できた ③精神保健福祉分野における家族支援の実際について理解できた ④ソーシャルアドミニストレーションの展開方法について理解できた ⑤関連分野における精神保健福祉士の実践展開について理解できた				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 多職種連携・多機関連携①（連携の意義と目的・留意点、チームビルディング、チームの形態と特徴）</p> <p>第2回 多職種連携・多機関連携②（訪問型支援における連携）</p> <p>第3回 多職種連携・多機関連携③（連携における精神保健福祉士の役割） ゲストスピーカー 山田</p> <p>第4回 ソーシャルアクションの展開①（基本的視点、個別から地域における体制整備） ゲストスピーカー 平野</p> <p>第5回 ソーシャルアクションの展開②（政策提言・政策展開）</p> <p>第6回 精神障害者家族の課題</p> <p>第7回 家族理解の変遷・方法</p> <p>第8回 家族への支援事例</p> <p>第9回 精神保健福祉分野におけるソーシャルアドミニストレーションの概念と意義</p> <p>第10回 精神保健福祉分野におけるソーシャルアドミニストレーションの展開方法と人材確保・人材育成</p> <p>第11回 関連分野における精神保健福祉士の実践展開①（医療・福祉分野） ゲストスピーカー</p> <p>第12回 関連分野における精神保健福祉士の実践展開②（学校・教育分野）</p> <p>第13回 関連分野における精神保健福祉士の実践展開③（産業分野・司法分野）</p> <p>第14回 関連分野における精神保健福祉士の実践展開④（災害分野）</p> <p>第15回 まとめ：今後の精神保健福祉士の活動領域と求められる役割・課題</p>				
アクティブラーニング	本授業は、反転授業、グループワーク、プレゼンテーション、を取り入れて実施します。				
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。</li> <li>・グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。</li> </ul>				
評価方法	100点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み・発表30%、事前事後学修提出状況20%として評価します。				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体の場でフィードバックを行います。個別に質問がある場合は、WebClass やオフィスアワーで対応します。				
指定図書	最新 精神保健福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法 [精神専門]；中央法規出版				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	①授業前に WebClass 内の事前課題に回答すること (各 20 分 2～15 回) ②授業後に WebClass 内の事後課題に回答すること (各 20 分 2～15 回)					
オープンエデュケーションの活用	自主学習として、以下の URL の講座の受講を勧めます (厚生労働省 HP) 精神保健福祉士の義務について <a href="https://www.mhlw.go.jp/www1/topics/seisin2/7.html">https://www.mhlw.go.jp/www1/topics/seisin2/7.html</a>					
オフィスアワー	大場 義貴 (2608 研究室) メール: yoshitaka-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					



科目名	精神障害リハビリテーション論
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	①精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。 ②精神障害リハビリテーションプログラムの知識を援助場面で活用できる。 ③精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解し、援助場面で活用できる。
到達目標	①精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則について理解できた ②精神障害リハビリテーションの構成及び展開について理解できた ③精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関について理解できた ④精神障害リハビリテーションの動向と実際について理解できた
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第1回 精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク</p> <p>第2回 精神障害リハビリテーションの理念と定義</p> <p>第3回 医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション・精神障害リハビリテーションの基本原則</p> <p>第4回 地域およびリカバリー概念を基盤としたリハビリテーションの意義</p> <p>第5回 児童精神科領域（入院病棟含む）とソーシャルワーク ゲストスピーカー</p> <p>第6回 精神障害リハビリテーションの対象・アプローチ・プロセス</p> <p>第7回 医学的リハビリテーションプログラム</p> <p>第8回 職業的リハビリテーションプログラム</p> <p>第9回 社会的リハビリテーションプログラム・教育的リハビリテーションプログラム</p> <p>第10回 家族支援プログラム</p> <p>第11回 リハビリテーションに用いられるその他の手法・プログラム</p> <p>第12回 精神障害リハビリテーションとコミュニティケア・セルフケア（地域精神保健福祉ボランティア活動を通して） ゲストスピーカー</p> <p>第13回 精神障害当事者や家族を主体としたリハビリテーション（ピアサポート活動・ピアスタッフ等） ゲストスピーカー</p> <p>第14回 依存症のリハビリテーション</p> <p>第15回 精神障害リハビリテーションにおけるベストプラクティス</p>
アクティブラーニング	・本授業は、反転授業、グループワーク、プレゼンテーション、を取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	・ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。 ・グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。

評価方法	100点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み・発表30%、事前事後学修提出状況20%として評価します。				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体の場でフィードバックを行います。個別に質問がある場合は、WebClass やオフィスアワーで対応します。				
指定図書	最新 精神保健福祉士養成講座3 精神障害リハビリテーション論；中央法規出版				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	①授業前に WebClass 内の事前課題に回答すること（各20分 2～15回） ②授業後に WebClass 内の事後課題に回答すること（各20分 2～15回）				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	研究室は2608です。時間については初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について					

科目名	精神疾患とその治療 I					
科目責任者	西村 克彦					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター					
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門					
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。					
科目概要	<p>本科目では、精神障がい者に対する心理社会的サポートを提供する際の精神医学に関する知識として、精神医学の成り立ち、精神疾患の症状やその評価法、代表的な精神疾患の概要などを身につけることを目指す。</p> <p>そのために、以下の内容について学修し、理解する</p> <p>①精神疾患総論 (i) 精神疾患の成因, 症状, 診断法, 治療法 (ii) 経過, 本人や家族への支援 (iii) 統合失調症 (統合失調症スペクトラム障害) (iv) 双極性障害, 抑うつ障害 (v) 不安に関連した障害 (vi) 発達障害 (神経発達症群/神経発達障害群) (vii) 摂食障害, 排泄症, 睡眠-覚醒障害 (viii) 秩序破壊的・衝動制御・素行症 (ix) 物質関連障害および嗜癖性障害 (x) 認知症 (神経認知障害) (xi) パーソナリティ障害 (xii) その他の精神疾患、②向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化 (向精神薬の種類, 作用, 副作用) ③医療機関との連携 (i) 医学的治療と心理学的ケア (ii) 精神科医療における公認心理師の役割 (iii) 医療機関への紹介</p>					
到達目標	<p>1. 精神医学の成り立ち、精神疾患の概念と診断について理解できる。</p> <p>2. 一般的な精神疾患について基礎知識を身に付け、説明することができる。</p> <p>3. 医療機関との連携について理解できる。</p>					
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt; (担当者)</p> <p>第1回：精神医学・医療の歴史・医療機関との連携 (西村)</p> <p>第2回：精神現象の生物学的基礎 (大城)</p> <p>第3回：精神障害の概念 (村山)</p> <p>第4回：精神疾患の成因と分類 (佐久間)</p> <p>第5回：診断、検査 (日比)</p> <p>第6回：器質性精神障害、認知症 (磯貝)</p> <p>第7回：精神作用物質使用による精神および行動の障害 (大城)</p> <p>第8回：統合失調症 (村山)</p> <p>第9回：気分障害 (佐久間)</p> <p>第10回：神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 (片山)</p> <p>第11回：生理学的障害および身体的要因に関連した行動症候群 (山口)</p> <p>第12回：パーソナリティ障害と行動の障害 (片山)</p> <p>第13回：精神遅滞 (知的障害) (西村)</p> <p>第14回：心理的発達の障害 (山口)</p> <p>第15回：小児期および青年期に通常発症する行動及び情緒の障害 (日比)</p>					
アクティブラーニング	なし					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	筆記試験 100%					
課題に対するフィードバック	筆記試験の解答例の提示					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
最新精神保健福祉士養成講座 1 精神医学と精神医療	日本ソーシャルワーク 教育学校連盟 編集	中央法規出版	3000	9784805882528	冊子版	

参考図書	『ICD-10 精神および行動の障害—臨床記述と診療ガイドライン—』 医学書院 『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き』 医学書院				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	授業に先立ち指定図書の該当部分を通読すること。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は「精神科医療」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	精神疾患とその治療Ⅱ
科目責任者	西村 克彦
単位数他	2単位（30時間） 選択 5セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	本科目では、精神科ではどのような治療が、どのような環境・法制度のもとで行われているのかについて基本的な知識を学ぶ。
到達目標	1. 精神疾患に対する治療法を知り、どのような精神疾患に対して用いられるかを理解する。 2. 精神科の治療構造を知り、それぞれどのような疾患、病状に適応されるかを理解する。 3. 精神疾患に対する治療の一般的な流れについて理解する。 4. 精神医学に関連した法制度について理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等（担当教員名）> 第1回：精神疾患治療総論 第2回：精神科薬物療法 第3回：精神療法 第4回：脳刺激法などの身体療法 第5回：精神科リハビリテーション 第6回：外来治療、在宅医療 第7回：入院治療 第8回：医療観察法における入院・通院治療 第9回：精神科医療機関における精神保健福祉士の役割 第10回：精神保健福祉士と協働する職種 第11回：治療導入に向けた支援 第12回：再発予防や地域生活に向けた支援 第13回：精神疾患患者の動向 第14回：医療制度改革と精神医療 第15回：医療機関の医療機能の明確化
アクティブラーニング	なし
授業内のICT活用	なし
評価方法	筆記試験 100%
課題に対するフィードバック	筆記試験の解答例の提示
指定図書	『最新 精神保健福祉士養成講座 精神医学と精神医療』中央法規出版

参考図書	『ICD-10 精神および行動の障害—臨床記述と診療ガイドライン—』医学書院 『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き』医学書院
事前・事後学修	授業に先立って指定図書の該当部分を通読すること。(目安時間 40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「精神科医療」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	精神保健 I					
科目責任者	堀 雅博					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP2 専門					
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。					
科目概要	①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。 ②精神保健の基本的考え方を理解する。					
到達目標	①現代の精神保健分野の動向と基本的考え方について理解できた ②家族に関連する精神保健の課題と支援について理解できた ③精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチについて理解できた ④精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチについて理解できた					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 精神保健の動向  第2回 精神保健活動の三つの対象  第3回 精神の健康に関する心的態度・生活と嗜癖  第4回 家族関係における暴力と精神保健  第5回 出産・育児をめぐる精神保健  第6回 介護をめぐる精神保健  第7回 社会的ひきこもりをめぐる精神保健  第8回 家族関係の課題  第9回 グリーフケア  第10回 精神保健支援を担う機関  第11回 学校教育における精神保健的課題・教員の精神保健  第12回 関与する専門職と関係法規  第13回 スクールソーシャルワーカーの役割・学校精神保健にかかわる社会資源  第14回 現代日本の労働環境・産業精神保健とその対策  第15回 職場のメンタルヘルスのための相談・職場内の問題を解決するための機関及び関係法規</p>					
アクティブラーニング	本授業は、ディスカッションを取り入れて実施します。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	定期試験(65%)とレポート(35%)の評価を総合的に判断し、可否を決定します。 レポートのテーマと作成の要点については授業中に随時指示します。 なお、レポートのテーマの特性上、ルーブリックを用いた評価は行いません。					
課題に対するフィードバック	個々のリアクションペーパーを総括し、次回の授業の冒頭に総合的なコメントを行います。					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
最新精神保健福祉士養成講座 2 現代の精神保健の課題と支援	日本ソーシャルワーク 教育学校連盟 編集	中央法規出版	3000	9784805882535	冊子版	
参考図書	授業中に随時指示します。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	授業は指定図書に沿って行いますので、事前に該当ページに目を通してきてください。 各回の授業内容をまとめたプリントを配布しますので、事後学修に利用してください。 1コマあたりの事前・事後学修時間の目安は、合計約40分とします。					

オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「精神科医師」の実務経験を有する講師が、実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし



科目名	精神保健Ⅱ					
科目責任者	根本 英行					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP2 専門					
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。					
科目概要	①現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、社会福祉及び心理専門職の役割について理解する。 ②精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。					
到達目標	①精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチについて理解できた ②精神保健に関する発生予防と対策について理解できた ③地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について理解できた ④精神保健に関する専門職種（保健師等）と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携について理解できた ⑤諸外国の精神保健活動の現状及び対策について理解できた					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第1回 精神保健と私（根本） / 授業の進め方  第2回 災害被害と精神保健（大規模災害1）  第3回 災害被害と精神保健（大規模災害2）  第4回 事件事故と精神保健（学校事故事例から考える）  第5回 事件事故と精神保健（犯罪被害事例から考える）  第6回 自殺予防と精神保健（自殺の背景を考える）  第7回 自殺予防と精神保健（自殺の予防について考える）  第8回 社会的ひきこもりと精神保健（ひきこもりと社会）  第9回 社会的ひきこもりと精神保健（ひきこもり者やその家族への支援）  第10回 依存と精神保健（依存概論）  第11回 依存と精神保健（様々な依存）  第12回 依存と精神保健（依存者やその家族に対する支援）  第13回 偏見／差別と精神保健  第14回 オープンダイアログ 自助グループと精神保健  第15回 地域精神保健福祉活動（社会資源をつなぐ 社会資源を創生する）</p>					
アクティブラーニング	授業は、前回授業受講生の疑問意見をリアクションペーパーにて集約して、それに対する授業担当者の意見感想をフィードバックしながら進めます。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	授業態度 30%、リアクションペーパー30%、レポート 40% 計 100%					
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへのコメントとして授業でお伝えします。					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
最新精神保健福祉士養成講座 2 現代の精神保健の課題と支援	日本ソーシャルワーク 教育学校連盟 編集	中央法規出版	3000	9784805882535	冊子版	
参考図書	授業中に随時連絡					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	授業は指定図書に沿って行いますので、事前学修として事前に目を通してきてください。					

オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は精神保健福祉の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	スクール（学校）ソーシャルワーク論
科目責任者	泉谷 朋子
単位数他	2単位（30時間） 選択 5セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性を理解する</li> <li>2. スクールソーシャルワークの発展過程について理解する</li> <li>3. 海外のスクールソーシャルワーカーの役割と活動について理解する</li> <li>4. スクールソーシャルワークの実践モデルについて理解する</li> <li>5. スクールソーシャルワーカーへのスーパービジョンの必要性について理解する</li> </ol>
到達目標	<p>スクールソーシャルワークの理論と実践を学ぶことにより、子ども（児童生徒）達が健やかに育つ環境をつくるために、現代の日本の社会においてスクールソーシャルワークは何をすべきかを考える。</p> <p>今日の児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の現状を把握したうえで、スクールソーシャルワークの国内外における発展過程、実践モデル等について学ぶ。事例も取り入れ、実践的な理解も深める。</p>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;担当教員：泉谷朋子・平川悦子</p> <p>第1回：オリエンテーション、なぜスクールソーシャルワークを学ぶのか（泉谷）</p> <p>第2回：子どもを取り巻く環境とスクールソーシャルワークの価値・倫理（泉谷）</p> <p>第3回：海外のスクールソーシャルワークの発展過程及び役割と活動（泉谷）</p> <p>第4回：日本におけるスクールソーシャルワークの発展過程（泉谷）</p> <p>第5回：多様な配置形態と学校種別（泉谷）</p> <p>第6回：子ども（児童生徒）をめぐる学校・家庭・地域の問題①（平川） 学校における問題（不登校、非行、いじめ等）</p> <p>第7回：子ども（児童生徒）をめぐる学校・家庭・地域の問題②（平川） 発達障がいと特別支援教育</p> <p>第8回：子ども（児童生徒）をめぐる学校・家庭・地域の問題③（平川） 家庭の抱える課題（児童虐待、子どもの貧困等）</p> <p>第9回：子ども（児童生徒）をめぐる学校・家庭・地域の問題④（平川） 外国にルーツのある子どもの現状</p> <p>第10回：教育行政の中の福祉職（泉谷）</p> <p>第11回：スクールソーシャルワークの実践モデル（泉谷）</p> <p>第12回：スクールソーシャルワークの支援方法（メゾ・レベル）（泉谷）</p> <p>第13回：スクールソーシャルワークの支援方法（マクロ・レベル）（泉谷）</p> <p>第14回：スクールソーシャルワーカーへのスーパービジョン（泉谷）</p> <p>第15回：これからのスクールソーシャルワーク（泉谷）</p>
アクティブラーニング	<p>反転授業、ディスカッション、グループワーク等を用いて授業を行う</p> <p>ディスカッション、グループワークに際し、学校、地域、子ども家庭に関する話題や報道に関心を持ち、新聞記事等に目を通しておくこと</p> <p>講義中、発言を求めることがある</p>
授業内の ICT 活用	<p>出欠管理、授業資料配布、小テスト、レポート・リアクションペーパー（事前事後課題を含む）等の提出は基本的にWebClassで行うが各回授業の担当教員の指示に従うこと</p> <p>授業中、インターネットで検索する、グループ課題の取り組み等にPCを用いるため、PCは必携</p>
評価方法	<p>リアクションペーパー（事前事後課題を含む）30%</p> <p>小テスト30%</p> <p>レポート40%</p> <p>グループワークの取り組み、レポート評価にルーブリックを用いる</p>

課題に対するフィードバック	リアクションペーパーについては、次回授業時にコメント・回答等フィードバックを行う				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
よくわかるスクールソーシャルワーク [第2版]	山野 則子	ミネルヴァ書房	2800	9784623078349	冊子版
参考図書	授業時に随時提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学習	<p>【事前学習】毎回事前課題を出すので、それに取り組んだうえで授業に臨むこと（目安時間約40分）</p> <p>【事後学習】配布資料を熟読し、毎回学びをまとめ、WebClassに提出する（目安時間約40分）</p> <p>小テスト・レポート課題については初回授業時に説明する</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	<p>科目責任者の研究室（2708）</p> <p>日時については初回授業時に提示する</p>				
実務経験に関する記述	<p>本科目は「スクールソーシャルワーカー」「児童家庭福祉」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	介護福祉論				
科目責任者	野田 由佳里				
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 2 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。				
科目概要	<p>個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>高齢者の精神的・身体的特徴や障害について理解し、高齢期に社会とかわりの変化を知り、高齢者の生活実態を理解する。生活を多面的な視点からとらえ、高齢者や障害をもつ人の人生を支援するしくみや方法を学び介護福祉に関する理解を深める。また高齢者福祉施策と障害者福祉施策を比較し俯瞰する。</p>				
到達目標	<p>①高齢者の生活実態をふまえ、高齢者の福祉需要や介護需要について説明できる。</p> <p>②認知症ケアや終末期ケアについて基本的な考え方を習得し、人間観と倫理について学ぶ。</p> <p>③高齢者の心身の状態に応じた住環境について理解し、他者に伝えることができる。</p> <p>④地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のための制度・施策を理解することができる。</p> <p>⑤高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容を理解し、高齢者福祉の現状と課題を捉えることができる。</p> <p>⑥障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援法の内容を理解し、障害者福祉の現状と課題を捉えることができる。</p>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：高齢者の暮らし(高齢社会白書) 高齢者の疾患等</p> <p>第2回：高齢者の生活実態①</p> <p>第3回：高齢者の生活実態②</p> <p>第4回：高齢者の生活支援と具体的な方法</p> <p>第5回：高齢者の疾患とその対応</p> <p>第6回：介護各論① 自立に向けた介護</p> <p>第7回：介護各論② 尊厳の保持と介護実践</p> <p>第8回：介護各論③ 認知症ケア</p>				
アクティブラーニング	本授業はディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等を取り入れて実施します。				
授業内の ICT 活用	<p>ICT 活用を授業で多く使います。特に WebClass を多用しています。</p> <p>①出席管理</p> <p>②小テスト管理</p> <p>③事前課題管理</p> <p>④事後課題管理</p> <p>⑤授業の理解度</p> <p>授業内での理解度確認を行い、双方向型授業を目指します。</p>				
評価方法	小テスト (30%)、授業態度等 (20%)、最終テスト (50%)				
課題に対するフィードバック	事後課題の解説は授業内で行います。またリアクションペーパーに関しては、授業内や Moodle などを活用し、丁寧なフィードバックを心掛けます。				
指定図書	指定図書はない。随時指定。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

事前・事後学修	① 授業前にWebClass 事前課題に回答すること（書く40分 2～14回） ② 授業後にWebClass 事前課題に回答すること（書く40分 2～14回） ③ レポート課題を作成すること（2回程度 80分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	野田由佳里（2706 研究室） メール：yukari-n@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉士」「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	人間の尊厳と自立				
科目責任者	篠崎 良勝				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP1 専門				
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。				
科目概要	人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う。 介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う。 介護実践において人間の尊厳と自立がどのように生かされているかを理解することができるように、人権思想や福祉理念の歴史の変遷の授業展開ではできるだけ事例等を活用し講義を行う。				
到達目標	1. 人間の尊厳と人権の考え方を知り、理解することができる。 2. 人権思想や福祉理念の歴史の変遷が理解できる。 3. 人間の尊厳や自立の概念が理解できる 4. 生活支援における人間の尊厳・自立を理解できる。 5. 介護福祉の倫理的課題への対応力の基礎を養う。				
授業計画	<授業内容・テーマ等>  第 1 回：篠崎 オリエンテーション 第 2 回：高山 生命倫理 第 3 回：高山 医療倫理 第 4 回：高山 安楽死・尊厳死・延命治療 第 5 回：高山 終末期を迎える人とその家族 第 6 回：高山 アドバンス・ケア・プランニング 第 7 回：井川 障害福祉① 第 8 回：井川 障害福祉② 第 9 回：井川 障害福祉③ 第 10 回：井川 障害福祉④ 第 11 回：井川 障害福祉⑤ 第 12 回：篠崎 人間の尊厳と人権・福祉理念 災害福祉を考える① 第 13 回：篠崎 人間の尊厳と人権・福祉理念 災害福祉を考える② 第 14 回：篠崎 人間の尊厳と人権・福祉理念 ハラスメントを考える 第 15 回：篠崎 人間の尊厳と人権・福祉理念 介護福祉の意味を考える				
アクティブラーニング	本授業はディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等を取り入れて実施します。				
授業内の ICT 活用	ICT 機器を利用して調べたりする授業を実施します。 グループ発表のプレゼンテーションでプロジェクターの利用を予定しています。				
評価方法	各教員が授業態度、小テスト（実施の可否は各教員による）、最終テスト（実施の可否は各教員による）によって評価する。 高山先生担当分 30 点 井川先生担当分 30 点 篠崎先生担当分 40 点				
課題に対するフィードバック	小テストを実施した場合は、実施授業時に答え合わせをします。				
指定図書	授業内で適宜資料を提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考

参考図書	授業内で適宜資料を提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスに示した関連領域を書籍やネットで調べておく。(40分)</li> </ul> <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)</li> </ul>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	<p>高山暢子(専門学校職員室) メール:yoko-ta@seirei.ac.jp 時間については、別途連絡します。</p> <p>井川淳史(2603研究室) メール:atsushi-ik@seirei.ac.jp 時間については、別途連絡します。</p> <p>篠崎良勝(2706研究室) メール:yoshikatsu-s@seirei.ac.jp 時間については、別途連絡します。</p>				
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉士」「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	介護福祉管理論
科目責任者	落合 克能
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	本科目は、介護福祉士として福祉サービス提供組織の運営管理を行う上で、介護の質を高めるために必要となるチームマネジメントの基礎的知識について、実際に高齢者福祉施設における福祉サービスの第三者評価を実施することなどを通して、リアリティーをもって理解する科目である。介護福祉施設における福祉サービス第三者評価の実施プロセスを通して介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップなど、チーム運営の基本を理解し、チームで働くための能力の修得を図ることを目的としている。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉サービスの制度および福祉サービス提供組織のサービスマネジメントに関する基礎的知識を修得する。</li> <li>適切なサービスマネジメントを行う上で必要となる介護サービス提供チームのマネジメントに必要な知識・技術やシステムについて理解できる。</li> <li>介護福祉サービス事業を行う組織における運営管理の実態について把握するとともに介護福祉サービスの管理運営について実体験をもとに説明できるようになる。</li> </ul>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション、介護保険サービスに関する制度の理解</p> <p>第2回：サービスマネジメントに関する理解と介護サービスの質を高めるために必要なチームマネジメントの概要</p> <p>第3回：チームが機能不全に陥る要因と解決の方向性</p> <p>第4回：福祉サービスを客観的に評価するための制度等について（行政による指導監査、介護情報の公表制度、財務諸表の公表、外部評価制度、第三者評価制度等）</p> <p>第5回：福祉サービス第三者評価基準（全体像・評価実施過程）について</p> <p>第6回：福祉施設における第三者評価に関するインタビュー調査等を行う</p> <p>第7回：適切なチームマネジメントに必要な記録、会議のあり方、ICTの活用</p> <p>第8回：まとめ ーチームで働くために必要となる能力とは</p>
アクティブラーニング	産学協同による授業であり、授業として特別養護老人ホームに出向きサービスの第三者評価を実施する。評価結果を施設にフィードバックし共に改善点を探る。
授業内のICT活用	授業内でパワーポイントとプロジェクターを使用します。
評価方法	授業への取り組み状況（中間課題含む）40%、調査・報告の内容 30%、定期試験（レポート）30%
課題に対するフィードバック	中間課題やリアクションペーパーに関しては、次回の授業の冒頭でフィードバックします。

指定図書	『社会福祉学習双書 2023 ②福祉サービスの組織と経営』社会福祉法人全国社会福祉協議会 2023年1月
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『福ナビへGO！－第三者評価を活用しよう』環境新聞社 2014</li> <li>・「静岡県福祉サービス第三者評価基準」(静岡県)</li> <li>・中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 第2版</li> <li>・授業中に随時配布</li> </ul>
事前・事後学修	<p><b>【事前・事後学修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前に示した課題(テキスト等の事前読み込みなど)を行っていただきます。</li> <li>・授業後はWEBCLASSに教員が指定した内容のリアクション等を入力して頂きます。(目安時間40分)</li> </ul>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間には、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は、特別養護老人ホームにおける様々な職種(生活相談員、介護職員、介護支援専門員、施設長補佐、事務長)の実務経験、また、第三者評価の受審経験、調査員としての調査経験等の実務経験を有する講師(社会福祉士)が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護の基本 I					
科目責任者	井川 淳史					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 介護コース必修 1 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP2 専門					
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。					
科目概要	介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。 尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。 介護を必要とする人の理解を深め、生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解する。					
到達目標	1. 尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念について説明ができる。 2. 介護福祉の基本となる理念を基本にすえた生活支援について考えることができる。 3. 介護を必要とする人について、人間の多様性・複雑性をふまえて考えることができる。 4. 介護を必要とする障がいのある方や高齢者の暮らしの実際を理解する。 5. 介護を必要とする人の生活環境を理解する。					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：介護とは・介護福祉の基本となる理念とは</p> <p>第2回：介護の概念・定義、介護福祉の理念とは</p> <p>第3回：「介護」の見方・考え方の変化</p> <p>第4回：介護問題の背景を理解する</p> <p>第5回：介護の専門性（介護福祉の基本理念）を理解する</p> <p>第6回：介護を必要とする人に合わせた生活支援（介護福祉の基本理念と利用者の個別性）</p> <p>第7回：介護を必要とする人の理解</p> <p>第8回：他者への共感的かかわり（他者理解・自己理解）</p> <p>第9回：私たちの生活の理解（介護を必要とする人の生活の理解）</p> <p>第10回：高齢者や障害のある人たちの暮らしと介護</p> <p>第11回：「そのひとらしさ」と「生活ニーズの理解」</p> <p>第12回：介護を必要とする人の生活環境の理解</p> <p>第13回：事例で考える介護福祉の基本となる理念（人間の尊厳保持や自立支援）実践</p> <p>第14回：事例で考える個別支援（介護を必要とする人の理解と支援）</p> <p>第15回：自らの「介護観」をはぐぐむことの重要性、まとめ</p>					
アクティブラーニング	本授業は、反転授業、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する。					
授業内の ICT 活用	iPad、learning CANVAS（電子黒板）を利用した双方向型授業を実施する。					
評価方法	筆記試験 50%、小テスト（3 回実施）30%、授業参加度、課題提出（リアクションペーパー）20%、計 100%					
課題に対するフィードバック	WebClass に提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。					
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座 第3巻 介護の基本 I 第2版』中央法規出版					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	授業内で随時提示					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	事前学修：授業前に WebClass の事前課題に回答すること（40 分 2～15 回） 事後学習：授業後に WebClass のアンケートに回答すること（40 分 2～15 回）					
オープンエデュケーションの活用	なし					

オフィスアワー	井川 淳史 (2603 研究室) メール: atsushi-ik@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護の基本Ⅱ					
科目責任者	井川 淳史					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 介護コース必修 2 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP2 専門					
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。					
科目概要	<p>地域を基盤とした生活の継続性を支援するために、尊厳を支える介護や自立に向けた介護を理解するための学習とする。</p> <p>対人支援を必要とする人々を深く理解するとともに、その生活課題を分析し、解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。</p> <p>尊厳を支える介護について理解を深め、さらに自立に向けた介護について、ICF の概念やリハビリテーションとも関連づけて解説するとともに、自立支援介護の実践例も紹介しながら講義を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 人権尊重について理解を深め、QOL やノーマライゼーションの用語を用いて、尊厳を支える介護について説明できる。</p> <p>2. 対人援助の意義、機能および役割について理解を深め、ICF やリハビリテーションの用語を用いて、自立に向けた介護について説明できる。</p>					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：介護が必要な人々の人権擁護について理解し、利用者主体の実践について考える。</p> <p>第2回：身体拘束をなくすための具体的な支援方法を理解する。</p> <p>第3回：感情労働としての介護を理解する。</p> <p>第4回：尊厳を支える介護 QOL (Quality of Life) について理解する。</p> <p>第5回：ノーマライゼーションの考え方とその実現について理解する。</p> <p>第6回：自立・自律の考え方を理解し、自己決定・自己選択、自立支援について考える。</p> <p>第7回：生活意欲への働きかけとエンパワメント、利用者主体について理解する。</p> <p>第8回：介護における ICF のとらえ方について理解する。</p> <p>第9回：ICF を活かしたアセスメントの視点を理解し、個別ケアについて考える。</p> <p>第10回：自立に向けた介護 介護実践におけるリハビリテーションの考え方を理解する。</p> <p>第11回：リハビリテーションの考え方を活かした介護予防、自立支援について理解する。</p> <p>第12回：リハビリテーション専門職との連携について理解する。</p> <p>第13回：自立支援の実践例から、その方法を理解する。</p> <p>第14回：事例をもとに、病院・施設でのリハビリテーションについて理解する。</p> <p>第15回：事例をもとに、在宅でのリハビリテーションについて理解する。まとめ</p>					
アクティブラーニング	本授業は、グループワークを取り入れて実施します。					
授業内の ICT 活用	授業内でパワーポイントとプロジェクターを使用します。					
評価方法	筆記試験 50%、小テスト (3 回実施) 30%、授業参加度、課題提出 (リアクションペーパー) 20%、計 100%					
課題に対するフィードバック	提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。					
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ 第2版』中央法規出版					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	授業内で随時提示					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	<p>事前学修：授業前に WebClass の事前課題に回答すること (40 分 2～15 回)</p> <p>事後学習：授業後に WebClass のアンケートに回答すること (40 分 2～15 回)</p>					

オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	井川 淳史 (2603 研究室) メール: atsushi-ik@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護の基本Ⅲ					
科目責任者	篠崎 良勝					
単位数他	2単位 (30時間) 選択 3セメスター					
DP 番号と科目領域	DP2 専門					
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。					
科目概要	介護福祉士に求められる倫理、役割と機能を理解し、その倫理観や自立した生活を支える介護に必要な能力を身につけることを目的とする。 介護福祉士の役割と機能について解説するとともに、介護サービスの内容と提供方法および利用方法について講義を行う。尊厳の保持や自立に向けた介護のあり方についても学びを深める。					
到達目標	1. 介護福祉士に求められる倫理について説明できる。 2. 生活支援における介護福祉士の役割と機能について説明できる。 3. 様々なニーズを抱える利用者に対して提供する生活支援について説明できる。					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：ガイダンス、介護福祉士に求められる倫理、日本介護福祉士会倫理綱領（介護従事者の職業倫理・プライバシー保護 個人情報保護）</p> <p>第2回：介護問題の背景・求められる介護福祉士像・利用者の人権と保護</p> <p>第3回：社会福祉士及び介護福祉士法・介護福祉士の定義（名称独占・業務独占）</p> <p>第4回：社会福祉士及び介護福祉士法・介護福祉士の役割と機能、小テスト①</p> <p>第5回：養成制度・登録状況・介護における専門職集団としての役割と機能</p> <p>第6回：介護職が行う生活支援（身体拘束禁止・高齢者虐待・児童虐待 他）</p> <p>第7回：身体介護・相談援助・家族支援の意義と介護福祉士の専門性・独自性、小テスト②</p> <p>第8回：生きがいを大切にする生活支援・日常生活の拡大に向けた生活支援の進め方</p> <p>第9回：尊厳ある介護実践の意義と利用者のQOL</p> <p>第10回：ICFの視点に基づくアセスメントによる生活支援の特徴（生活意欲・エンパワメント）</p> <p>第11回：ケアプラン・ケアマネジメントの流れ・意味と仕組み</p> <p>第12回：介護保険制度の理解（介護保険のサービスの種類・サービス報酬・算定基準）</p> <p>第13回：介護サービスの概要 居宅系サービス・施設系サービスの提供の場と特性</p> <p>第14回：介護実践におけるリハビリテーション・居住環境の違い（病院・施設・介護予防）</p> <p>第15回：まとめ、小テスト③</p>					
アクティブラーニング	ディスカッション、グループワークを取り入れて実施します。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	小テスト60%、授業態度20%、課題提出物20%、計100%					
課題に対するフィードバック	・小テストの解説は授業内で行います。 ・提出されたリアクションペーパーはコメントを入れ、次回以降の授業での共有と個人への返却を行います。					
指定図書	授業内で適宜資料を提示する					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	授業内で適宜資料を提示する					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	事前学修：授業で配布した資料の該当箇所を熟読しておく（2～14回） 事後学修：事後課題に回答し、授業内容について振り返り整理しておく（1～15回） 目安時間 40分／回					

オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	篠崎 良勝 (2611 研究室) メール: yoshikatsu-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし



科目名	介護の基本Ⅳ				
科目責任者	佐野 仁美				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。				
科目概要	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。 協働する多職種の機能と役割、介護従事者の健康管理・安全について学ぶ。				
到達目標	1. 介護福祉実践における多職種および地域との連携について説明できる。 2. 介護従事者の心身の健康管理について、健康や生活を守るための法制度について説明できる。				
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ガイダンス、介護実践における連携、多職種連携（チームアプローチ）の意義と目的 第2回：協働職種の理解と連携のあり方、利用者を取り巻く多職種連携の実際 第3回：地域連携の意義と目的、地域連携にかかわる機関の理解 第4回：利用者を取り巻く地域連携の実際、小テスト① 第5回：介護福祉士の専門性を考える① 第6回：介護福祉士の専門性を考える② 第7回：福祉・介護福祉という仕事の特徴 第8回：介護労働の特性と健康問題 第9回：ストレスのしくみ、ストレスと行動 第10回：こころの健康管理① 第11回：こころの健康管理② 第12回：からだの健康管理 第13回：支援場面に応じた健康管理・安全 第14回：働く人の健康や生活を守る法制度 第15回：まとめ、小テスト②				
アクティブラーニング	ディスカッション、グループワークを取り入れて実施します。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	小テスト 60%、授業態度 20%、課題提出物 20%、計 100%				
課題に対するフィードバック	・小テストの解説は授業内で行います。 ・提出されたりアクションペーパーはコメントを入れ、次回以降の授業での共有と個人への返却を行います。				
指定図書	「最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ 第2版」 中央法規出版				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883938	冊子版
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく（2～14回） 事後学修：授業内容について振り返り整理しておく（1～15回） 目安時間 40 分／回				
オープンエデュケーションの活用	なし				

オフィスアワー	専門学校棟教員室（6104）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」「社会福祉士」「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護の基本V					
科目責任者	西藤 宏之					
単位数他	2単位 (30時間) 選択 5セメスター					
DP 番号と科目領域	DP2 専門					
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。					
科目概要	対人援助・社会支援の問題を解決するための方法を説明できることが目的である。また、「尊厳の保持」「自立支援」の観点から自立を促すことの危険を予防するために何をすべきか、介護における安全の確保とリスクマネジメントについて援助者側と利用者側双方の立場から考え事例検討を主体に学ぶ科目である。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護職と利用者の安全を確保するための留意点が説明できる。</li> <li>2. 介護におけるリスクマネジメントの必要性とその方法について説明できる。</li> <li>3. 施設及び在宅介護に伴う事故についてその予防方法と対処法が説明できる。</li> <li>4. 事故防止・安全対策・感染対策について説明できる。</li> </ol>					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：ガイダンス、自立に向けた介護① 介護における安全の確保とリスクマネジメント</p> <p>第2回：自立に向けた介護② 観察の視点・正確な生活支援技術</p> <p>第3回：インシデント、事故のしくみ</p> <p>第4回：介護従事者の安全① 介護事故とヒヤリハット（予測・分析）</p> <p>第5回：介護従事者の安全② 事故防止と安全対策</p> <p>第6回：介護従事者の安全③ 環境改善とリスクマネジメント（セーフティマネジメント）、小テスト①</p> <p>第7回：自立に向けた介護③ 服薬・生活医行為・受診援助</p> <p>第8回：自立に向けた介護④ 医療職との連携（転倒・転落防止・骨折予防）</p> <p>第9回：介護従事者の安全④ 防火・防災対策・地域とのネットワーク</p> <p>第10回：介護従事者の安全⑤ 感染対策と感染予防の意義</p> <p>第11回：自立に向けた介護⑤ 感染予防の基礎知識と技術</p> <p>第12回：自立に向けた介護⑥ 衛生管理・利用者の生活の安全（消費者被害）</p> <p>第13回：介護従事者の安全⑥ 感染管理</p> <p>第14回：介護従事者の安全⑦ リスクマネジメント</p> <p>第15回：まとめ、小テスト②</p>					
アクティブラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する。					
授業内の ICT 活用	出席管理・授業の理解度・課題提出はWebClass を用いて、双方向型授業を目指す。					
評価方法	小テスト60%、授業態度10%、課題提出物30%、計100%					
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提出物は、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業で提示する。</li> <li>・WebClass に提出されたリアクションペーパーは、次の授業時冒頭でフィードバックを行う。</li> </ul>					
指定図書	『最新 介護福祉士養成講座4 介護の基本II』 中央法規出版					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	授業中に随時連絡					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	<p>事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。</p> <p>事後学修：授業内容を振り返りポイントの整理と疑問点を調べる。 (目安時間各40分)</p>					

オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	西藤 宏之 専門学校棟教員室 (6104) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定する。時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護の基本VI					
科目責任者	佐野 仁美					
単位数他	2単位 (30時間) 選択 7セメスター					
DP 番号と科目領域	DP2 専門					
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。					
科目概要	対人援助・社会支援を必要とする高齢者や障害者が尊厳ある生活を獲得するために、介護福祉士が備えるべき職業倫理を多角的に理解する学習とする。 介護実践においての人権擁護、身体拘束の廃止や個人情報保護など、専門職として必要な知識を整理する。					
到達目標	1. 介護福祉専門職にかかわる職業倫理の説明ができる。 2. 利用者の人権擁護・身体拘束の廃止・個人情報保護について説明できる。 3. 介護福祉専門職として必要な接遇とマナーが説明できる。					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：専門職者に求められること</p> <p>第2回：倫理とは、介護福祉専門職の倫理とは</p> <p>第3回：介護福祉専門職の職業倫理、日本介護福祉士会倫理綱領</p> <p>第4回：介護科目で倫理を学ぶ理由、倫理観（個人ワーク①）</p> <p>第5回：介護科目で倫理を学ぶ理由、倫理観（個人ワーク②）</p> <p>第6回：介護科目で倫理を学ぶ理由、倫理観（グループワーク①）</p> <p>第7回：介護科目で倫理を学ぶ理由、倫理観（グループワーク②）</p> <p>第8回：介護科目で倫理を学ぶ理由、倫理観まとめ</p> <p>第9回：人権思想のながれと日本の諸規定、小テスト①</p> <p>第10回：虐待防止</p> <p>第11回：身体拘束廃止</p> <p>第12回：プライバシー保護、個人情報保護</p> <p>第13回：介護福祉専門職者の姿勢</p> <p>第14回：介護福祉専門職の接遇とマナー</p> <p>第15回：まとめ、小テスト②</p>					
アクティブラーニング	ディスカッション、グループワークを取り入れて実施します。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	小テスト 60%、授業態度 20%、課題提出物 20%、計 100%					
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストの解説は授業内で行います。</li> <li>・提出された課題等はコメントを入れ、次回以降の授業での共有と個人への返却を行います。</li> </ul>					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
最新 介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I 第 2 版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883921	冊子版	
最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本 II 第 2 版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883938	冊子版	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	<p>事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく（2～14回）</p> <p>事後学修：授業内容について振り返り整理をしておく（1～15回）</p> <p>目安時間 40分/回</p>					

オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	専門学校棟教員室（6104）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護過程 I
科目責任者	野田 由佳里
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<p>本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。他の科目で学習した知識や技術を統合して適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>他学科で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開するための基礎となるもので人間関係の成立過程、課題解決課程の中の人間関係の成立過程に注目した科目である。おもに対象者理解に焦点をあてて学習する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護過程の意義を理解できる</li> <li>2. 人間関係の成立過程の基礎である自己理解、他者理解、ができる。</li> <li>3. 対象者のくらし、時代の背景が理解できる。</li> <li>4. かかわりの意義を理解できる</li> <li>5. プロセスレコードを用いて人間関係を形成できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：ガイダンス：介護過程の意義と基礎的理解・・・介護過程の目的  第2回：利用者理解：「関心」かんしんとは・・・マザーテレサの世界  第3回：利用者理解：かんしんを持つとは・・・GW発表  第4回：利用者理解：くらしとは何か・私の「くらし」あなたの「くらし」こころの花束  第5回：利用者理解：利用者（対象者）の「くらし」生きてきた時代の理解  第6回：利用者理解：「くらし」60代、70代、80代の時代の違いの理解  第7回：利用者理解：「私（高齢者の名前）の青春」・・・発表会  第8回：人間関係形成：かかわり（観察）の重要性  偏見とは・・・思い込み 正常異常 認知症老人の詩  第9回：人間関係形成：自己理解・他者理解  第10回：人間関係形成：介護過程は人間関係から成り立つ プロセスレコード  第11回：人間関係形成：プロセスレコード 講義  第12回：人間関係形成：プロセスレコード 演習  第13回：人間関係形成：介護過程の視点に気づく  第14回：人間関係形成：気づきを介護過程の展開に活かす  第15回：レクリエーション及びまとめ</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします。事前課題には必ずディスカッションテーマを設定してありますので、授業前には内容をご確認ください。</li> <li>・事後課題では国試対策を意識して課題に取り組むことで次回以降に向けてのポイントを明確にします</li> <li>・反転授業、グループワークなども取り入れた授業を展開します。</li> </ul>
授業内の ICT 活用	<p>ICT 活用を積極的に行っています。特に学修支援ツール WebClass を多用しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①出席管理</li> <li>②小テスト管理</li> <li>③事前課題管理</li> <li>④事後課題管理</li> <li>⑤授業の理解度チェック</li> <li>⑥レポート管理</li> <li>⑦学生の連絡、授業や質問へのフィードバック</li> </ol> <p>授業内での理解度確認を行い、双方向型授業を目指します。</p>
評価方法	<p>授業への参加態度 (10%) 振り返りレポート毎回 (45%)  定期レポート 3 回 (45% 1 回あたり 15 パーセント)</p>

課題に対するフィードバック	毎回フィードバックをします。課題が目標到達できない場合は再提出をして頂くなど丁寧なフィードバックを心掛けます				
指定図書	介護福祉士養成講座編集委員会「最新介護福祉士養成講座 9 介護過程」中央法規出版				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	<p>【事前学習】毎回事前課題を提示致しますので25分程度は取り組むようにしてください。また初回授業時に配布する講義予定表を参考に指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨んでください。テキストを読んでから授業に臨みましょう。</p> <p>【事後学修】講義後、振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。(目安時間40分)</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	野田 由佳里 (2706 研究室) メール:yukari-n@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	介護過程Ⅱ
科目責任者	野田 由佳里
単位数他	2単位 (30時間) 選択 2セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。他の科目で学習した知識や技術を統合して、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。 他学科で学習した知識や技術を統合して、介護計画を立案し適切な介護サービスが提供できる能力を養うための基礎的学習を行う。課題解決過程の各構成要素を理解し、実習前のシミュレーションとしてロールプレイを行う。
到達目標	1. 介護過程展開の意義、目的、目標及びサイクルを理解できる。 2. 構成要素のアセスメントの目的、方法が習得できる。 3. 構成要素の計画の立案の目的、方法が習得できる。 4. 構成要素の実施、評価の意義、方法、視点の理解ができる。 5. 事例を通して一連の流れを理解する 6. ロールプレイを取り入れ①情報収集、②情報の分析・解釈、③計画立案、④実施、⑤評価の一連の流れをシミュレーションできる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ガイダンス 介護過程Ⅰの振り返り、介護過程の意義と基礎的理解・目的・目標及びサイクル 第2回：介護過程の課題解決過程のための構成要素 第3回：情報収集の目的、方法、「かかわる」(観察の方法) 第4回：情報の解釈・分析 それぞれの情報をどう統合させるか 情報の解釈・分析 統合された情報からどのような課題が見出せるか 第5回：計画の立案 介護者が見出した課題と対象者の思いはどのように違うか 第6回：計画の立案 長期目標・短期目標の視点、妥当性 具体的な計画の立て方 第7回：実施、評価、展開 第8回：事例：グループワーク ロールプレイ演習、情報収集 第9回：事例：グループワーク 情報のまとめ 第10回：事例：介護過程とチームアプローチ/チームとしての介護過程の展開 第11回：事例：解釈・分析 (個人) 第12回：事例：計画の立案 (個人) 第13回：事例：ロールプレイ演習、実施、(個人)」 第14回：事例：評価 第15回：事例：展開
アクティブラーニング	・事前課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします。事前課題には必ずディスカッションテーマを設定してありますので、授業前には内容をご確認ください。 ・事後課題では国試対策を意識して課題に取り組むことで次回以降に向けてのポイントを明確にします ・反転授業、グループワークなども取り入れた授業を展開します。
授業内の ICT 活用	ICT 活用を積極的に行っています。特に学修支援ツール WebClass を多用しています。 ①出席管理 ②小テスト管理 ③事前課題管理 ④事後課題管理 ⑤授業の理解度チェック ⑥レポート管理 ⑦学生の連絡、授業や質問へのフィードバック 授業内での理解度確認を行い、双方向型授業を目指します。

評価方法	授業への参加態度 (10%) 振り返りレポート毎回 (45%) 定期レポート3回 (45% 1回あたり15パーセント)				
課題に対するフィードバック	毎回フィードバックをします。課題が目標到達できない場合は再提出をして頂くなど丁寧なフィードバックを心掛けます				
指定図書	介護福祉士養成講座編集委員会「最新介護福祉士養成講座 9 介護過程」中央法規出版				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 /備考
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 /備考
事前・事後学修	<p>【事前学習】毎回事前課題を提示致しますので25分程度は取り組むようにしてください。また初回授業時に配布する講義予定表を参考に指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨んでください。テキストを読んでから授業に臨みましょう。</p> <p>【事後学修】講義後、振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。(目安時間40分)</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	野田 由佳里 (2706 研究室) メール:yukari-n@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	発達と老化 I					
科目責任者	篠崎 良勝					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP2 専門					
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。					
科目概要	<p>人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>老化という高齢者のたどる過程を成長ととらえ、発達段階と考えることにより、介護現場で出会う高齢者の心理的・身体的特徴が理解でき、適切な介護実践が可能となる基礎力を培う。</p> <p>発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的な知識を修得するための授業を行う。</p>					
到達目標	人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病についてが理解できる。					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：ガイダンス 人間の成長と発達の基礎的理解①成長・発達とは</p> <p>第2回：人間の成長と発達の基礎的理解②成長・発達の原則・法則</p> <p>第3回：人間の成長と発達の基礎的理解③発達に影響する因子</p> <p>第4回：人間の発達段階と発達課題①身体的機能の成長と発達</p> <p>第5回：人間の発達段階と発達課題②心理的機能の発達</p> <p>第6回：人間の発達段階と発達課題③社会的機能の発達</p> <p>第7回：発達段階別にみた特徴的な疾病や障害①胎生期・乳児期・幼児期</p> <p>第8回：発達段階別にみた特徴的な疾病や障害②学童期・思春期・青年期</p> <p>第9回：発達段階別にみた特徴的な疾病や障害③成人期・老年期</p> <p>第10回：老年期の基礎的理解①老年期の定義</p> <p>第11回：老年期の基礎的理解②老年期の発達課題</p> <p>第12回：老年期の基礎的理解③老年期をめぐる今日的課題</p> <p>第13回：老化にともなうところとからだの変化①老化に伴う心身の変化</p> <p>第14回：老化にともなうところとからだの変化②老化に伴う社会的変化</p> <p>第15回：まとめ</p>					
アクティブラーニング	グループワークディスカッションを適宜取り入れて行います。					
授業内の ICT 活用	WebClass などを利用して授業内での理解度確認や小グループによるディスカッション、事前・事後学修課題やリアクションペーパーの提出を行います。					
評価方法	小テスト 20% 中間テスト 30% 最終テスト 50%					
課題に対するフィードバック	WebClass で提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行います。					
指定図書	授業内で適宜資料を提示する					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	授業内で適宜資料を提示する					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	

事前・事後学修	事前学修：毎回当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。授業内容（4回、7回、10回、13回）の確認小テストの準備をする。（40分） 事後学修：授業の後にはノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むようにする。（40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	篠崎 良勝（2611 研究室） メール：yoshikatsu-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	発達と老化Ⅱ				
科目責任者	水野 尚美				
単位数他	2単位 (30時間) 選択 7セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。				
科目概要	<p>人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>高齢者と健康ということで、高齢者に多い疾患や老化に伴うこころとからだの変化と生活への影響などを理解し、介護過程の展開の根拠となる知識を修得する。</p> <p>①高齢者に多い疾患とその症状の現れ方の特徴を学び、実際に生活する場面と関連づけ理解する。</p> <p>②老化に伴うこころとからだの変化と生活への影響を理解し、生活支援の中でいつもの違いを感じとり、医療職とどのように連携するのかについて学習する。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多くみられる疾病と生活への影響の留意点が説明できる。</li> <li>2. 健康の維持・増進を含めた生活の支援について説明できる。</li> <li>3. 保健医療職との連携のポイントが説明できる。</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：老化にともなうこころとからだの変化（予備力、防衛力、回復力、適応力、恒常性機能、フレイルなど）</p> <p>第2回：高齢者と健康 健康長寿に向けての健康</p> <p>第3回：高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点①脳・神経系</p> <p>第4回：高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点②骨格系・筋系</p> <p>第5回：高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点③皮膚・感覚器系</p> <p>第6回：高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点④循環器系</p> <p>第7回：高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点⑤呼吸器系</p> <p>第8回：高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点⑥消化器系</p> <p>第9回：高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点⑦腎・泌尿器系</p> <p>第10回：高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点⑧内分泌・代謝系</p> <p>第11回：高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点⑨歯・口腔疾患</p> <p>第12回：高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点⑩悪性新生物</p> <p>第13回：高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点⑪精神疾患</p> <p>第14回：高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点⑫感染症・特定疾病</p> <p>第15回：保健医療職との連携 まとめ</p>				
アクティブラーニング	グループディスカッションを適宜取り入れます。				
授業内の ICT 活用	出欠管理、授業資料配布、レポート・リアクションペーパー等の提出は WebClass で行います。				
評価方法	筆記試験(50%)、課題提出物(40%)、授業態度(10%)計100% 課題提出物については、リアクションペーパーや課題の提出状況と内容などの全体から判断します。				
課題に対するフィードバック	提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。				
指定図書	『最新介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解』中央法規出版				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考図書	必要時、適宜紹介します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	事前学修：当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。確認小テストの準備をする。(40分) 事後学修：授業の後にはノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むようにする(40分)				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	水野 尚美 (2707 研究室) メール:naomi-mi@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	認知症の理解 I				
科目責任者	篠崎 良勝				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。				
科目概要	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得することを目的とし、認知症の人の取り巻く状況や原因疾患、主要な症状について習得する科目である。認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解を学習し、認知症の原因となる疾患及び心身の変化や心理症状を理解する。さらに、認知症を取り巻く状況を理解するために、認知症のケアの歴史や理念、社会的環境についても学ぶ。				
到達目標	1. 認知症の医学的・心理的側面に関する基礎的知識を習得し、述べることができる。 2. 認知症の取り巻く状況を理解し、社会的環境について学ぶことができる。				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：認知症の基礎的理解(1)：認知症とは何か</p> <p>第2回：認知症の基礎的理解(2)：脳のしくみ(脳の構造・機能、認知症の病理)</p> <p>第3回：認知症の基礎的理解(3)：脳のしくみ(アルツハイマー型認知症 - 老化と認知症の関係)</p> <p>第4回：認知症の基礎的理解(4)：認知症の心理</p> <p>第5回：認知症の中核症状の理解(1)：記憶障害、見当識障害、遂行機能障害、空間認知障害</p> <p>第6回：認知症の中核症状の理解(2)：社会脳、失語・失行・失認、病識低下、神経症状</p> <p>第7回：認知症の生活障害の理解：ADL 障害、ADL 障害、家族関係、社会参加</p> <p>第8回：認知症のBPSDの理解：定義、要因、誘因</p> <p>第9回：認知症の診断と重症度：診断方法、重症度診断</p> <p>第10回：認知症の原因疾患と症状・生活障害(1)：アルツハイマー型認知症、脳血管性、レビー小体型認知症</p> <p>第11回：認知症の原因疾患と症状・生活障害(2)：前頭側頭型、治療可能な認知症、若年型認知症</p> <p>第12回：認知症の治療薬、認知症の予防</p> <p>第13回：認知症を取り巻く状況</p> <p>第14回：認知症ケアの理念と視点</p> <p>第15回：認知症当事者の視点からみえるもの 最終確認テスト・解答解説</p>				
アクティブラーニング	レポート課題、発表などを実施する。 リアクションペーパーはWeb Classにて提出する。				
授業内のICT活用	WebClassのアンケート機能を活用する。				
評価方法	中間テスト 30% 小テスト 20% 最終確認テスト 50%				
課題に対するフィードバック	WebClassで提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。				
指定図書	授業内で適宜資料を提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	授業内で適宜資料を提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	事前学修：毎回当日授業の部分を熟読する。(40分) 事後学修：毎回授業後にWeb Class内のリアクションペーパーに回答する。授業で提示した課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40分)
オープンエデュケーションの活用	医師が教える！「脳」の基本のしくみと、脳の病気の種類や症状 <a href="https://kenko-pita.com/brain-structure">https://kenko-pita.com/brain-structure</a>
オフィスアワー	篠崎 良勝 (2611 研究室) メール:yoshikatsu-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし



科目名	認知症の理解Ⅱ					
科目責任者	野田 由佳里					
単位数他	2単位 (30時間) 選択 7セメスター					
DP 番号と科目領域	DP2 専門					
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。					
科目概要	<p>認知症に関する知識を深めるとともに、認知症の人を中心に捉え本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する科目です。</p> <p>認知症ケアの理解、認知症の人を支援する家族への支援を多職種連携の視点から学習し、実践できることを目的とします。</p> <p>認知症に伴う生活への影響と認知症ケアについて理解し、認知症の人や家族への支援、認知症の人を支える多職種の連携・協働の在り方を学びます。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症に伴う生活への影響と認知症ケアについて理解できる。</li> <li>2. 認知症の人を支える、地域、家族の支援の在り方について理解できる。</li> <li>3. 認知症の人を支える、多職種連携・協働について理解できる。</li> </ol>					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：認知症の人へのかかわりの基本</p> <p>第2回：認知症の進行に応じた介護(1) 初期の認知症への介護</p> <p>第3回：認知症の進行に応じた介護(2) 初期の認知症への介護</p> <p>第4回：認知症の進行に応じた介護(3) 初期の認知症への介護</p> <p>第5回：認知症の進行に応じた介護(4) 終末期の認知症への介護</p> <p>第6回：認知症に伴う生活への影響と認知症ケア(1) 認知症の症状と環境の関係</p> <p>第7回：認知症に伴う生活への影響と認知症ケア(2) 認知症の型</p> <p>第8回：認知症の人の介護過程(1) 行動の背景</p> <p>第9回：認知症の人の介護過程(2) アセスメントの視点</p> <p>第10回：認知症の人の介護過程(3) 介護計画</p> <p>第11回：地域におけるサポート体制 -地域包括支援センターの役割・機能</p> <p>第12回：地域におけるサポート体制 -ボランティア、サポーターの役割・機能</p> <p>第13回：認知症の人を支援する多職種連携と協働 チームアプローチ</p> <p>第14回：家族への支援の在り方(1) -家族のレスパイト</p> <p>第15回：家族への支援の在り方(2) -家族会と介護教室</p>					
アクティブラーニング	調べ学修、グループディスカッション、発表なども行う。リアクションペーパーWebClassに提出する。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	筆記試験 60%、授業態度 20%、課題提出物 20%					
課題に対するフィードバック	WebClass で提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。					
指定図書	介護福祉士養成講座編集委員会「最新介護福祉士養成講座 13 認知症の理解」中央法規出版					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	<p>事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分)</p> <p>事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					

オフィスアワー	野田由佳里 (2706 研究室) メール:yukari-n@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	「介護福祉士」及び「介護支援専門員」の実務経験のある教員が担当します。
メディア授業の実施について	なし

科目名	障害の理解
科目責任者	井川 淳史
単位数他	2単位 (30時間) 選択 5セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<p>障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的知識を習得する学習とする。</p> <p>支援を必要とする人々を深く理解するとともに、その生活課題を分析し、解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。</p> <p>障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識について解説する。また、チームアプローチや家族への支援については、実践例を紹介しながら講義を行う。</p>
到達目標	<p>1. 他者をさまざまな側面から理解し、障害のある人に対する適切な支援方法について説明できる。</p> <p>2. 受容的・共感的態度をもって支援するために必要な、障害の医学的側面の基礎知識について、適切な用語を用いて説明できる。</p>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 身体障害(1)視覚障害の種類と原因、特性</p> <p>第2回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 身体障害(2)聴覚障害、言語機能障害の種類と原因、特性</p> <p>第3回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 身体障害(3)重複障害のある人の生活</p> <p>第4回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 身体障害(4)肢体不自由の種類と原因、特性</p> <p>第5回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 身体障害(5)内部障害の種類と原因、特性</p> <p>第6回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 知的障害の種類と原因、特性</p> <p>第7回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 精神障害の種類と原因、特性</p> <p>第8回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 高次脳機能障害高次脳機能障害の種類と原因、特性</p> <p>第9回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 発達障害の種類と原因、特性</p> <p>第10回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 重症心身障害重症心身障害のある人の生活</p> <p>第11回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 難病の種類と原因、特性</p> <p>第12回：障害の概念、制度、障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 障害のある人の心理、障害の受容、適応と適応機制</p> <p>第13回：障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 障害に伴う機能の変化と日常生活への影響障害のある人の特性を踏まえたアセスメント</p> <p>第14回：連携と協働 チームアプローチ、多職種連携・協働による支援</p> <p>第15回：家族への支援 家族の受容段階や介護力に応じた支援、まとめ</p>
アクティブラーニング	本授業は、反転授業、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	iPad、learning CANVAS（電子黒板）を利用した双方向型授業を実施する。
評価方法	筆記試験 50%、小テスト（3回実施）30%、授業参加度、課題提出（リアクションペーパー）20%、計100%
課題に対するフィードバック	WebClass に提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。

指定図書	『最新・介護福祉士養成講座 14 障害の理解 第2版』中央法規出版				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
参考図書	授業内で随時提示				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	事前学修：授業前にWebClassの事前課題に回答すること（40分2～15回） 事後学習：授業後にWebClassのアンケートに回答すること（40分2～15回）				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	井川 淳史 (2603 研究室) メール: atsushi-ik@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	こころとからだ I				
科目責任者	水野 尚美				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。				
科目概要	<p>介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。</p> <p>福祉専門職者に求められる基本的な知識・理論を体系的に理解し、対人支援を必要とする人々の生活課題を解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。</p> <p>介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識について講義を行う。</p>				
到達目標	<p>1. 他者をさまざまな側面から理解するために、対人援助に必要な人間の心理について、適切な用語で説明できる。</p> <p>2. 他者をさまざまな側面から理解するために、介護技術の根拠となる人体の構造や機能について、適切な用語で説明できる。</p>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：こころのしくみの理解(1) 健康とは何か、健康を阻害する要因</p> <p>第2回：こころのしくみの理解(2) 人間のこころの基本的理解</p> <p>第3回：こころのしくみの理解(3) 人間の欲求の基本的理解</p> <p>第4回：こころのしくみの理解(4) 自己概念と尊厳</p> <p>第5回：こころのしくみの理解(5) 学習・記憶・思考のしくみ</p> <p>第6回：こころのしくみの理解(6) 感情のしくみ、意欲・動機づけのしくみ</p> <p>第7回：こころのしくみの理解(7) 適応と適応機制</p> <p>第8回：からだのしくみの理解(1) からだのつくりの理解・細胞・組織・器官・器官系</p> <p>第9回：からだのしくみの理解(2) 人体の構造と機能・脳・神経系・感覚器系</p> <p>第10回：からだのしくみの理解(3) 人体の構造と機能・骨格系・筋系</p> <p>第11回：からだのしくみの理解(4) 人体の構造と機能・血液・循環器系</p> <p>第12回：からだのしくみの理解(5) 人体の構造と機能・呼吸器系</p> <p>第13回：からだのしくみの理解(6) 人体の構造と機能・消化器系</p> <p>第14回：からだのしくみの理解(7) 人体の構造と機能・腎・泌尿器系・生殖器系</p> <p>第15回：からだのしくみの理解(8) 人体の構造と機能・内分泌・代謝系・免疫系</p>				
アクティブラーニング	グループディスカッションを適宜実施し意見交換を行う。				
授業内の ICT 活用	Web Class などを利用して授業内での理解度確認や小グループによるディスカッション、事前・事後学修課題やリアクションペーパーの提出を行います。				
評価方法	筆記試験(50%)、小テスト・課題提出物など(40%)、授業態度(10%)計100% 課題提出物については、リアクションペーパーや課題の提出状況と内容などの全体から判断します。				
課題に対するフィードバック	WebClass で提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行います。				
指定図書	『介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ』中央法規出版				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
参考図書	必要時、適宜紹介します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

事前・事後学修	事前学修：毎回当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。確認小テストの準備をする。(40分) 事後学修：授業で提示したテキストを見直しノートにまとめ、疑問点を調べる。(40分)
オープンエデュケーションの活用	解剖学的構造と生理学： <a href="https://www.visiblebody.com/ja/anatomy-and-physiology-">https://www.visiblebody.com/ja/anatomy-and-physiology-</a>
オフィスアワー	水野 尚美 (2707 研究室) メール:naomi-mi@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	こころとからだⅡ					
科目責任者	水野 尚美					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP2 専門					
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。					
科目概要	<p>介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。</p> <p>福祉専門職者に求められる基本的な知識・理論を体系的に理解し、対人支援を必要とする人々の生活課題を解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。</p> <p>移動、身じたく、食事の支援を行う上で必要な心理面、身体面の知識について講義を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 他者をさまざまな側面から理解するために必要な、移動、身じたく、食事に関連するこころとからだのしくみについて、適切な用語で説明できる。</p> <p>2. 学修したこころとからだのしくみについて、介護福祉実践場面と関連付けて、自らの言葉で説明できる。</p>					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：移動に関連したこころとからだの基礎知識について理解する。</p> <p>第2回：移動に関連したこころとからだのしくみについて理解する。</p> <p>第3回：機能の低下・障害が及ぼす移動への影響について理解する。</p> <p>第4回：生活場面におけるこころとからだの変化と医療職との連携について理解する。</p> <p>第5回：移動能力向上が生活に与える影響を理解する。</p> <p>第6回：身じたくに関連したこころとからだの基礎知識について理解する。</p> <p>第7回：身じたくに関連したこころとからだのしくみについて理解する。</p> <p>第8回：機能の低下・障害が及ぼす整容行動への影響について理解する。</p> <p>第9回：生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携について理解する。</p> <p>第10回：咀嚼と嚥下から口腔機能など食事に関連したこころとからだの基礎知識について理解する。</p> <p>第11回：食事に関連したこころとからだのしくみについて理解する。</p> <p>第12回：機能の低下・障害が及ぼす食事への影響について理解する。</p> <p>第13回：生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携について理解する。</p> <p>第14回：食事摂取能力向上が生活に与える影響を理解する。</p> <p>第15回：他者をさまざまな側面から理解するために必要な、移動、身じたく、食事に関連するこころとからだのしくみについてのまとめ</p>					
アクティブラーニング	グループディスカッションを適宜取り入れ行います。					
授業内の ICT 活用	WebClass などを利用して授業内での理解度確認や小グループによるディスカッション、事前・事後学修課題やリアクションペーパーの提出を行います。					
評価方法	定期試験(50%)、小テスト・課題提出物(40%)、授業態度(10%)計100% 課題提出物については、リアクションペーパーや課題の提出状況と内容などの全体から判断します。					
課題に対するフィードバック	WebClass で提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行います。					
指定図書	『介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ』中央法規出版					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	必要時、適宜紹介します。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	

事前・事後学修	事前学修：毎回当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。確認小テストの準備をする。(40分) 事後学修：毎回授業後に授業で提示したテキストをノートにまとめ、疑問点を調べる。(40分)
オープンエデュケーションの活用	解剖学的構造と生理学： <a href="https://www.visiblebody.com/ja/anatomy-and-physiology-">https://www.visiblebody.com/ja/anatomy-and-physiology-</a>
オフィスアワー	水野 尚美 (2707 研究室) メール: naomi-mi@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし



科目名	こころとからだⅢ				
科目責任者	水野 尚美				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 7 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。				
科目概要	<p>介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。</p> <p>福祉専門職者に求められる基本的な知識・理論を体系的に理解し、対人支援を必要とする人々の生活課題を解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。</p> <p>入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠、人生の最終段階のケアを行う上で必要な心理面、身体面の知識について講義を行う。</p>				
到達目標	<p>1. 他者をさまざまな側面から理解するために必要な、入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠、人生の最終段階のケアに関連するこころとからだのしくみについて、適切な用語で説明できる。</p> <p>2. 学修したこころとからだのしくみについて、介護福祉実践場面と関連付けて、自らの言葉で説明できる。</p>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：入浴・清潔保持に関連したこころとからだの基礎知識について理解する。</p> <p>第2回：入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみについて理解する。</p> <p>第3回：機能の低下・障害が及ぼす入浴・清潔保持への影響について理解する。</p> <p>第4回：生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携について理解する。</p> <p>第5回：排泄に関連したこころとからだの基礎知識について理解する。</p> <p>第6回：排泄に関連したこころとからだのしくみについて理解する。</p> <p>第7回：機能の低下・障害が及ぼす排泄への影響について理解する。</p> <p>第8回：生活場面におけるこころとからだの変化と医療職との連携について理解する。</p> <p>第9回：休息・睡眠に関連したこころとからだの基礎知識について理解する。</p> <p>第10回：休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみについて理解する。</p> <p>第11回：機能の低下・障害が及ぼす休息・睡眠への影響について理解する。</p> <p>第12回：生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携について理解する。</p> <p>第13回：人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ・生命を維持するしくみ</p> <p style="padding-left: 40px;">「死」の捉え方、終末期から危篤、死亡時のからだについて理解する。</p> <p>第14回：人生の最終段階のケアについて事例をもとに理解する。</p> <p>第15回：人生の最終段階のケアにおける医療職との連携について理解する。</p>				
アクティブラーニング	グループディスカッションを適宜取り入れます。				
授業内の ICT 活用	WebClass などを利用して授業内での理解度確認や小グループによるディスカッション、事前・事後学修課題やリアクションペーパーの提出を行います。				
評価方法	定期試験(50%)、小テスト・課題提出物(40%)、授業態度(10%) 計100% 課題提出物については、リアクションペーパーや課題の提出状況と内容などの全体から判断します。				
課題に対するフィードバック	WebClass で提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。				
指定図書	『介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ』中央法規出版				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

参考図書	必要時、適宜紹介します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	事前学修:当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。確認小テストの準備をする。(40分) 事後学修:授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40分)				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	水野 尚美 (2707 研究室) メール:naomi-mi@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	医療的ケア I				
科目責任者	水野 尚美				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。				
科目概要	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。福祉の専門職に求められる医療的ケアについて基本的な知識・理論や技能を体系的に学ぶ。本科目では、医療的ケアに関する制度の概要や感染予防、安全管理体制等、医療的ケア実施の基礎を学び、現在社会における諸問題について、その発生原因や経過、その解決の現状について説明することができる。また医療的ケア II につなげる。				
到達目標	1. 医療的ケアとはどういうものか説明できる。 2. 介護福祉士が「喀痰吸引」や「経管栄養」の医行為の一部を業として行うことができるようになった背景について説明できる。 3. 医療的ケアを安全に実施するための医療的ケア実施の基礎について理解できる。				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>医療的ケア実施の基礎</p> <p>第1回：ガイダンス 医療的ケアとは</p> <p>第2回：人間と社会 (1) 介護福祉士の倫理と医療の倫理</p> <p>第3回：人間と社会 (2) 医療的ケアと喀痰吸引等の背景、喀痰吸引等制度</p> <p>第4回：人間と社会 (3) 保健医療制度とチーム医療</p> <p>第5回：安全な療養生活 (1) 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施</p> <p>第6回：安全な療養生活 (2) リスクマネジメント</p> <p>第7回：安全な療養生活 (3) 救急蘇生</p> <p>第8回：清潔保持と感染予防 (1) 感染管理と予防 (スタンダードプリコーション)</p> <p>第9回：清潔保持と感染予防 (2) 「清潔保持と感染予防 (ガウンテクニック、使い捨て手袋など)」</p> <p>第10回：清潔保持と感染予防 (3) 療養環境の清潔、消毒法/消毒と滅菌</p> <p>第11回：健康状態の把握 (1) 身体・精神の健康/健康状態を知る項目/急変状態について</p> <p>第12回：健康状態の把握 (2) 「バイタルサインの見方」</p> <p>第13回：呼吸器のしくみ</p> <p>第14回：消化器のしくみ</p> <p>第15回：医療的ケア実施の基礎について</p>				
アクティブラーニング	グループディスカッションを適宜取り入れます。				
授業内の ICT 活用	WebClass などを利用して授業内での理解度確認や小グループによるディスカッション、事後学修課題やリアクションペーパーの提出を行います。				
評価方法	定期試験(50%)、小テスト・課題提出物 (30%)、授業態度 (20%) 計 100% 課題提出物については、リアクションペーパーや課題の提出状況と内容などの全体から判断します。				
課題に対するフィードバック	WebClass で提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行います。				
指定図書	『介護福祉士養成講座 15 医療的ケア』中央法規出版				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
参考図書	必要時、適宜紹介します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

事前・事後学修	事前学修：毎回当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。確認小テストの準備をする。(40分) 事後学修：授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40分)
オープンエデュケーションの活用	感染予防の基本： <a href="https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/covid_19/">https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/covid_19/</a> 動画でわかる看護技術 バイタルサイン <a href="https://www.kango-roo.com/mv/cat/21">https://www.kango-roo.com/mv/cat/21</a>
オフィスアワー	水野 尚美 (2707 研究室) メール: <a href="mailto:naomi-mi@seirei.ac.jp">naomi-mi@seirei.ac.jp</a> 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有し、「医療的ケア教員」の講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	医療的ケアⅡ					
科目責任者	水野 尚美					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP4 専門					
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。					
科目概要	医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。 医療的ケアは、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。本科目では、高齢者及び障害児・者の喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）と経管栄養（基礎的知識・実施手順）を修得する。					
到達目標	1. 喀痰吸引・経管栄養で使用する器具・機材と保管方法について説明できる。 2. 喀痰吸引（基礎的知識、実施手順）・経管栄養（基礎的知識、実施手順）について説明できる。					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）</p> <p>第1回：喀痰吸引とは、人工呼吸器と吸引</p> <p>第2回：子どもの吸引、吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意</p> <p>第3回：呼吸器系の感染と予防（吸引との関連）、急変状態、喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認、急変・事故発生時の対応と事前対策</p> <p>第4回：喀痰吸引器で用いる器具・機材とそのしくみ、清潔保持</p> <p>第5回：吸引の技術と留意点</p> <p>第6回：痰の吸引に伴うケア</p> <p>第7回：報告及び記録 経管栄養（基礎的知識・実施手順）</p> <p>第8回：経管栄養法とは</p> <p>第9回：注入する内容に関する知識、経管栄養実施上の留意点</p> <p>第10回：急変・事故発生時の対応と事前対策</p> <p>第11回：子どもの経管栄養、経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意</p> <p>第12回：経管栄養に関する感染と予防、経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認</p> <p>第13回：経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持</p> <p>第14回：経管栄養の技術と留意点</p> <p>第15回：経管栄養に必要なケア、報告及び記録 最終確認テスト・解答解説</p>					
アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはWeb Class にて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。					
授業内の ICT 活用	必要に応じて、iPad と learning Canvas（電子黒板）を使用した双方向型授業を行う。					
評価方法	定期試験(50%)、小テスト・課題提出物(30%)、授業態度(20%)計100% 課題提出物については、リアクションペーパーや課題の提出状況と内容などの全体から判断します。					
課題に対するフィードバック	WebClass で提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。					
指定図書	『介護福祉士養成講座 15 医療的ケア』中央法規出版					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	必要時、適宜紹介します。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	

事前・事後学修	事前学修：毎回当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。確認小テストの事前学修をする。(40分) 事後学修：授業の後にはノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むようにする。(40分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	水野 尚美 (2707 研究室) メール: naomi-mi@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有し、「医療的ケア教員」の講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2単位 (30時間) 選択 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	自己理解と他者理解を深め、様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力を身につけ、援助場面で体現できることを目的とする。具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、ソーシャルワークの「価値」と「倫理」を土台とした基本的な面接技術の習得を図る。
到達目標	1. 自己理解と他者理解の必要性を理解し、それを深める。 2. 受容的・共感的態度をもって、対人関係を形成できるようにする。 3. ソーシャルワークの価値と倫理を土台とした相談援助のあり方を理解する。
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt;川向雅弘、落合克能、小畑美穂</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：川向、落合、小畑 オリエンテーション</p> <p>第2回：川向 自己覚知・社会福祉専門職の価値（社会正義と社会公正）</p> <p>第3回：川向 自己覚知・社会福祉専門職の価値（ソーシャルワークの価値と倫理）</p> <p>第4回：川向 自己覚知・自己理解と他者理解①（自己と他者の価値観を知る）</p> <p>第5回：川向 自己覚知・自己理解と他者理解②（第4回のグループ発表）</p> <p>第6回：川向 自己覚知・自己理解と他者理解③（自己と他者のライフヒストリーを知る）</p> <p>第7回：川向 自己覚知・自己理解と他者理解④（まとめ）</p> <p>第8回：小畑 基本的な面接技術①（インテーク面接）</p> <p>第9回：小畑 基本的な面接技術②（ソーシャルワークの価値を体現する）</p> <p>第10回：小畑 基本的な面接技術③（認知症の人の家族に対する面接に焦点化して）</p> <p>第11回：落合 ソーシャルワークの展開過程①（ケースの発見・インテーク）</p> <p>第12回：落合 ソーシャルワークの展開過程②（アセスメント）</p> <p>第13回：落合 ソーシャルワークの展開過程③（プランニングと支援の実施）</p> <p>第14回：落合 ソーシャルワークの展開過程④（モニタリングと再アセスメント）</p> <p>第15回：落合 ソーシャルワークの展開過程⑤（まとめ）</p>
アクティブラーニング	アクティブラーニング 演習科目であり、グループ学修やPBLなどを用いて授業に活用する。
授業内の ICT 活用	WebClass の活用
評価方法	授業への取り組み姿勢：40%、前半レポート：30%、後半レポート：30% レポートについてはルーブリックを用いて評価する。

課題に対するフィードバック	演習グループに教員が随時関与しフィードバックする。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
シリーズ・社会福祉の視座 2 ソーシャルワークへの招待	北川 清一	ミネルヴァ書房	2500	9784623079513	冊子版
参考図書	授業の中で紹介する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	次回演習への準備が事前課題となる。また、次回演習への準備には学びの整理（事後学修）が必須である。課題や授業へのリアクションを期日までに WebClass に提出する（目安時間 40 分）。9 回目終了時に前半レポート、15 回終了時に期末レポートを提出する。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	川向 雅弘 (2705 研究室) メール:masahiro-k@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉士」として社会福祉現場の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	ソーシャルワーク演習Ⅲ
科目責任者	落合 克能
単位数他	2単位 (30時間) 選択 4セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	本科目では、ソーシャルワーク総論Ⅰ・Ⅱ、及びソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱで修得してきた専門的知識と技術について、実践的に習得することを目的し、具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、ソーシャルワークにおけるインテークからアセスメントまでの過程でソーシャルワーカーに求められる基礎的技能的修得を図る。
到達目標	1. 虐待、ひきこもり、貧困、認知症、終末期ケア、災害時、その他危機状態にある事例を通して、支援を必要とする人が抱える、多様で複合的な課題の背景を理解することができる。 2. 上記の事例をもとに、相談援助の過程、特にインテークからアセスメントまでの意義・目的・方法・留意点等について理解する。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;落合克能、福田俊子、泉谷朋子</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業目的・授業計画・授業方法の説明・演習Ⅱの復習） ※アセスメントに関するSW論の振り返り ※第2回～第6回の独居高齢者支援事例の理解（ビデオ視聴・グループワーク） 【認知症高齢者の終末期ケア事例】※伴走型支援、自己決定支援</p> <p>第2回：認知症高齢者の終末期ケア事例① インテークに関するグループワーク</p> <p>第3回：認知症高齢者の終末期ケア事例② アセスメントのための情報収集</p> <p>第4回：認知症高齢者の終末期ケア事例③ アセスメントによるニーズ把握と支援計画</p> <p>第5回：認知症高齢者の終末期ケア事例④ 認知症によるニーズの変化について考える</p> <p>第6回：認知症高齢者の終末期ケア事例⑤ インテークとアセスメントに関するまとめ 【知的障害児・虐待の事例】※課題解決型支援、家族支援、意思表示が困難な方のアセスメント</p> <p>第7回：知的障害児・虐待の事例① 事例の理解</p> <p>第8回：知的障害児・虐待の事例② ケースの発見、対象者および家族とのインテーク</p> <p>第9回：知的障害児・虐待の事例③ インテーク場面のロールプレイ、対象者情報整理</p> <p>第10回：知的障害児・虐待の事例④ アセスメントの理解、アセスメントの実施①</p> <p>第11回：知的障害児・虐待の事例⑤ アセスメントの実施②、まとめ 【災害時の支援事例】</p> <p>第12回：災害時の事例① 災害時のソーシャルワーク、被災者支援について</p> <p>第13回：災害時の事例② 被災者支援において必要なソーシャルワークの視点 ※ケースの発見、インテーク、アセスメント、チームアプローチ</p> <p>第14回：災害時の事例③ 災害時SW、被災者支援におけるソーシャルワークの実際</p> <p>第15回：災害時の事例④ 災害時SW、被災者支援に関するまとめ 全体のまとめ インテークからアセスメントまでのポイント整理</p>
アクティブラーニング	本授業は、グループワーク、プレゼンテーション、ロールプレイング、ワークシートを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。</li> <li>グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。</li> </ul>
評価方法	授業への取り組み姿勢（参加姿勢、課題提出、リアクション等）40%、中間レポート30%、定期試験（レポート）30%として評価します。授業はグループ学習を中心とした形態であるため、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価します。授業への取り組み姿勢およびレポートの評価基準は、ルーブリックを示します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。個別に質問がある場合は、WebClass やオフィスアワーで対応します。

指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『シリーズ社会福祉の視座 ソーシャルワークへの招待』 ミネルヴァ書房 2017</li> <li>・その他、授業時に資料等を提示</li> </ul>					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>①授業前にWebClass内の事前課題に回答すること（各20分2～15回）</li> <li>②授業後にWebClass内の事後課題に回答すること（各20分2～15回）</li> </ul>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	落合 克能（2613研究室） メール：katsutaka-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅳ
科目責任者	福田 俊子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 5セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅲ及びソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅲと関連させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的とし、具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、ソーシャルワークにおけるインテークからアフターケアまでの過程でソーシャルワーカーに求められる基礎的技術の習得を図る。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知的障害があり、ひきこもりの問題を抱えるクライアントやその家族を対象とした相談援助の実際について理解を深め、複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について、実践的に習得する。</li> <li>2. インテークからアフターケアまでの過程全体を見渡ししながら、事例を検討できるようになる。</li> <li>3. グループ討議を通じて、自分の役割を把握し、的確にその役割を果たすことができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;福田俊子、落合克能、小畑美穂 &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法の説明）  第2回：障害者・ひきこもりの事例検討①、インテークの準備  第3回：障害者・ひきこもりの事例検討②、インテークのロールプレイ、スーパービジョン  第4回：障害者・ひきこもりの事例検討③、家族からの情報収集、アセスメント  第5回：障害者・ひきこもりの事例検討④、アセスメント、ニーズと社会資源のマッチング  第6回：障害者・ひきこもりの事例検討⑤、プランニング  第7回：障害者・ひきこもりの事例検討⑥、プランニングの共有、ロールプレイ、スーパービジョン  第8回：障害者・ひきこもりの事例検討⑦、支援の実施以降の物語の作成①、（支援の実施）、効果測定、終結、アフターケアに関する解説  第9回：障害者・ひきこもりの事例検討⑧、支援の実施以降の物語の作成②（支援の実施・モニタリング）  第10回：障害者・ひきこもりの事例検討⑨、支援の実施以降の物語の作成③（モニタリング・再アセスメント）  第11回：障害者・ひきこもりの事例検討⑩、支援の実施以降の物語の作成④（再アセスメント）  第12回：障害者・ひきこもりの事例検討⑪、支援の実施以降の物語のロールプレイを作成  第13回：障害者・ひきこもりの事例検討⑫、発表会に向けての準備  第14回：障害者・ひきこもりの事例の発表会①、グループ発表、ロールプレイ、スーパービジョン  第15回：障害者・ひきこもりの事例の発表会②、グループ発表、ロールプレイ、スーパービジョン、まとめ</p>
アクティブラーニング	本科目では、PBL、グループディスカッション、プレゼンテーションを取り入れて授業を展開する。
授業内の ICT 活用	WebClass を利用する。 グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行う。
評価方法	授業への取組姿勢 50%、定期試験（レポート） 50%として評価する。 （授業はグループ学習が中心とした形態になる。したがって、取組の姿勢では、単に出席するだけでなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価する。） レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。

課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題に対するフィードバックは全体授業で実施する。				
指定図書	特になし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	渡辺律子『高齢者援助における相談面接の理論と実際 第2版』医歯薬出版				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	第2～14回の授業では、達成課題が提示される。 あらかじめ必要な知識を復習したり、授業時間内で達成できない場合には、次回の授業までに授業時間外で自主的に集まり、課題を達成しておいたりすることが必要となる（目安時間40分）				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	福田 俊子 (2606 研究室) メール: toshiko-f@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示する。				
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	ソーシャルワーク演習V
科目責任者	佐藤 順子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 56セメスター
DP番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	<p>ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的としている。</p> <p>演習形式により、ソーシャルワークにおける地域福祉の基盤整備と開発にかかわる事例を活用し、実技指導を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し系統立てていくことができる能力を習得する。</li> <li>2. 地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。</li> <li>3. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と開発過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。</li> </ol>
到達目標	<p>地域社会の福祉ニーズや背景を論理的に把握し、専門職として貢献することができる実践力を身につける</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域福祉の援助技術の概要を理解する</li> <li>2. 地域・コミュニティ、住民の意味を理解する</li> <li>3. コミュニティワーク、コミュニティソーシャルワークの方法として、住民ニーズの把握方法、住民参加の促進方法、社会資源の活用・開発、要援護者に関する情報収集、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワークキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーションについて理解し、技術を習得する</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;佐藤順子、川向雅弘、落合克能</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法の説明） 佐藤  コミュニティに関わるソーシャルワーカーの役割を理解する 佐藤  「プロフェッショナル 仕事の流儀 コミュニティ・ソーシャルワーカー」視聴、その後グループワーク</p> <p>第2回：地域アセスメント① 落合</p> <p>第3回：地域アセスメント② 落合</p> <p>第4回：コミュニティソーシャルワーク① 川向  地域の個別ニーズを把握する</p> <p>第5回：コミュニティソーシャルワーク② 川向  個別ニーズをアセスメントする</p> <p>第6～8回：コミュニティソーシャルワーク③ 川向  個別支援計画を策定する</p> <p>第9回：コミュニティソーシャルワーク④ 川向  個別支援計画を評価する、まとめ</p> <p>第10回：コミュニティワーク① 落合  地域課題を把握する</p> <p>第11回：コミュニティワーク② 佐藤  地域課題を分析する</p> <p>第12～13回：コミュニティワーク③ 佐藤  地域課題解決のためのプログラム案を作成する</p> <p>第14回：コミュニティワーク③ 佐藤  地域解決のためのプログラム案を発表する</p> <p>第15回：コミュニティワーク④ 佐藤  地域課題解決のためのプログラム案を評価し、改善する、まとめ</p>
アクティブラーニング	本授業は、反転授業、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを用いて実施する

授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回パソコンを用いて資料閲覧、グループワークのワークシート作成等を行う</li> <li>・プロジェクターを用いてグループ発表のプレゼンテーションを行う</li> <li>・事前・事後学修課題等についてはwebclass に提出する</li> </ul>					
評価方法	授業への取組姿勢 20%、事前課題 10%、レポート 70%として評価する レポートについてはループリックを用いて評価する。ループリックの内容は授業中に提示する					
課題に対するフィードバック	毎回グループワークで取り組んだ課題、リアクションペーパーに対するフィードバックを行う					
指定図書	特になし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	必要に応じて授業の中で紹介					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	事前学修 提示された事前課題に取り組み、webclass に提出した上でグループワークに臨む 事後学修 毎回学びをまとめ、webclass に提出する コミュニティソーシャルワークに関する学びの終了後に中間レポートを提出する					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	佐藤 順子 (2606 研究室) メール: junko-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	ソーシャルワーク演習VI					
科目責任者	福田 俊子					
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 7 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP6 専門					
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。					
科目概要	ソーシャルワーク実習での体験を踏まえた上で、ソーシャルワークにかかわるこれまでの授業科目との関連させながら、学生自らが具体的な相談援助事例を作成することで、ソーシャルワーカーに求められる総合的な知識と技術を実践的に習得することを目的としている。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者や職員とのかかわりに関する実習体験を活用しながら事例を作成する作業を通じて、分析的思考に基づいた援助者としての行動目標が設定できる。</li> <li>2. これまでのソーシャルワーク関連科目との関連を意識しながら、人間の多様性を踏まえた事例を作成することができる。</li> <li>3. グループ討議を通じて、他者と協働することができる。</li> </ol>					
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt;福田俊子、川向雅弘、泉谷朋子 演習グループを4グループ編成し、各教員が2グループを担当する。</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;  第1回：オリエンテーション・ガイダンス（小グループでの実習の学びの振り返り）  第2回：ジレンマ事例の作成①（ジレンマ事例の共有、大まかな筋書きの作成）  第3回：ジレンマ事例の作成②（大まかな筋書きの作成）  第4回：ジレンマ事例の作成③（大まかな筋書きの作成、プレゼンテーションの準備）  第5回：ジレンマ事例の作成④（プレゼンテーションの準備）  第6回：ジレンマ事例の作成⑤（発表会の予行演習）  第7・8回：事例発表会・まとめ  ロールプレイによるジレンマ事例から、「ソーシャルワーカーの強み」についての考察を発表する。（20分発表×グループ数）</p>					
アクティブラーニング	本科目では、PBL、プレゼンテーションを取り入れて授業を展開する。					
授業内の ICT 活用	WebClass を利用する。					
評価方法	授業への取組姿勢 50%、定期試験（レポート） 50%として評価する。 （授業はグループ学習が中心とした形態になる。したがって、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価する。） レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。					
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題に対するフィードバックは全体授業で実施する。					
指定図書	特になし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	特になし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	各回の授業では、達成課題が提示される。予め必要となる知識を復習したり、授業時間内で達成できない場合には、次回の授業までに授業時間外で自主的に集まり、課題を達成しておいたりすることが必要となる。（目安時間 40 分）					

オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	福田 俊子 (2606 研究室) メール: toshiko-f@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	なし



科目名	ソーシャルワーク実習 I
科目責任者	落合 克能
単位数他	4 単位 (180 時間) 選択 56 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	<p>社会福祉機関・施設において 23 日間以上、180 時間以上（実習 I）の配属実習を行う。配属実習における利用者や職員との長期的なかかわりを通じて、学内の講義、演習で学習した知識や技術が、学生自身の「身についた力」、つまり「実践力」となること、そして学生が自分の力で次につながる自己課題を明確化していくことをめざし、下記について学ぶ科目である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルワークの対象となる当事者・利用者とその家族・世帯の生活・地域の実態や、ソーシャルワーカーが活動する地域の実態を学ぶ。</li> <li>・ソーシャルワーカーとしての価値や倫理が実践現場でどのように具現化されているか、またソーシャルワーカーがそれらをどのように行動化しているか、ソーシャルワーク専門職である社会福祉士としての態度や姿勢を学ぶ。</li> <li>・ケースの発見からアセスメント、支援計画策定から実施に至るソーシャルワークの過程について具体的かつ経験的に学ぶ。</li> <li>・ソーシャルワークの役割としての総合的・包括的な支援や多職種・多機関や地域住民等との連携・協働の実際を具体的かつ経験的に学ぶ。</li> <li>・社会福祉士・ソーシャルワーカーとしての自分を知る（自己覚知）の機会となる。</li> </ul>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。</li> <li>2. 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。</li> <li>3. 生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。</li> <li>4. 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。</li> <li>5. 総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;落合克能、泉谷朋子、小畑美穂、川向雅弘、佐藤順子、福田俊子</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>「社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則」に基づき厚生労働省が別に定める施設及び事業にて、23 日間以上、180 時間以上の実習を行う。実習生は、次に掲げる事項について実習指導者による指導を受ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者やその関係者（家族・親族。友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成</li> <li>2. 利用者やその関係者等との援助関係の形成</li> <li>3. 利用者や地域の状況の理解し、そのニーズの把握、支援計画の作成と実施及び評価</li> <li>4. 利用者やその関係者等への権利擁護活動とその評価</li> <li>5. 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解</li> <li>6. 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ</li> <li>7. 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解</li> <li>8. 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービス管理運営の実際</li> <li>9. 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解</li> <li>10. ソーシャルワーク実践に求められるアウトリーチ、ネットワークキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション等技術の実践的理解</li> </ol>

	<p>11. 社会福祉士・ソーシャルワーカーを目指す者としての自己覚知を促進するプロセスの理解</p> <p>実習先の実習指導者並びにソーシャルワーク実習担当教員は、学生が上記に示す達成課題に取り組むことができるように、適宜スーパービジョンを実施する。特に実習担当教員は、実習中の巡回や帰校日の指導を通して、学生の実習状況を把握し、必要に応じて実習指導者間の連絡調整を行う。</p> <p>※ソーシャルワーク実習指導 I の単位を取得できていることが履修の前提になる。</p>					
アクティブラーニング	実習科目					
授業内の ICT 活用	各領域ごとの学習内容による。					
評価方法	実習生としての責務の遂行、積極的な取り組みの姿勢、記録等を総合して行う。					
課題に対するフィードバック	帰校日、実習巡回においてスーパービジョンを実施する。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	随時紹介する					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	<p>実習指導者、教員によるスーパービジョンの際には、それまでの実習を振り返り、自分の感じたこと、考えたこと、話し合いたいことなどを予め考えておく。また、事前学習・事後学習として、毎日の実習ノートの作成、実習指導者からの指導コメントの振り返りにしっかり取り組むこと。 (目安時間 40 分)</p>					
オープンエデュケーションの活用	各領域ごとの学習内容による。					
オフィスアワー	落合 克能 (2613 研究室) メール: katsutaka-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	各領域の学習内容による。					

科目名	ソーシャルワーク実習Ⅱ
科目責任者	落合 克能
単位数他	1 単位 (60 時間) 選択 56 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	<p>ソーシャルワーク実習Ⅰとは異なる社会福祉機関・施設において8日間以上、60時間以上の配属実習を行う。</p> <p>配属実習における利用者や職員との長期的なかかわりを通じて、学内の講義、演習で学習した知識や技術が、学生自身の「身についた力」、つまり「実践力」となること、そして学生が自分の力で次につながる自己課題を明確化していくことをめざす。</p> <p>授業の目的・ねらいは、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルワークの対象となる当事者・利用者とその家族・世帯の生活・地域の実態や、ソーシャルワーカーが活動する地域の実態を学ぶ。</li> <li>・ソーシャルワーカーとしての価値や倫理が実践現場でどのように具現化されているか、またソーシャルワーカーがそれらをどのように行動化しているか、ソーシャルワーク専門職である社会福祉士としての態度や姿勢を学ぶ。</li> <li>・ケースの発見からアセスメント、支援計画策定から実施に至るソーシャルワークの過程について具体的かつ経験的に学ぶ。</li> <li>・ソーシャルワークの役割としての総合的・包括的な支援や多職種・多機関や地域住民等との連携・協働の実際を具体的かつ経験的に学ぶ。</li> <li>・社会福祉士・ソーシャルワーカーとしての自分を知る（自己覚知）の機会となる。</li> </ul>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。</li> <li>2. 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。</li> <li>3. 生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。</li> <li>4. 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。</li> <li>5. 総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;落合克能、泉谷朋子、小畑美穂、川向雅弘、佐藤順子、福田俊子 &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>「社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則」に基づき厚生労働省が別に定める施設及び事業にて、8日以上、60時間以上の実習を行う。実習生は、次に掲げる事項について実習指導者による指導を受ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者やその関係者（家族・親族。友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成</li> <li>2. 利用者やその関係者等との援助関係の形成</li> <li>3. 利用者や地域の状況の理解し、そのニーズの把握、支援計画の作成と実施及び評価</li> <li>4. 利用者やその関係者等への権利擁護活動とその評価</li> <li>5. 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解</li> <li>6. 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ</li> <li>7. 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解</li> <li>8. 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービス管理運営の実際</li> <li>9. 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解</li> <li>10. ソーシャルワーク実践に求められるアウトリーチ、ネットワークング、コーディネート、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション等技術の実践的理解</li> </ol>

	<p>11. 社会福祉士・ソーシャルワーカーを目指す者としての自己覚知を促進するプロセスの理解</p> <p>実習先の実習指導者並びにソーシャルワーク実習担当教員は、学生が上記に示す達成課題に取り組むことができるように、適宜スーパービジョンを実施する。特に実習担当教員は、実習中の巡回や帰校日の指導を通して、学生の実習状況を把握し、必要に応じて実習指導者間の連絡調整を行う。</p> <p>※ソーシャルワーク実習指導 I の単位を取得できていることが履修の前提になる。</p>				
アクティブラーニング	実習科目				
授業内の ICT 活用	各領域の実習（学修）内容による。				
評価方法	実習生としての責務の遂行、積極的な取り組みの姿勢、記録等を総合して行う。				
課題に対するフィードバック	帰校日、実習巡回においてスーパービジョンを実施する。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	随時紹介する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	<p>実習指導者、教員によるスーパービジョンの際には、それまでの実習を振り返り、自分の感じたこと、考えたこと、話し合いたいことなどを予め考えておく。また、事前学習・事後学習として、毎日の実習ノートの作成、実習指導者からの指導コメントの振り返りにしっかり取り組むこと。（目安時間 40 分）</p>				
オープンエデュケーションの活用	各領域の実習（学修）内容による。				
オフィスアワー	落合 克能 (2613 研究室) メール: katsutaka-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	ソーシャルワーク実習指導 I
科目責任者	落合 克能
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 34 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	<p>本科目は、ソーシャルワーク実習の事前指導として位置づけられ、ソーシャルワーク実習の意義について理解するとともに、社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う科目である。</p> <p>3セメスターでは、学生が希望する実習先を選択できるよう、各領域・実習先の概要、実習で必要とされるソーシャルワークの知識と技術等について、現場の専門職による講義をとおして学習する。希望する実習領域・実習先が確定する4セメスターでは、それぞれで必要とされる知識・技術についてグループ学修を行う。</p>
到達目標	<p>実践で必要とされる社会福祉専門職としての技術について理解し、ある程度使用できることをめざす。あわせてグループ学習をとおして他者の意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習及び実習指導の意義について説明できる。</li> <li>2. 多様な施設や事業所について理解し、説明できる。</li> <li>3. 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む）と、施設・機関、地域社会等について基本的なことが説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt;落合克能、泉谷朋子、小畑美穂、川向雅弘、佐藤順子、福田俊子 &lt;授業内容・テーマ等&gt; 【3セメスター】 第1回：落合 オリエンテーション、ソーシャルワーク実習の基本的理解 ①カリキュラム構成・現場実習および実習指導の意義・目的、スケジュール等 ②施設・機関の種別・種類の理解、教員紹介（各領域担当者）</p> <p>※以下、第2回～第6回は、実際に実習を行う実習分野（こども、高齢者、障がい者、社協）における利用者理解を含む施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解、実習生としての課題の理解</p> <p>第2回：外部講師 実習先を選択する上での学修①こども領域 第3回：外部講師 実習先を選択する上での学修②障がい領域（知的等） 第4回：外部講師 実習先を選択する上での学修③障がい領域（救護等） 第5回：外部講師 実習先を選択する上での学修④高齢者領域 第6回：外部講師 実習先を選択する上での学修⑤社協領域 第7回：落合・各領域担当 全体オリエンテーション 今後のスケジュール 担当教員による領域別説明会 各領域の実習先の活動内容・特徴の理解、実習生としての課題の理解 第8回：各領域担当 担当教員による領域別説明会、担当教員による相談会 第9回：落合・各領域担当 実習の達成課題に関する説明および領域別課題等の説明</p>

	<p>【4セメスター】</p> <p>第10回：落合・各領域担当 全体説明および領域別説明① ①4セメスタースケジュールおよび配属先等に関する説明 ②各領域の詳細説明領域別学習 実習領域と施設・機関・団体に関する基本的な理解</p> <p>第11回：各領域担当 領域別学修②実習施設・事業所・機関・団体と地域社会に関する基本的な理解</p> <p>第12回：各領域担当 領域別学修③学習のまとめ</p> <p>第13回：各領域担当 領域別学修④実習先で必要とされるソーシャルワークの知識</p> <p>第14回：各領域担当 領域別学修⑤実習先で必要とされるソーシャルワークの技術</p> <p>第15回：落合・各領域担当 全体授業 実習計画書の作成、個人票の書き方・提出について 領域別学修⑥各領域における領域特有の方法等詳細説明</p>				
アクティブラーニング	本授業は、グループワーク、プレゼンテーション等を取り入れて実施する。				
授業内の ICT 活用	各領域の学修内容による。				
評価方法	授業参加態度 25%、領域別学修課題・レポート 75%。				
課題に対するフィードバック	各実習領域の個別学修でフィードバックを行う。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
社会福祉用語辞典 [第9版]	山縣 文治	ミネルヴァ書房	2200	9784623065431	冊子版
参考図書	随時紹介する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	<p>今までの実習体験を振り返り、ノートを読み直すなどをした上で臨む。3セメの外部講師の授業の前には、必ず予習をして臨む。</p> <p>4セメスターの領域別学修の際は、実習先施設・事業所について、自ら課題を設定したうえで制度的・実践的両面での予習・復習を行いながら臨む。(目安時間 40 分)</p>				
オープンエデュケーションの活用	各領域の学習内容による。				
オフィスアワー	落合 克能 (2613 研究室) メール: katsutaka-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ
科目責任者	落合 克能
単位数他	2単位 (60時間) 選択 56セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	<p>本科目はソーシャルワーク実習の直前学習、事後学習として位置づけられ、①ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的にかつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を修得すること、②実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養することをねらいとしている。</p> <p>実習直前学修は、配属実習を行う上での最終的な準備を整えることが主な授業内容となる。事後学修は、配属実習の振り返り、まとめ、実習報告会での発表、実習総括レポートの作成を行う。そのプロセスはグループ及び個別スーパービジョンによって進められる。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術について理解し、説明できる</li> <li>2. 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等について理解し、実践できる</li> <li>3. 実習記録への記録内容及び記録方法について理解し、実践できる</li> <li>4. 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成及び実習後の評価ができる</li> <li>5. 実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理とそれを踏まえた総括レポートを作成できる</li> <li>6. 実習総括のための報告会で発表でき、実習の評価ができる</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt;落合克能、泉谷朋子、小畑美穂、川向雅弘、佐藤順子、福田俊子 &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p><b>【実習の直前学習】</b></p> <p>第1回：全体授業：事前準備の概要、実習計画書の作成、事前訪問の意義、訪問の仕方、記録の意義、実習ノートの書き方(落合)、領域別学習(各担当教員)</p> <p>第2回：領域別学修① 実習領域と施設・事業所・機関・団体・利用者に関する理解(各担当教員)</p> <p>第3回：           〃   ② 実習施設・事業所・機関・団体と地域社会に関する理解(各担当教員)</p> <p>第4回：           〃   ③ 必要とされるソーシャルワークの価値規範・倫理・知識・技術の理解(各担当教員)</p> <p>第5回：           〃   ④ 必要とされるソーシャルワークの価値規範・知識・技術の修得、実習計画書作成(各担当教員)</p> <p>第6回：実習先事前訪問 実習計画書に関する実習指導者との協議 (各担当教員)</p> <p>第7回：全体授業：スーパービジョンの意義、評価票の記入の仕方、活用方法、プライバシーの尊重と守秘義務、実習生の役割(落合)、領域別学習(各担当教員)</p> <p>第8回：領域別学修⑤ 実習計画書の書き方指導、その他、個別指導等(各担当教員)</p> <p>第9回：領域別学修⑥ 実習計画書の書き方指導、その他、個別指導等(各担当教員)</p> <p>第10回：領域別学修⑦ 実習計画書の書き方指導、その他、個別指導等(各担当教員)</p> <p>※実習中は、概ね週1回の巡回指導</p>

	<p><b>【実習の事後学習】</b></p> <p>第11回：全体講義：配属実習終了後のオリエンテーション 落合</p> <p>第12回：領域別学修－グループスーパービジョン（実習体験共有①） 各担当教員</p> <p>第13回： // －グループスーパービジョン（実習体験共有②） 各担当教員</p> <p>第14回： // －GSV（自己の実習体験を多面的にとらえる①） 各担当教員</p> <p>第15回： // －GSV（自己の実習体験を多面的にとらえる②） 各担当教員</p> <p>第16回： // －GSV（実習計画の評価） 各担当教員</p> <p>第17回： // －GSV（記録等を踏まえた自己の実習体験の意味づけ①） 各担当教員</p> <p>第18回： // －GSV（記録等を踏まえた自己の実習体験の意味づけ②） 各担当教員</p> <p>第19回： // －GSV（実習体験・記録を踏まえた自己課題の整理） 各担当教員</p> <p>第20回： // －GSV グループワーク実習報告会に向けて方針検討 各担当教員</p> <p>第21回： // －GSV 実習報告会に向けて発表内容の検討 各担当教員</p> <p>第22回： // －GSV 実習報告会に向けて発表内容をまとめる 各担当教員</p> <p>第23回： // －GSV 実習報告会に向けてプレゼン方法の検討 各担当教員</p> <p>第24～26回（3コマ連続授業）：実習報告会 全担当教員</p> <p>第27回：全体授業 実習報告会振り返り（全体総括会） 全担当教員</p> <p>第28回：個別スーパービジョン（実習の評価、自己の学習内容の言語化） 各担当教員</p> <p>第29回： // （実習の評価、自己の課題の明確化） 各担当教員</p> <p>第30回： // （実習総括レポート作成に向けての指導） 各担当教員</p>					
アクティブラーニング	本授業は、グループワーク、プレゼンテーション等を取り入れて実施する。					
授業内の ICT 活用	実習報告会においてはプロジェクターを用いてグループ発表のプレゼンテーションを行う。					
評価方法	領域別授業（事前・事後）、報告会に向けての準備等への参加状況・学習状況（提出物・実習計画書含む）40%、総括レポート60%で評価する。					
課題に対するフィードバック	スーパービジョンにてフィードバックする。					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
社会福祉用語辞典 [第9版]	山縣 文治	ミネルヴァ書房	2200	9784623065431	冊子版	
参考図書	随時紹介する					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	<p>実習の直前学習においては、実習指導Ⅰでの学びの振り返り、新たな課題についての調べ学習、実習計画書の作成が課題となる。</p> <p>実習の事後学習においては、実習体験の振り返り、実習記録の読み込み、実習での学びの整理がグループスーパービジョンに臨むにあたって必要となる。（目安時間 40分）</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	落合 克能（2613 研究室） メール：katsutaka-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					



科目名	精神保健福祉演習 I
科目責任者	佐々木 正和
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	①精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要及び過程について ②精神保健福祉分野における家族支援の実際について
到達目標	①精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。 ②精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。 ③精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;佐々木正和・平野慎一郎 &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：オリエンテーション・グループづくり 医療機関 受診、受療、入院 精神保健福祉法</p> <p>第 2 回：講義・グループワーク 医療機関 地域生活支援・SST、グループワーク</p> <p>第 3 回：講義・グループワーク 医療機関 薬物療法、認知行動療法、精神科リハビリテーション</p> <p>第 4 回：講義・グループワーク 医療機関のデイケア・ナイトケア</p> <p>第 5 回：講義・グループワーク 医療機関の多職種連携</p> <p>第 6 回：講義・グループワーク 医療機関・福祉機関（被災による孤立、PTSD、不眠・不安）災害支援</p> <p>第 7 回：演習グループ中間発表</p> <p>第 8 回：講義・グループワーク 障害福祉サービス事業所 相談支援事業所の役割</p> <p>第 9 回：講義・グループワーク 障害福祉サービス事業所 ひきこもりの若者支援</p> <p>第 10 回：講義・グループワーク 障害福祉サービス事業所 地域移行支援</p> <p>第 11 回：講義・グループワーク 障害福祉サービス事業所 就労支援</p> <p>第 12 回：講義・グループワーク 行政機関 受診・受療に向けた支援</p> <p>第 13 回：講義・グループワーク 行政機関 精神医療審査会における退院請求</p> <p>第 14 回：まとめ① 第 15 回：まとめ②</p>
アクティブラーニング	反転授業、グループワーク、ロールプレイを用いた講義を行います。課題提出などは、WebClass を活用し双方向の情報提供を行います。
授業内の ICT 活用	WebClass によるリアクションペーパーの提出してもらい、リアクションであげられた感想、質問項目を定期的にフィードバックしている。また、プロジェクターを用いて、クイズ等で理解度の確認を双方向の講義を実施している。
評価方法	リアクションペーパー30%、定期試験 70%
課題に対するフィードバック	webClass にてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。

指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
最新精神保健福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習 [精神専門]	日本ソーシャルワーク 教育学校連盟 編集	中央法規出版	3000	9784805882580	冊子版	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	<p>事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に教科書の単元を読み込んでおくこと (1～15回)</li> <li>・講義前に前回資料の復習をしておくこと (2～14回)</li> </ul> <p>事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後にWebClass内のリアクションペーパーに回答すること (1～15回)</li> </ul> <p>(事前・事後学修 目安時間 40分)</p>					
オープンエデュケーションの活用	自主学習として、提示したオンライン教材の受講を勧めます (講義で提示)					
オフィスアワー	佐々木 正和 (2605 研究室) メール:masakazu-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	精神保健福祉演習Ⅱ
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2単位 (30時間) 選択 7セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	福祉サービス事業所や行政機関・社会福祉協議会での精神保健福祉士を主とした演習
到達目標	①福祉サービス事業所や行政機関・社会福祉協議会を利用する精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人へのソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎を獲得できた。 ②福祉サービス事業所や行政機関・社会福祉協議会を利用する精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになった。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt; 大場義貴、佐々木正和</p> <p>[コマ数] 領域/精神保健福祉士の職場(対象者の疾患名等)/課題・テーマ/援助技術/法制度・サービス</p> <p>[第1回] 福祉サービス事業所/相談支援事業所(両親死亡・統合失調症 合併症あり(糖尿病、高血圧)/社会的孤立・8050問題への支援/危機介入、ケアマネジメントのプロセス/障害者総合支援法・障害者年金受給申請</p> <p>[第2回] 福祉サービス事業所/相談支援事業所(両親死亡・統合失調症 合併症あり(糖尿病、高血圧)/社会的孤立・8050問題への支援/ケア会議、計画相談、個別支援会議(本人にもわかる支援計画の書き方)/障害者総合支援法・障害者年金受給申請</p> <p>[第3回] 福祉サービス事業所/就労移行事業所(統合失調症)/就労支援/個別支援計画・ネットワークとの連携、連携先/障害者総合支援法</p> <p>[第4回] 福祉サービス事業所/就労移行事業所(統合失調症)/就労支援/個別支援と職場開拓、社会資源の開発/障害者総合支援法</p> <p>[第5回] 福祉サービス事業所/相談支援事務所/ピアサポート/当事者活動、人材育成、ピアサポーターとの連携の仕方・行政との連携/障害福祉サービス</p> <p>[第6回] 福祉サービス事業所/生活訓練(訪問型/ひきこもり状態)/ひきこもり支援/アウトリーチ/リンクージュ/ひきこもり地域支援センター</p> <p>[第7回] 福祉サービス事業所/生活訓練(訪問型/ひきこもり状態)/ひきこもり支援/マネジメント、地域生活支援全般/ひきこもり対策推進支援事業</p> <p>[第8回] 行政機関・社会福祉協議会/保健所/自殺予防/調査、普及啓発、人材育成・ゲートキーパーの養成、マクロ/自殺防止対策基本法</p> <p>[第9回] 行政機関・社会福祉協議会/保健所(精神保健福祉相談/ひきこもり状態)/家族支援/家族支援、相談援助技術/社会資源の活用、精神保健福祉相談、精神障害者家族会、家族教室</p> <p>[第10回] 行政機関・社会福祉協議会/市町村自立支援協議会/障害福祉計画/調査、実地、計画作成、評価、マクロ、資源創出/精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの体制構築</p> <p>[第11回] 行政機関・社会福祉協議会/市町村(高次脳機能障害)/生活困窮、貧困、低所得/リンクージュ、制度の利用支援/生活困窮者自立支援制度・障害者手帳制度・生活保護制度</p> <p>[第12回] 行政機関・社会福祉協議会/基幹型(統合失調感情障害・軽度知的障害)/障害者虐待(施設虐待)/ニーズの発見、虐待の初期対応/障害者虐待防止法</p> <p>[第13回] 行政機関・社会福祉協議会/精神保健福祉センター(躁うつ病)/人権/アドボカシー、面接/精神保健福祉法</p> <p>[第14回] 行政機関・社会福祉協議会/社会福祉協議会/精神保健ボランティア/人材育成(ボランティア養成)・地域の住民力の醸成/精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの体制構築</p> <p>[第15回] 行政機関・社会福祉協議会/心のケアセンター(うつ状態)/被災者支援・こころのケア/個別面接技術・被災者の心のケア、グリーンケア(ミカ・マリ)/被災者生活再建支援制度・災害障害者支援制度</p>
アクティブラーニング	・本授業は、PBL(課題解決型学習)、グループワーク、プレゼンテーション、を取り入れて実施します。

授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。</li> <li>・グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。</li> </ul>					
評価方法	100 点満点とし、定期試験（レポート）50%、授業への取り組み・発表・事前事後学修提出状況 50%として評価します。 レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に提示します。					
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。 個別に質問がある場合は、WebClass やオフィスアワーで対応します。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	①授業前に WebClass 内の事前課題に回答すること（各 20 分 2～15 回） ②授業後に WebClass 内の事後課題に回答すること（各 20 分 2～15 回）					
オープンエデュケーションの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主学習として、以下の URL の講座の受講を勧めます（厚生労働省 HP）</li> <li>・地域移行 地域定着 自立支援援助</li> </ul> <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/000670105.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/000670105.pdf</a> <ul style="list-style-type: none"> <li>・退院後生活環境相談員</li> </ul> <a href="http://www.japsw.or.jp/ugoki/hokokusyo/201903-guideline.pdf">http://www.japsw.or.jp/ugoki/hokokusyo/201903-guideline.pdf</a>					
オフィスアワー	研究室は 2608 です。時間については初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について						

科目名	精神保健福祉演習Ⅲ
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	高齢者領域、教育機関、司法領域、産業領域における精神保健福祉士を主とした演習
到達目標	①高齢者領域、教育機関、司法領域、産業領域における精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人へのソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得できた。 ②高齢者領域、教育機関、司法領域、産業領域における精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになった。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt; 大場義貴、佐々木正和</p> <p>[コマ数] 領域/精神保健福祉士の職場（対象者の疾患名等）/課題・テーマ/援助技術/法制度・サービス</p> <p>[第1回] 高齢者/地域包括支援センター（統合失調症（2人とも）・認知症（兄のみ））/認知症/危機介入、関係機関の連携/成年後見（今後、兄に）</p> <p>[第2回] 高齢者/一体型の相談支援事業所（障害福祉と介護サービス）/高齢精神障害者・障害と介護の複合/ケアマネジメント/障害者総合支援法、介護保険法</p> <p>[第3回] 高齢者/一体型の相談支援事業所（障害福祉と介護サービス）/高齢精神障害者・障害と介護の複合/リネジ /共生型サービス</p> <p>[第4回] 教育機関/学校（母親に何らかの精神疾患がうかがわれる）/児童虐待（ネグレクト）/危機介入、スクールソーシャルワーク/児童虐待防止法</p> <p>[第5回] 教育機関/学校（自傷行為、性別違和）/メンタルヘルス /危機介入/学校保健安全法・スクールソーシャルワーカー活用事業</p> <p>[第6回] 教育機関/学校（自傷行為、性別違和）/メンタルヘルス/普及啓発/こころの健康対策</p> <p>[第7回] 司法/地域定着支援センター（軽度知的障害・シンナー依存）/触法障害者/出所者の（居住）支援、刑務所との連携/刑法・生活保護制度</p> <p>[第8回] 司法/地域定着支援センター（軽度知的障害・シンナー依存）/触法障害者/地域の支援ネットワーク、生活スキルの獲得/刑法・生活保護制度</p> <p>[第9回] 司法/更生保護施設（児童養護施設・覚せい剤）/ハームリダクション/ダルク、アディクション、薬物、覚せい剤の再犯防止/更生保護法、覚せい剤取締法</p> <p>[第10回] 司法/保護観察所（統合失調症）/地域移行/ケアマネジメント、関係機関との連携、社会復帰調整官、指定通院中の支援、地域に出るからの自立支援/医療観察法、就労B型</p> <p>[第11回] 産業/就業・生活支援センター（発達障害）/窓外受容・就労支援・合理的配慮/就労支援、IPS/障害者総合支援法・障害者権利条約・就労移行支援事業所</p> <p>[第12回] 産業/就業・生活支援センター（発達障害）/窓外受容・就労支援・合理的配慮/自立生活支援・ストレンクス視点/障害者総合支援法・障害者権利条約・就労移行支援事業所</p> <p>[第13回] 産業/EAP 機関（うつ病）/リワーク、職場ストレス/リワーク、EAP、多機関・他職種連携/労働安全衛生法（ストレスチェック制度）、傷病手当、休職制度</p> <p>[第14回] 産業/EAP 機関（うつ病）/リワーク、職場ストレス/認知行動療法、グループワーク/労働安全衛生法（ストレスチェック制度）、傷病手当、休職制度</p> <p>[第15回] 産業/企業（高次脳機能障害）/障害者差別/障害者雇用との調整、特例子会社（障害者差別と合理的配慮）、ソーシャルアクション /障害者差別解消法、障害者雇用促進法</p>
アクティブラーニング	・本授業は、PBL（課題解決型学習）、グループワーク、プレゼンテーション、を取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	・ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。 ・グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。

評価方法	100点満点とし、定期試験（レポート）50%、授業への取り組み・発表・事前事後学修提出状況50%として評価します。 レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に提示します。					
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体の中でフィードバックを行います。 個別に質問がある場合は、WebClass やオフィスアワーで対応します。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	①授業前に WebClass 内の事前課題に回答すること（各 20 分 2～15 回） ②授業後に WebClass 内の事後課題に回答すること（各 20 分 2～15 回）					
オープンエデュケーションの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主学習として、以下の URL の講座の受講を勧めます（厚生労働省 HP）</li> <li>・精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム 行政説明「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進に向けて」 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=aTxSv62jFLQ&amp;feature=emb_title">https://www.youtube.com/watch?v=aTxSv62jFLQ&amp;feature=emb_title</a> 講義「協議の場の展開」 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=tfKaICmVEos&amp;feature=emb_logo">https://www.youtube.com/watch?v=tfKaICmVEos&amp;feature=emb_logo</a></li> </ul>					
オフィスアワー	研究室は 2608 です。時間については初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について						

科目名	精神保健福祉実習指導 I					
科目責任者	佐々木 正和					
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。					
科目概要	精神保健福祉実習を通して、精神障害者のおかれている現状や生活の実態や生活上の困難について理解すると共に、具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化、理論化、体系化していくことができる能力を習得するための、事前準備、事後の振り返りを行う。精神保健福祉実習を効果的にすすめるために、「実習の手引き」及び「ワークシート」を活用する。実習後においては、必要な個別指導を行う。					
到達目標	1. 精神保健福祉実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。 2. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。					
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;佐々木正和 大場義貴 (両名が 1 回から 15 回まで担当)</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>実習前</p> <p>第 1 回：実習と実習指導における個別指導及び集団指導の意義</p> <p>第 2 回：実習現場の理解 (各論)：就労支援① (講義) (ゲストスピーカー)</p> <p>第 3 回：実習現場の理解 (各論)：就労支援② (グループワーク) (ゲストスピーカー)</p> <p>第 4 回：実習現場の理解 (各論)：行政機関① (講義) (ゲストスピーカー)</p> <p>第 5 回：実習現場の理解 (各論)：行政機関②(グループワーク) (ゲストスピーカー)</p> <p>第 6 回：実習現場の理解 (各論)：精神科病院① (講義) (ゲストスピーカー)</p> <p>第 7 回：実習現場の理解 (各論)：精神科病院②(グループワーク) (ゲストスピーカー)</p> <p>第 8 回：実習現場の理解 (各論)：地域活動支援センター・相談支援事業所など</p> <p>第 9 回：実習現場の理解 (各論)：精神科デイケア・訪問看護など</p> <p>第 10・11 回：実習先を選択するための学習・個別課題の設定 (グループワーク・個別指導)</p> <p>第 12 回：実習先で必要とされる専門的知識と技術に関する理解</p> <p>第 13 回：「実習記録」の記録内容及び記録方法に関する理解</p> <p>第 14・15 回：精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解</p>					
アクティブラーニング	本授業では反転授業、グループワークやロールプレイを取り入れて実施します。課題提出などは、webClass を活用し双方向で情報提供を行います					
授業内の ICT 活用	WebClass によるリアクションペーパーの提出してもらい、リアクションであげられた感想、質問項目を定期的にフィードバックしている。また、プロジェクターを用いて、クイズ等で理解度の確認を双方向の講義を実施している。					
評価方法	授業への取り組み 50%、定期試験 (レポート) 50%によって行う。 レポートについてはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。					
課題に対するフィードバック	WebClass にてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
実習生必携 ソーシャルワーク実習ノート[第3版]	杉本 浩章	みらい	1500	9784860155674	冊子版	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	

事前・事後学修	<p>事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の単元を読み込んでおくこと（3～10回）。</li> <li>・提出する資料を作成しておくこと（12～17回）。</li> </ul> <p>事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後にWebClass内のリアクションペーパーに回答すること（1～40回）</li> </ul> <p style="text-align: right;">（事前・事後学修 目安時間 40分）</p>
オープンエデュケーションの活用	<p>自主学習として、提示したオンライン教材の受講を勧めます（講義で提示）</p>
オフィスアワー	<p>佐々木 正和 (2605 研究室) メール:masakazu-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。</p>
実務経験に関する記述	<p>本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>
メディア授業の実施について	<p>なし</p>



科目名	精神保健福祉実習指導Ⅱ				
科目責任者	佐々木 正和				
単位数他	2 単位 (60 時間) 選択 78 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。				
科目概要	精神保健福祉実習を通して、精神障害者のおかれている現状や生活の実態や生活上の困難について理解すると共に、具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化、理論化、体系化していくことができる能力を習得するための、事前準備、事後の振り返りを行う。精神保健福祉実習を効果的にすすめるために、「実習の手引き」及び「ワークシート」を活用する。実習後においては、必要な個別指導を行う。				
到達目標	精神保健福祉実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。				
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 佐々木正和 大場義貴 (両名が1回から30回まで担当)</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1・2回：実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解 佐々木・大場</p> <p>第3・4回：巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）の意義について佐々木・大場</p> <p>第4・5回：実習先の特徴の整理・実習計画書の作成 佐々木・大場</p> <p>第6・7回：実習計画の発表 佐々木・大場</p> <p>第8・9回：中間報告会 佐々木・大場</p> <p>第10・11回：中間報告会</p> <p>実習後</p> <p>第12・13回：グループスーパービジョン 佐々木・大場</p> <p>第14～20回：実習の振り返りと実習報告会準備 佐々木・大場</p> <p>第21～25回：実習報告会 佐々木・大場</p> <p>第26回：実習報告会振りかえり</p> <p>第27回：専門職としての理解：当事者からの学び①（講義）（ゲストスピーカー）</p> <p>第28回：専門職としての理解：当事者からの学び②（グループワーク） 佐々木・大場（ゲストスピーカー）</p> <p>第29回：専門職としての理解：家族からの学び①（講義）（ゲストスピーカー）</p> <p>第30回：専門職としての理解：家族からの学び②（グループワーク） 佐々木・大場（ゲストスピーカー）</p>				
アクティブラーニング	本授業では反転授業、グループワークやロールプレイを取り入れて実施します。課題提出などは、webclass を活用し双方向で情報提供を行います				
授業内の ICT 活用	Webclass によるリアクションペーパーの提出してもらい、リアクションであげられた感想、質問項目を定期的にフィードバックしている。また、プロジェクターを用いて、クイズ等で理解度の確認を双方向の講義を実施している。				
評価方法	授業への取り組み 50%、定期試験（レポート） 50%によって行う。 レポートについてはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。				
課題に対するフィードバック	WebClass にてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。				
指定図書	3年次に購入した教科書と同じです。3年次にすでに購入している方は購入する必要はありません。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
実習生必携 ソーシャルワーク実習ノート[第3版]	杉本 浩章	みらい	1500	9784860155674	冊子版

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	<p>事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の単元を読み込んでおくこと（3～10回）。</li> <li>・提出する資料を作成しておくこと（12～17回）。</li> </ul> <p>事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業後にWebClass内のリアクションペーパーに回答すること（1～40回）</li> </ul> <p style="text-align: right;">（事前・事後学修 目安時間 40分）</p>					
オープンエデュケーションの活用	自主学習として、提示したオンライン教材の受講を勧めます（講義で提示）					
オフィスアワー	研究室は2605研究室です。時間は初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について						

科目名	精神保健福祉実習
科目責任者	佐々木 正和
単位数他	5 単位 (210 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得すると共に、総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 学生が以下に示す達成課題に取り組むことができるように、実習先の実習指導者並びに実習担当教員は、実習状況を把握し、適宜指導を行う。
到達目標	1. 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 2. 精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt; 佐々木正和 大場義貴 (実習巡回指導は両名が行う)</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>精神科病院等の病院において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、原則的に次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。</p> <p>①入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助 ②退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助 ③多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助</p> <p>精神科診療所において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、原則的に次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。</p> <p>①治療中の患者及びその家族への相談援助 ②日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助 ③地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助</p> <p>地域の障害福祉サービス事業を行う施設等や精神科病院等の医療機関の実習を通して、原則的に次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。また、不足する内容に関しては、精神保健福祉実習にて補う。</p> <p>①利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ②利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 ③利用者やその関係者 (家族・親族・友人等) との支援関係の形成 ④利用者やその関係者 (家族・親族・友人等) への権利擁護及び支援とその評価 ⑤精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ⑥精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解 ⑦施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 ⑧施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際 ⑨当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</p>
アクティブラーニング	webclass 上で講義や講演会の情報等の情報交換を双方向で行う。
授業内の ICT 活用	Webclass によるリアクションペーパーの提出してもらい、リアクションであげられた感想、質問項目を定期的にフィードバックしている。また、プロジェクターを用いて、クイズ等で理解度の確認を双方向の講義を実施している。

評価方法	実習への取り組み 70%、定期試験（レポート） 30%によって行う。 レポートについてはルーブリックを用いて評価するルーブリックの内容は授業中に提示する。					
課題に対するフィードバック	実習巡回、帰校日等で随時指導します。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	各回の進行に応じて、次回の事前学修の内容を実習指導者と相談し、準備をして臨んで下さい。また、各回の事後学修を日誌にて記入して下さい。巡回指導の際、確認し指導します。 各回 20分程度の復習と、20分程度の予習をして実習に臨んでください。					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	研究室は 2605 研究室です。時間は初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について						

科目名	生活支援技術 I
科目責任者	水野 尚美
単位数他	2 単位 (60 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する科目とする。 「居住環境整備」「移動」「身じたく」について、介護場面での支援方法を学ぶ。
到達目標	1. 「居住環境整備」「移動」「身じたく」の意義を理解し説明できる。 2. 役割モデルを対象に、ベッドメイキング、移動、身じたくの支援を行うことができる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員：第1～10回・水野尚美、佐藤美哉子 第11～20回・野田由佳里、佐藤美哉子 第21～30回・井川淳史、佐藤美哉子&gt;</p> <p>&lt;担当：水野・佐藤&gt;</p> <p>第1回：ガイダンス、生活とは何か、生活支援の理解</p> <p>第2回：自立に向けた居住環境の整備、安全で心地よい生活の場づくり、ボディメカニクス</p> <p>第3回：ベッドメイキング講義、ベッドメイキング（2人で行う①）</p> <p>第4回：ベッドメイキング（2人で行う②）</p> <p>第5回：ベッドメイキング（2人で行う③）</p> <p>第6回：ベッドメイキング（ベッドに臥床している人がいる場合①）</p> <p>第7回：ベッドメイキング（ベッドに臥床している人がいる場合②）</p> <p>第8回：ベッドメイキング（ベッドに臥床している人がいる場合③）</p> <p>第9回：実技確認（ベッドメイキング）</p> <p>第10回：まとめ、小テスト①</p> <p>&lt;担当：野田・佐藤&gt;</p> <p>第11回：自立へ向けた移動の介護、移動の意義と目的、安全で気兼ねなく動けることを支える介護、車いすの基本知識、使用方法、ベッド上での移動</p> <p>第12回：起き上がりの介護、立ち上がりの介護移乗の介護（端座位⇔車いす）</p> <p>第13回：移乗の介護（仰臥位⇔車いす）</p> <p>第14回：移乗の介護（椅座位⇔車いす）</p> <p>第15回：移乗の介護（福祉用具を用いた移乗）</p> <p>第16回：実技確認（移乗の介助）</p> <p>第17回：車いすでの移動 講義</p> <p>第18回：車いすでの移動 演習</p> <p>第19回：歩行、杖歩行の介護（2動作歩行、3動作歩行）</p> <p>第20回：実技確認（歩行、杖歩行の介護）、小テスト②</p> <p>&lt;担当：井川・佐藤&gt;</p> <p>第21回：自立に向けた身じたくの介護、身じたくの意義と目的、生活習慣と装いの楽しみを支える介護</p> <p>第22回：整容行動に関するアセスメントと介助の技法、整容・口腔ケア 演習</p> <p>第23回：衣服の着脱介護（座位、かぶり①）</p> <p>第24回：衣服の着脱介護（座位、かぶり②）</p> <p>第25回：衣服の着脱介護（座位、前開き①）</p> <p>第26回：衣服の着脱介護（座位、前開き②）</p> <p>第27回：衣服の着脱介護（臥位①）</p> <p>第28回：衣服の着脱介護（臥位②）</p> <p>第29回：実技確認（衣類の着脱介護）</p> <p>第30回：まとめ、小テスト③</p>
アクティブラーニング	グループワーク、実技演習を取り入れて行います。
授業内の ICT 活用	なし

評価方法	授業態度・実技チェック度 50%、小テスト・課題提出物など 50% 計 100% 課題提出物については、リアクションペーパーや課題の提出状況と内容などの全体から判断します。					
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>小テストの解説は授業内で行います。</li> <li>提出されたリアクションペーパーはコメントを入れ、次回以降の授業での共有と個人への返却を行います。</li> </ul>					
指定図書	『介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ』中央法規出版					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	必要時、適宜紹介します。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	<p>事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読し、介助手順を覚えたうえで留意点と根拠を整理しておく（2～29回）</p> <p>事後学修：授業で行った技術を自身の日常生活動作に関連付け、繰り返し実践する（1～30回）</p> <p>目安時間 40分／回</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	水野 尚美 (2707 研究室) メール:naomi-mi@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	生活支援技術Ⅱ					
科目責任者	水野 尚美					
単位数他	2 単位 (60 時間) 選択 2 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP3 専門					
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。					
科目概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する科目とする。 「入浴・清潔保持」「排泄」「食事」について、介護場面での支援方法を学ぶ。					
到達目標	1. 入浴・清潔保持、排泄、食事の意義と目的を理解し、基本的な支援方法について修得し、役割モデルを対象に支援を行うことができる。 2. 自らの役割を理解し、必要に応じて他の職種と協働することを説明できる。					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員：水野尚美、井川淳史&gt;</p> <p>&lt;担当：水野、井川&gt;</p> <p>第1-2回：ガイダンス 自立に向けた入浴・清潔保持の介護入浴の意義と目的、入浴に関する利用者のアセスメント、さまざまな入浴介助の方法</p> <p>第3-4回：入浴・清潔保持（シャワー浴、個別浴槽）</p> <p>第5-6回：入浴・清潔保持に関わる移乗介助、入浴・清潔保持（特殊浴槽）</p> <p>第7-8回：入浴・清潔保持（ベッド上での洗髪）</p> <p>第9-10回：入浴・清潔保持（部分浴：手浴、足浴）</p> <p>第11-12回：入浴・清潔保持（清拭）、入浴・清潔保持の介護のまとめ</p> <p>第13-14回：自立に向けた排泄の介護、意義・目的、利用者のアセスメント 排泄に関する基礎知識、気持ちよい排泄を支える介護、他の職種の役割と協働</p> <p>第15-16回：トイレでの排泄①</p> <p>第17-18回：トイレでの排泄②</p> <p>第19-20回：ポータブルトイレでの排泄、ベッド上での排泄（尿器、差し込み便器）</p> <p>第21-22回：ベッド上での排泄（オムツ）</p> <p>第23-24回：実技確認 排泄の介助、排泄の介護のまとめ</p> <p>&lt;担当：水野&gt;</p> <p>第25-26回：自立に向けた食事の介護、意義と目的、利用者のアセスメント、食事に関する基礎知識、 おいしく食べることを支える介護、他の職種の役割と協働、脱水予防、食事の使用する様々な福祉用具</p> <p>第27-28回：食事形態の違いによる食事介助、ベッド上での食事の介護、口腔ケア</p> <p>第29-30回：食事の介護のまとめ</p>					
アクティブラーニング	実技演習、グループワークを取り入れて行います。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	授業態度・実技チェック度 50% 小テスト・課題提出物など 50% 課題提出物については、リアクションペーパーや課題の提出状況と内容などの全体から判断します。					
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストは授業内で解説します。</li> <li>・提出されたリアクションペーパーはコメントを入れ、次回以降の授業で全体へのフィードバック及び個人への返却を行います。</li> </ul>					
指定図書	『最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ』中央法規出版					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	

参考図書	適宜、授業内で紹介します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読し、介助手順を覚えたうえで留意点と根拠を整理しておく。</p> <p>事後学修：授業で行った技術を自身の日常生活動作に関連付け、繰り返し実践する 目安時間 40 分／回</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	水野 尚美 (2707 研究室) メール:naomi-mi@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	生活支援技術Ⅲ
科目責任者	篠崎 良勝
単位数他	2単位 (60時間) 選択 4セメスター
DP番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	<p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し本人主体の生活が継続でき、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する科目とする。</p> <p>安全に安楽な生活支援を理解し、実践するための介護技術や知識を習得する。</p> <p>利用者の抱える内部障害や神経疾患、高次脳機能障害、コミュニケーション障害、精神・知的障害や寝たきり状態などで生ずる様々な生活困難に対して、アセスメントが的確にでき、障害に応じた自立に向けた家事の介護や適切な生活の場を提供するための援助技法を学習する。</p> <p>その人のライフスタイルに応じたその人らしい人生の最終段階を過ごすための生活支援を可能とするための実践技法を学習する。</p>
到達目標	尊厳の保持の視点を大切にし、様々な障害を抱える利用者に対し、適切な生活の場や家事援助・生活支援が提供でき、安心して人生の最終段階における介護が提供できる技術を習得する。
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;篠崎良勝、田崎裕美、奥田都子、佐藤豊展、金谷節子</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：篠崎 ガイダンス、生活支援の理解と医学、家政学、リハビリテーション学、宗教学などの関係</p> <p>第2回：篠崎 自立に向けた居住環境の整備の意義、目的、他職種との連携</p> <p>第3回：篠崎 自立に向けた生活空間と介護—生活の場、住み慣れた地域での生活・居住環境のアセスメント（ICFの視点に基づく全体像・安全な生活の場）</p> <p>第4回：篠崎 浴室、台所、安全性、快適性、プライバシー・バリアフリー、ユニバーサルデザイン、ユニットケア、施設等での住宅の工夫、他</p> <p>第5-6回：佐藤 嚥下のメカニズム・嚥下に関する用語の理解</p> <p>第7回：篠崎 発達と老化・嚥下訓練におけるチームアプローチ</p> <p>第8回：佐藤 嚥下訓練におけるチームアプローチ・嚥下調整食</p> <p>第9回：佐藤 嚥下障害の直接訓練・介助方法</p> <p>第10回：篠崎 自立に向けた食事の介護の意義・目的</p> <p>第11回：金谷 高齢者・嚥下障害者の食事</p> <p>第12回：金谷 嚥下調整食ピラミッド</p> <p>第13回：金谷 嚥下調整食の基本・水分摂取</p> <p>第14回：金谷・篠崎 調理実習【人気のある嚥下調整食】</p> <p>第15回：金谷・篠崎 個別対応の実際・パッキング・訪問時の調理</p> <p>第16回：金谷 在宅訪問の実際・簡易的栄養評価の仕方</p>

	<p>第17回：篠崎 自立に向けた家事の介護の意義・目</p> <p>第18回：篠崎 自立に向けた家事の介護に参加することを支える支援・利用者の状況に応じた介助・家事に関する利用者のICFの視点に基づくアセスメント</p> <p>第19-20回：奥田 生活支援のための基礎知識：生活経営・生活支援のための基礎知識・高齢者のライフヒストリ（家族関係、地域社会との連携）</p> <p>第21-22回：田崎 食生活・生活支援のための基礎知識：在宅・施設での調理と福祉用具・利用者と共にいる調理（生活支援のための調理実習：片麻痺、下肢麻痺、視覚障害、認知障害への対応を実習）</p> <p>第23-24回：田崎 衣生活・生活支援のための基礎知識：補繕・衣服における嘔吐・排泄物の処理としみぬき、利用者と共にいるおしゃれ着洗い</p> <p>第25-26回：田崎 住生活・生活支援のための基礎知識：住空間の衛生的な維持・管理（換気・消毒・掃除）、利用者と共にいる掃除の支援</p> <p>第27回：篠崎 人生の最終段階における尊厳の保持・事前意思確認</p> <p>第28回：篠崎 人生の最終段階における利用者ICFに基づくアセスメント</p> <p>第29回：篠崎 人生の最終段階における介護実践の技法：医療との連</p> <p>第30回：篠崎 看取りのための制度、臨終時の対応 最終確認テスト・解答解説</p>				
アクティブラーニング	調理・裁縫などグループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。リアクションペーパーはWebClassに提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。				
授業内のICT活用	グループ発表・個々のプレゼンテーションは、プロジェクターを利用して行う。				
評価方法	授業態度20%、課題提出物20%、最終確認テスト60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。				
課題に対するフィードバック	WebClassで提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。				
指定図書	授業内で適宜資料を提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	授業内で適宜資料を提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学修：毎回当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。(40分) 事後学修：毎回の授業後にWeb Class内の振り返りシートに回答する。授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40分)				
オープンエデュケーションの活用	嚙下・誤嚥のメカニズム - <a href="https://www.youtube.com/watch?v=foC05_MqkOY">https://www.youtube.com/watch?v=foC05_MqkOY</a> 介護施設でのエンゼルケアの手順とマニュアル <a href="http://kanrieyoushiram.com/enzerukea">kanrieyoushiram.com/enzerukea</a>				
オフィスアワー	篠崎 良勝 (2611 研究室) メール:yoshikatsu-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「管理栄養士・言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。また家政学が専門の講師も担当します。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	生活支援技術Ⅳ
科目責任者	西藤 宏之
単位数他	2単位 (60時間) 選択 6セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	<p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、その人の潜在能力を引き出し、見守りを含めた適切な生活支援介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得するための学習としています。また、支援の対象者を深く理解するとともに、その生活課題を分析し、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習を目的とする。</p> <p>さまざまな障害に対する理解を深め、介護場面での支援方法について、講義と演習を実施します。また、利用者の状態・状況に応じて自立に向けた移動の介護、自立に向けた身じたくの介護、自立に向けた食事の介護、自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた排泄の介護について学ぶ。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者をさまざまな側面から理解するために必要な、障害の状態に応じた基本的な支援方法について習得し、自らの言葉で説明することができる。</li> <li>2. 利用者の状態・状況に応じて自立に向けた移動の介護、自立に向けた身じたくの介護、自立に向けた食事の介護、自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた排泄の介護の留意点について、説明することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回と第2回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点、知的障害のある人の生活の理解  第3回と第4回：知的障害のある人への介護過程の展開  第5回と第6回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点、精神障害のある人の生活の理解  第7回と第8回：精神障害のある人の生活支援、精神障害のある人への介護過程の展開  第9回と第10回：障害・視覚障害のいろいろ、特性と視覚障害リハビリテーションについての理解  第11回と第12回：視覚障害者に関する諸制度と生活の質を向上させる福祉機器を知る  第13回と第14回：視覚障害者の生活・就労の支援についての理解  第15回と第16回：視覚障害者の介助・ガイドの必要性と技術の理解  第17回と第18回：視覚障害者の介助・ガイドの留意点  第19回～第21回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点、高次脳機能障害のある人の生活の理解、高次脳機能障害のある人への介護過程の展開  第22回と第23回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点、発達障害のある人の生活の理解、発達障害のある人の生活支援と環境整備、発達障害のある人への介護過程の展開  第24回と第25回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点  重症心身障害のある人の生活の理解、重症心身障害のある人への介護過程の展開  第26回と第27回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点、重複障害（盲ろう）のある人の生活の理解、介護過程の展開  第28回と第29回：感覚機能・運動機能が低下している人の介助の留意点  （自立に向けた移動・身じたくの介護・食事・入浴・清潔保持・排泄の介護）  第30回：認知・知覚機能が低下している人の介助の留意点  （自立に向けた移動・身じたくの介護・食事・入浴・清潔保持・排泄の介護）</p>
アクティブラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	出席管理・授業の理解度・課題提出は WebClass を用いて、双方向型授業を目指す。
評価方法	小テスト 60%、授業態度 10%、課題提出物 30%、計 100%

課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提出物は、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業で提示する。</li> <li>・WebClass に提出されたリアクションペーパーは、次の授業時冒頭でフィードバックを行う。</li> </ul>				
指定図書	『最新 介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ』 中央法規出版 『最新 介護福祉士養成講座 14 障害の理解』 中央法規出版				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
参考図書	授業中に随時連絡				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。 事後学修：授業内容を振り返りポイントの整理と疑問点を調べる。 (目安時間各 40 分)				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	西藤 宏之 専門学校棟教員室 (6104) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定する。時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	生活支援技術V				
科目責任者	富安 奈穂美				
単位数他	2単位 (60時間) 選択 7セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。				
科目概要	外見に現れにくい内部障害のある人について学びます。障害や疾病に関する解剖生理や病態などの知識を深めます。また、利用者の状態や家族の関わりより心理的側面を理解することでどのような生活上の困りごとが生じるのか理解をします。それぞれの病態の利用者の困りごとに対してどのような支援が必要であるかについて学びます。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害や疾病に対する基礎知識を説明することができる。</li> <li>2. 障害の状態に応じた基本的な支援方法について習得し、自らの言葉で説明することができる。</li> <li>3. 利用者の状態・状況に応じて生活支援の理解、自立に向けた居住環境の整備、家族との関わり、他職種連携や福祉用具の意義と活用の留意点など介護福祉士の役割について、説明することができる。</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：内部障害の種類、内部障害に応じた介護の理解  第2回と第3回：心臓機能障害の理解（心臓の機能と主な疾患）  第4回と第5回：心臓機能障害のある人への生活支援  第6回と第7回：呼吸器機能障害の理解（呼吸器の機能と主な疾患）  第8回と第9回：呼吸器機能障害のある人への生活支援  第10回と第11回：腎臓機能障害の理解（腎臓の機能と主な疾患）  第12回と第13回：腎臓機能障害のある人への生活支援  第14回と第15回：膀胱・直腸機能障害の理解（膀胱・直腸の機能と主な疾患）  第16回と第17回：膀胱・直腸機能障害のある人への生活支援  第18回：小腸機能障害の理解（小腸の機能と主な疾患）  小腸機能障害のある人への生活支援  第19回と第20回：膀胱・直腸機能障害のある人への支援 ストーマ装具について  第21回：免疫機能障害の理解（免疫機能と主な疾患）  第22回：免疫機能障害のある人への生活支援  第23回と第24回：肝臓機能障害の理解（肝臓の機能と主な疾患）  第25回と第26回：肝臓機能障害のある人への生活支援  第27回と第28回：内部障害のある方への生活支援つについてグループワーク  第29回と第30回：生活支援についてのまとめ（障害、疾病・生活支援に対する理解）</p>				
アクティブラーニング	本授業は、グループワークを取り入れて実施します。				
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。				
評価方法	筆記試験 80%、小テスト 10%、課題提出物 10%によって評価します。				
課題に対するフィードバック	提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行います。小テストの解説は授業中に行います。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
最新 介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805883976	冊子版
最新 介護福祉士養成講座 14 障害の理解 第2版	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2200	9784805884034	冊子版

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。					
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	介護過程Ⅲ
科目責任者	野田 由佳里
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。他の科目で学習した知識や技術を統合して、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。 他科目で学んだ知識や技術を統合し、個別の生活課題や潜在能力を引き出すためのアセスメント、自立支援に沿った介護計画の立案、実施、評価までの一連の思考過程を介護実習Ⅱの事例や追体験できる ICF の概念に基づいた介護過程の展開事例を活用し、介護過程の展開方法について理解を深め、さらに、情報の関連図や介護過程の展開ツールを紹介し、利用者の心身の状況に応じた介護過程の実践的展開能力を身につける。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護過程の展開方法について理解を深めることができる。</li> <li>・介護過程の実践的展開能力が身につけている。</li> </ul>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：ガイダンス、介護過程の意義と基礎的理解、介護過程の構成要素復習 追体験の目的</p> <p>第 2 回：アセスメントの実際—テキストの関連図と「介護過程の展開における情報の関連図」</p> <p>第 3 回：アセスメントの実際—演習／介護実習Ⅱの情報の関連図を描いてみよう。</p> <p>第 4 回：アセスメントの実際—演習／介護実習Ⅱの情報の関連図の発表</p> <p>第 5 回：アセスメントの実際—演習／介護実習Ⅱの情報の関連図の文章化</p> <p>第 6 回：アセスメントの実際—演習／介護実習Ⅱの情報の関連図の文章化発表</p> <p>第 7 回：介護実習Ⅱの事例検討（情報収集に対する解釈・分析の適切性）</p> <p>第 8 回：介護実習Ⅱの事例検討（情報収集に対する解釈・分析の適切性）</p> <p>第 9 回：介護過程とチームアプローチ「介護過程の展開ツール」の紹介</p> <p>第 10 回：「ICF に基づく介護過程の展開」と「介護過程の展開ツールの比較」</p> <p>第 11 回：介護過程の展開の理解：実践事例—介護老人保健施設で生活する S さんの事例</p> <p>第 12 回：介護過程の展開の理解：実践事例—「S さんの結果に対する評価のありかた」</p> <p>第 13 回：介護過程の展開の理解：実践事例—障害者支援施設で生活する F さんの事例</p> <p>第 14 回：介護過程の展開の理解：実践事例—「F さんの結果に対する評価のありかた」</p> <p>第 15 回：まとめ</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします。事前課題には必ずディスカッションテーマを設定してありますので、授業前には内容をご確認ください。</li> <li>・事後課題では国試対策を意識して課題に取り組むことで次回以降に向けてのポイントを明確にします</li> <li>・反転授業、グループワークなども取り入れた授業を展開します。</li> </ul>
授業内の ICT 活用	<p>ICT 活用を積極的に行っています。特に学修支援ツール WebClass を多用しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①出席管理</li> <li>②小テスト管理</li> <li>③事前課題管理</li> <li>④事後課題管理</li> <li>⑤授業の理解度チェック</li> <li>⑥レポート管理</li> <li>⑦学生の連絡、授業や質問へのフィードバック</li> </ol> <p>授業内での理解度確認を行い、双方向型授業を目指します。</p>
評価方法	<p>授業への参加態度 (10%) 振り返りレポート毎回 (45%)</p> <p>定期レポート 3 回 (45% 1 回あたり 15 パーセント)</p>

課題に対するフィードバック	毎回フィードバックをします。課題が目標到達できない場合は再提出をして頂くなど丁寧なフィードバックを心掛けます				
指定図書	介護福祉士養成講座編集委員会「最新介護福祉士養成講座 9 介護過程」中央法規出版				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	<p>【事前学習】毎回事前課題を提示致しますので25分程度は取り組むようにしてください。また初回授業時に配布する講義予定表を参考に指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨んでください。テキストを読んでから授業に臨みましょう。</p> <p>【事後学修】講義後、振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。(目安時間40分)</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	野田 由佳里 (2706 研究室) メール:yukari-n@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	介護過程Ⅳ
科目責任者	篠崎 良勝
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。他の科目で学習した知識や技術を統合して、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。 介護実習で行った介護過程の実践を総合的に評価し、介護福祉士に必要な思考方法及び知識や技術を倫理的かつ包括的に整理し理解したうえで事例研究や発表等を通じて、自己の提供した介護実践（生活支援）の根拠を持って表現する。
到達目標	1. 介護実習で行った受け持ち利用者の介護過程を総合的に捉え、かつ高い倫理観からの視点から評価考察ができる。 2. 人間形成過程から保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけることができる。 3. 自己に対する評価が適切にできる。 4. 事例研究や発表体験等を通して、根拠をふまえた報告ができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 ガイダンス・ケーススタディとは 第2回 介護過程記録用紙と関連図の情報を基に根拠作成 第3回 利用の現在、過去、未来全体像をとらえる 第4回 実習における介護過程の振り返り：介護過程とチームアプローチ 第5回 発表会の持ち方について 第6回 ケーススタディの骨格を作成（実習記録の振り返りから情報の根拠） 第7回 ケーススタディの骨格を作成（何をして何を学んだか） 第8回 ケーススタディの骨格を作成（はじめに） 第9回 ケーススタディの骨格を作成（内容の筋書きを作る） 第10回 ケーススタディの骨格を作成（構成を考える） 第11回 発表会準備（プレゼンテーション作成） 第12回 発表会準備（プレゼンテーション・シュミレーション） 第13回 介護過程の展開の理解「事例報告会」にて発表 1 第14回 介護過程の展開の理解「事例報告会」にて発表 2 第15回 指導を受けて修正
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前課題・事後課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします。事前課題には必ずディスカッションテーマを設定してありますので、授業前には内容をご確認ください。</li> <li>毎回の到達目標やねらいを明確に提示します</li> <li>ワーキンググループを形成し、学生相互の学び合いを重要視します</li> <li>反転授業、グループワークなども取り入れた授業を展開します。</li> </ul>
授業内の ICT 活用	ICT 活用を授業で多く使います。特に WebClass を多用しています。 ①出席管理 ②中間レポート管理 ③事前課題管理 ④事後課題管理 ⑤授業の理解度 授業内での理解度確認を行い、双方向型授業を目指します。
評価方法	ポスター発表課題（50%）・ケーススタディ（50%） 評価はルーブリックを用いる。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	毎回フィードバックします。

指定図書	授業内で適宜資料を提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
参考図書	授業内で適宜資料を提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>【事前学習】 毎回事前課題を提示致しますので25分程度は取り組むようにしてください。また初回授業時に配布する講義予定表を参考に指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨んでください。テキストを読んでから授業に臨みましょう。</p> <p>【事後学修】 講義後、振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。(目安時間40分)</p>				
オープンエデュケーションの活用	授業内で適宜資料を提示する				
オフィスアワー	篠崎 良勝 (2611 研究室) メール:yoshikatsu-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	介護過程V				
科目責任者	水野 尚美				
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP1 専門				
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。				
科目概要	<p>科目概要 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。他の科目で学習した知識や技術を統合して、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>本科目では、利用者の個別性を理解し、人生に寄り添った生活支援を行う介護福祉士だから知ることができる「生活することの意味」や「人生の尊さ」「介護福祉士の仕事の魅力」などを、介護過程の実践的展開を通して学ぶ。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人の暮らしは、さまざまな要因が複雑に絡み合っており成り立っていることを理解する。</li> <li>2. 介護福祉士としての感性を磨き、人とのかかわりの重要性を理解する。</li> <li>3. 介護過程の実践的展開を通して、生活することの意味、人生の尊さ、介護福祉士としての仕事の魅力を理解し介護観を言語化できる。</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：ガイダンス 介護過程の復習</p> <p>第2回：介護福祉士の仕事の魅力</p> <p>第3回：介護過程の展開の理解－事例検討 (事例①)</p> <p>第4回：介護過程の展開の理解－事例検討 (GW：疾患の理解)</p> <p>第5回：介護過程の展開の理解－事例検討 (GW：ロールプレイ準備)</p> <p>第6回：介護過程の展開の理解－事例検討 (ロールプレイ)</p> <p>第7回：介護過程の展開の理解－事例検討 (資料の準備)</p> <p>第8回：介護過程の展開の理解－事例検討 (発表会)</p> <p>第9回：介護過程の展開の理解－事例検討 (事例②)</p> <p>第10回：介護過程の展開の理解－事例検討 (GW：疾患の理解)</p> <p>第11回：介護過程の展開の理解－事例検討 (GW：ロールプレイ準備)</p> <p>第12回：介護過程の展開の理解－事例検討 (ロールプレイ)</p> <p>第13回：介護過程の展開の理解－事例検討 (資料の準備)</p> <p>第14回：介護過程の展開の理解－事例検討 (発表会)</p> <p>第15回：介護観をまとめる</p>				
アクティブラーニング	事例検討ではグループワークを行うので、グループ内のディスカッションに積極的に参加すること。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	レポート(50%)、課題提出物・授業態度 (50%) 計100% 課題提出物については、リアクションペーパーや課題の提出状況と内容などの全体から判断します。				
課題に対するフィードバック	レポート・リアクションペーパーへのコメント・返却				
指定図書	『介護福祉士養成講座9 介護過程』中央法規出版				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	必要時、適宜紹介します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	<p>【事前学習】シラバスに示した指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨むこと。</p> <p>【事後学習】授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。 (目安時間 40 分)</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	水野 尚美 (2707 研究室) メール:naomi-mi@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	コミュニケーション技術 I					
科目責任者	井川 淳史					
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP3 専門					
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。					
科目概要	<p>介護実践に必要なコミュニケーション能力を養い、利用者・家族とのコミュニケーション技法とチームにおけるコミュニケーションの方法を修得する科目です。さらに、チームと連携をとるための記録方法・報告の方法を修得する。</p> <p>介護を必要とする人とのコミュニケーションの技法を講義と演習を通して体感し、さまざまなコミュニケーション場面に応用できる能力を養います。また、介護におけるチームのコミュニケーションや、記録の意味と方法について事例を通して身につける。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護を必要とする人とのコミュニケーションにおける基本的な姿勢と技法が理解できる。</li> <li>2. 介護におけるチームのコミュニケーション、記録・報告・会議の意義と目的が理解できる。</li> <li>3. 記録の具体的な書き方や留意点が理解できる。</li> </ol>					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：介護を必要とする人とのコミュニケーションとは</p> <p>第2回：介護におけるコミュニケーションの意義、目的</p> <p>第3回：介護におけるコミュニケーションの役割</p> <p>第4回：受容・共感・傾聴</p> <p>第5回：利用者・家族との関係づくり</p> <p>第6回：介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</p> <p>第7回：利用者・家族とのコミュニケーションの実際</p> <p>第8回：利用者の意欲を引き出す技法</p> <p>第9回：利用者や家族の意向を引き出す技法</p> <p>第10回：介護におけるチームのコミュニケーションや連携</p> <p>第11回：介護における記録の意義と目的</p> <p>第12回：記録による情報の共有化</p> <p>第13回：報告・連絡・相談</p> <p>第14回：会議</p> <p>第15回：事例による記録の演習</p>					
アクティブラーニング	本授業は、反転授業、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する。					
授業内の ICT 活用	コミュニケーションロボット (介護ロボット)、および PC (プログラミング) を利用した双方向型授業を実施する。					
評価方法	<p>レポート 50%、課題提出物 30%、授業参加度 20%、計 100%</p> <p>レポートは、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業中に配布資料によって提示する。レポートは、WebClass の e ポートフォリオ・コンテナにて期日までに提出する。</p>					
課題に対するフィードバック	WebClass に提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。					
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第 5 巻 コミュニケーション技術 第 2 版』中央法規出版					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	授業内で随時提示					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	

事前・事後学修	事前学修：授業前にWebClassの事前課題に回答すること（40分2～15回） 事後学習：授業後にWebClassのアンケートに回答すること（40分2～15回）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	井川 淳史（2603研究室） メール：atsushi-ik@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ				
科目責任者	井川 淳史				
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP3 専門				
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。				
科目概要	<p>コミュニケーション機能の障害を抱える利用者の特性に応じたコミュニケーション技術の基本的理論を理解し、技術を習得します。また、対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学ぶ。</p> <p>コミュニケーション機能の障害を抱える利用者の実態、原因や障害症状、生活障害を学び、障害の特性に応じたコミュニケーション実践の理論を学び技術を修得します。さらに、当事者の介護における家族とのコミュニケーションや、介護におけるチームのコミュニケーションについても学ぶ。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者の障害の特性に応じたコミュニケーションや、生活困難や意思疎通の在り方を理解できる。</li> <li>2. 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実践が適切に行える基礎知識や技術が身につく。</li> <li>3. 介護における家族とのコミュニケーションや、介護におけるチームのコミュニケーションが理解できる。</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：ガイダンス、障害の特性に応じたコミュニケーション技法の実際  第2回：コミュニケーション機能の障害を抱える利用者と介護  第3回：コミュニケーション機能の障害の原因と症状  第4回：感覚機能が低下している人とのコミュニケーション  第5回：失語症の特性に応じたコミュニケーション  第6回：構音障害の特性に応じたコミュニケーション  第7回：視力の障害に応じたコミュニケーション  第8回：聴力（聞こえ）の障害に応じたコミュニケーション  第9回：知的障害の特性に応じたコミュニケーション  第10回：精神障害の特性に応じたコミュニケーション  第11回：認知症の特性に応じたコミュニケーション  第12回：若年性認知症の特性に応じたコミュニケーション  第13回：介護における家族とのコミュニケーションの理解  第14回：介護におけるチームのコミュニケーションの理解  第15回：事例による特性に応じたコミュニケーション演習</p>				
アクティブラーニング	本授業は、反転授業、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する。				
授業内の ICT 活用	コミュニケーションロボット（介護ロボット）、およびPC（プログラミング）を利用した双方向型授業を実施する。				
評価方法	レポート50%、課題提出物30%、授業参加度20%、計100% レポートは、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業中に配布資料によって提示する。レポートは、WebClass のeポートフォリオ・コンテンツにて期日までに提出する。				
課題に対するフィードバック	WebClass に提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。				
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第5巻 コミュニケーション技術 第2版』中央法規出版				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考図書	授業内で随時提示				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	事前学修：授業前にWebClassの事前課題に回答すること（40分2～15回） 事後学習：授業後にWebClassのアンケートに回答すること（40分2～15回）				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	井川 淳史（2603 研究室） メール：atsushi-ik@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	介護総合演習 I
科目責任者	野田 由佳里
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	<p>介護実習 I を開始するに当たって、介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。実習の目的と意義を把握し、実習施設の概要を理解すると共に、自己が行った介護を客観的に振り返り、評価できる能力を高める。</p> <p>実習の目的と意義を把握し、実習施設の概要を理解する。介護実習 I に向けての心構え、予備知識、動機づけの準備を行い、介護実習 I の目的・目標を理解し、目標に向けて達成できるようにする。また、実習内容の知識の確認・実習記録の意義や記入方法について理解する。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に必要な事前学習ができる。</li> <li>・実習の心構えを述べるができる。</li> <li>・実習の事前準備（記録物、身なりなど）ができる。</li> <li>・実習中の記録の提示、指導を受け入れ、期日までに課題に取り組む姿勢ができる。</li> <li>・実習後の振り返りを行い、改善することができる。</li> </ul>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション（介護実習の位置づけ I・II・III 段階） 実習要項配布・実習のイメージDVD・介護総合演習 I の概要説明</p> <p>第2回：介護実習の流れの理解 ①実習種別</p> <p>第3回：介護実習の流れの理解 ②実習先種別</p> <p>第4回：実習の意義・実習目的・目標の理解・グループワークの説明〈高齢者の理解〉</p> <p>第5回：実習先に関する知識面での理解（生活の場の理解・介護老人福祉施設 特別養護老人ホーム） 記録練習1・感性教育1〈季節感を感じよう『季語』〉</p> <p>第6回：実習先に関する知識面での理解（通所介護） 記録練習2・感性教育2〈クラフト制作・折り紙〉</p> <p>第7回：実習先に関する知識面での理解〈障害者施設〉 記録練習3・感性教育3〈高齢者に馴染みのある唱歌〉</p> <p>第8回：実習先についてのグループ発表・介護実習 I オリエンテーション</p> <p>第9回：実習へ向けての準備（個人票・プロフィール作成）</p> <p>第10回：介護実習記録の書き方・記録様式及び資料配布</p> <p>第11回：配属発表・申し送りノート確認・模擬スーパービジョン</p> <p>第12回：計画書の作成</p> <p>第13回：身だしなみ、実習における心構え・事前訪問</p> <p>第14回：先輩からの応援メッセージ・直前オリエンテーション（実習に必要な技術面の理解度チェック）</p> <p>第15回：事後指導 介護実習 I 終了後のオリエンテーション 実習の振り返り/実践を通じた介護の知識や技術の統合化</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題・事後課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします</li> <li>・毎回の到達目標やねらいを明確に提示します</li> <li>・ワーキンググループを形成し、学生相互の学び合いを重要視します</li> <li>・実習の意義を検討する回ではグループワーク、実習先に関する回では、学生によるプレゼンテーションの機会を設けます。</li> </ul>

授業内の ICT 活用	ICT 活用を授業で多く使います。特に WebClass を多用しています。 出席管理 ①中間レポート管理 ②事前課題管理 ③事後課題管理 ④授業の理解度 授業内での理解度確認を行い、双方向型授業を目指します。					
評価方法	振り返りレポートによる評価 (40%)、課題・提出物による評価 (60%)					
課題に対するフィードバック	毎回の課題提出を WebClass 利用し、まとめなどのフィードバックをします。課題が目標到達できない場合は再提出をして頂くなど丁寧なフィードバックを心掛けます					
指定図書	介護福祉士養成講座編集委員会「最新介護福祉士養成講座 10 介護総合演習」中央法規出版					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	【事前学習】グループワーク発表に必要な内容について調べ学習を 40 分程度行う。提出物については計画的に準備を行う。 【事後学習】グループワーク後の振り返りを行う。					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	野田 由佳里 (2706 研究室) メール:yukari-n@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	介護総合演習Ⅱ
科目責任者	篠崎 良勝
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、個別的な生活支援を展開する介護過程という援助手法に基づいた実習体験をもとに介護福祉専門性を求めることを目的としている。 介護実習Ⅰの振り返りと、介護実習Ⅱにむけての事前準備、事後学修授業となります。目標達成できる実習計画を立案し、実習を有意義に行うため、心構えや実習生としてのあり方について学ぶ。知識と技術の統合や介護過程の展開の能力等について介護実践の科学的探究を行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に必要な事前学習ができる。</li> <li>・実習の心構えを述べるができる。</li> <li>・実習前の準備（記録物、身なりなど）を行い、知識と技術の統合ができる。</li> <li>・実習中の記録の提示、指導を受け入れ、期日までに課題に取り組む姿勢ができる。</li> <li>・実習後の振り返りを行い、改善することができる。</li> <li>・実習を通して、介護実践の科学的探究ができる。</li> </ul>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;井川淳史、篠崎良勝 &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション・申し送りノート作成・実習報告会説明 第2回：実習報告会（介護実習Ⅰ）の準備 第3回：実習報告会（介護実習Ⅰ） 第4回：実習報告会（介護実習Ⅰ） 第5回：実習目的・目標の理解、申し送りノート及び実習日誌提出 第6回：実習先の理解（介護老人保健施設） 実習施設に関する事前学習（知識と技術の統合） 第7回：実習先の理解（生活の場の理解） 感性教育（クラフト制作・ロールクラフト） 第8回：実習先についてのグループ発表 介護実習Ⅱに必要な事前学習（介護実践の科学的探究） 第9回：介護実習Ⅱへ向けての準備（個人票・プロフィール作成） 第10回：介護実習Ⅱ配属発表・申し送りノート確認・スーパービジョン 第11回：実習計画書の作成・身だしなみ、実習における心構え・事前訪問 第12回：実習直前オリエンテーション 第13回：介護実習Ⅱの経過報告（帰校日） 第14回：介護実習Ⅱの経過報告（帰校日） 第15回：事後指導</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題・事後課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にする。</li> <li>・毎回の到達目標やねらいを明確に提示する。</li> <li>・ワーキンググループを形成し、学生相互の学び合いを重要視する。</li> </ul>
授業内の ICT 活用	実習報告会などで、PC、パワーポイントとプロジェクターを使用します。
評価方法	振り返りレポートによる評価（40%）、課題・提出物による評価（60%） レポートは、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業中に配布資料等によって提示する。 【備考】本教科は介護福祉士受験資格取得に必要とされ、最終実習に向けての準備科目である。したがって、特に授業態度及び課題提出物を重視する。
課題に対するフィードバック	毎回の課題を WebClass に提出し、まとめなどのフィードバックをします。課題の目標到達ができない場合は再提出など丁寧なフィードバックを心掛ける。

指定図書	授業内で適宜資料を提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
参考図書	授業内で適宜資料を提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>【事前学習】 毎回、グループワーク発表に必要な内容について調べ学習を 40 分程度行う。 また、介護実習に関連する提出物については計画的に準備を行う。</p> <p>【事後学習】 毎回、グループワーク後の振り返りを 40 分程度行う。</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	篠崎 良勝 (26011 研究室) メール: yoshikatsu-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	介護総合演習Ⅲ				
科目責任者	水野 尚美				
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。				
科目概要	介護実習Ⅱの振り返りと介護実習Ⅲに向けて、介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。 実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーションを行う。実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の理解ができる。 介護実習Ⅲにおいて、これまで学んだ学内の学びの知識と技術を統合し、介護過程を通し介護場面に適応できる柔軟性や応用力、介護実践の科学的探究能力を養う。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実習Ⅱの振り返りを行い、改善し目標の達成を自ら評価することができる。</li> <li>・介護実習Ⅱで培った学びを具体的に表現し共有することができる。</li> <li>・介護実習Ⅲの教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーションを行い、実習に必要な知識や技術、介護過程の基礎が理解できる。</li> <li>・他科目で学習した知識や技術を統合し、具体的な介護サービスの提供の基本となる介護実践の科学的探究力を習得することができる。</li> </ul>				
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション・申し送りノート作成・実習報告会説明 第2回：学びの共有・実習報告会（介護実習Ⅱ）の準備 第3回：実習報告会（介護実習Ⅱ） 第4回：実習報告会（介護実習Ⅱ） 第5回：実習目的・目標の理解、申し送りノート及び実習日誌提出 グループワークの説明（実習先・レクリエーション） 第6回：実習先の理解（生活の場の理解・特別養護老人ホーム） 第7回：生活支援技術の確認（グループワーク） 第8回：介護実習Ⅲに必要な事前学習（介護実践の科学的探究） 第9回：介護実習Ⅲへ向けての準備（個人票・プロフィール作成） 第10回：介護実習Ⅲの配属発表・申し送りノート確認・スーパービジョン 第11回：実習計画書の作成・身だしなみ、実習における心構え・事前訪問 第12回：実習直前オリエンテーション 第13回：介護実習Ⅲの経過報告（帰校日） 第14回：介護実習Ⅲの経過報告（帰校日） 第15回：事後指導				
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題・事後課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にする。</li> <li>・毎回の到達目標やねらいを明確に提示する。</li> <li>・ワーキンググループを形成し、学生相互の学び合いを重要視する。</li> </ul>				
授業内の ICT 活用	実習報告会などで、PC、パワーポイントとプロジェクターを使用します。				
評価方法	振り返りレポートによる評価（40%）、課題・提出物による評価（60%）  <b>【備考】</b> 本教科は介護福祉士受験資格取得に必要とされ、最終実習に向けての準備科目である。したがって、特に授業態度及び課題提出物を重視する。				
課題に対するフィードバック	毎回の課題を WebClass に提出し、まとめなどのフィードバックをします。課題の目標達成ができない場合は再提出など丁寧なフィードバックを心掛ける。				
指定図書	『介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習』中央法規出版				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

参考図書	必要時、適宜紹介します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>【事前学習】 毎回、グループワーク発表に必要な内容について調べ学習を 40 分程度行う。 また、介護実習に関連する提出物については計画的に準備を行う。</p> <p>【事後学習】 毎回、グループワーク後の振り返りを 40 分程度行う。</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	水野 尚美 (2707 研究室) メール: naomi-mi@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	介護総合演習Ⅳ
科目責任者	井川 淳史
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	介護実習Ⅲの振り返りと介護実習全体についての教育効果を上げるための科目である。また、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習としている。実習の意義を理解した上で、実習先施設の特徴、および機能に応じた介護実践ができる知識と技術を統合することに重点を置いている。実習の目的を達成するため介護実践の科学的探究を行い、受容的・共感的な態度で対人関係を形成し、利用者理解に重点を置いた授業である。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護実習Ⅲの振り返り、自己評価を踏まえ発表することができる。</li> <li>2. 介護実習全体を通して、生活支援や施設等の理解を深める。</li> <li>3. 授業で習得した介護過程の展開の理解を実習の利用者に提供できる能力を身につける。</li> <li>4. 他科目で学習した知識や技術を統合し、実習で体得した知識や技術を統合した具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得することができる。</li> <li>5. 実習後の振り返りを行い、介護実践の科学的探究ができる。</li> <li>6. 介護実習全体の目標達成度を自ら評価することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション・実習報告会説明・申し送りノート作成  第2回：利用者の理解①（身体障がいのある方とのかかわり）  第3回：利用者の理解②（知的障がい、発達障がい、精神障がいのある方とのかかわり）  第4回：学びの共有・実習報告会（介護実習Ⅲ）の準備  第5回：実習報告会（介護実習Ⅲ）  第6回：見学実習へ向けての準備・記録様式及び資料配布・計画書の作成・身だしなみ、実習における心構え  第7回：見学実習（障害者支援施設：身体障がい者関連）  第8回：見学実習（障害者支援施設：身体障がい者関連）  第9回：見学実習（障害者支援施設：知的障がい者関連）  第10回：見学実習（障害者支援施設：知的障がい者関連）  第11回：見学実習（障害者支援施設：発達障がい、精神障がい者関連）  第12回：見学実習（障害者支援施設：発達障がい、精神障がい者関連）  第13回：見学実習（障害系）の報告会  第14回：見学実習（障害系）の報告会  第15回：総合的な介護福祉サービスの理解（介護実践の科学的探究）</p>
アクティブラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。
授業内の ICT 活用	実習報告会などで、PC、パワーポイントとプロジェクターを使用します。
評価方法	<p>振り返りレポートによる評価（40%）、課題・提出物による評価（60%）  レポートは、ループリックを用いて評価する。ループリック内容は授業中に配布資料等によって提示する。</p> <p>【備考】本教科は介護福祉士受験資格取得に必要とされ、最終実習に向けての準備科目である。したがって、特に授業態度及び課題提出物を重視する。</p>
課題に対するフィードバック	毎回の課題を WebClass に提出し、まとめなどのフィードバックをします。課題の目標到達ができない場合は再提出など丁寧なフィードバックを心掛ける。

指定図書	『最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第2版』中央法規出版					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	事前学修：毎回、グループワーク発表に必要な内容について調べ、提出物作成は計画的に準備を行う。(40分) 事後学修：毎回、グループワーク後の振り返りを行う。(40分)					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	井川 淳史 (2603 研究室) メール: atsushi-ik@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					



科目名	介護実習 I				
科目責任者	井川 淳史				
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 1 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。				
科目概要	地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。 介護実習は学内で学んだ生活支援技術・基礎的な知識を統合させる場である。介護実習 I では多様な生活の場の理解、基礎的な生活支援技術とコミュニケーションに重点をおいた実習を行う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践ができ、人間関係の形成が図ることができる。</li> <li>2. 利用者の生活の場の多様性を理解し、多職種協働の実践の重要性を理解できる</li> <li>3. 介護を必要とする利用者の個別的な支援を理解し、基本的な生活支援技術について指導を受けながら実践できる。</li> <li>4. 介護福祉士の職業倫理について理解できる。</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;井川淳史、野田由佳里、篠崎良勝、水野尚美</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>(1)実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①コミュニケーションが比較的容易な利用者との関わりを通して自己を振り返り、自己覚知を高める。</li> <li>②利用者のニーズと介護の機能、介護職員の役割について学ぶ。</li> <li>③個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場における個別ケアについて学ぶ。</li> <li>④老人福祉施設・障害者施設・訪問介護事業所・通所介護事業所などさまざまな生活の場における介護実践について学ぶ。</li> <li>⑤介護過程の実践的展開の基礎となる知識を学ぶ。</li> <li>⑥地域における生活支援の実践について学ぶ。</li> </ol> <p>(2)実習時期</p> <p>第1セメスター (1年次) 8月～9月の中で12日間 (介護実習 I ①:前半分) 学生はグループに分かれて、老人福祉施設実習で5日間、障害者支援施設で1日間実施。</p> <p>(介護実習 I ②:後半分) 学生はグループに分かれて、有料老人ホームで5日間、訪問介護事業所で1日間実施。</p>				
アクティブラーニング	実習科目				
授業内の ICT 活用	ICT 機器を活用し、実習におけるスーパービジョン資料作成や、利用者理解などのプロセスを実習担当教員の指導のもと行います。				
評価方法	実習評価表 70%、実習記録 30% 評価方法については実習要項に記載しています。				
課題に対するフィードバック	実習中はスーパービジョンならびに実習巡回時に、実習後は担当教員との面談時に、課題に対するフィードバックを行う。				
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第10巻 介護総合演習・介護実習 第2版』中央法規出版				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

参考図書	随時提示する					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	事前学習：実習前に、介護総合演習、生活支援技術で学修した内容を復習しておく（60分） 事後学習：所定の様式をすべてまとめる。介護総合演習の授業と連動させ、実習中に学んだことの復習を行う（60分）					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史（2603 研究室）、野田由佳里（2706 研究室）、篠崎良勝（2611 研究室）水野尚美（2707 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、介護総合演習Ⅰの初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	介護実習Ⅱ					
科目責任者	井川 淳史					
単位数他	4 単位 (180 時間) 選択 2 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。					
科目概要	本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。 障害者または高齢者の施設において、担当利用者に対する介護過程の展開を行う。学習した知識や技術を統合して利用者の全体像を捉え、課題を明確にし、個別介護計画を立案する。					
到達目標	1. 施設の社会的役割について理解し、職員（介護職、その他の職種）との連携の必要性とその方法を理解できる。 2. 生活支援技術の適正に用いることができる。 3. 利用者とのコミュニケーションを通して、利用者の生活全体に即した介護のニーズを把握し、個別介護計画を立案できる。					
授業計画	<担当教員名>井川淳史、野田由佳里、篠崎良勝、水野尚美 <授業内容・テーマ等> (1)実習内容 ①障害者または高齢者の施設において、障害レベルに応じて求められる生活支援技術の適切な使い方について学ぶ。 ②個々の生活リズムや特性を理解し、適切な情報収集、課題分析について学ぶ。そのうえで、担当利用者の介護計画を立案し、介護過程の実践的展開について学ぶ。 ③多職種協働の実践について学ぶ。  (2)実習時期 第2セメスター（1年次）2月～3月の中で23日間（4週間）					
アクティブラーニング	実習科目					
授業内の ICT 活用	・ICT 機器を活用し、実習におけるスーパービジョン資料作成や、利用者理解などのプロセスを実習担当教員の指導のもと行います。 ・介護過程の展開では双方向授業としてWebClass も活用します。					
評価方法	実習評価表 70%、実習記録 30% 評価方法については実習要項に記載しています。					
課題に対するフィードバック	実習中はスーパービジョンならびに実習巡回時に、実習後は担当教員との面談時に、課題に対するフィードバックを行う。					
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第10巻 介護総合演習・介護実習 第2版』中央法規出版					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	随時提示する					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	事前学習：実習前に、介護総合演習、生活支援技術で学修した内容を復習しておく（60分） 事後学習：所定の様式をすべてまとめる。介護総合演習の授業と連動させ、実習中に学んだことの復習を行う（60分）					
オープンエデュケーションの活用	なし					

オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史 (2603 研究室)、野田由佳里 (2706 研究室)、篠崎良勝 (2611 研究室) 水野尚美 (2707 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、介護総合演習Ⅱの初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	介護実習Ⅲ					
科目責任者	井川 淳史					
単位数他	4 単位 (180 時間) 選択 3 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。					
科目概要	本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。 介護の実体験を通して、学内で学んだ知識・技術・の統合を図る。スーパービジョンを受けながら担当利用者の介護過程の展開を行う。また、介護福祉士としての職業倫理を身につけ専門職者としての自己の介護観・死生観を確立する学習とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者のニーズに応じた介護過程の展開ができる。</li> <li>2. 福祉サービス全体の理解を深め、チームの一員として介護を遂行できる。</li> <li>3. 利用者の能力を引き出し、個々の状態に応じた生活支援を展開できる。</li> <li>4. 多職種連携について理解できる。</li> </ol>					
授業計画	<担当教員名>井川淳史、野田由佳里、篠崎良勝、水野尚美 <授業内容・テーマ等> ①施設運営のプログラムに参加し、サービス全般の理解を深める。 ②介護計画の立案→実践→評価→再計画という個別介護の一連の介護過程の展開を学ぶ。 ③個々の生活リズムや特性を理解し、適切な情報収集、課題分析について学ぶ。そのうえで、担当利用者の介護計画を立案し、介護過程の実践的展開について学ぶ。 ④介護過程の展開を通して、多職種協働の実践について学ぶ。 ⑤介護過程の展開を通して、地域における生活支援の実践について学ぶ。					
アクティブラーニング	実習科目					
授業内の ICT 活用	・ICT 機器を活用し、実習におけるスーパービジョン資料作成や、利用者理解などのプロセスを実習担当教員の指導のもと行います。 ・介護過程の展開では双方向授業として WebClass も活用します。					
評価方法	実習要綱に記載された評価基準に基づいて評価を行う。					
課題に対するフィードバック	実習中はスーパービジョンならびに実習巡回時に、実習後は担当教員との面談時に、課題に対するフィードバックを行う。					
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第 10 巻 介護総合演習・介護実習 第 2 版』中央法規出版					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	随時提示する					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	事前学習：実習前に、介護総合演習、生活支援技術で学修した内容を復習しておく (60 分) 事後学習：所定の様式をすべてまとめる。介護総合演習の授業と連動させ、実習中に学んだことの復習を行う (60 分)					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	社会福祉学部所属の井川淳史 (2603 研究室)、野田由佳里 (2706 研究室)、篠崎良勝 (2611 研究室) 水野尚美 (2707 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、介護総合演習Ⅲの初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点から踏まえて教授する科目です。					

メディア授業 の実施につい て	なし
-----------------------	----

科目名	医療的ケアⅢ
科目責任者	水野 尚美
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	介護福祉士として医療的ケアを必要とする高齢者・障害者に対して、医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるよう必要な知識・正確な技術を修得する。高齢者及び障害児・者の喀痰吸引・経管栄養、救急蘇生法の基礎的知識・実施手順とその留意点を学習し、シミュレーターを用いた演習により、安全に確実に実施するための知識と技術を習得する。
到達目標	1. シミュレーターを用いた喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内）が、実施手順に沿って安全に確実に実施できる。 2. シミュレーターを用いた経管栄養（経鼻経管・胃瘻）が、実施手順に沿って安全に確実に実施できる。 3. シミュレーターを用いた救急蘇生法が実施できる。
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt;水野尚美、富安奈緒美、向山幸子 &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回： 喀痰吸引の基礎的知識・実施手順②喀痰吸引の必要物品と消毒法、吸引の技術と留意点</p> <p>第2回： 喀痰吸引の基礎的知識・実施手順②・・・痰の吸引に伴うケア、報告及び記録</p> <p>第3回： 喀痰吸引の基礎的知識・実施手順③・・・口腔内・鼻腔内吸引の手順と留意点</p> <p>第4回： 喀痰吸引の基礎的知識・実施手順④・・・気管カニューレ内吸引の手順と留意点</p> <p>第5回： 喀痰吸引のシミュレーターを用いて口腔内吸引の集中演習（1～5 回以上）</p> <p>第6回： 喀痰吸引のシミュレーターを用いて鼻腔内吸引の集中演習（1～5 回以上）</p> <p>第7回： 喀痰吸引のシミュレーターを用いて気管カニューレ内吸引の集中演習（1～5 回以上）</p> <p>第8回： 経管栄養の基礎的知識・実施手順①・・・経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持、経管栄養の技術と留意点</p> <p>第9回： 経管栄養の基礎的知識・実施手順②・・・経管栄養に必要なケア、報告及び記録</p> <p>第10回： 経管栄養の基礎的知識・実施手順③・・・胃瘻（腸瘻）による経管栄養</p> <p>第11回： 経管栄養の基礎的知識・実施手順④・・・経鼻経管栄養</p> <p>第12回： 経管栄養のシミュレーターを用いて経鼻経管栄養の集中演習（1～3 回）</p> <p>第13回： 経管栄養のシミュレーターを用いて経鼻経管栄養の集中演習（4～5 回以上）</p> <p>第14回： 経管栄養のシミュレーターを用いて胃瘻による経管栄養の集中演習（1～5 回以上）</p> <p>第15回： シミュレーターを用いて救急蘇生法の集中演習</p>
アクティブラーニング	技術習得のためのグループ演習を行います。
授業内の ICT 活用	なし

評価方法	授業態度 20%・評価実技試験 80%				
課題に対するフィードバック	WebClass で提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。				
指定図書	『介護福祉士養成講座 15 医療的ケア』中央法規出版				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	必要時、適宜紹介します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読し、手順を覚えてうえで留意点と根拠を整理しておく。(40分) 事後学修：授業で行った技術を、繰り返し実践する。(40分)				
オープンエデュケーションの活用	半固形栄養剤 注入方法：bing.com/videos				
オフィスアワー	水野 尚美 (2707 研究室) メール：naomi-mi@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有し、「医療的ケア教員」の講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	生活サポート演習 I					
科目責任者	高山 暢子					
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 2 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP3 専門					
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。					
科目概要	本科目は、初年次における大学での学びとして社会福祉専門職に必要な基礎的技術を身につけて使用できることや、様々な立場や意見を尊重しながら自らの意見を伝達し説得できるコミュニケーション力を身につけることを目的としている。したがって、利用者の障害特性に応じたコミュニケーションを理解し、適切に対応できるコミュニケーションスキルを身につける。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉専門職に必要な基礎的技術を身につける。</li> <li>2. 福祉現場で遭遇する利用者のコミュニケーション障害の原因、型、症状などを理解する。</li> <li>3. それぞれの障害を抱える人の生活やコミュニケーションの特性を理解できる。</li> <li>4. コミュニケーション障害のアセスメントの方法、対応法の在り方及び評価法を身につける。</li> </ol>					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：ガイダンス、コミュニケーション方法を学ぶ意義と目的 コミュニケーション障害を伴う利用者とは</p> <p>第2回：コミュニケーション障害のアセスメント（言語・非言語による観察の視点）</p> <p>第3回：対応の技術①：認知症がある利用者への対応</p> <p>第4回：対応の技術②：聴覚・言語障害がある利用者への対応</p> <p>第5回：対応の技術③：視覚障害がある利用者への対応</p> <p>第6回：対応の技術③：知的障害がある利用者への対応</p> <p>第7回：対応の技術④：精神障害がある利用者への対応</p> <p>第8回：対応の技術⑤：身体に障害がある利用者への対応（高齢者）</p>					
アクティブラーニング	本授業は、グループワーク、ロールプレイングを取り入れて実施します。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	レポート 60%（ルーブリックは用いない）、授業態度 20%、課題提出物 20%、計 100%					
課題に対するフィードバック	提出されたリアクションペーパー・課題提出物は、次の授業時フィードバックを行います。					
指定図書						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	最新・介護福祉士養成講座第 5 コミュニケーション技術 第 2 版 / 中央法規出版					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	<ol style="list-style-type: none"> <li>①授業前に事前課題を WebClass 内に提出する（各 40 分 2～7 回）</li> <li>②授業後、内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする（各 40 分 2～7 回・WebClass）</li> <li>③レポート「障害に応じたコミュニケーションについて」を作成すること（60 分）</li> </ol>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	高山 暢子 専門学校棟教員室(6104)にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。 時間については、初回授業時に提示します。					

実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	生活サポート演習Ⅱ					
科目責任者	高山 暢子					
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 8 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP3 専門					
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。					
科目概要	社会福祉専門職に必要な基礎的技術を身につけ、介護技術を安全に安楽に活用するために、身体の構造・機能を理解した上で演習をおこない、介護現場で応用できる生活支援技術を習得する。演習を通して相手の気持ちに寄り添うためのコミュニケーション能力を習得する。					
到達目標	1. 生活支援技術の原理と原則を理解する。 2. ボディメカニクスを応用し、安全で安楽な介護技術を身につけている。					
授業計画	<授業内容・テーマ等>  第 1 回：オリエンテーション、ボディメカニクスの原理と応用（講義・演習） 第 2 回：居住環境の整備・ベッドメイキング・シーツ交換（講義・演習） 第 3 回：自立に向けた身じたくの知識と技術（講義・演習） 第 4 回：自立に向けた食事の知識と介助技術（講義・演習） 第 5 回：自立に向けた入浴・清潔保持の介助技術（講義・演習） 第 6 回：自立に向けた排泄の介助技術（講義・演習） 第 7 回：自立に向けた移動の介助技術（講義・演習） 第 8 回：生活支援における福祉用具について					
アクティブラーニング	本授業は、グループワーク、ロールプレイングを取り入れて実施します。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	レポート 60%（ルーブリックは用いない）、授業態度 20%、課題提出物 20%、計 100%					
課題に対するフィードバック	提出されたリアクションペーパー・課題提出物は、次の授業時フィードバックを行います。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第 2 版 中央法規出版					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	①授業前に事前課題を WebClass 内に提出する（各 40 分 2～7 回） ②授業後、内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする（各 40 分 1～7 回・WebClass） ③レポート「障害に応じたコミュニケーションについて」を作成すること（60 分）					
オープンエデュケーションの活用	なし。					
オフィスアワー	介護福祉専門学校教員室(6104)にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点の踏まえて教授する科目です。					

メディア授業 の実施につい て	
-----------------------	--

科目名	インターンシップ I (SW)
科目責任者	福田 俊子
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 SW コース必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	本科目は、3 年次のソーシャルワーク実習の準備実習として位置づけられており、学生が自分の目指す社会福祉援助者像を明確化していくために、10 日間程度の配属実習及び事前学習を含んだ授業構成となっている。社会福祉施設等の利用者とのコミュニケーションを通じて、その現状を理解するとともに、社会福祉援助者として必要とされる実践力について考察することを目的としている。なお、実習中のスーパービジョン及び事後学習は、「インターンシップ I 実習指導」で行われるため、必ず履修すること。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習をする上でのルールを守り、実習生としての責務を果たす</li> <li>2. 利用者の QOL (生活の質) の向上を目指したプログラム活動に参加することを通して、利用者・職員・学生同士の関係づくりやチームワークの基礎を学習する</li> <li>3. 利用者の生活状況全体を把握しながら、利用者のニーズについて考察する</li> <li>4. 職員の日常業務 (主として間接業務) の理解を深めながら、職員に求められる実践力について考察する</li> <li>5. 実習生としてのさまざまなかわりを通して、自己理解を深める</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt;福田俊子、川向雅弘、佐々木正和、泉谷朋子、鈴木文子</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前学習プログラム       <ol style="list-style-type: none"> <li>第1回：オリエンテーション・ガイダンス</li> <li>第2回：実習記録の書き方及び実習中の諸注意</li> <li>第3回：実習評価表の活用とスーパービジョン</li> <li>第4回：グループ別学習① (実習施設の概要及び利用者の理解)</li> <li>第5回：グループ別学習② (事前訪問のための準備、3 年生からの引き継ぎ)</li> <li>第6回：事前訪問</li> <li>第7回：グループ別学習③ (事前訪問のフィードバック、実習テーマの共有)</li> </ol> </li> <li>2. 配属実習       <p>国家資格の取得及び 3 年次のソーシャルワーク実習先にかかわる希望、使用可能な交通手段など総合的に勘案して決定された大学の近隣にある実習先において、10 月から 12 月までの 10 日間程度、週 1 回半日の配属実習を行う。</p> </li> </ol> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配属実習を含む授業科目であるため、積極的な授業への参加が重要であることを理解して履修してほしい。</li> </ul>
アクティブラーニング	本科目は、施設・病院等の課題解決に主体的に関与することを目的とした実習科目である。
授業内の ICT 活用	・事前学習への取り組み等において、WebClass を活用する。
評価方法	<p>授業への取り組み状況 20% (事前学習への参加状況)</p> <p>実習への取り組み状況 80% (事前訪問・実習への参加状況、記録物の内容)</p> <p>実習への取り組みはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。</p>
課題に対するフィードバック	事前学習プログラムでは、リアクションペーパー・事後学習課題に対するフィードバックは全体授業で実施する。

指定図書	特になし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書	特になし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習：提示された課題などにはすべて取り組み、期日までに提出すること。（目安時間 60 分）</li> <li>・事後学習（配属実習）：実習ノートは、必ず、その日のうちに記録すること。実習中に分からないことがあった場合、できるだけ自主的に調べてみた上で、職員に質問すること。（目安時間 40 分）</li> </ul>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	福田 俊子（2606 研究室） メール：toshiko-f@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク・心理臨床」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	インターンシップ I 実習指導
科目責任者	福田 俊子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 SW コース必修 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	本科目は、「インターンシップ I」の実習中における学内スーパービジョン及び事後学習として位置づけられている。配属実習中には、実習の翌日に学内でグループスーパービジョンが実施される。すべての配属実習終了後、グループ並びに個別スーパービジョンを適宜実施しながら、配属実習全体を総括する。なお、実習体験の総括は、実習報告会及びレポートの作成によって行われる。「インターンシップ I」を必ず履修すること。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的なコミュニケーション技術を使用し、受容的・共感的態度を形成することができる</li> <li>2. 他の学生の語りに耳を傾け、自らの実習体験を振り返ることができる。</li> <li>3. 社会福祉施設等の多様な現状や対象者のニーズを理解することができる。</li> <li>4. 社会福祉援助者に必要とされる実践力とは何か、自分の言葉を使って表現できる。</li> <li>5. さまざまなかかわりを通して、自己理解を深める。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt;福田俊子、川向雅弘、佐々木正和、泉谷朋子、鈴木文子</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;  教員ごとに小グループに分かれ、以下の授業を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 配属実習中のスーパービジョン <ol style="list-style-type: none"> <li>第1回：実習初日の実習体験にかかわるスーパービジョン（実習ノートの書き方を含む）</li> <li>第2回：実習2日目の実習体験にかかわるスーパービジョン（実習ノートの書き方を含む）</li> <li>第3回：実習3日目の実習体験にかかわるスーパービジョン</li> <li>第4回：実習4日目の実習体験にかかわるスーパービジョン</li> <li>第5回：実習5日目の実習体験にかかわるスーパービジョン（前半実習のまとめを含む）</li> <li>第6回：実習6日目の実習体験にかかわるスーパービジョン</li> <li>第7回：実習7日目の実習体験にかかわるスーパービジョン</li> <li>第8回：実習8日目の実習体験にかかわるスーパービジョン</li> <li>第9回：実習9日目の実習体験にかかわるスーパービジョン</li> <li>第10回：実習最終日の実習体験にかかわるスーパービジョン（実習全体のまとめを含む）</li> </ol> </li> <li>2. 事後学習プログラム <ol style="list-style-type: none"> <li>第11回：全体授業、オリエンテーション、グループ別学習①</li> <li>第12回：グループ別学習②（実習報告会にむけた発表準備：テーマの設定）</li> <li>第13回：グループ別学習③（実習報告会にむけた発表準備：内容、発表方法の検討）</li> <li>第14・15回：実習報告会、まとめ</li> </ol> </li> </ol>
アクティブラーニング	本科目は、グループディスカッションを中心とした授業形態で進められる。
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーション等において、WebClass を活用する。
評価方法	授業への取り組み状況 50%（実習中のスーパービジョン・事後学習への参加状況） 総括レポート 50% レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	授業時間内に、適宜、フィードバックを実施する。

指定図書	特になし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書	特になし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	<p>配属実習中のスーパービジョンでは、率直に自分の感じたことや考えたことを話したいことをあらかじめ考えておくこと。</p> <p>事後学習プログラムでは、自分の授業に対する参加度について必ず振り返ること。 (目安時間 30 分)</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	<p>福田 俊子 (2606 研究室) メール: toshiko-f@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。</p>					
実務経験に関する記述	<p>本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク・心理臨床」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。</p>					
メディア授業の実施について	なし					



科目名	スクールソーシャルワーク演習				
科目責任者	帖佐 加代				
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 6 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP6 専門				
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。				
科目概要	学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性について学び、スクールソーシャルワーカーの基盤となる理論と実践について理解し、実践的に活用できるようにする。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個別事例へのアセスメントだけではなく、教育行政や学校、地域を把握した地域アセスメントを理解できる。</li> <li>2. ロールプレイや模擬ケース会議等を通して、スクールソーシャルワーカーに求められる相談・援助の意味を理解できる。</li> <li>3. 事例検討やグループ討議等を通して、スクールソーシャルワークを学校内で記録化する新たな仕組みを理解できる。</li> </ol>				
授業計画	<p>授業計画 &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回:オリエンテーション(授業の目的・授業計画や方法の説明) 学校教育現場が抱える課題と学校教育現場に福祉援助が入ることの理解、ソーシャルワークの価値と倫理、子どもの権利条約</p> <p>第2回:スクールソーシャルワークの視点と実践モデルの理解</p> <p>第3回:アセスメント、プランニングに関する知識と技術</p> <p>第4回:アセスメント、プランニングに関する知識と技術 (事例1 子どもと家庭を取り巻く課題)</p> <p>第5回:アセスメント、プランニングに関する知識と技術 (事例2 子どもと家庭を取り巻く課題)</p> <p>第6回:地域の社会資源の理解とアウトリーチ(福祉制度・地域資源と学校をつなぐ)</p> <p>第7回:学校におけるチーム支援についての理解(ケース会議)(DVD 視聴)</p> <p>第8回:スクールソーシャルワークを維持・発展させる力(記録やデータの蓄積、スーパービジョン、評価)</p>				
アクティブラーニング	毎回、ディスカッション、グループワークを行います。				
授業内の ICT 活用	発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。				
評価方法	100 点満点とし、授業への取り組み・発表・事前事後学修提出状況 50%、レポート 50%として評価します。レポートは、ループリックを用いて評価します。ループリックの内容は授業中に別紙にて提示します。				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。				
指定図書	スクール (学校) ソーシャルワーク論の図書に準ずる				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
参考図書	『学校でソーシャルワークをすること』鈴木庸裕編著 学事出版 『子どもの貧困に向き合える学校づくり』鈴木庸裕他 かもがわ出版 下記参照。 ※他、授業中に随時連絡します				

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
スクールソーシャルワーカー実務テキスト	金澤 ますみ	学事出版	2500	9784761928803	
学校—家庭—地域をつなぐ 子ども家庭支援アセスメントガイドブック	公益社団法人日本社会福祉士会	中央法規出版	3000	9784805888063	冊子版
事前・事後学修	学校、地域、子ども家庭福祉に関する話題や報道に関心をもって授業に臨んでください。各回の進行に応じて、課題や資料を配布します。資料を熟読し課題理解を深めてください。(目安時間 40 分)				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は「スクールソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	スクールソーシャルワーク実習指導					
科目責任者	大場 義貴					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 67 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。					
科目概要	<p>スクールソーシャルワーク実習の意義について理解するために、学校現場等を知り、学校組織を体験的に学ぶ。また、スクールソーシャルワーク実習にかかる個別指導並びに集団指導を通して学校における相談援助活動やソーシャルワーク実践にかかる知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。</p> <p>講義（実習指導）と、グループ学習及び個別指導を通して、主体的にスクールソーシャルワーク実習の準備を行う。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育の場で生かせる社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等総合的に対応できる能力を習得する。</li> <li>2. 具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養う。</li> <li>3. ソーシャルワークが展開されるべく新しい現場に入るという意味を理解し、開拓の視点を養う。</li> </ol>					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第6セメスター</p> <p>第1回：オリエンテーション・スクールソーシャルワーク実習の意義</p> <p>第2回：スクールソーシャルワークの対象となる児童生徒、家族の理解</p> <p>第3回：学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など基本的な理解</p> <p>第4回：実習先で必要とされる相談援助（子ども、家族、教員対象）に係る知識と技術に関する理解</p> <p>第5回：スクールソーシャルワークの実際（個別面接、ケース会議、連携会議など）</p> <p>第6回：不登校支援（校外学びの教室）について／ゲストスピーカー</p> <p>第7回：浜松市の子ども相談体制についての理解</p> <p>第8回：実習計画の発表（前半実習）</p> <p>第9回：実習記録ノートへの記録内容及び記録方法に関する理解、実習における個人のプライバシー保護と守秘義務等の理解</p> <p>第7セメスター</p> <p>第10回：前半実習の振り返り</p> <p>第11回：実習計画の発表（後半実習）</p> <p>第12回：巡回指導</p> <p>第13回：実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理</p> <p>第14回：ソーシャルワーク実習としての不足分のレポート、実習総括レポートの作成</p> <p>第15回：実習の評価全体総括会（実習報告会）</p>					
アクティブラーニング	本授業は、反転授業、グループワーク、プレゼンテーション、を取り入れて実施します。					
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。</li> <li>・ グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。</li> </ul>					
評価方法	100 点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。					
課題に対するフィードバック	<p>リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。</p> <p>個別に質問がある場合は、WebClass やオフィスアワーで対応します。</p>					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	①授業前に WebClass 内の事前課題に回答すること (各 20 分 2～15 回) ②授業後に WebClass 内の事後課題に回答すること (各 20 分 2～15 回)					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	大場 義貴 (2608 研究室) メール: yoshitaka-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	スクールソーシャルワーク実習				
科目責任者	大場 義貴				
単位数他	2単位 (90時間) 選択 67セメスター				
DP番号と科目領域	DP5 専門				
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。				
科目概要	<p>1. 児童生徒たちが過ごす学校現場等を知り、学校組織を体験的に学び、理解を深める。</p> <p>2. スクールソーシャルワーカーとして求められる資質、技能、倫理から、福祉が一次分野でない教育現場における課題を見つけられる力を養う。</p> <p>3. 教職員ほかとの連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</p> <p>4. 子どもや家族、教職員から自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>・学生は、実習担当者（スクールソーシャルワーカー）による指導、教育委員会や学校の指導を受けるものとする。</p> <p>・スクールソーシャルワーク実習指導担当教員は、巡回指導等を通して、学生及び実習担当者（スクールソーシャルワーカー、教育委員会や学校）との連絡調整を密に行い、学生の実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。</p>				
到達目標	<p>1. 学校組織の理解が深まり、スクールソーシャルワーカーとして求められる教育現場における課題が理解できる。</p> <p>2. 教職員ほかとの連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できる。</p> <p>3. 子どもや家族、教職員に対し、総合的に対応できる能力を習得する。</p>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>大学が指定する学校・機関・組織にて90時間以上実習を行い、以下の内容を修得する。</p> <p>①児童生徒・家族の理解、学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など基本的な理解、ニーズ把握と支援計画の作成</p> <p>②児童生徒、教職員、教育委員会、事例や学校に関する関係者との基本的コミュニケーションを通じた、円滑な人間関係の形成</p> <p>③児童生徒・家族、学校、教育委員会などとの援助関係の形成</p> <p>④児童生徒・家族への権利擁護、学校、教育委員会など含めての支援（エンパワメント含む）と評価</p> <p>⑤校内におけるケース会議や学年会議でのケース検討における進め方の実際</p> <p>⑥校内や関係機関含めた多職種によるチームアプローチの実際</p> <p>⑦社会福祉士としての職業倫理、教員など学校関係者の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解</p> <p>⑧学校運営、学校組織、教育委員会組織の実際</p> <p>⑨市の児童生徒への相談体制について理解し、学校がどのようにつながっているのかを学ぶ。具体的なネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</p>				
アクティブラーニング	実習科目				
授業内のICT活用	<p>・ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。</p> <p>・グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。</p>				
評価方法	100点満点とし、実習への取り組み70%、報告書（報告会用）30%にて行う。				
課題に対するフィードバック	実習巡回、帰校日等で随時指導します。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	①実習前に次回実習に関する自己の課題を考え、入力すること（各 10 分） ②実習後に今回の実習に関する自己の振り返りを入力すること（各 30 分）					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	大場 義貴（2608 研究室） メール：yoshitaka-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	医療ソーシャルワーク演習				
科目責任者	小畑 美穂				
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 5 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP6 専門				
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。				
科目概要	<p>保健医療機関における医療ソーシャルワーカーの役割および社会的意義について、事例およびグループワークを通して学ぶ。</p> <p>疾病および障害とともに生きる、子どもから高齢者までの様々な人たちが直面する個別の生活課題と社会的背景について考える。また、医療政策が目指す医療提供体制の効率化および地域包括ケアシステムの構築、保健医療介護の統合化、入院から在宅へという流れのなかで、医療ソーシャルワーカーは、どのように総合的な支援を展開してゆくのか考える。加えて、医療専門職種をはじめとする多様な専門職、機関、ステークホルダーとの連携・協働のあり方、地域連携・ネットワークづくり、社会資源の活用の仕方および新たな資源づくりについて考える。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、医療ソーシャルワーカーの役割について理解できる</li> <li>2、疾病および障害にともなう生活課題の解決にむけた方法論を習得する</li> <li>3、多職種/地域連携およびネットワークづくりについて考えることができる</li> <li>4、医療ソーシャルワーカーが保健医療機関に存在する意義について自分の言葉で表現することができる</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション、医療制度改革と医療ソーシャルワーカー業務</p> <p>第2回：医療ソーシャルワーカーの業務および役割①（事例/グループワーク）</p> <p>第3回：医療ソーシャルワーカーの業務および役割②（事例/グループワーク）</p> <p>第4回：医療福祉にかかわる法制度の活用（事例/グループワーク）</p> <p>第5回：多職種連携・協働における医療ソーシャルワーカーの視点と方法①（事例/グループワーク）</p> <p>第6回：多職種連携・協働における医療ソーシャルワーカーの視点と方法②（事例/グループワーク）</p> <p>第7回：地域資源・マッピング①（グループワーク）</p> <p>第8回：地域資源・マッピング②（グループワーク）</p>				
アクティブラーニング	グループワーク、ディスカッション				
授業内の ICT 活用	グループワークにおいて PC、スマートフォン等デバイスを利用する。WebClass を利用する。				
評価方法	授業態度（グループワークへの取り組みなど）70%、期末レポート 30%				
課題に対するフィードバック	次回授業時にコメントする。				
指定図書	『地域包括ケア時代の医療ソーシャルワーク実践テキスト 改定版』日本医療ソーシャルワーク学会編、日総研				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『現場で役立つ！社会保障制度 活用ガイド』、「ケアマネジャー」編集部・福島敏之、中央法規</li> <li>・『医療福祉総合ガイドブック 2021 年度版』NPO 法人日本医療ソーシャルワーク研究会編、医学書院</li> <li>・『病院早わかり読本 第6版』飯田修平編著、医学書院</li> </ul>				

書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>【事前学習】 第2回から8回までの授業の前に課題を提示する。(目安時間 40分)</p> <p>【事後学習】 授業中に配布した資料をもとに授業の振り返りを行う。(目安時間 30分)</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	小畑 美穂 (2707 研究室) メール:miho-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示する。				
実務経験に関する記述	本科目は「医療ソーシャルワーカー」等の実務経験を有するこうしが実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	国際福祉実習 I
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	(SW) DP7 専門 (SC) DP7 専門 (EC) DP7 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。 (SC) 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。 (EC) 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職者として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国際福祉実習 I～IVは、国際社会に貢献できる人材育成を行うために、実際に会議に出かけ、その国の様々な社会福祉事情や文化を体験することにより、価値観の多様性や異文化を受容することを学ぶ。国際的な視野を養い、グローバルな社会福祉の課題解決のための考察を行う(アクティブラーニング) ※国際福祉実習 I～IVは、期間を意味する。2 週間の場合は、I のみ履修。4 週間の場合は、I・IIを履修。6 週間・8 週間の場合は I～III、I～IVの履修となる。
到達目標	1. 聖隷の理念に基づく海外での社会福祉事業の展開について理解することができる。 2. 訪問する国の社会福祉の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 3. 日本の社会福祉の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら福祉職としての任務と使命を理解することができる。
授業計画	<科目担当者> 川向雅弘  <授業内容・テーマ等> ・実習事前指導(渡航前) 国際福祉実習の目的について-「聖隷の理念と歴史」との関係を含む 実習施設について調べる-実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス(英語学習を含む)  ・本実習 実習先: インド聖隷希望の家(知的障害者教育施設) 韓国 東明高齢者福祉センター(高齢者施設)・東明児童福祉センター(児童養護施設)  実習内容 見学・観察実習 参加実習 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他の施設見学 評価・反省(まとめ)  ・実習事後指導(帰国後) 自己評価(評価表の項目に沿って)を行う 個別面談(施設側からの評価表が届き次第)を行い、自己覚知をする 実習報告会の準備をする 実習報告会にて発表する
アクティブラーニング	実習・フィールドワーク(施設見学)・プレゼンテーション
授業内の ICT 活用	ZOOM を使用して、実習施設とのやりとりを行う。

評価方法	<p>評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録・実習レポート、事前・事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設からの評価 (30%)、実習記録・実習レポート (30%)、</li> <li>・事前・事後学習の取り組み (30%)</li> <li>・実習報告会での成果発表 (10%)      ルーブリックは用いない。</li> </ul>					
課題に対するフィードバック	実習報告会を実施し、報告内容についてフィードバックを行う					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	<p>事前学習：実習先の国の文化等調べる。英会話力を身に付ける。</p> <p>事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える。</p> <p>各学修の目安は40分</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	川向 雅弘 (2705 研究室)    メール:masahiro-k@seirei.ac.jp    時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉士」として社会福祉現場の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	国際福祉実習Ⅱ
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2単位 (90時間) 選択 4, 5, 6, 7, 8セメスター
DP 番号と科目領域	(SW) DP7 専門 (SC) DP7 専門 (EC) DP7 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。 (SC) 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。 (EC) 教育・保育に関する地域社会・国際社会のニーズを捉え、専門職者として使命感を持ちながら貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、国際社会に貢献できる人材育成を行うために、実際に会議に出かけ、その国の様々な社会福祉事情や文化を体験することにより、価値観の多様性や異文化を受容することを学ぶ。国際的な視野を養い、グローバルな社会福祉の課題解決のための考察を行う(アクティブラーニング) ※国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、期間を意味する。2週間の場合は、Ⅰのみ履修。4週間の場合は、Ⅰ・Ⅱを履修。6週間・8週間の場合はⅠ～Ⅲ、Ⅰ～Ⅳの履修となる。
到達目標	1. 聖隷の理念に基づく海外での社会福祉事業の展開について理解することができる。 2. 訪問する国の社会福祉の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。 3. 日本の社会福祉の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。 4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。 5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら福祉職としての任務と使命を理解することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等>  ・実習事前指導(渡航前) 国際福祉実習の目的について-「聖隷の理念と歴史」との関係を含む 実習施設について調べる-実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス(英語学習を含む)  ・本実習 実習先: インド聖隷希望の家(知的障害者教育施設) 韓国 東明高齢者福祉センター(高齢者施設)・東明児童福祉センター(児童養護施設)  実習内容 見学・観察実習 参加実習 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他の施設見学 評価・反省(まとめ)  ・実習事後指導(帰国後) 自己評価(評価表の項目に沿って)を行う 個別面談(施設側からの評価表が届き次第)を行い、自己覚知をする 実習報告会の準備をする 実習報告会にて発表する
アクティブラーニング	実習・フィールドワーク(施設見学)・プレゼンテーション
授業内のICT活用	ZOOMを使用して、実習施設とのやりとりを行う。

評価方法	<p>評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録・実習レポート、事前・事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設からの評価 (30%)、実習記録・実習レポート (30%)、</li> <li>・事前・事後学習の取り組み (30%)</li> <li>・実習報告会での成果発表 (10%)      ルーブリックは用いない。</li> </ul>					
課題に対するフィードバック	実習報告会を実施し、報告内容についてフィードバックを行う					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	<p>事前学習：実習先の国の文化等調べる。英会話力を身に付ける。</p> <p>事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える。</p> <p>各学修の目安は40分</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	川向 雅弘 (2705 研究室)    メール:masahiro-k@seirei.ac.jp    時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉士」として社会福祉現場の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	国際福祉実習Ⅲ
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2単位 (90時間) 選択 4,5,6,7,8セメスター
DP番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、国際社会に貢献できる人材育成を行うために、実際に会議に出かけ、その国の様々な社会福祉事情や文化を体験することにより、価値観の多様性や異文化を受容することを学ぶ。国際的な視野を養い、グローバルな社会福祉の課題解決のための考察を行う(アクティブラーニング) ※国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、期間を意味する。2週間の場合は、Ⅰのみ履修。4週間の場合は、Ⅰ・Ⅱを履修。6週間・8週間の場合はⅠ～Ⅲ、Ⅰ～Ⅳの履修となる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 聖隷の理念に基づく海外での社会福祉事業の展開について理解することができる。</li> <li>2. 訪問する国の社会福祉の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。</li> <li>3. 日本の社会福祉の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。</li> <li>4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。</li> <li>5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら福祉職としての任務と使命を理解することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習事前指導(渡航前) 国際福祉実習の目的について-「聖隷の理念と歴史」との関係を含む 実習施設について調べる-実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス(英語学習を含む)</li> <li>・本実習 実習先: インド聖隷希望の家(知的障害者教育施設) 韓国 東明高齢者福祉センター(高齢者施設)・東明児童福祉センター(児童養護施設)</li> <li>実習内容 見学・観察実習 参加実習 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他の施設見学 評価・反省(まとめ)</li> <li>・実習事後指導(帰国後) 自己評価(評価表の項目に沿って)を行う 個別面談(施設側からの評価表が届き次第)を行い、自己覚知をする 実習報告会の準備をする 実習報告会にて発表する</li> </ul>
アクティブラーニング	実習・フィールドワーク(施設見学)・プレゼンテーション
授業内のICT活用	ZOOMを使用して、実習施設とのやりとりを行う。
評価方法	<p>評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録・実習レポート、事前・事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設からの評価(30%)、実習記録・実習レポート(30%)</li> <li>・事前・事後学習の取り組み(30%)</li> <li>・実習報告会での成果発表(10%) ルーブリックは用いない。</li> </ul>

課題に対する フィードバック	実習報告会を実施し、報告内容についてフィードバックを行う					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	事前学習：実習先の国の文化等調べる。英会話力を身に付ける。 事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える。 各学修の目安は40分					
オープンエデュケーション の活用	なし					
オフィスアワー	川向 雅弘 (2705 研究室) メール:masahiro-k@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉士」として社会福祉現場の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	国際福祉実習Ⅳ
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2単位 (90時間) 選択 4, 5, 6, 7, 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、国際社会に貢献できる人材育成を行うために、実際に会議に出かけ、その国の様々な社会福祉事情や文化を体験することにより、価値観の多様性や異文化を受容することを学ぶ。国際的な視野を養い、グローバルな社会福祉の課題解決のための考察を行う(アクティブラーニング) ※国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、期間を意味する。2週間の場合は、Ⅰのみ履修。4週間の場合は、Ⅰ・Ⅱを履修。6週間・8週間の場合はⅠ～Ⅲ、Ⅰ～Ⅳの履修となる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 聖隷の理念に基づく海外での社会福祉事業の展開について理解することができる。</li> <li>2. 訪問する国の社会福祉の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。</li> <li>3. 日本の社会福祉の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。</li> <li>4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。</li> <li>5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら福祉職としての任務と使命を理解することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習事前指導(渡航前) 国際福祉実習の目的について-「聖隷の理念と歴史」との関係を含む 実習施設について調べる-実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス(英語学習を含む)</li> <li>・本実習 実習先: インド聖隷希望の家(知的障害者教育施設) 韓国 東明高齢者福祉センター(高齢者施設)・東明児童福祉センター(児童養護施設)</li> <li>実習内容 見学・観察実習 参加実習 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他の施設見学 評価・反省(まとめ)</li> <li>・実習事後指導(帰国後) 自己評価(評価表の項目に沿って)を行う 個別面談(施設側からの評価表が届き次第)を行い、自己覚知をする 実習報告会の準備をする 実習報告会にて発表する</li> </ul>
アクティブラーニング	実習・フィールドワーク(施設見学)・プレゼンテーション
授業内のICT活用	ZOOMを使用して、実習施設とのやりとりを行う。
評価方法	<p>評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録・実習レポート、事前・事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設からの評価(30%)、実習記録・実習レポート(30%)</li> <li>・事前・事後学習の取り組み(30%)</li> <li>・実習報告会での成果発表(10%) ルーブリックは用いない。</li> </ul>

課題に対する フィードバック	実習報告会を実施し、報告内容についてフィードバックを行う				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>事前学習：実習先の国の文化等調べる。英会話力を身に付ける。</p> <p>事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える。</p> <p>各学修の目安は40分</p>				
オープンエデュケーション の活用	なし				
オフィスアワー	川向 雅弘 (2705 研究室) メール:masahiro-k@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉士」として社会福祉現場の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業 の実施について	なし				



科目名	福祉実習 I (SW)					
科目責任者	福田 俊子					
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。					
科目概要	<p>特定領域の理解促進、将来の進路決定など、自らの学習課題、目的に応じ、実習時期、実習先、実習内容を主体的に決定し、社会福祉施設・機関等で 10 日間実習を行う。実習前には事前学習を行い実習先についての理解を深め、自らの学修の目標を明確化する。また実習後については教員によるスーパービジョンをとおして学習を深め、学びをレポートにまとめる。</p> <p>注) 福祉実習は、I～IVまであり、一か所 10 日間の実習であれば I のみ履修、20 日間の場合は I・II を同時に履修できる。また、3～8 セメスターの範囲で IV まで履修でき、I を履修済の場合は II、I・II を履修済の場合は、III を履修するということになる。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。</li> <li>2. 福祉職従事者の視点や実践方法を学ぶ。</li> <li>3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。</li> </ol>					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;  学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員によるオリエンテーション</li> <li>・実習計画書の作成</li> </ul> </li> <li>2. 配属実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの社会福祉施設・機関・団体において I～IV 各 10 日間の実習を実施</li> <li>・日ごとの実習目標の立案</li> <li>・実習記録の作成</li> <li>・実習先におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> <li>3. 事後学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> </ol>					
アクティブラーニング	本科目は、施設・病院等の課題解決に主体的に関与することを目的とした実習科目である。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	事前学習 10%、実習 60%、事後学習 30% (実習後のレポートを含む)					
課題に対するフィードバック	配属実習後の教員によるスーパービジョンにて、課題をフィードバックする。					
指定図書	特になし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	特になし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習：配属実習が開始するまでに、実習施設の概要を十分に把握しておく。(目安時間 90 分)</li> <li>・事後学習：教員によるスーパービジョンを受けた後に、レポートを作成する。(目安時間 120 分)</li> </ul>					

オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	福田 俊子 (2614 研究室) メール: toshiko-f@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ソーシャルワーク」「ケアワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	なし

科目名	福祉実習Ⅱ (SW)					
科目責任者	福田 俊子					
単位数他	2単位 (90時間) 選択 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。					
科目概要	<p>特定領域の理解促進、将来の進路決定など、自らの学習課題、目的に応じ、実習時期、実習先、実習内容を主体的に決定し、社会福祉施設・機関等で10日間実習を行う。実習前には事前学習を行い実習先についての理解を深め、自らの実習の目標を明確化する。また実習後については教員によるスーパービジョンをとおして学習を深め、学びをレポートにまとめる。</p> <p>注) 福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所10日間の実習であればⅠのみ履修、20日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、3～8セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。</li> <li>2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。</li> <li>3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。</li> </ol>					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>学生各自の関心や目的に応じて、主としてアドバイザーと相談しつつ自主的に実習を計画する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員によるオリエンテーション</li> <li>・実習計画書の作成</li> </ul> </li> <li>2. 配属実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの社会福祉施設・機関・団体において10日間の実習を実施</li> <li>・日ごとの実習目標の立案</li> <li>・実習記録の作成</li> <li>・実習先におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> <li>3. 事後学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> </ol>					
アクティブラーニング	本科目は、施設・病院等の課題解決に主体的に関与することを目的とした実習科目である。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	事前学習 10% (実習計画書含む)、配属実習 60%、事後学習 30% (実習後のレポート含む)					
課題に対するフィードバック	配属実習後の教員によるスーパービジョンにて、課題をフィードバックする。					
指定図書	特になし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	特になし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習：配属実習が開始するまでに、実習施設の概要を十分に把握しておく。(目安時間 90分)</li> <li>・事後学習：教員によるスーパービジョンを受けた後に、レポートを作成する。(目安時間 120分)</li> </ul>					

オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	福田 俊子 (2614 研究室) メール: toshiko-f@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ソーシャルワーク」「ケアワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	なし

科目名	福祉実習Ⅲ					
科目責任者	福田 俊子					
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。					
科目概要	<p>特定領域の理解促進、将来の進路決定など、自らの学習課題、目的に応じ、実習時期、実習先、実習内容を主体的に決定し、社会福祉施設・機関等で 10 日間実習を行う。実習前には事前学習を行い実習先についての理解を深め、自らの実習の目標を明確化する。また実習後については教員によるスーパービジョンをとおして学習を深め、学びをレポートにまとめる。</p> <p>注) 福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所 10 日間の実習であればⅠのみ履修、20 日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、3～8 セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。</li> <li>2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。</li> <li>3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。</li> </ol>					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>学生各自の関心や目的に応じて、主としてアドバイザーと相談しつつ自主的に実習を計画する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員によるオリエンテーション</li> <li>・実習計画書の作成</li> </ul> </li> <li>2. 配属実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの社会福祉施設・機関・団体において 10 日間の実習を実施</li> <li>・日ごとの実習目標の立案</li> <li>・実習記録の作成</li> <li>・実習先におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> <li>3. 事後学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> </ol>					
アクティブラーニング	本科目は、施設・病院等の課題解決に主体的に関与することを目的とした実習科目である。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	事前学習 10% (実習計画書含む)、配属実習 60%、事後学習 30% (実習後のレポート含む)					
課題に対するフィードバック	配属実習後の教員によるスーパービジョンにて、課題をフィードバックする。					
指定図書	特になし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	特になし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習：配属実習が開始するまでに、実習施設の概要を十分に把握しておく。(目安時間 90 分)</li> <li>・事後学習：教員によるスーパービジョンを受けた後に、レポートを作成する。(目安時間 120 分)</li> </ul>					

オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	福田 俊子 (2614 研究室) メール: toshiko-f@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「ソーシャルワーク」「ケアワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	なし

科目名	福祉実習Ⅳ
科目責任者	小畑 美穂
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	<p>福祉実習Ⅳ（医療ソーシャルワーク実習）をより実り多いものとするために、事前学修として、実習で必要となる知識を習得するとともに、そのなかで問題意識を明確にして実習計画を作成する。また、事後学修として、スーパービジョンやグループワークを通して、実習体験を論理的に整理するとともに実習報告会を実施する。</p> <p>続いて、福祉実習Ⅳ（医療ソーシャルワーク実習）では、医療機関（病院、診療所、老人保健施設）またはその関連施設の保健医療福祉部門において、10 日間の配属実習を行う。保健医療機関および医療福祉について理解を深める。</p> <p>なお、本科目の履修においては、「医療福祉論」と「医療ソーシャルワーク演習」の単位取得が原則となる。</p> <p>※実習前には事前学修を行い実習先について理解を深め、自らの実習目標を明確化する。</p> <p>※実習後については教員によるスーパービジョンをとおして学修を深め、学びをレポートにまとめ、発表する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、保健医療領域における医療ソーシャルワーカーの存在意義を追求することができる。</li> <li>2、実習において必要とされる知識を習得する。</li> <li>3、医療ソーシャルワーカー業務の実際について理解する。</li> <li>4、医療福祉の対象と方法について理解する。</li> <li>5、医療福祉を取り巻く環境について理解する。</li> <li>6、実習の目的にかなう実習計画書を作成することができる。</li> <li>7、実習体験を体系的にまとめ、報告することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>《事前学修》実習で必要となる知識を習得するとともに、そのなかで問題意識を明確にし、学修計画を作成する。</p> <p>《実習》10 日間の配属実習を行う。実習先の実習指導者ならびに医療ソーシャルワーク実習担当教員は、学生が上記に示す達成課題に取り組むことができるように、適宜スーパービジョンを実施する。</p> <p>また、実習担当者は、実習中の巡回などを通して学生の実習状況を把握し、必要に応じた実習指導者間の連絡調整を行う。</p> <p>《事後学修》スーパービジョンやグループワークを通し、実習体験を論理的に整理するとともに学びのレポートならびに実習報告会を実施する。</p>
アクティブラーニング	実習科目である。 グループワーク。
授業内の ICT 活用	PC、タブレット、スマートフォン等デバイスを活用し、検索・入力・作業およびグループワークを行う。WebClass を利用する。
評価方法	事前学習 10%（実習計画書含む）、配属実習 60%、事後学習 30%（実習後のレポート含む）
課題に対するフィードバック	実習中および実習後にスーパービジョンを行う。

指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	<p>実習前は、実習計画を立て実習準備を行う。</p> <p>実習中は、毎日実習を振り返り、実習記録を記入し、実習先に提出する。また、翌日の実習計画の作成を行う。</p> <p>実習後は、グループワークおよび教員によるスーパービジョンを通して学びの振り返りを行う。</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	小畑 美穂 (2707 研究室) メール:miho-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示する。					
実務経験に関する記述	本科目は「医療ソーシャルワーク」等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。					
メディア授業の実施について	なし					



科目名	インターンシップⅡ (SW)				
科目責任者	落合 克能				
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 67 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP1 専門				
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。				
科目概要	自主実習やコースが提供する実習プログラムなどを活用しながら、3 年次秋セメスターにて学生自身が選択したコース（マネジメントコース、保健医療ソーシャルワークコース、アクティブライフコース）に関わる専門性を高めたり、各自の興味・関心を深めたりすることを目的とする。本科目は 10 日間程度の配属実習や大学以外の機関や団体が提供しているインターンシッププログラムなどを用いて、授業は展開される。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでに学修してきた知識・技術を活用し、援助者としての自己の将来像で必要とされる実践力を身につける</li> <li>2. 主体的に利用者や職員とかかわりながら、人間の多様性を踏まえたうえで、人や社会と協働できる力を身につける</li> </ol>				
授業計画	<p>学生各自の関心や目的に応じて、アドバイザーや担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員（やアドバイザー）によるオリエンテーション</li> <li>・実習計画書の作成</li> </ul> </li> <li>2. 配属実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの社会福祉施設・機関・団体において 10 日間の実習を実施</li> <li>・日ごとの実習目標の立案</li> <li>・実習記録の作成</li> <li>・実習先におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> <li>3. 事後学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> </ol>				
アクティブラーニング	フィールドワーク、グループワークを行います				
授業内の ICT 活用	ICT を活用し事前学習を進めます				
評価方法	事前・事後学習への取り組み 20% 配属実習での取り組み 40% 定期試験（レポート） 40%				
課題に対するフィードバック	事前、事後をとおして、課題に対するフィードバックを行う				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	配属実習中のスーパービジョンでは、率直に自分の感じたことや考えたことを話したいことをあらかじめ考えておくこと。 事後学習プログラムでは、自分の授業に対する参加度について必ず振り返ること。 (目安時間 40 分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	落合 克能 (2613 研究室) メール: katsutaka-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	インターンシップⅢ					
科目責任者	落合 克能					
単位数他	1 単位 (60 時間) 選択 5, 6, 7, 8 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP1 専門					
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。					
科目概要	外部の専門機関・団体が提供するインターンシッププログラムなどを活用しながら、学生自身が求めるキャリアプランに関わる専門性を高めたり、各自の興味・関心を深めたりすることを目的とする。概ね5日間程度の配属実習と事前事後学修で展開される。					
到達目標	1. これまでに学修してきた知識・技術を活用し、専門職としての自己の将来像で必要とされる実践力を身につける 2. 主体的に利用者等や職員とかかわりながら、人間の多様性を踏まえたうえで、人や社会と協働できる力を身につける					
授業計画	<p>学生各自の関心や目的に応じて、アドバイザー、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事前学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>担当教員（やアドバイザー）によるオリエンテーション</li> <li>実習計画の検討</li> </ul> </li> <li>インターンシップ等への参加 <ul style="list-style-type: none"> <li>一つの機関・団体において5日間程度の実習を実施</li> <li>日ごとの実習目標の立案</li> <li>実習記録の作成</li> <li>実習先におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> <li>事後学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>学内におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> </ol>					
アクティブラーニング	実習科目					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	事前・事後学習への取り組み 20% 配属実習での取り組み 40% 定期試験（レポート） 40%					
課題に対するフィードバック	事前、事後をとおして、課題に対するフィードバックを行う					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	配属実習中のスーパービジョンでは、率直に自分の感じたことや考えたことを話したいことをあらかじめ考えておくこと。 事後学習プログラムでは、自分の授業に対する参加度について必ず振り返ること。 (目安時間 40 分)					

オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	落合 克能 (2613 研究室) メール: katsutaka-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	ライフサイクルとソーシャルワーク					
科目責任者	大場 義貴					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 SW コース必修 1 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP2 専門					
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。					
科目概要	現代社会において「高齢者」、「若者」、「女性」、「子ども」が直面しやすい心理・社会的諸問題を、社会福祉学的観点から理解する。教員からの講義、グループワーク、学生の発表を1セットとする学修形式を通して、ソーシャルワーカーとしての必要な知識を身につける。					
到達目標	1. 現代社会の高齢者・若者・子どもの心理・社会的諸問題を保健医療福祉の専門職者として、社会福祉学的観点から理解できる 2. グループワークを通して活発に意見交換ができ、発表資料を作成・発表することができる。					
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;大場義貴、小畑美穂</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：ライフサイクルを巡る現代社会の心理・社会的諸問題と政策の動向</p> <p>第2回：不登校・ひきこもり（講義）</p> <p>第3回：不登校・ひきこもり（グループワーク）</p> <p>第4回：不登校・ひきこもり（発表）</p> <p>第5回：発達障害・いじめ（講義）／ゲストスピーカー（大須賀優子）</p> <p>第6回：発達障害・いじめ（グループワーク）</p> <p>第7回：発達障害・いじめ（発表）</p> <p>第8回：ライフサイクルと心理・社会的支援（講義）</p> <p>第9回：高齢者の生活問題・社会的孤立（講義）／ゲストスピーカー（高齢者領域ソーシャルワーカー）</p> <p>第10回：高齢者の生活問題・社会的孤立（グループワーク）</p> <p>第11回：高齢者の生活問題・社会的孤立（発表）</p> <p>第12回：子どもの権利・社会の責任（講義）</p> <p>第13回：子どもの権利・社会の責任（グループワーク）</p> <p>第14回：子どもの権利・社会の責任（発表）</p> <p>第15回：まとめ</p>					
アクティブラーニング	本授業は、グループワーク、プレゼンテーション、を取り入れて実施します。					
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。</li> <li>・グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行います。</li> </ul>					
評価方法	100 点満点とし、定期試験（レポート）50%、授業への取り組み・発表・事前事後学修提出状況 50%として評価します。 レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に提示します。					
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。 個別に質問がある場合は、WebClass やオフィスアワーで対応します。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	

事前・事後学修	①授業前に WebClass 内の事前課題に回答すること (各 20 分 2~15 回) ②授業後に WebClass 内の事後課題に回答すること (各 20 分 2~15 回)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	大場 義貴 (2608 研究室) メール: yoshitaka-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「医療ソーシャルワーカー」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし



評価方法	授業への取り組み状況 (60%)、テーマレポート (40%) レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。					
課題に対するフィードバック	授業時間内に、適宜、フィードバックは実施する。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	<p>&lt;事前・事後学修&gt; 第2～14回の授業では以下の点に留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提示された課題に対しては、あらかじめ必要な知識を復習し、共通の文献を分担発表する場合は、必ず当該部分を予め通読して授業に臨むこと。</li> <li>・グループ発表にあたっては、授業時間外で自主的に集まり、課題を達成しておくこと。</li> <li>・個人発表の場合は、ゼミメンバーに内容が伝わりやすいレジюмеなどを準備しておくこと。</li> </ul> <p>(目安時間 40分)</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	大場 義貴 (2608 研究室) メール:yoshitaka-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示する。					
実務経験に関する記述	本科目は「医療ソーシャルワーカー」、「精神保健福祉士」、「臨床心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。					
メディア授業の実施について	なし					



科目名	臨床原論					
科目責任者	福田 俊子					
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 78 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP7 専門					
科目の位置付	社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。					
科目概要	本科目は、ソーシャルワークの原点や原理に立ち戻り、学科所属教員らによる「支援とは何か」「専門性とは何か」といったテーマに基づいた講義をきくことで、学生自身がこれらのテーマについて調べ、考え、そして自らの言葉で表現できるようになることを目的とし、社会福祉学科において積み重ねてきた講義、演習、実習の学修を総括する。					
到達目標	1. 多様な人間や社会のありようを再認識し、自己の価値観を確認する。 2. これまでの学修を振り返りながら、自己の将来像を表現できるようになる。 3. 自分の言葉を用いて、各テーマにかかわる意見を表現できるようになる。					
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt;福田俊子、大場義貴、川向雅弘、佐藤順子、野田由佳里、佐々木正和、泉谷朋子、井川淳史</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：福田俊子 講義概要、専門家であること</p> <p>第2回：井川淳史 科学的介護について</p> <p>第3回：大場義貴 思春期のメンタルヘルス</p> <p>第4回：佐々木正和 ソーシャルワーカーの訪問支援</p> <p>第5回：川向雅弘 ソーシャルワーカー機能としてのアドボカシー</p> <p>第6回：泉谷朋子 ソーシャルワーカーに求められるジェンダー視点</p> <p>第7回：佐藤順子 福祉コミュニティをつくる</p> <p>第8回：野田由佳里 実践から考える臨床家としての介護</p>					
アクティブラーニング	テーマに沿ったグループディスカッション、WebClass への課題提出などがなされる。					
授業内の ICT 活用	WebClass を利用する。					
評価方法	毎回のリアクションペーパー40% (5 点×8 回) 総括レポート 60% レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。					
課題に対するフィードバック	各回の授業冒頭で、前回の授業を担当した教員より、フィードバックがなされる。					
指定図書	特になし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	特になし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	

事前・事後学修	<p>&lt;事前学修&gt; 第1～8回の授業では、WebClass等に提示された事前課題に必ず取り組むこと。</p> <p>&lt;事後学修&gt; ・第1～8回の授業では、自主的に調べた内容も加味してリアペを作成すること。 (目安時間 40分)</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	福田 俊子 (2606 研究室) メール: toshiko-f@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	なし

科目名	キリスト教社会福祉					
科目責任者	佐藤 順子					
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP1 専門					
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。					
科目概要	本講義では、これまでの社会福祉の学びを振り返りつつ、日本の社会福祉形成に重要な役割を果たしたキリスト教社会福祉実践者の生き様を学ぶ。以上を通して、人間の「多様性」を受容・共感する態度を具体的に習得し、人や社会に協調できる共生の価値観を涵養する。					
到達目標	1. 今まで学修を通して理解した、人間の「多様性」を踏まえ、共生の価値観をもつ。 2. その価値観を土台にして、受容的・共感的態度をもって、人や社会と協調できる。 3. 以上を通して「生命の尊厳と隣人愛」という理念を体現する福祉専門職となるための礎を築く					
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>佐藤順子、仲 義之 第1回：オリエンテーション 日本における社会福祉発展史におけるキリスト教社会事業 第2回： 関係図書、論文等の探索 第3回： 調べ学習の報告、討論、教員からのフィードバック 第4回：                    // 第5回：                    // 第6回：                    // 第7回：                    // 第8回： まとめ    これまでの学びから、何を引き継ぐべきか					
アクティブラーニング	演習方式で実施する。 事前に各自が関心をもった人物についての自己学習、報告資料の作成を課す。 毎回の授業では、担当学生は報告資料をもとに学習成果を報告する。 報告ののち、全員で討議し、理解を深める。 これらの繰り返しにより、主体的な学びの方法を身につけ、知識の定着を図る。					
授業内の ICT 活用	・パソコンを利用して調べ学習を行う ・webclass を活用して双方向型授業を行う ・事前・事後学修課題についてはwebclass に提出する					
評価方法	授業態度 10%、報告 30%、討論への参加 20%、期末レポート 40%					
課題に対するフィードバック	報告については毎回フィードバックを行う。 また受講者全員に対してリアクションペーパーの提出を課し、その内容について翌週の授業冒頭でコメントし、学生相互の学びを共有する					
指定図書	特になし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	授業の中で紹介する					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	事前学修：調べ学習を行い、報告資料を作成する。 事後学修：配布資料をもとに復習し、リアクションペーパーに学びをまとめて提出する					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については初回授業時に提示します					

実務経験に関する記述	本科目は社会福祉の実務経験を有する社会福祉士と、キリスト教教育の実務経験を有する教員が教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	社会福祉発達史					
科目責任者	佐藤 順子					
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP2 専門					
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。					
科目概要	今年度は西洋社会福祉の歴史、特に人物史に焦点を当て、社会福祉はどのように発達したのかについて考察を深める。テキストによって、イギリスやヨーロッパ諸国、アメリカで活躍した著名な人物の生きざまを通して、近代西洋社会福祉における福祉の展開を学び、自らの福祉への取り組みの原点を考察する。					
到達目標	1. 社会福祉の基本的な考えに基づき、近現代社会における諸問題を理解する。 2. 近現代社会における諸問題について、その発生原因や経過、その解決の現状について説明できる。 3. 人物史を学ぶことによって、自らの福祉を学ぶ姿勢を考察する。					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション、人物史研究の視点、近代西洋社会福祉の歴史概要  第2回：社会調査から社会保障の動きにかかわった人々  第3回：セツルメント運動から生活改良の動きへかかわった人々  第4回：子ども問題に寄り添った人々  第5回：障がい者問題に寄り添った人々  第6回：対人援助の根底思想に関わった人々  第7回：宗教と社会福祉  第8回：実践の共通点と継承されること</p>					
アクティブラーニング	課題解決型学習を展開します。人数によっては演習形式で進めることもあります。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	授業態度 20%、Webclass 入力 20%、定期試験レポート 60%					
課題に対するフィードバック	授業中に提示する					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	事前学修：興味ある人物について調べ、発表する準備をしてください。また、毎回、テキストや資料を熟読することにより、大きな流れと基本知識を理解していただきます (20 分) 事後学修：毎回、再度テキストや資料を熟読することにより、知識を定着させ、学ぶ楽しみをあげていただきます (20 分) 期末のレポートの準備をしてください (90 分)					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	佐藤 順子 (2606 研究室) メール: junko-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する実務の観点から踏まえて教授する科目です					

メディア授業 の実施につい て	なし
-----------------------	----

科目名	臨床心理学概論				
科目責任者	藤田 美枝子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門				
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。				
科目概要	<p>本科目では、臨床心理学の成り立ちおよび代表的な理論について、基礎的かつ全般的な理解を深めることを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する。</p> <p>①臨床における心理実践活動 (i) 臨床心理学とは何か (ii) 臨床心理実践の構造とプロセス (iii) 心理的アセスメント、②臨床心理学の基本モデル (i) 臨床心理学の歴史 (ii) 心理実践と研究 (iii) 生物 - 心理 - 社会モデルとチームアプローチ、③事例における心理的アプローチの方法 (i) 人間性アプローチ (クライアント中心療法) (ii) 精神力動的アプローチ (精神分析学) (iii) 行動主義 (行動療法) (iv) 認知モデル (認知行動療法)、④事例における心理社会的アプローチの方法 (i) システム論 (家族療法) (ii) コミュニティアプローチ (コミュニティ心理学) (iii) 社会構成主義 (ナラティブ・アプローチ) (iv) 社会問題化する心理的問題—児童虐待をめぐって— (v) 物語と心理的支援</p>				
到達目標	<p>1. 臨床心理学の成り立ちについて理解できる 2. 臨床心理学の代表的な理論について理解できる</p>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：臨床心理学とは何か 第2回：臨床心理実践の構造とプロセス 第3回：心理的アセスメント 第4回：臨床心理学の歴史 第5回：心理実践と研究 第6回：生物 - 心理 - 社会モデルとチームアプローチ 第7回：人間性アプローチ (クライアント中心療法) 第8回：精神力動的アプローチ (精神分析学) 第9回：行動主義 (行動療法) 第10回：認知モデル (認知行動療法) 第11回：システム論 (家族療法) 第12回：コミュニティアプローチ (コミュニティ心理学) 第13回：社会構成主義 (ナラティブ・アプローチ) 第14回：社会問題化する心理的問題—児童虐待をめぐって— 第15回：物語と心理的支援</p>				
アクティブラーニング	ディスカッション、WebClass への学びの記録				
授業内の ICT 活用	WebClass にて学びの確認をします。				
評価方法	100 点満点とし、定期試験 (筆記試験) 50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。				
課題に対するフィードバック	授業中またはWebClass のメール等でフィードバックします。				
指定図書	ミネルヴァ書房 公認心理師スタンダードテキストシリーズ 3 臨床心理学概論				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

参考図書	ナカニシヤ出版 心とかかわる臨床心理[第3版]: 基礎・実際・方法				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 /備考
事前・事後学修	教科書を事前によく読み、事後学習は授業や議論の内容をまとめ、質問を考えて次回の授業に臨むこと。(目安時間は、事前・事後学習それぞれ40分程度)				
オープンエデュケーションの活用	自主的な学修として、以下のURLから情報収集等を勧めます。 一般社団法人 日本心理臨床学会の公式ページ <a href="https://www.ajcp.info/">https://www.ajcp.info/</a>				
オフィスアワー	社会福祉学部2号館6階の2610研究室。時間については初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は、「公認心理師」および「臨床心理士」の実務経験を有する講師が、子どもにおける心理臨床の実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について					



科目名	発達心理学				
科目責任者	鈴木 文子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門基礎				
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。				
科目概要	<p>本科目では、生涯発達の土台となる乳幼児期および児童期以降の発達の特徴とそれに応じた学習環境および援助を理解することを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する</p> <p>①認知機能の発達及び感情・社会性の発達 (i) 外界認知の発達 (ii) 思考とことばの発達 (iii) 感情の発達 (iv) 対人関係の発達 (v) 発達の生物学的基礎、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達 (i) 自己と他者の認知 (ii) 自己の発達、③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達 (i) 出生前期 (ii) 新生児期 (iii) 乳児期 (iv) 幼児期 (v) 児童期 (vi) 青年期 (vii) 成人期・老年期、④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方 (定型発達と非定型発達)、⑤高齢者の心理社会的課題及び必要な支援 (高齢者の心理発達の課題と必要な支援)</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知機能の発達及び感情・社会性の発達について理解できる</li> <li>2. 自己と他者の関係の在り方と心理的発達について理解できる</li> <li>3. 誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達について理解できる</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：発達心理学とは 第2回：外界認知の発達 第3回：思考とことばの発達 第4回：感情の発達 第5回：対人関係の発達 第6回：発達の生物学的基礎 第7回：自己と他者の認知・自己の発達 第8回：出生前期・新生児期 第9回：乳幼児期の発達 (1)：愛着関係について 第10回：乳幼児期の発達 (2)：コミュニケーションの発達 第11回：児童期：自尊感情の発達 第12回：青年期の特徴と支援：アイデンティティの確立 第13回：成人初期・中期の特徴と支援：恋愛と結婚 第14回：成人後期・老年期の特徴と支援：中年の危機 現代の高齢者 第15回：定型発達と非定型発達・発達を支援するとは</p>				
アクティブラーニング	PBL (課題解決型学習)、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを用いて授業を行います。				
授業内の ICT 活用	PC 等デジタルデバイスを活用し、グループワーク、プレゼンテーションの準備を行い、プレゼンテーションはプロジェクターを使用して行います。WebClass を利用します。				
評価方法	100 点満点とし、定期試験 (筆記試験) 50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。				
課題に対するフィードバック	<p>課題について、授業中に口頭で全体に対してフィードバックを行い、個別のフィードバックには Web Class を用いる。</p> <p>リアクションペーパーの内容については、授業中に全体に対してコメント内容を紹介しながらフィードバックを行う。</p>				
指定図書	遠見書房 公認心理師の基礎と実践⑫ 発達心理学				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
発達心理学	本郷 一夫	遠見書房	2600	9784866160627	冊子版

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	事前学習として、各回のテーマについて分からないことや知らない用語について、本やインターネットで調べておく。事後学修として、リアクションペーパーの記入や課題を通して授業内容を振り返り、さらに発展学習として提示された課題について調べてまとめる。これらの学修を毎回40分程度行うこと。					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	研究室 時間帯については授業時に提示。					
実務経験に関する記述	本科目は、「公認心理師」として、医療、福祉、教育の分野で実践経験のある教員が担当します。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	アダプテッド・スポーツ
科目責任者	和久田 佳代
単位数他	2単位 (30時間) 選択 2セメスター
DP番号と科目領域	(SW) DP5 専門 (EC) DP5 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。 (EC) 専門分野の知識・理論や技術等を総合的に活用して、個々のこどもに合わせて援助・指導する実践力を備えている。
科目概要	スポーツの意義と価値、アダプテッド・スポーツの概念と意義を理解し、障がいや様々な状況にアダプテッドする方法を学び、福祉・教育の現場における支援に活かすことができるようになる。
到達目標	1. スポーツの意義と価値を理解し、アダプテッド・スポーツとは何か、いかに大切であるかを理解する。 2. 障がいや様々な状況に応じたスポーツ活動や大会、指導者の役割について、理解する。 3. 障がいや様々な状況に応じてアダプテッドする方法を学び、福祉・教育の現場における支援に活かせるようになる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：スポーツの意義と価値 学びへの導入 スポーツとは〇〇〇である</p> <p>第2回：障がいとは アダプテッド・スポーツとは何か 障がい者福祉施策とのかかわり</p> <p>第3回：アダプテッド・スポーツの歴史 パラリンピック以前 パラリンピックの発展</p> <p>第4回：人間の権利としてのスポーツ 「失ったものを数えるな。残されたものを最大限生かせ」</p> <p>第5回：身体障がいとスポーツ（1） 身体障がいの理解と支援 車いす利用者 その他の肢体不自由</p> <p>第6回：身体障がいとスポーツ（2）（実技含む） 視覚障がい 聴覚障がい</p> <p>第7回：身体障がいとスポーツ（実技） 障がいに応じた工夫・実践</p> <p>第8回：知的障がいとスポーツ（1） 知的障がいの理解と支援</p> <p>第9回：知的障がいとスポーツ（2）（実技含む） 発達障がいの理解と支援</p> <p>第10回：知的障がいとスポーツ（実技） 障がいに応じた工夫・実践</p> <p>第11回：精神障がいとスポーツ（実技含む） 精神障がいの理解、障がいに応じた工夫・実践</p> <p>第12回：パラ・アスリート等に関する書籍からの学びを共有し、深める（グループワーク） 障がいを負った経緯とスポーツをはじめたきっかけ</p> <p>第13回：パラ・アスリートを通して、スポーツの意義を考察する（発表） スポーツの意義・魅力、効果・影響</p> <p>第14回：国内外における障がい者スポーツ大会 パラリンピック、スペシャルオリンピックス、全国障害者スポーツ大会 他</p> <p>第15回：スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質、安全管理 障がい者スポーツ指導者制度 確認テスト</p> <p>*各実技において、安全管理の内容を含む。 *実施順序は、体育館や車いす等の使用可能状況により、前後します。</p>

	<p>&lt;受講者へのメッセージ&gt;          初級パラスポーツ指導員（日本障がい者スポーツ協会公認）の指定科目です。資格取得希望者は、同時に地域実践「アクティブラーニング」（アダプテッド・スポーツ）を履修することが望ましい。履修希望の学生は、第1回目から出席してください。          体育館での実技時は、運動着、体育館シューズを用意してください。</p>					
アクティブラーニング	<p>○実技、演習 ○グループワーク ○プレゼンテーション          意見交換を多く行い、学び合います。          体育館での実技と連動しながら行います。</p>					
授業内の ICT 活用	<p>WebClass のアンケート機能を活用する。          グループ発表をプロジェクターを活用して行う。</p>					
評価方法	<p>確認テスト 50%、授業及び課題への取組（関心・意欲・態度、WebClass への学びの記録）50%</p>					
課題に対するフィードバック	<p>授業内及びWebClass やメールを活用し、フィードバックする。</p>					
指定図書	<p>（公財）日本パラスポーツ協会／編「障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）」ぎょうせい          下記参照</p>					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
アダプテッド・スポーツの科学～障害者・高	矢部 京之助 他編著	市村出版	3800	9784902109016	冊子版	
イラスト イラストアダプテッド・スポーツ概論	植木章三／著者代表	東京教学社	2200	9784808260507	冊子版	
教養としての アダプテッド体育・スポーツ学	齊藤まゆみ／編著	大修館書店	1800	9784469268461	冊子版	
事前・事後学修	<p>授業に集中できるよう、体調を整えて授業に臨む。          毎回、授業後にWebClass にて学びを記録し、課題に取り組む。（40分）          第13回グループ発表に向けて、課題に取り組み、発表準備をする。          課題「パラ・アスリートを通して、スポーツの意義を考察する」（120分）          授業での学びを実習等に活用する。</p>					
オープンエデュケーションの活用	<p>事前事後学修、自主学修として、以下のURL の受講を勧めます。          日本パラスポーツ協会 パラスポーツ映像配信  <a href="https://www.jsad.or.jp/movie/index.html">https://www.jsad.or.jp/movie/index.html</a>          国際パラリンピック委員会公認教材『I'mPOSSIBLE』日本版  <a href="https://www.parasports.or.jp/paralympic/iampossible/">https://www.parasports.or.jp/paralympic/iampossible/</a></p>					
オフィスアワー	<p>和久田 佳代 (2709 研究室) メール:kayo-w@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。</p>					
実務経験に関する記述	<p>本科目は「公認パラスポーツ指導員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	特別支援教育
科目責任者	伊藤 信寿
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	様々な理由により特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を学びます。
到達目標	1) 特別支援教育の制度について理解する。 2) 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 3) 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 4) 特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;伊藤信寿、櫻井典啓 &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回 特別支援教育に関する制度の理念や仕組み 伊藤 目標：特別支援教育とは何かについて理解する 事前学修：特殊教育と特別支援教育の違いについてまとめる</p> <p>第 2 回 肢体不自由・視覚障害・聴覚障害等を含む様々な障害の特性について 伊藤 目標：肢体不自由・視覚障害・聴覚障害等の特性や支援について理解する 事前学修：脳性まひ、筋ジストロフィーの特性についてまとめる</p> <p>第 3 回 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の脳の発達特性と支援 櫻井 目標：発達障害や知的障害の脳機能の特性に合わせた支援の方法について理解する 事前学修：発達障害や知的障害の子どもへの支援で疑問に思うことをまとめる</p> <p>第 4 回 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の行動支援 櫻井 目標：ABC 分析の考え方に基づく効果的な行動支援の方法について理解する 事前学修：子どもの問題行動に対する支援の方法をまとめる</p> <p>第 5 回 特別支援教育の制度と合理的配慮の提供 櫻井 目標：特別支援教育の仕組みについて理解するとともに、ICF の視点から学校における合理的配慮の提供について理解する。 事前学修：合理的配慮とは何かまとめる</p> <p>第 6 回 特別支援教育を学校づくり 伊藤 目標：特別支援教育における課題を考え、理想的な学校をつくる 事前学習：現時点で考えられる課題をまとめる</p> <p>第 7 回 特別支援教育における専門家の役割について 伊藤 目標：特別支援教育に関わる専門家とその役割について理解する 事前学修：どのような専門家がいるのかをまとめる</p>

	<p>第 8 回 教育、医療、福祉、家庭との連携について 伊藤</p> <p>目標：医療や福祉の制度について学び、家庭を中心とした連携を理解する 事前学修：自分が考える理想の連携についてまとめる</p>					
アクティブラーニング	Think-Pair-Share を行っていく。					
授業内の ICT 活用	PC を用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集に PC を使います					
評価方法	小テスト (50%)、レポート (30%)、授業中内の課題 (20%) レポート、課題はルーブリックを用いない					
課題に対するフィードバック	授業毎のリアクションペーパーを用いて提出してもらい、質問や意見については授業中に回答する。 授業後半に小テストを行い、不明な点がある場合、解説する。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	授業中に随時連絡					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
最新・はじめて学ぶ社会福祉 特別支援教育と障害児の保育・福祉	杉本 敏夫	ミネルヴァ書房	2800	9784623095704	冊子版	
特別支援教育総論 [第2版]	川合 紀宗	北大路書房	2300	9784762832208	冊子版	
事前・事後学修	事前学修：提示した事前課題を遂行する (30 分程度) 事後学修：授業の配布資料と確認テストを復習する (10 分)					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	伊藤 信寿 (リハビリテーション学部) (3514 研究室) 時間等：毎週水曜日 12 時～13 時 上記以外でもメール (nobuhisa-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください					
実務経験に関する記述	本科目は「特別支援教育巡回相談」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	ジョブコーチ論					
科目責任者	川向 雅弘					
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 7 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP2 専門					
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。					
科目概要	障害者雇用制度の基礎、障害者雇用及び就労支援の現状を把握し、ジョブコーチ支援の考え方と支援方法の基礎を理解します。特に、障害者雇用における職場環境の工夫、仕事を分かりやすく教える方法、ナチュラルサポートの形成方法などの実際を現場実務者から学びます。					
到達目標	1. 障害者雇用制度の基礎知識を身につける。 2. 就労支援に関わる社会資源や制度の基礎知識を身につける。 3. ジョブコーチの支援を理解する。					
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：課題説明（失敗しないカップ焼きそばの作り方）／わが国における就労支援を巡る動向 第2回：障害者の就労支援を巡る動向 第3回：ジョブコーチ支援の実際 第4回：障害特性を理解する①—自閉症の人が見ている世界— 第5回：障害特性を理解する②—自閉症の人を正しく理解する— 第6回：就労支援の実際①ゲストスピーカー（市内支援機関のジョブコーチ） 第7回：就労支援の実際②ゲストスピーカー（就業・生活支援センターの専門員） 第8回：課題発表（失敗しないカップ焼きそばの作り方）					
アクティブラーニング	フィールドワーク、グループワーク、制作活動					
授業内の ICT 活用	インターネット情報等を用いた学習を取り入れます。					
評価方法	授業態度：40%（出席・リアクションペーパーの提出を必修とする）、制作課題「失敗しないカップ焼きそばの作り方」：60%					
課題に対するフィードバック	毎回の授業でリアクションペーパーへのコメント・解説等を行います。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
参考図書	授業の中で紹介する					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
事前・事後学修	<b>【事前】</b> 最終回に発表する構造化をテーマとした制作課題を初回に提示します。また、自分自身のアルバイト体験や家族の労働を通して、人が「働く」こと、「労働」の意味を考えて下さい。また、障害者就労支援事業所を見学するにあたって障害者総合支援法についての事前学修が必要になります。 <b>【事後】</b> 毎回の授業で出てきた重要なキーワードについて調べ、WebClass に提出します。国家試験対策を兼ねています。（目安時間 40 分）					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	川向 雅弘 (2705 研究室) メール: masahiro-k@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					

実務経験に関する記述	本科目は「社会福祉士」として社会福祉現場の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし



科目名	トップマネジメント論				
科目責任者	落合 克能				
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 7 セメスター				
DP 番号と科目領域	DP6 専門				
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。				
科目概要	<p>トップマネジメントとは一般的に経営層が行う経営管理のことを指すが、特に方針、目標を決め、その目標を達成する「マネジメントシステム」の責任を負う人（トップマネジャー）が行う経営管理を意味する。</p> <p>本講義では、質の高い福祉サービスを安定的に提供するために必要なマネジメントに関わる“ヒト、モノ、カネ、情報”等の資源に関する専門的知識・技術を学び、所属する施設・事業所や法人のマネジメントについて深く理解し、関わることのできる組織の一員になること、そして将来、直接マネジメントに携わることのできる人材の養成をめざす</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設・事業所、法人等のマネジメントについて「チームリーダー」の立場で理解できる</li> <li>2. 福祉サービスの基本理念と倫理の徹底・浸透のための方法を理解できる</li> <li>3. 福祉マネジメントに必要な“ヒト、モノ、カネ、情報”等に関する専門的な考え方を理解できる</li> <li>4. 所属する施設・事業所、法人の使命・計画、運営・経営に関することを理解した組織の一員となる準備ができる</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：落合克能（佐藤順子） オリエンテーション 福祉サービスの基本理念と倫理</p> <p>第2回：落合克能 法人・事業所のガバナンス</p> <p>第3回：落合克能 組織の戦略と事業計画、事業報告（PDCA サイクル）</p> <p>第4回：落合克能 サービスマネジメントとは</p> <p>第5回：佐藤順子 人事、労務管理</p> <p>第6回：佐藤順子 地域協働</p> <p>第7回：佐藤順子 社会福祉法人の地域貢献</p> <p>第8回：落合克能 まとめ</p>				
アクティブラーニング	・国家試験で出題された問題などを実際に解くことや、授業中の教員からの発問に対する学生同志の意見交換、グループ討議を取り入れるなどして知識の定着・確認を促す。				
授業内の ICT 活用	WEBCLASS や国試対策 WEB 講座等の ICT を活用する。				
評価方法	定期試験 50%、授業態度 50%				
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションに対してコメントし、学生相互の学びを共有する。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	事前学修：授業内容に該当する教科書の項目について事前に読んでおく 講義予定表に提示した課題に取り組む 事後学習：関連する国家試験過去問などに取り組む (事前・事後学修 40分)					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	落合 克能 (2613 研究室) メール: katsutaka-o@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。					
実務経験に関する記述	本科目は「ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	児童・家庭支援とソーシャルワーク				
科目責任者	泉谷 朋子				
単位数他	2単位 (30時間) 選択 7セメスター				
DP 番号と科目領域	DP2 専門				
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している				
科目概要	本科目では、現代における家族・家庭のあり方、児童虐待・子どもの貧困等現代社会において子どもと家庭が直面する諸問題を理解し、ソーシャルワーカーがどのように対応していくべきか、講義と演習等を通して理論的・実践的に学修する				
到達目標	1. 児童虐待、子どもの貧困等、現代社会における子どもと家庭が直面する諸問題を具体的に理解する 2. 子どもと家庭が直面する諸問題に対応する関係機関、専門職の役割について説明できる 3. 課題を抱える子どもとその家族に対する具体的な支援方法を実践的に理解する				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1回 オリエンテーション、なぜ子どもと家族を支援するとは 第 2回 子どもの権利 第 3回 現代社会における子どもと家族・家庭が直面する諸問題 第 4回 子ども家庭支援の制度・法体系、子ども家庭支援のしくみ・実施体系 第 5回 子どもと家族・家庭支援における専門機関と専門職 第 6回 子どもと家庭・家族を支援するための実践モデル 第 7回 子どもと家族を対象としたソーシャルワーク 第 8回 事例検討 要保護児童とその家族への支援① 第 9回 事例検討 要保護児童とその家族への支援② 第10回 事例検討 特定妊婦への支援① 第11回 事例検討 特定妊婦への支援② 第12回 事例検討 子どもと家族が安心して生活できる地域づくり① 第13回 事例検討 子どもと家族が安心して生活できる地域づくり② 第14回 外部講師による講義 第15回 まとめ</p>				
アクティブラーニング	反転授業、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する				
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席管理、授業資料配布、課題、レポート・リアクションペーパー等の提出は WebClass で行う</li> <li>・授業中、インターネットで検索する、グループ課題の取り組み等に PC を用いるため、PC は必携</li> </ul>				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リアクションペーパー30%、授業への取り組み状況 20%、最終レポート 50%</li> <li>・授業への取り組み、最終レポート評価にルーブリックを用いる</li> </ul>				
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リアクションペーパー、課題については、授業内でフィードバックを行う。</li> </ul>				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
参考図書	授業中に適宜提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
放送大学教材 家族問題と家族支援	下夷 美幸	NHK出版	2700	9784595321955	冊子版

事前・事後学修	事前学修：毎回事前課題を出すので、それに取り組んだ上で授業に臨むこと（目安時間約40分） 事前課題は児童・家庭福祉論の復習を兼ねている。 事後学修：毎回学びをまとめ、WebClassに提出する（目安時間約40分）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目担当者の研究室（2708） 日時については初回授業時に提示する
実務経験に関する記述	本科目は「児童家庭福祉」の実務経験を有する講師が、実務の観点を踏まえて講義を行う科目です
メディア授業の実施について	なし

科目名	自立支援論				
科目責任者	井川 淳史				
単位数他	2単位 (30時間) 選択 7セメスター				
DP 番号と科目領域	DP6 専門				
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。				
科目概要	「自立」の概念は、生活の場でどのように暮らしたいのか、自分がどのような人生を送りたいかを選ぶことである。自ら決定し責任をもって生きる「自己決定」の行使について学習する。高齢者でも障害があっても自分の望む暮らしを主張し、自らの生き方を自らで決定し生きて行ける力を支援するための「自立支援」の方法論を学習する。さらに重度化の防止としての介護予防の位置づけについて学習する。				
到達目標	1. 介護における自立は何かを理解する。 2. 「その人らしさ」「自分らしさ」を尊重するために、専門職として配慮すべき点を理解する。 3. 重度化の防止と自立支援の関連づけを理解する。				
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：授業ガイダンス 「自立」とは何か  第2回：歴史の中の「自立」  第3回：「自立」と「依存」のあり方  第4回：自立と自己決定・自己選択  第5回：自立の意欲と動機づけ  第6回：自立した生活を支えるための援助の視点  第7回：「している活動」と「できる活動」  第8回：重度化の防止と介護予防の考え方  第9回：重度化の防止と自立支援  第10回：「その人らしさ」への理解  第11回：介護技術としての個別ケア  第12回：生活支援としての個別ケア  第13回：個別性の多様化  第14回：事例検討（グループワーク）  第15回：事例検討発表 まとめ 最終確認テスト・解答解説</p>				
アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。リアクションペーパーはWebClassにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。				
授業内の ICT 活用	必要に応じて、iPad と learning Canvas（電子黒板）を使用した双方向型授業を行う。				
評価方法	授業態度 20% 確認小テスト（奇数授業回）・課題提出物 20% 最終確認テスト 60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。				
課題に対するフィードバック	WebClassにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考図書	授業内で随時提示				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	事前学修：提示した当日授業の単元語句を調べる。 奇数回の確認小テストの準備をする。(40分) 事後学修：授業で提示した演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40分)
オープンエデュケーションの活用	自立支援と自律支援 <a href="https://www.drp.ne.jp/pickup_article/">https://www.drp.ne.jp/pickup_article/</a>
オフィスアワー	井川淳史 (2603 研究室) メール: astushi-ik@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	福祉サービス工学入門					
科目責任者	井川 淳史					
単位数他	2単位 (30時間) 選択 7セメスター					
DP 番号と科目領域	DP4 専門					
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。					
科目概要	私たちは、日々、種々の影響を含めサービスを受けながら生活している。または、サービスなしでは生きられない。本科目はこのような社会科学、人文科学、自然科学にわたる学際的に広範囲な分野を満足の科学、健康の科学としてとらえた福祉工学を実践的に構成する一つの手法である。各項目において福祉工学の基礎を盛り込む。					
到達目標	(1)人、社会、人為環境、自然環境からサービスの提供を受けていることを理解する。 (2)サービスが心の満足、身体の満足を誘導し、その結果健康を作ること理解する。 (3)他の人に提供するサービスが持つ意味を考える。					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：導入—サービスを受けて生活していること (システム工学の考え方)</p> <p>第2回：することと、してもらうことの関係 (提供者と被提供者)</p> <p>第3回：心の満足・身体の満足と健康</p> <p>第4回：モノ、情報、動作等というサービスがもたらす満足</p> <p>第5回：言語と非言語によるコミュニケーション(意識・無意識との関連)</p> <p>第6回：屋内環境が提供するサービスがもたらす満足</p> <p>第7回：社会環境、自然環境が提供するサービスがもたらす満足</p> <p>第8回：おもてなし(提供する心と享受する心の整合)</p> <p>第9回：ストレスと満足と無関心</p> <p>第10回：健康をつくる5つの要素</p> <p>第11回：社会参加とコミュニティ</p> <p>第12回：願望と畏敬が導いた満足と健康 (道具の歴史に託された心)</p> <p>第13回：身体の衣食住と心の衣食住</p> <p>第14回：介護というサービスを提供する立場</p> <p>第15回：職業としての福祉と福祉工学を考える</p>					
アクティブラーニング	本授業は、反転授業、ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する。					
授業内の ICT 活用	介護支援型ロボット、およびコミュニケーションロボットのPC (プログラミング) を利用した双方向型授業を実施する。					
評価方法	レポート60%、授業参加度30%、課題提出物10%、計100% レポートは、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業中に配布資料等によって提示する。					
課題に対するフィードバック	WebClass に提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	授業内で随時提示					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	<p>事前学修：毎回、シラバスに示した内容について事前に調べ、授業内で報告できるよう準備しておく。(40分)</p> <p>事後学習：毎回、授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)</p>					

オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	井川 淳史 (2603 研究室) メール: atsushi-ik@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし



科目名	介護福祉実践演習					
科目責任者	篠崎 良勝					
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 7 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP5 専門					
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。					
科目概要	対人援助・社会支援の専門職として、保健医療職などの他職種の役割を理解し連携するために、介護福祉士に値する知識を定着させ、自らの人間的成長と役割を自覚し、他者や組織との協働を理解する。さまざまな対象者の課題解決に向け実践する能力を身につける。なお、模擬試験を毎月行うことで、各自の実力の把握ができるように努めます。					
到達目標	1. 介護福祉士に値する知識・学力として、領域「人間と社会」の内容のすべてが理解できる。 2. 介護福祉士に値する知識・学力として、領域「介護」の内容のすべてが理解できる					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 人間と社会①・・・人間の尊厳と自立  第2回 人間と社会②・・・人間関係とコミュニケーション  第3回 人間と社会③・・・社会の理解  第4回 介護の基本①・・・介護福祉士を取り巻く状況、介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ、尊厳を支える介護  第5回 介護の基本②・・・自立に向けた介護、介護を必要とする人の理解、介護サービス、介護実践における連携  第6回 介護の基本③・・・介護従事者の倫理、介護従事者の安全、介護における安全の確保とリスクマネジメント  第7回 コミュニケーション技術①・・・介護におけるコミュニケーションの基本  第8回 コミュニケーション技術②・・・介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション、介護におけるコミュニケーション  第9回 生活支援技術①・・・生活支援、自立に向けた居住環境の整備、自立に向けた身じたくの介護  第10回 生活支援技術②・・・自立に向けた移動の介護、自立に向けた食事の介護  第11回 生活支援技術③・・・自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた排泄の介護  第12回 生活支援技術④・・・自立に向けた移動の介護、自立に向けた移動の介護  第13回 生活支援技術⑤・・・自立に向けた家事の介護、自立に向けた睡眠の介護、自立に向けた終末期の介護  第14回 介護過程①・・・介護過程の意義、介護過程の展開  第15回 介護過程②・・・介護過程の実践的展開、介護過程とチームアプローチ  最終確認テスト・解答解説</p>					
アクティブラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。リアクションペーパーはWeb Class にて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。					
授業内の ICT 活用	必要に応じて、iPad と learning Canvas（電子黒板）を使用した双方向型授業を行う。					
評価方法	授業態度 20%、課題提出物 20%、最終確認テスト 60%によって総合的に評価する。演習で評価するが、ループリックは使用しない。					
課題に対するフィードバック	WebClass で提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。					
指定図書	授業内で適宜資料を提示する					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	

参考図書	授業内で適宜資料を提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	<p>事前学修：毎回シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読する。          毎回提示された課題（国試問題プリント）に取り組む（40分）          事後学修：毎回の授業後にWeb Class内のミニツツペーパーに回答する。国試問題の正答根拠をテキストと照合し、ノートにまとめる。（40分）</p>				
オープンエデュケーションの活用	介護福祉士国試1000問-解説付 <a href="https://play.google.com/store/apps/details?id=net.jp">https://play.google.com/store/apps/details?id=net.jp</a>				
オフィスアワー	篠崎 良勝 (2611 研究室) メール:yoshikatsu-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	共生型サービス論					
科目責任者	水野 尚美					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 7 セメスター					
DP 番号と科目領域	DP4 専門					
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。					
科目概要	保健医療福祉領域における介護福祉士としての専門性を自覚し、他者の役割を理解するとともに自らの役割を果たし、専門職として組織や他機関との協働について理解する。対象者のニーズに合わせた適切な支援方法の学修を通して、共生型サービス論の理論と方法を身につける。					
到達目標	1. 共生型サービス論に関する必要な福祉サービス、他職種・他機関との連携について説明できる。 2. 自らの役割を理解し、他者と協働するために必要な共生型サービス論の支援方法について、自らの言葉で説明できる。					
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：介護福祉士による生活支援、事例に基づく利用者理解  第 2 回：共生型サービスとは、社会福祉制度  第 3 回：事例：退院支援と生活支援  第 4 回：事例：障害福祉サービス事業所における地域移行  第 5 回：事例：コロニー政策における頸髄損傷者の支援技術  第 6 回：事例：地域以降を望む自立生活  第 7 回：事例：近隣住民との連携、地域の事業所の理解  第 8 回：高齢者の福祉制度と障害者の福祉制度  第 9 回：介護保険制度と障害者総合支援法  第 10 回：ケア内容のマネジメントと、介護職チームのマネジメント  第 11 回：住みやすいまちづくり 地域での生活の継続と介護福祉士の役割  第 12 回：事例：介護離職問題「親の認知症の症状出現による介護離職」  第 13 回：事例：地域で生活を続けるための「地域包括ケアシステム」  第 14 回：ケア単位の小規模化と個別ケア  第 15 回：共生型サービスと介護福祉士の今後</p>					
アクティブラーニング	調べ学修、グループディスカッション、発表なども行う。リアクションペーパーは WebClass にて提出する。 反転授業やプレゼンテーションも実施予定です。					
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT 機器を活用し、資料作成や、利用者理解などのプロセスを実習担当教員の指導のもと行います。</li> <li>授業全般で WebClass を活用します。</li> </ul>					
評価方法	筆記試験 60%、授業態度 20%、課題提出物 20%によって評価する。					
課題に対するフィードバック	毎回フィードバックします。					
指定図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
参考図書	必要時、適宜紹介します。					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40 分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40 分)					

オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	水野 尚美 (2707 研究室) メール:naomi-mi@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	多文化共生とソーシャルワーク	
科目責任者	佐藤順子	
単位数他	2 単位 (時間) 選択 7 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP7 専門	
科目の位置付	社会福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる	
科目概要	1990 年の出入国管理及び難民認定法の改正以降、日本で生活する外国人は増加している。さらに 2019 年からの改正により 2024 年までに新たに約 34 万 5 千人の外国人受け入れが予定されており、このような「内なる国際化」に対応した多文化社会構築が喫緊の課題となっている。そこで本科目では、「多文化共生」をキーワードにソーシャルワークのあり方を学ぶ。具体的には、現代日本における外国人の現状と施策を歴史的に概観するほか、特に浜松市における外国人の現状、特徴、自治体による施策を理解する。その上で、外国人であること、外国人労働者とその家族であることにより抱える生活課題と具体的な福祉的支援を理解し、さらに、身近な地域社会において「多文化共生」を実現するうえでソーシャルワーカーとして身につけるべき価値、知識について演習をとおして学ぶ。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多文化共生、多文化社会の意味を理解し、社会福祉にとってそれらを学ぶ意義を説明できる</li> <li>2. 日本における外国人の現状、受け入れ政策の歴史を説明できる</li> <li>3. 浜松市における外国人住民の現状と特徴、浜松市における各種施策の現状について理解できる。</li> <li>4. 在留資格による社会保障、社会福祉制度の適用について理解できる。</li> <li>5. 外国人やその世帯が抱える主に教育、就労、医療面における生活課題とそれへの福祉専門機関、ソーシャルワーカーによる支援の現状を説明できる</li> <li>6. 「内なる国際化」の進行する地域社会において、多文化共生を目指すソーシャルワーカーとして身につけるべき価値、知識を理解し、体得する</li> </ol>	
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 佐藤順子 社会福祉専門職として多文化理解はなぜ必要か</p> <p>第2回 多文化社会あるいは多文化共生社会とは 非常勤講師</p> <p>第3回 日本における外国人の現状と受け入れの歴史 非常勤講師</p> <p>第4回 浜松市における外国人住民の現状と特徴 非常勤講師</p> <p>第5回 浜松市における外国人住民支援のための施策 非常勤講師</p> <p>第6回 日本で生活する外国人の生活課題と社会保障・社会福祉制度 佐藤順子</p> <p>第7回 日本で生活する外国人の生活問題と支援 各論① 外国人児童・生徒及びその家族の課題と SSW による支援の現状 ゲストスピーカー</p> <p>第8回 日本で生活する外国人の生活問題と支援 各論② コロナ禍で明らかになった就労と経済的困窮の現状と課題 ゲストスピーカー</p> <p>第9回 日本で生活する外国人の生活問題と支援 各論③ 外国人の医療へのアクセスの課題と MSW の役割 ゲストスピーカー</p> <p>第10回 小括</p> <p>第11回 演習① 「違い」と「同じ」という多様性 小畑美穂</p> <p>第12回 演習② コミュニティ・ルールとごみの分別 小畑美穂</p> <p>第13回 演習③ 病院受診時/災害時の「やさしい日本語」 ※ガイドブックをつくる 小畑美穂</p> <p>第14回 演習④ LGBTQ+・SOGIE と性のあり方 小畑美穂</p> <p>第15回 演習⑤ 自分のルーツを考える、演習のまとめ 小畑美穂</p>	

アクティブラーニング	ディスカッション、グループワークを取り入れて実施する
授業内のICT活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>• webclass を活用して双方向型授業を行う</li> <li>• 事前・事後学修課題については webclass に提出する</li> </ul>
評価方法	授業態度 10%、小テスト 20 点、課題等 20 点、定期試験 50%
課題に対するフィードバック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する
指定図書	特になし
参考図書	授業の中で紹介する
事前・事後学修	事前学修：事前の調べ学習、レポートに取り組む 事後学習：適宜小テストを行う 事後課題に取り組む 毎回学びを振り返り、わかったことをまとめる（毎回 40 分程度）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については初回授業時に提示します
実務経験に関する記述	本科目は、多文化社会構築を目指す専門機関での実務経験を有する専門家、地域福祉や医療福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です
メディア授業の実施について	なし

科目名	公認心理師の職責				
科目責任者	内山 敏				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP4 専門 (EC) DP6 専門				
科目の位置付	(SW) 自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。 (EC) 教育・保育の領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携・協働することができる。				
科目概要	<p>本科目では、公認心理師の法的義務や守秘義務、チーム支援について理解した上で業務を遂行できるようになることを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 公認心理師の役割</li> <li>② 公認心理師の法的義務及び倫理</li> <li>③ 心理に関する支援を要する者等の安全の確保</li> <li>④ 情報の適切な取扱い</li> <li>⑤ 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務</li> <li>⑥ 自己課題発見・解決能力</li> <li>⑦ 生涯学習への準備</li> <li>⑧ 多職種連携及び地域連携</li> </ol>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公認心理師の役割、法的義務及び倫理について理解できる</li> <li>2. 支援を要する者等の安全の確保、情報の適切な取扱いについて理解できる</li> <li>3. 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務について理解できる。</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：公認心理師の役割と求められる資質（コンピテンシー）</p> <p>第2回：公認心理師の法的義務、公認心理師の倫理</p> <p>第3回：クライアント/患者らの安全の確保、情報の適切な取り扱いについて</p> <p>第4回：保健医療分野における公認心理師の具体的な業務①</p> <p>第5回：保健医療分野における公認心理師の具体的な業務②</p> <p>第6回：福祉分野における公認心理師の具体的な業務①</p> <p>第7回：福祉分野における公認心理師の具体的な業務②</p> <p>第8回：教育分野における公認心理師の具体的な業務①</p> <p>第9回：教育分野における公認心理師の具体的な業務②</p> <p>第10回：司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務①</p> <p>第11回：司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務②</p> <p>第12回：産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務①</p> <p>第13回：産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務②</p> <p>第14回：支援者としての自己課題発見・解決能力</p> <p>第15回：まとめ</p>				
アクティブラーニング	知識付与型授業、PBL（課題解決型学習）、グループワークなどを用いて授業を行う。				
授業内の ICT 活用	PC 等デジタルデバイスを活用し、検索・入出力作業を行う。WebClass を利用する。				
評価方法	100 点満点とし、定期試験（レポート試験）50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修（リアクションペーパーで確認）提出状況 20%として評価します。				
課題に対するフィードバック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントなどをパワーポイントで投影しながら口頭で行う。				
指定図書	遠見書房 公認心理師の基礎と実践① 公認心理師の職責				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考

参考図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
図解でわかる障害児・難病児サー ビス	二本柳 覚	中央法規出版	2200	9784805889510	冊子版
事前・事後学修	授業内容を振り返りながら、新たな気づき・理解を深めたこと・質問をリアクションペーパーに書く。疑問点は図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回40分程度行うこと。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	内山敏（国際教育学部こども教育学科）：2710 研究室 時間帯については授業時に提示。				
実務経験に関する記述	本科目は「公認心理師」、「臨床心理士」として病院臨床・学校臨床・障害福祉の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	心理学研究法
科目責任者	内山 敏
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	<p>本科目では、心の働きや行動を科学的に検証する手段として用いられる代表的な研究方法（実験法、質問紙法、観察法、面接法など）について、その内容や、一連の手続きを理解できるようになることを目指す。</p> <p>そのために、以下の内容について学修し、理解する</p> <p>①心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）（i）科学と実証（ii）実験的方法と観察的方法（iii）実証の手続き（iv）実験的方法（実験法）（v）実験的方法（実験法と準実験法）（vi）観察的方法（調査法）（vii）観察的方法（検査法）（viii）観察的方法（観察法）（ix）実験的方法（面接法）、②データを用いた実証的な思考方法（i）相関関係から因果関係へ（ii）定性的研究から定量的研究へ（iii）データの統計的記述（iv）複雑な心理事象のモデリング、③研究における倫理（i）人権尊重とインフォームドコンセント（ii）研究の不正の禁止</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学における実証的研究法について理解できる</li> <li>2. データを用いた実証的な思考方法について理解できる</li> <li>3. 研究における倫理について理解できる</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：心理学研究法</p> <p>第2回：実験法の基礎</p> <p>第3回：実験法の実際</p> <p>第4回：質問紙調査法の基礎</p> <p>第5回：質問紙調査法の実際</p> <p>第6回：観察法の基礎</p> <p>第7回：観察法の実際</p> <p>第8回：面接法の基礎</p> <p>第9回：面接法の実際</p> <p>第10回：検査法</p> <p>第11回：実践的研究法</p> <p>第12回：精神生理学的研究法</p> <p>第13回：研究レビュー</p> <p>第14回：研究倫理</p> <p>第15回：まとめ</p>
アクティブラーニング	PBL（課題解決型学習）、ディスカッション、グループワークなどを用いて授業を行う。

授業内のICT活用	PC等デジタルデバイスを活用し、検索・入出力作業を行う。WebClassを利用する。
評価方法	100点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み・発表30%、事前事後学修提出状況20%として評価します。
課題に対するフィードバック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントなどをパワーポイントで映しながら口頭で行う。
指定図書	遠見書房 公認心理師の基礎と実践④ 心理学研究法
参考図書	なし
事前・事後学修	授業内容を振り返りながら、新たに気づき、理解を深めたことをリアクションペーパーに書く。講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回40分程度行うこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	内山敏（国際教育学部こども教育学科）：2710 研究室 時間帯については授業時に提示。
実務経験に関する記述	本科目は「公認心理師」、「臨床心理士」として病院臨床・学校臨床・障害福祉の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	心理学統計法
科目責任者	高木 邦子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	<p>本科目では、心理統計に関する基礎的な知識を身に着けるとともに、心理学で用いられるさまざまな統計手法を実データに適用できるようになることを目指す。</p> <p>そのために、以下の内容について学修し、理解する。</p> <p>①心理学で用いられる統計手法 (i) 記述統計: 代表値と散布度 (ii) 記述統計: 相関 (iii) 記述統計: 回帰 (iv) 離散分布: 二項分布を中心として (v) 連続分布: 正規分布を中心として (vi) 推測統計: 代表値と散布度 (vii) 推測統計: 頻度と比率、②統計に関する基礎的な知識 (i) 統計分析の基礎: 母集団と標本 (ii) 確率と確率分布 (iii) エクセル, R, SPSS 入門</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>心理学で用いられる統計手法について理解できる</li> <li>統計に関する基礎的な知識について理解できる</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回: データ・変数・尺度水準</p> <p>第2回: 1つの変数の記述統計—データの記述</p> <p>第3回: 2つの変数の記述統計—相関と回帰</p> <p>第4回: 統計的推測の基礎</p> <p>第5回: クロス集計表の検定</p> <p>第6回: 2群の平均値差の検定</p> <p>第7回: 複数の群の平均値差の検定—実験計画と分散分析</p> <p>第8回: 重回帰分析と階層線形モデル</p> <p>第9回: 因子分析</p> <p>第10回: 共分散構造分析</p> <p>第11回: そのほかの多変量解析</p> <p>第12回: ノンパラメトリック検定</p> <p>第13回: テスト得点の分析—古典的テスト理論と項目反応理論</p> <p>第14回: 効果量と信頼区間, メタ分析</p> <p>第15回: ベイズ統計学</p>
アクティブラーニング	本授業では、データ処理を実際に行いますが、その際にグループワークを取り入れます。
授業内のICT活用	PCを使ったデータ処理を行います。

評価方法	100点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み・発表30%、事前事後学修提出状況20%として評価します。
課題に対するフィードバック	提出された課題に対してのフィードバックを行います。
指定図書	遠見書房 公認心理師の基礎と実践⑤ 心理学統計法
参考図書	なし
事前・事後学修	授業毎に演習課題を提示するため、課題を実施して授業に臨んでください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	心理学実験 I
科目責任者	内山 敏
単位数他	2 単位 (60 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	<p>本科目では、心理学的課題（テーマ）について科学的に研究する方法を学ぶために、自ら実験を計画・立案し、実験や演習を通じてデータを収集し、統計に関する基礎的な知識にもとづき分析を行い、その結果について考察をするという心理学研究の基本を体験する。そのために、グループに分かれ、以下の内容について学修し、理解する。</p> <p>実験の計画立案 (i) レポートの書き方・心理学実験の倫理 (ii) 調整法 (iii) 極限法 (iv) 恒常法 (v) マグニチュード推定法 (vi) 一対比較法 (vii) 正反応・誤反応 (viii) 実験とモデル構成 (ix) 反応時間 (x) 潜在性 (xi) 実験と理論構成</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学実験の計画立案について理解できた</li> <li>2. 心理学実験の測定について理解できた</li> <li>3. グループ学習に積極的に参加し、協力して取り組んだ</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：心理学実験とは</p> <p>第2回：レポートの書き方・心理学実験の倫理</p> <p>第3回：統計の基礎（データ・変数・尺度水準）</p> <p>第4回：統計の基礎（データの記述）</p> <p>第5回：統計の基礎（相関と回帰）</p> <p>第6回：調整法・極限法</p> <p>第7回：マグニチュード推定法・一対比較法</p> <p>第8回：正反応・誤反応</p> <p>第9回：実験とモデル構成</p> <p>第10回：反応時間</p> <p>第11回：潜在性</p> <p>第12回：実験と理論構成</p> <p>第13回：心理量と物理量—錯覚の定量的な測定</p> <p>第14回：閾値</p> <p>第15回：反応時間</p>
アクティブラーニング	なし
授業内のICT活用	なし

評価方法	100点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み・発表30%、事前事後学修提出状況20%として評価します。
課題に対するフィードバック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントなどをパワーポイントで映しながら口頭で行う。
指定図書	遠見書房 公認心理師の基礎と実践⑤ 心理学統計法 遠見書房 公認心理師の基礎と実践⑥ 心理学実験
参考図書	なし
事前・事後学修	授業内容を振り返りながら、新たに気づき、理解を深めたことをリアクションペーパーに書く。講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回40分程度行うこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	内山敏（国際教育学部こども教育学科）：2710 研究室 時間帯については授業時に提示。
実務経験に関する記述	本科目は「公認心理師」、「臨床心理士」として病院臨床・学校臨床・障害福祉の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	心理学実験Ⅱ
科目責任者	鈴木 文子
単位数他	2 単位 (60 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	本科目では、心理学的課題（テーマ）について科学的に研究する方法を学ぶために、自ら実験を計画・立案し、実験や演習を通じてデータを収集し、統計に関する基礎的な知識にもとづき分析を行い、その結果について考察をするという心理学研究の基本を体験する。そのために、グループに分かれ、以下の内容について学修し、理解する。 統計に関する基礎的な知識 (i) 統計手法と科学的表記法 (ii) 質問紙調査法（母集団と標本, サンプルング）(iii) クラスタ分析, 因子分析などの多変量の統計的取り扱い (iv) 時系列データの統計的取り扱い
到達目標	1. 統計に関する基礎的な知識について理解できた 2. データにもとづき分析を行い、その結果について考察を行うことができた 3. グループ学習に積極的に参加し、協力して取り組んだ
授業計画	<授業計画・テーマ等> 第1回：統計に関する基礎的な知識 第2回：統計手法と科学的表記法 第3回：質問紙調査法（母集団と標本） 第4回：質問紙調査法（サンプルング） 第5回：クラスタ分析 第6回：因子分析 第7回：時系列データの統計的取り扱い 第8回：感覚運動学習 第9回：動物実験 第10回：ワーキングメモリ 第11回：注意 第12回：生理的指標 第13回：脳活動の測定 第14回：潜在的態度 第15回：発達の実験
アクティブラーニング	PBL（課題解決型学習）、ディスカッション、グループワークなどを用いて授業を行う。
授業内のICT活用	PC等デジタルデバイスを活用し、検索・入出力作業を行う。WebClassを利用する。

評価方法	100点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み・発表30%、事前事後学修提出状況20%として評価します。
課題に対するフィードバック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントなどをパワーポイントで映しながら口頭で行う。
指定図書	遠見書房 公認心理師の基礎と実践⑤ 心理学統計法 遠見書房 公認心理師の基礎と実践⑥ 心理学実験
参考図書	なし
事前・事後学修	授業内容を振り返りながら、新たに気づき、理解を深めたことをリアクションペーパーに書く。講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回40分程度行うこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	
実務経験に関する記述	
メディア授業の実施について	なし



科目名	知覚・認知心理学					
科目責任者	中村 洋子					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター					
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門					
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。					
科目概要	<p>本科目では、認知心理学の様々な研究方法、これまでの研究内容などを理解し、人の感覚・知覚等の機序及びその障害、人の認知・思考等の機序及びその障害を理解することを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する。</p> <p>①人の感覚・知覚等の機序及びその障害 (i) 感覚の種類と構造 (ii) 感覚・知覚の基本的特性 (iii) 視覚 (iv) 聴覚 (v) 化学的感覚・体性感覚他 (vi) 対象認知他 (vii) 感覚・知覚の障害、②人の認知・思考等の機序及びその障害 (i) 認知の基本的特性 (ii) 記憶のメカニズム(ワーキングメモリ) (iii) 記憶のメカニズム(長期記憶) (iv) 記憶のメカニズム(日常的記憶) (v) 注意のメカニズム (vi) 知識の表象と構造 (vii) 問題解決と推論 (viii) 認知・思考の障害</p>					
到達目標	<p>1. 人の感覚・知覚等の機序及びその障害について理解できる 2. 人の認知・思考等の機序及びその障害について理解できる</p>					
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：知覚・認知心理学とは 第2回：感覚の種類と構造 第3回：感覚・知覚の基本的特性 第4回：視覚 第5回：聴覚 第6回：化学的感覚・体性感覚他 第7回：対象認知他 第8回：感覚・知覚の障害 第9回：認知の基本的特性 第10回：記憶のメカニズム(ワーキングメモリ) 第11回：記憶のメカニズム(長期記憶・日常的記憶) 第12回：注意のメカニズム 第13回：知識の表象と構造 第14回：問題解決と推論 第15回：認知・思考の障害</p>					
アクティブラーニング	実際の事例などを用いた心理学的支援についてディスカッションおよびグループ学習による演習を取り入れて実施します。講義中、発言を求めることがあります。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	100 点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。					
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進めます。					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
公認心理師の基礎と実践 7 知覚・認知心理学	野島一彦／監修 繁柘 算男／監修	遠見書房	2600	9784866160573	冊子版	

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	事前に教科書をよく読んでおくこと。授業の後にはノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むようにして下さい。事前・事後の学習には、それぞれ40分をあてて下さい。					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます					
実務経験に関する記述	本科目は、「公認心理師」、「臨床心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	学習・言語心理学				
科目責任者	大場 いずみ				
単位数他	2単位 (30時間) 選択 3セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門				
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。				
科目概要	<p>本科目では、学習心理学的観点から、人の行動が変化する過程、言語の習得における機序を学び、理解することを目指す。</p> <p>そのために、以下の内容について学修し、理解する。</p> <p>①人の行動が変化する過程 (i) 学習・行動領域の心理学 (ii) 行動の測定と実験デザイン (iii) 生得性行動 (iv) レスポンデント (古典的) 条件づけ (v) オペラント (道具的) 条件づけ (vi) 強化随伴性 (vii) 刺激性制御 (viii) 高次の学習・行動、②言語の習得における機序 (i) 言語に関する理論と研究 (ii) 語彙の獲得過程 (iii) 文法能力の発達 (iv) 言語の生物学的基礎と障害</p>				
到達目標	<p>1. 人の行動が変化する過程について理解できる</p> <p>2. 言語の習得における機序について理解できる</p>				
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：学習・言語心理学とは  第2回：学習・行動  第3回：行動の測定と実験デザイン  第4回：生得性行動  第5回：レスポンデント (古典的) 条件づけ  第6回：オペラント (道具的) 条件づけ  第7回：強化随伴性  第8回：刺激性制御  第9回：高次の学習・行動  第10回：言語に関する理論  第11回：言語に関する研究  第12回：語彙の獲得過程  第13回：文法能力の発達  第14回：言語の生物学的基礎と障害  第15回：まとめ</p>				
アクティブラーニング	学修の理解を深めるために適宜グループワークを行います。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	100点満点とし、レポート 50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20% として評価します。				
課題に対するフィードバック	提出された課題や課題に対する質問について授業内でフィードバックを行います。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
ライブラリ 心理学の杜 学習・言語心理学	木山 幸子	サイエンス社	2850	9784781915500	冊子版

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	事前学修として、授業に対するポイントのまとめを行って授業内で質問ができるようにしてください。 事後学修として、授業の振り返りを行ってください。					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。					
実務経験に関する記述	本科目は「公認心理師」、「臨床心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	感情・人格心理学				
科目責任者	角谷 基文				
単位数他	2単位 (30時間) 選択 4セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門				
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。				
科目概要	<p>本科目では、感情・人格心理学に関する理論及び感情喚起の機序、基礎知識について体系的に学び、理解することを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する。</p> <p>①感情に関する理論及び感情喚起の機序 (i) 感情の基礎 (ii) 感情の生物学的基礎 (iii) 感情の理論(古典的理論) (iv) 感情の理論(基本的感情説と次元説) (v) 感情と行動 (vi) 感情の測定、②感情が行動に及ぼす影響 (i) 援助行動・共感性 (ii) 感情の制御、③人格の概念及び形成過程 (i) 人格の概念 (ii) 知的機能の個人差 (iii) 人格の形成と変容、④人格の類型、特性等 (i) 人格の理論 (ii) 性格5因子論 (iii) 人格の障害</p>				
到達目標	<p>1. 感情に関する理論及び感情喚起の機序について理解できる</p> <p>2. 感情が行動に及ぼす影響について理解できる</p> <p>3. 人格の概念及び形成過程・人格の類型・特性について理解できる</p>				
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：感情・人格心理学とは</p> <p>第2回：感情の基礎</p> <p>第3回：感情の生物学的基礎</p> <p>第4回：感情の理論(古典的理論)</p> <p>第5回：感情の理論(基本的感情説と次元説)</p> <p>第6回：感情と行動</p> <p>第7回：感情の測定</p> <p>第8回：援助行動・共感性</p> <p>第9回：感情の制御</p> <p>第10回：人格の概念</p> <p>第11回：知的機能の個人差</p> <p>第12回：人格の形成と変容</p> <p>第13回：人格の理論</p> <p>第14回：性格5因子論</p> <p>第15回：人格の障害</p>				
アクティブラーニング	学修の理解を深めるために適宜グループワークを行います。				
授業内の ICT 活用	PC 等を利用して質問を受け付けるなど、双方向型の授業を実施します。				
評価方法	100 点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。				
課題に対するフィードバック	提出された課題や課題に対する質問について授業内でフィードバックを行います。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
公認心理師の基礎と実践 9 感情・人格心理学	野島一彦／監修 繁桝 算男／監修	遠見書房	2600	9784866160597	冊子版
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考

事前・事後学修	事前学修として、授業に対するポイントのまとめを行って授業内で質問ができるようにしてください。 事後学修として、授業の振り返りを行ってください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「公認心理師」、「臨床心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	神経・生理心理学					
科目責任者	岩淵 俊樹					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター					
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門					
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。					
科目概要	本科目では、生理心理学を中心とする心理学の独創的な研究についてさまざまな視聴覚体験および講義を通して、諸研究手法および理論等を理解し、心理学的な観点から心身の諸機能について理解することを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する。 ①脳神経系の構造及び機能 (i) 脳神経系の解剖 (ii) 神経系の情報伝達 (iii) 大脳皮質の機能局在 (iv) 脳神経系機能の研究手法 (v) 神経の可塑性と環境の影響、②記憶、感情等の生理学的反応の機序 (i) 感覚・知覚と脳神経系 (ii) 運動と脳神経系 (iii) 記憶と脳神経系 (iv) 感情と脳神経系 (v) 動機づけと脳神経系、③高次脳機能障害の概要 (i) 高次脳機能障害 (ii) 精神疾患と脳神経系					
到達目標	1. 脳神経系の構造及び機能について理解できる 2. 記憶・感情等の生理学的反応の機序について理解できる 3. 高次脳機能障害の概要について理解できる					
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：神経・生理心理学とは 第2回：脳波研究・画像研究 第3回：脳神経系の解剖 第4回：神経系の情報伝達 第5回：大脳皮質の機能局在 第6回：脳神経系機能の研究手法 第7回：神経の可塑性と環境の影響 第8回：感覚・知覚と脳神経系 第9回：運動と脳神経系 第10回：記憶と脳神経系 第11回：感情と脳神経系 第12回：動機づけと脳神経系 第13回：高次脳機能障害 第14回：精神疾患と脳神経系 第15回：睡眠の生理</p>					
アクティブラーニング	各回とも主に配布資料を用いながら講義形式で行いますが、「神経と心理」について考え、発表してもらう時間を設けます。					
授業内の ICT 活用	WebClass を用いて授業資料の提供、演習問題やリアクションペーパーの実施などを行います。					
評価方法	100 点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。					
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーで提出された質問への回答や授業中の小テストの解説は、WebClass を介した返信や資料配布などにより随時行います。					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
公認心理師の基礎と実践 10 神経・生理心理学	野島一彦／監修 繁柘 算男／監修	遠見書房	2800	9784866160603	冊子版	

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	授業前にWebClassにアップされた資料に目を通してください。授業後は各回のキーワードをまとめ、知識を整理してください。理解を深めるために小テストまたは課題を課す場合があります。					
オープンエデュケーションの活用	授業資料の中で、内容に関連するWeb上の資料や動画等のURL情報を提示します。					
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。					
実務経験に関する記述	なし					
メディア授業の実施について	なし					



科目名	社会・集団・家族心理学					
科目責任者	松下 恵美子					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター					
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門					
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。					
科目概要	<p>本科目では、対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程、人の態度と行動、家族・集団・文化が個人に及ぼす影響に焦点を当て、関連する主要な理論について理解することを目指す。</p> <p>そのために、以下の内容について学修し、理解する。</p> <p>①対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程 (i) 社会的認知 (ii) 社会的自己 (iii) 対人関係・対人行動 (iv) コミュニケーション (v) 集団・組織、②人の態度及び行動 (i) 態度の機能と構造 (ii) 説得による態度と行動の変化、③家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響 (i) 家族の機能 (ii) 家族内の関係 (iii) 集団・組織の影響 (iv) 文化の影響</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対人関係並びに集団における人の意識及び行動について理解できる</li> <li>2. 人の態度及び行動について理解できる</li> <li>3. 家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について理解できる</li> </ol>					
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：社会・集団・家族心理学とは  第2回：社会的認知  第3回：社会的自己  第4回：対人関係・対人行動  第5回：コミュニケーション  第6回：集団・組織  第7回：態度の機能と構造  第8回：説得による態度と行動の変化  第9回：家族の機能  第10回：家族内の関係  第11回：集団・組織の影響  第12回：文化の影響  第13回：ソーシャル・サポート  第14回：文化と社会心理  第15回：集合行動とマスコミュニケーション</p>					
アクティブラーニング	この授業は、グループワーク、ディスカッションをします。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	100 点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。					
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへのコメントを毎回次の授業でフィードバックします。					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考	
公認心理師の基礎と実践 1 1 社会・集団・家族心理学	野島一彦／監修 繁桝 算男／監修	遠見書房	2600	9784866160610	冊子版	

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	適宜に課題を出します。					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。					
実務経験に関する記述	臨床心理士として、小児科クリニック、メンタルクリニック、学校、乳幼児健診等での相談業務の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	新型コロナウイルス対策の特例として、座席間隔を保つため2教室での授業を行う場合もある。その場合、1教室で対面授業を行い、もう1教室は同時双方向型メディア授業を実施する。					

科目名	障害者・障害児心理学					
科目責任者	猪原 裕子					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター					
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門					
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。					
科目概要	<p>本科目では、障害をもって暮らす人々の自己実現と QOL の向上に受けて、心理学的立場から支援を実施する立場として必要な知識と基本的な支援方法について理解することを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する。</p> <p>①身体障害、知的障害及び精神障害の概要 (i) 身体障害 (ii) 知的障害 (iii) 精神障害 (定義と分類) (iv) 精神障害(不安症関連) (v) 精神障害(うつ病関連) (vi) 精神障害(精神病性障害) (vii) 精神障害(その他の精神障害) (viii) 神経発達症(発達障害)、②障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援 (i) 障害の生物・心理・社会モデル (ii) 障害受容過程 (iii) 精神障害の心理学的メカニズム(異常心理学)の理論 (iv) 医療分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援 (v) 教育分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援 (vi) 福祉分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援</p>					
到達目標	<p>1. 身体障害、知的障害及び精神障害の概要について理解できる 2. 障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援について理解できる</p>					
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：障害者・障害児心理学とは 第2回：身体障害の概要 第3回：知的障害の概要 第4回：精神障害(定義と分類)の概要 第5回：精神障害(不安症関連)の概要 第6回：精神障害(うつ病関連)の概要 第7回：精神障害(精神病性障害)の概要 第8回：精神障害(その他の精神障害)の概要 第9回：神経発達症(発達障害)の概要 第10回：障害の生物・心理・社会モデル 第11回：障害受容過程 第12回：精神障害の心理学的メカニズム(異常心理学)の理論 第13回：医療分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援 第14回：教育分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援 第15回：福祉分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援</p>					
アクティブラーニング	学修の理解を深めるために適宜グループワークを行います。					
授業内の ICT 活用	PC 等を利用して質問を受け付けるなど、双方向型の授業を実施します。					
評価方法	100 点満点とし、定期試験(筆記試験) 50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。					
課題に対するフィードバック	提出された課題や課題に対する質問について授業内でフィードバックを行います。					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
公認心理師の基礎と実践 1 3 障害者・障害児心理学	野島一彦 / 監修 繁桝 算男 / 監修	遠見書房	2600	9784866160634	冊子版	

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	事前学修として、授業に対するポイントのまとめを行って授業内で質問ができるようにしてください。 事後学修として、授業の振り返りを行ってください。					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。					
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	心理的アセスメント					
科目責任者	大場 いずみ					
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター					
DP 番号と科目領域	(SW) DP4 専門 (EC) DP4 専門					
科目の位置付	(SW) 自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。 (EC) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。					
科目概要	<p>本科目では、心理的アセスメントの目的及び倫理、心理的アセスメントの観点及び展開、心理的アセスメントの方法、適切な検査の記録及び報告について理解することを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する</p> <p>①心理的アセスメントの目的及び倫理 (心理的アセスメントの目的及び倫理) ②心理的アセスメントの観点及び展開 (i) 有用な情報の総合的把握 (ii) 関与しながらの観察 (iii) 信頼性と妥当性、③心理的アセスメントの方法 (i) 面接法 (ii) 観察法 (iii) 知能検査 (iv) 発達検査 (v) 人格検査(質問紙法) (vi) 人格検査(投映法) (vii) 症状評価法・診断面接基準 (viii) 神経心理学検査 (ix) 認知機能検査 (x) テストバッテリー、④適切な記録及び報告 (適切な記録, 報告, 振り返り等)</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理的アセスメントの目的及び倫理について理解できる</li> <li>2. 心理的アセスメントの観点及び展開・方法について理解できる</li> <li>3. 適切な記録及び報告 (適切な記録, 報告, 振り返り等) について理解できる</li> </ol>					
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：心理的アセスメントとは 第2回：有用な情報の総合的把握 第3回：関与しながらの観察 第4回：信頼性と妥当性 第5回：面接法 第6回：観察法 第7回：知能検査 第8回：発達検査 第9回：人格検査(質問紙法) 第10回：人格検査(投映法) 第11回：症状評価法・診断面接基準 第12回：神経心理学検査 第13回：認知機能検査 第14回：テストバッテリー 第15回：適切な記録及び報告 (適切な記録, 報告, 振り返り等)</p>					
アクティブラーニング	学修の理解を深めるために適宜グループワークを行います。					
授業内の ICT 活用	なし					
評価方法	100 点満点とし、レポート 50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20% として評価します。					
課題に対するフィードバック	提出された課題や課題に対する質問について授業内でフィードバックを行います。					
指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考	
公認心理師の基礎と実践 1 4 心理的アセスメント	野島一彦 / 監修 繁舩 算男 / 監修	遠見書房	2600	9784866160641	冊子版	

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	<p>事前学修として、授業に対するポイントのまとめを行って授業内で質問ができるようにしてください。</p> <p>事後学修として、授業の振り返りを行ってください。</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。					
実務経験に関する記述	本科目は「公認心理師」、「臨床心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	心理学的支援法
科目責任者	中村 洋子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	(SW) DP4 専門 (EC) DP4 専門
科目の位置付	(SW) 自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。 (EC) 設定した課題について自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し、考察することができる。
科目概要	本科目では、心理療法並びにカウンセリング等の心理的支援とはどのようなことかについて理解することを目指す。 そのために、以下の内容について学修し、理解する ①代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界 (i) 精神分析療法・力動的心理療法 (ii) 芸術療法・表現療法 (iii) 行動療法 (iv) 行動分析 (v) 認知療法・認知行動療法 (vi) ストレスと心の健康への支援法 (vii) パーソンセンタード・アプローチ(人間学的アプローチを含む) (viii) カウンセリング (ix) 集団療法・グループカウンセリング (x) 家族療法 (xi) コミュニティアプローチ (xii) 技法の選択と効果のエビデンス、②訪問による支援や地域支援の意義、③良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、④プライバシーへの配慮、⑤心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、⑥心の健康教育
到達目標	1. 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界・プライバシーへの配慮について理解できる 2. コミュニティアプローチ・訪問による支援や地域支援の意義について理解できる 3. 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援・心の健康教育について理解できる
授業計画	<授業計画・テーマ等>  第1回：心理学的支援法とは 第2回：精神分析療法・力動的心理療法 第3回：芸術療法・表現療法 第4回：行動療法・行動分析 第5回：認知療法・認知行動療法 第6回：ストレスと心の健康への支援法 第7回：パーソンセンタード・アプローチ(人間学的アプローチを含む) 第8回：カウンセリング 第9回：集団療法・グループカウンセリング 第10回：家族療法 第11回：コミュニティアプローチ・訪問による支援や地域支援の意義 第12回：技法の選択と効果のエビデンス・プライバシーへの配慮 第13回：良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法 第14回：心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援 第15回：心の健康教育
アクティブラーニング	実際の事例などを用いた心理学的支援についてディスカッションおよびグループ学習による演習を取り入れて実施します。講義中、発言を求めることがあります。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	100 点満点とし、定期試験 (筆記試験) 50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進めます。

指定図書	遠見書房 公認心理師の基礎と実践⑮ 心理学的支援法				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
参考図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考
事前・事後学修	事前に教科書をよく読んでおくこと。授業の後にはノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むようにして下さい。事前・事後の学習には、それぞれ40分をあてて下さい。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は、「公認心理師」、「臨床心理士」の実務経験を有する講師が心理学的支援の実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				



科目名	健康・医療心理学
科目責任者	鈴木 文子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 3セメスター
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	本科目では、健康・医療心理学とはどのようなことかについて理解することを目指す。そのため、以下の内容について学修し、理解する。 ①ストレスと心身の疾病との関係 (i) ストレスの心理とアセスメント (ii) ストレスの生理と心身の疾病 (iii) 心の健康とストレスマネジメント、②医療現場における心理社会的課題及び必要な支援 (i) 医療現場における活動の基本 (ii) 保健・医療における法律・制度・倫理 (iii) 精神科 (小児・思春期) (iv) 精神科 (成人期) (v) 精神科 (高齢期) (vi) 医療観察法指定医療機関 (vii) 心療内科・内科 (viii) 小児科・母子保健領域 (ix) 神経科・リハビリテーション領域 (x) さまざまな医療現場 (高齢者医療, 先端医療等) とコンサルテーション、③保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援 (i) さまざまな保健活動 (ii) 健康支援活動とストレスチェック (iii) 自殺予防活動、④災害時等に必要な心理に関する支援
到達目標	1. ストレスと心身の疾病との関係について理解できる 2. 医療現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解できる 3. 保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解できる 4. 災害時等に必要な心理に関する支援について理解できる
授業計画	<授業計画・テーマ等>  第1回：健康・医療心理学とは 第2回：ストレスの心理とアセスメント 第3回：ストレスの生理と心身の疾病・心の健康とストレスマネジメント 第4回：医療現場における活動の基本及び保健・医療における法律・制度・倫理 第5回：精神科 (小児・思春期) 第6回：精神科 (成人期) 第7回：精神科 (高齢期) 第8回：医療観察法指定医療機関 第9回：心療内科・内科 第10回：小児科・母子保健領域 第11回：神経科・リハビリテーション領域 第12回：さまざまな医療現場 (高齢者医療, 先端医療等) とコンサルテーション 第13回：さまざまな保健活動・健康支援活動とストレスチェック 第14回：自殺予防活動 第15回：災害時等に必要な心理に関する支援
アクティブラーニング	PBL (課題解決型学習)、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを用いて授業を行う。
授業内の ICT 活用	PC 等デジタルデバイスを活用し、グループワーク、プレゼンテーションの準備を行い、プレゼンテーションはプロジェクターを使用して行います。WebClass を利用します。
評価方法	100 点満点とし、定期試験 (筆記試験) 50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。
課題に対するフィードバック	課題について、授業中に口頭で全体に対してフィードバックを行い、個別のフィードバックには Web Class を用いる。 リアクションペーパーの内容については、授業中に全体に対してコメント内容を紹介しながらフィードバックを行う。

指定図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
公認心理師の基礎と実践 健康・医療心理学		遠見書房	2600	9784866160665	冊子版	
参考図書	下記参照					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
ライフコースの健康心理学	森 和代 監修	晃洋書房	2200	9784771028876	冊子版	
実践！ 健康心理学	日本健康心理学会	北大路書房	2500	9784762832079	冊子版	
事前・事後学修	事前学習として、各回のテーマについて分からないことや知らない用語について、本やインターネットで調べておく。事後学修として、リアクションペーパーの記入や課題を通して授業内容を振り返り、さらに発展学習として提示された課題について調べてまとめる。事前・事後学習は、毎回40分程度行うこと。					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	研究室 時間帯については授業時に提示。					
実務経験に関する記述	本科目は、「公認心理師」として、医療、福祉、教育の分野で実践経験のある教員が担当します。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	福祉心理学
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 78 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	<p>本科目では、福祉領域の心理職として活動する際に必要な基本的な知識と支援方法、多職種連携について理解することを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する。</p> <p>①福祉現場において生じる問題及びその背景 (i) 社会福祉の歴史と動向 (ii) 社会福祉の理念 (iii) 社会福祉の制度・法律 (iv) 社会福祉の職種、②福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援 (i) 福祉現場における活動の基本 (ii) 福祉分野の活動における倫理 (iii) 福祉における心理アセスメント (iv) 福祉における心理学的支援 (v) 児童福祉分野の活動 (vi) 家庭福祉分野の活動 (vii) 高齢者福祉分野の活動 (viii) 障害者福祉分野の活動、③虐待および認知症についての基本的知識 (i) 虐待 (ii) 認知症</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉現場において生じる問題及びその背景について理解できる</li> <li>2. 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解できる</li> <li>3. 虐待および認知症についての基本的知識について理解できる</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：福祉心理学とは</p> <p>第2回：社会福祉の歴史と動向・社会福祉の理念</p> <p>第3回：社会福祉の制度・法律・社会福祉の職種</p> <p>第4回：福祉現場における活動の基本・倫理</p> <p>第5回：福祉における心理アセスメント・福祉における心理学的支援</p> <p>第6回：児童福祉分野の活動</p> <p>第7回：家庭福祉分野の活動</p> <p>第8回：高齢者福祉分野の活動</p> <p>第9回：障害者福祉分野の活動</p> <p>第10回：ひきこもりの心理支援</p> <p>第11回：自殺予防の心理支援</p> <p>第12回：暴力被害者への心理支援</p> <p>第13回：生活困窮・貧困者への心理支援</p> <p>第14回：児童虐待への心理支援</p> <p>第15回：認知症高齢者の心理支援</p>
アクティブラーニング	本授業は、反転授業、グループワーク、プレゼンテーション、を取り入れて実施します。
授業内のICT活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。</li> <li>・グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。</li> </ul>

評価方法	100点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み・発表30%、事前事後学修提出状況20%として評価します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体の場でフィードバックを行います。個別に質問がある場合は、WebClass やオフィスアワーで対応します。
指定図書	遠見書房 公認心理師の基礎と実践⑱ 福祉心理学
参考図書	なし
事前・事後学修	①授業前に WebClass 内の事前課題に回答すること（各20分2～15回） ②授業後に WebClass 内の事後課題に回答すること（各20分2～15回）
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は2608です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	教育心理学（教育・学校心理学）				
科目責任者	内山 敏				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門				
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。				
科目概要	<p>本科目では、子どもの心身の発達および学習に関する心理学理論を学び、それを保育や教育の実践に活かす方法や、優れた保育・教育の実践を支える心理学的根拠を学ぶことを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する。</p> <p>①教育現場において生じる問題及びその背景 (i) 教育の制度・法律・倫理 (ii) 教育・学校の環境 (iii) 学校における問題の理解、②教育現場における心理社会的課題及び必要な支援 (i) 発達と教育 (ii) 教授・学習 (iii) 教育分野における心理学的援助 (iv) 教育分野における心理学的アセスメント (v) 児童生徒に対する心理学的援助 (vi) 援助者・関係者への心理学的援助</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育現場において生じる問題及びその背景について理解できる</li> <li>2. 教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解できる</li> <li>3. 援助者・関係者への心理学的援助及び連携について理解できる</li> </ol>				
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：教育・学校心理学の意義  第2回：子どもの発達課題への取り組みの理解と援助  第3回：子どもの教育課題への取り組みの援助  第4回：スクールカウンセリングの枠組み  第5回：子どもの多様な援助者によるチーム援助  第6回：3段階の心理教育的援助サービス  第7回：発達障害の理解と援助  第8回：不登校の理解と援助  第9回：いじめの理解と援助  第10回：非行の理解と非行をする子どもの援助  第11回：学校における危機対応  第12回：学級づくりの援助  第13回：学校づくりの援助  第14回：地域ネットワークづくりの援助  第15回：教育・学校心理学と公認心理師の実践</p>				
アクティブラーニング	PBL（課題解決型学習）、ディスカッション、グループワークなどを用いて授業を行う。				
授業内の ICT 活用	PC 等デジタルデバイスを活用し、検索・入出力作業を行う。WebClass を利用する。				
評価方法	100 点満点とし、定期試験（レポート試験）50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価。				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの感想や質問へのコメントなどをスクリーン表示や口頭で行う。				
指定図書	遠見書房 公認心理師の基礎と実践⑱ 教育・学校心理学				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
公認心理師の基礎と実践 教育・学校心理学 第2版	野島一彦	遠見書房	2800	9784866161389	冊子版

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	授業内容を振り返りながら、新たに気づき、理解を深めたことをリアクションペーパーに書く。講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回 40 分程度行うこと。					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	内山敏（国際教育学部こども教育学科）：2710 研究室 時間帯については授業時に提示。					
実務経験に関する記述	本科目は「公認心理師」、「臨床心理士」として病院臨床・学校臨床・障害福祉の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	司法・犯罪心理学				
科目責任者	今木 久子				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門				
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。				
科目概要	<p>本科目では、「犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識」「司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援」を学び、理解することを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する。</p> <p>①犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識 (i) 司法・犯罪分野の制度・法律・職種 (ii) 司法・犯罪分野での活動の倫理 (iii) 各機関における活動 (iv) 犯罪・非行の原因と支援 (v) 犯罪被害への支援 (vi) 家事事件、②司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援 (i) 司法・犯罪分野における心理学的アセスメント (ii) 司法・犯罪分野における心理学的援助 (iii) 法と心理学</p>				
到達目標	<p>1. 犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識について理解できる 2. 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について理解できる</p>				
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：司法・犯罪心理学とは 第2回：司法・犯罪分野の制度・法律・職種 第3回：司法・犯罪分野での活動の倫理・法と心理学 第4回：司法・犯罪分野における心理学的アセスメント・心理支援 第5回：各機関・領域における心理的支援（非行少年） 第6回：各機関・領域における心理的支援（犯罪加害者） 第7回：各機関・領域における心理的支援（矯正施設における加害者臨床） 第8回：各機関・領域における心理的支援（犯罪被害者への心理支援） 第9回：各種犯罪類型の特徴と心理支援 第10回：社会内処遇における心理支援 第11回：家事事件の基礎と心理支援 第12回：家事事件における法律と制度 第13回：離婚と子どもの心理 第14回：離婚後の家族関係と子どもへの支援 第15回：司法・犯罪心理学と公認心理師の実践</p>				
アクティブラーニング	本授業は、主にパワーポイントや配布資料を使用した講義形式で行い、適宜グループワークやディスカッションを取り入れます。				
授業内の ICT 活用	WebClass を利用します。				
評価方法	100 点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。				
課題に対するフィードバック	フィードバックは、全体の場合で行います。 個別に質問がある場合は、WebClass やオフィスアワーで対応します。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
公認心理師の基礎と実践 司法・犯罪心理学 第2版	野島一彦	遠見書房	2800	9784866161761	冊子版

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	<p>事前に指定図書を熟読し、関連する知識を調べる。(30分程度)</p> <p>事後には授業内容を復習し、確実に理解する。(30分程度)</p>					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。					
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」「公認心理師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					



科目名	産業・組織心理学				
科目責任者	原田 悠紀				
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター				
DP 番号と科目領域	(SW) DP2 専門 (EC) DP2 専門				
科目の位置付	(SW) 社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。 (EC) 教育・保育の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。				
科目概要	<p>本科目では、職場や組織における人の行動と、問題に対して必要な心理に関する支援を中心に理解することを目指す。</p> <p>そのために、以下の内容について学修し、理解する</p> <p>①職場における問題に対して必要な心理に関する支援 (i) 産業・組織心理学とは (ii) 産業・組織分野の制度・法律・職種 (iii) 産業・組織分野での活動の倫理 (iv) 作業改善・安全衛生 (v) 職業性ストレスとメンタルヘルス (vi) 人事・ヒューマンリソースマネジメント (vii) キャリア形成 (viii) 消費者行動 (ix) 産業・組織分野における心理学的アセスメント (x) 産業・組織分野における心理学的援助、②組織における人の行動 (i) 職場集団のダイナミクスとコミュニケーション (ii) リーダーシップ理論 (iii) 組織成員の心理と行動</p>				
到達目標	<p>1. 職場における問題に対して必要な心理に関する支援について理解できる</p> <p>2. 組織における人の行動について理解できる</p> <p>3. 産業心理臨床における心理療法及び再就職・障害者就労における心理支援について理解できる</p>				
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：産業・組織心理学とは</p> <p>第2回：産業・組織分野の制度・法律・職種</p> <p>第3回：産業・組織分野での活動の倫理</p> <p>第4回：産業・組織分野における心理学的アセスメント・心理学的援助</p> <p>第5回：従業員支援プログラム (EAP)</p> <p>第6回：作業改善・安全衛生</p> <p>第7回：職業性ストレスとメンタルヘルス</p> <p>第8回：職場でのトラウマケア</p> <p>第9回：人事・ヒューマンリソースマネジメント</p> <p>第10回：職場集団のダイナミクスとコミュニケーション</p> <p>第11回：再就職・障害者就労における心理支援</p> <p>第12回：産業心理臨床における心理療法 (認知行動療法)</p> <p>第13回：産業心理臨床における心理療法 (リワークプログラム)</p> <p>第14回：ワーク・ライフ・バランスとキャリア形成</p> <p>第15回：リーダーシップ理論・組織成員の心理と行動</p>				
アクティブラーニング	本授業は、グループワーク、プレゼンテーション、を取り入れて実施します。				
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。</li> <li>・ グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。</li> </ul>				
評価方法	100 点満点とし、定期試験 (レポート) 50%、授業への取り組み・発表 30%、事前事後学修提出状況 20%として評価します。				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。個別に質問がある場合は、WebClass やオフィスアワーで対応します。				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 / 備考
公認心理師の基礎と実践 産業・組織心理学	新田 泰生	遠見書房	2600	9784866160702	冊子版

参考図書	なし					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別 ／備考	
事前・事後学修	①授業前に WebClass 内の事前課題に回答すること (各 20 分 2～15 回) ②授業後に WebClass 内の事後課題に回答すること (各 20 分 2～15 回)					
オープンエデュケーションの活用	なし					
オフィスアワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。					
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」「公認心理師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
メディア授業の実施について	なし					

科目名	関係行政論
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	<p>本科目では、保健医療分野に関する制度、福祉分野に関する制度、教育分野に関する制度、司法・犯罪分野に関する制度、産業・労働分野に関する制度を網羅的に学び、理解することを目指す。そのために、以下の内容について学修し、理解する。</p> <p>①法体系と公認心理師の理解 (i) 法体系と行政 (ii) 公認心理師法の理解、②保健医療分野に関する制度 (i) 保健医療分野の専門家と施設 (ii) 保健医療分野の法律と政策、③福祉分野に関する制度 (i) 福祉分野の専門家と施設 (ii) 福祉分野の基本となる法律、④教育分野に関する制度 (i) 教育分野の専門家と施設 (ii) 教育分野の基本となる法律、⑤司法・犯罪分野に関する制度 (i) 司法・犯罪分野の専門家と施設 (ii) 司法・犯罪分野の基本となる法律、⑥産業・労働分野に関する制度 (i) 産業・労働分野の専門家と施設 (ii) 産業・労働分野の基本となる法律</p>
到達目標	<p>1. 各分野 (保健医療分野・福祉分野・教育分野・司法・犯罪分野・産業労働分野) の法律と制度について理解できる</p> <p>2. 公認心理師の法的立場と各分野の専門家施設との多職種連携について理解できる</p> <p>3. 心の健康・自殺対策の基本となる法律や制度及び障害・多様性支援基本となる法律や制度について理解できる</p>
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：公認心理師の法的立場と多職種連携</p> <p>第2回：法体系と行政</p> <p>第3回：公認心理師の各分野への展開</p> <p>第4回：保健医療分野の専門家と施設</p> <p>第5回：保健医療分野の法律と政策</p> <p>第6回：福祉分野の基本となる法律</p> <p>第7回：福祉分野の基本となる専門家と施設</p> <p>第8回：教育分野の基本となる法律</p> <p>第9回：教育分野の基本となる専門家と施設</p> <p>第10回：司法・犯罪分野の基本となる法律</p> <p>第11回：司法・犯罪分野の基本となる専門家と施設</p> <p>第12回：産業労働分野の基本となる法律</p> <p>第13回：産業労働分野の基本となる専門家と施設</p> <p>第14回：心の健康・自殺対策の基本となる法律や制度</p> <p>第15回：障害・多様性支援基本となる法律や制度</p>
アクティブラーニング	本授業は、反転授業、グループワーク、プレゼンテーション、を取り入れて実施します。

授業内のICT活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。</li> <li>グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。</li> </ul>
評価方法	100点満点とし、定期試験（筆記試験）50%、授業への取り組み・発表30%、事前事後学修提出状況20%として評価します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。個別に質問がある場合は、WebClass やオフィスアワーで対応します。
指定図書	遠見書房 公認心理師の基礎と実践③ 関係行政論 第2版
参考図書	なし
事前・事後学修	<p>①授業前に WebClass 内の事前課題に回答すること（各20分2～15回）</p> <p>②授業後に WebClass 内の事後課題に回答すること（各20分2～15回）</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	研究室は2608です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	心理演習
科目責任者	川瀬 正裕
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	<p>本科目では、具体的な場면을想定した役割演技（ロールプレイング）や事例検討を中心に授業を展開し、現場で役立つ知識と技術の習得を目指す。</p> <p>そのために、以下の内容について学修し、習得する。</p> <p>具体的な場면을想定した役割演技（ロールプレイング）を行い、事例検討で取り上げる。</p> <p>① 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得（i）コミュニケーション（ii）心理検査（iii）心理面接（iv）地域支援等②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成③心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ④多職種連携及び地域連携⑤公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能の修得ができる</li> <li>2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成について理解できる</li> <li>3. 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチについて理解できる</li> <li>4. 多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務について理解できる</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーションと心理的支援におけるかかわりの基本姿勢</p> <p>第2回：ロールプレイ（傾聴技法）</p> <p>第3回：心理的支援を要する模擬事例を用いたロールプレイ（開放質問）</p> <p>第4回：ロールプレイ振り返り（傾聴技法・開放質問）</p> <p>第5回：ロールプレイ（反射と要約）</p> <p>第6回：ロールプレイ（積極技法）</p> <p>第7回：ロールプレイ振り返り（反射と要約・積極技法）</p> <p>第8回：家族支援（ロールプレイ）</p> <p>第9回：心理検査への導入とフィードバックのロールプレイ</p> <p>第10回：困難事例（ロールプレイ）の心理的支援と支援計画の作成①</p> <p>第11回：困難事例（ロールプレイ）の心理的支援と支援計画の作成②</p> <p>第12回：支援計画を元にしたチームアプローチ（ロールプレイ）</p> <p>第13回：ロールプレイ振り返り（困難事例・チームアプローチ）</p> <p>第14回：多職種連携及び地域連携の理解（ロールプレイ）</p> <p>第15回：公認心理師としての職業倫理及び法的義務について</p>
アクティブラーニング	ロールプレイングを中心に行います。
授業内のICT活用	PC等を利用して質問を受け付けるなど、双方向型の授業を実施します。

評価方法	100点満点とし、授業への取り組み60%、レポート40%として評価します。
課題に対するフィードバック	提出された課題や課題に対する質問について授業内でフィードバックを行います。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学修として、授業に対するポイントのまとめを行って授業内で質問ができるようにしてください。 事後学修として、授業の振り返りを行ってください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「公認心理師」「臨床心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	心理実習
科目責任者	川瀬 正裕
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	本科目では、保健医療、福祉、教育の施設において、見学等による実習を行いながら、教員による指導を受け、以下の内容について学修し、習得する。①心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、②多職種連携及び地域連携、③公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
到達目標	1. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて理解できる 2. 多職種連携及び地域連携について理解できる 3. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解について理解できる
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：実習記録の作り方</p> <p>第3回：教育領域に関する事前学習①</p> <p>第4回：教育領域に関する事前学習②</p> <p>教育領域における実習① (5 時間)</p> <p>第5回：教育領域に関する中間振り返り①</p> <p>第6回：教育領域に関する中間振り返り②</p> <p>教育領域における実習② (5 時間)</p> <p>第7回：教育領域に関する事後学習①</p> <p>第8回：教育領域に関する事後学習②</p> <p>第9回：教育領域に関する事後学習③</p> <p>第10回：福祉領域に関する事前学習①</p> <p>第11回：福祉領域に関する事前学習②</p> <p>福祉領域における実習① (5 時間)</p> <p>第12回：福祉領域に関する中間振り返り①</p> <p>第13回：教育領域に関する中間振り返り②</p> <p>福祉領域における実習② (5 時間)</p> <p>第14回：福祉領域に関する事後学習①</p> <p>第15回：福祉領域に関する事後学習②</p> <p>第16回：福祉領域に関する事後学習③</p> <p>第17回：医療領域に関する事前学習①</p> <p>第18回：医療領域に関する事前学習②</p> <p>医療領域における実習① (5 時間)</p> <p>第19回：医療領域に関する中間振り返り①</p> <p>第20回：医療領域に関する中間振り返り②</p> <p>医療領域における実習② (5 時間)</p> <p>第21回：医療領域に関する事後学習①</p> <p>第22回：医療領域に関する事後学習②</p> <p>第23回：医療領域に関する事後学習③</p> <p>第24回：実習全体を通じてのふりかえり①</p> <p>第25回：実習全体を通じてのふりかえり ②</p> <p>第26回：実習全体を通じてのふりかえり③</p> <p>第27回：実習報告会①</p> <p>第28回：実習報告会②</p> <p>第29回：実習報告会③</p> <p>第30回：公認心理師の仕事</p>

アクティブラーニング	事前学習、事後学習において、グループワークを取り入れます。
授業内のICT活用	PC等を利用して質問を受け付けるなど、双方向型の授業を実施します。
評価方法	100点満点とし、事前事後学修への取り組み30%、実習への取り組み40%、実習報告及びレポート30%として評価します。
課題に対するフィードバック	提出された課題や課題に対する質問について授業内でフィードバックを行います。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	実習施設に対する事前の調査を行ってください。 また、どのような観点で実習に臨むのかまとめを行ってください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	本科目は「公認心理師」「臨床心理士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし